

イラン・イスラム共和国
イラン文化遺跡・手工芸・観光庁 (ICHTO)

イラン・イスラム共和国
観光・文化遺産分野に係る
情報収集・確認調査

ファイナルレポート

平成 30 年 2 月

(2018 年)

独立行政法人

国際協力機構 (JICA)

国立大学法人 北海道大学

株式会社 JTB コーポレートセールス

株式会社 アンジェロセック

株式会社 レックス・インターナショナル

共同企業体

中欧
JR
18-005

独立行政法人 国際協力機構
イラン・イスラム共和国 観光・文化遺産分野に係る情報収集・確認調査
ファイナルレポート

目次

略語表	i
地図	iii
写真（第一次現地調査）	iv
写真（第二次現地調査）	v
写真（第三次現地調査）	vi
図表番号	vii
1. 業務の概要	1
(1) 業務の背景・目的	1
1) 業務の背景	1
2) 業務の目的	1
3) 業務対象地域	1
4) 受入実施機関（カウンターパート）	1
(2) 調査工程	2
1) 要員配置計画	2
2) 現地調査日程	3
3) 現地調査訪問先	6
2. イランの社会経済状況	17
(1) イランの経済状況	17
(2) イランの社会状況	18
(3) 州レベルの社会経済指標	19
(4) 輸出及び海外直接投資（FDI）の動向	21
(5) イランの経済開発計画	22
3. イランの観光資源の状況	23
(1) イランの主な観光資源	23
(2) イランの観光資源の特徴と課題	24
1) 観光資源の類型分析	24
2) イランの観光資源の類型	25
3) 観光資源の類型ごとの特徴と整備の課題	28
(3) イランの文化遺産（有形／無形）の状況	31
(4) イランの国立公園、自然遺産の状況	31

(5)	イランのフェスティバル等	32
(6)	その他の観光資源（伝統工芸品、食事）	32
4.	イランの観光セクター開発の枠組み	35
(1)	イランの観光開発に関わる上位計画	35
(2)	イランの観光開発に係る関係機関	36
1)	政府系機関	37
2)	民間機関	42
3)	観光開発に係る官民連携の状況	45
4)	観光開発に係る市民参加の状況	46
(3)	観光開発に関わる法制度の整備状況	47
1)	入国管理（査証制度）	47
2)	民間セクター開発	47
3)	観光資源管理	49
(4)	観光人材育成の状況	50
(5)	観光開発分野に対するドナーの支援状況	51
1)	我が国による観光分野の支援実績	51
2)	他ドナーによる観光分野の支援実績	53
5.	イランのインフラの状況	55
(1)	運輸・交通インフラ	55
1)	空港・航空	55
2)	道路	57
3)	バス	57
4)	タクシー	59
5)	鉄道	59
(2)	情報・通信インフラ	61
(3)	その他（治安、衛生環境、医療事情）	61
6.	イランの観光客の動向	63
(1)	外国人観光客の動向（インバウンド）	63
(2)	日本人マーケット	64
(3)	観光地別の観光客の動向	64
(4)	国内市場（ドメスティック）	66
(5)	季節変動	66
7.	イランの観光関連産業の状況	68
(1)	航空会社	68
(2)	ツアーオペレーター	69
(3)	ホテル・レストラン	70


(4) 観光ガイド	72
(5) MICE 関連	73
8. イランの観光セクター開発に向けた課題	74
(1) イランの観光産業の課題	74
1) 観光産業の課題	74
2) 観光産業振興に関わる法整備・政策制度改善	75
(2) イランの観光地開発の課題	75
1) イラン観光のブランド化	75
2) 文化遺産の開発と保護	76
3) 「安全な観光地」としてのイメージ形成	76
9. 観光開発方法の検討	77
(1) イランの観光セクター開発に向けた戦略策定の方針	77
(2) イラン観光のブランド化に資するテーマの設定	78
(3) 将来的な JICA の支援対象とする優先地域の選定	80
(4) 評価対象地域の確定と概観	83
(5) 優先地域の選定に係る評価結果	84
1) 支援効果が低いと考えられる地域	86
2) 支援効果が高いと考えられる地域	87
(6) タブリーズ及びその周辺地域における課題の分析	89
1) 観光産業の課題	89
2) 観光地開発の課題	93
10. 将来的な JICA の協力の方向性の提案	98
(1) 本調査の成果と協力案の提案の関係整理	98
(2) 全般的な協力案	98
1) イランの観光産業の課題の解決に向けた支援案	99
2) イランの観光地開発の課題の解決に向けた支援案	100
(3) 短期的に実施する協力案	102
1) プロジェクトの背景	102
2) プロジェクト概要	103
参考文献	105
Appendix 1 面談録	AP 1-1
Appendix 2 プレゼンテーション	AP 2-1
Appendix 3 観光地域調査シート	AP 3-1
Appendix 4 観光資源調査シート	AP 4-1

略語表

略語	正式名称	日本語名称
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
AIIB	Asian Infrastructure Investment Bank	アジアインフラ開発銀行
BOT	Build Operate and Transfer	ビー・オー・ティ方式（民間投資の活用による公共事業）
CBT	Community Based Tourism	コミュニティ・ベースド・ツーリズム（地域住民に根差した観光）
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GRDP	Gross Regional Domestic Product	域内総生産
GIAHS	Globally Important Agricultural Heritage Systems	世界農業遺産
DMO	Destination Management Organization	DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）
EU	European Union	欧州連合
FAO	Food and Agriculture Organization	国連食糧農業機関
FDI	Foreign Direct Investment	直接外国投資
ICHTO	Iranian Cultural Heritage, Handicrafts and Tourism Organization	イラン文化遺跡・手工芸・観光庁
ICOMOS	International Council on Monuments and Sites	国際記念物遺跡会議
IMF	International Monetary Fund	国際通貨基金
JBIC	Japan International Cooperation Bank	国際協力銀行
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JTB	JTB Corporation (Japan Travel Bureau)	株式会社ジェイティービー
MICE	Meeting Incentive Convention/Exhibition	ビジネス観光
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
OIC	Organization of Islamic Cooperation	イスラム協力機構
PPP	Public Private Partnership	官民連携（民間投資の活用による公共事業）
SAPI	Special Assistance for Project Implementation	案件実施支援調査
SWOT	Strengthen, Weakness, Opportunities and Threaten	SWOT（強み、弱み、機会、脅威）分析
TSA	Tourism Satellite Account	旅行・観光サテライト勘定
UAE	United Arab Emirates	アラブ首長国連邦
UNDP	United Nations Development Program	国連開発計画
UNESCO	United Nations Educational Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関

UNWTO	United Nations World Tourism Organization	国連世界観光機関
VFR	Visiting Friends and Relatives	友人・親族訪問
WTTC	World Travel & Tourism Council	世界旅行ツーリズム協議会

地図

	国名	: イラン・イスラム共和国
	政治体制	: イスラム共和制
	大統領	: ハサン・ロウハーニー
	首都	: テヘラン
	主な宗教	: イスラム教（シーア派）

地図



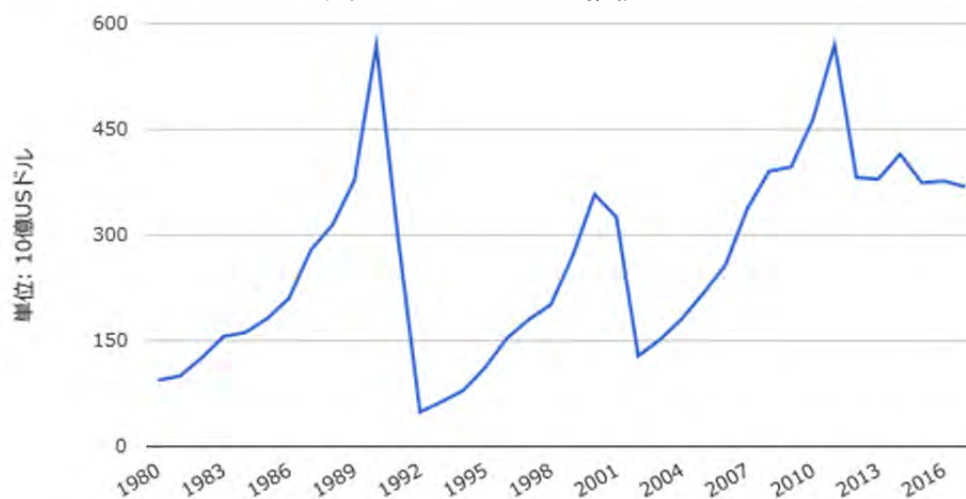
国土面積 : 1,648,195 km²

人口 : 79,360,487 人

GDP : 3,934 億 USD

所得水準 : 中進国

名目 GDP (USD) の推移



出典 : 世界銀行 World Development Indicators (2015 年)

写真（第一次現地調査）



ICHTO へのヒアリングの様子



ICHTO とのワークショップの様子



カーシャーンの歴史的建造物を活用したホテル



アーブヤーネ村の伝統的集落



キャラバンサライを活用した手工芸アトリエ兼ショップ



絨毯屋で説明する手工芸専攻学生のスタッフ



世界遺産エスファハーンのイマーム広場



チョガーザンビル遺跡

写真（第二次現地調査）



ICHTO との第1回ワークショップ



タブリーズのステークホルダー会議の様子



エスファハーンのステークホルダー会議の様子



ヤズドのステークホルダー会議の様子



シーラーズのステークホルダー会議の様子



ICHTO との第2回ワークショップ



タブリーズの第2回ステークホルダー会議の様子



ICHTO との第3回ワークショップ

写真（第三次現地調査）



ICHTO 国際局との会議の様子



タブリーズのステークホルダー会議の様子



タブリーズ市議会でのメディアインタビューの様子



タブリーズ市長との会議の様子



キャンドヴァーン視察の様子



タブリーズのバーザール視察の様子



テヘラン国際旅行展オープニングセレモニーの様子



ICHTO とのワークショップの様子

図表番号

図 2-1 : イランの GDP 成長率 (四半期 : 年率換算)	17
図 2-2 : 旅行・観光産業の GDP に対する貢献.....	18
図 2-3 : 旅行・観光産業が GDP に占める割合 (直接効果分)	18
図 2-4 : イランへの海外直接投資.....	22
図 3-1 : イランの主な観光圏.....	23
図 3-2 : 「観光資源の固有性」と「資源と地域社会との分離度」の 2 軸による類型化.....	25
図 3-3 : イランの観光資源の類型分析.....	27
図 3-4 : イランの観光資源の類型.....	28
図 4-1 : ICHTO の組織図.....	37
図 5-1 : イランの主要な空港.....	55
図 5-2 : イランの鉄道路線.....	60
図 6-1 : イランの国際観光客数の推移と予測.....	63
図 6-2 : イランへの国際観光客数 (2015 年)	64
図 9-1 : アレクサンダー大王の遠征路.....	79
図 9-2 : シルクロード.....	80
図 9-3 : 五つの観光圏の拠点都市と観光資源の分布	84
図 9-4 : タブリーズ観光圏の主な文化遺産.....	93
表 1-1 : 要員配置計画表	2
表 1-2 : 第一次現地調査日程表	3
表 1-3 : 第二次現地調査日程表	4
表 1-4 : 第三次現地調査日程表	5
表 1-5 : 第一次現地調査訪問先一覧表.....	6
表 1-6 : 第二次現地調査訪問先一覧表.....	11
表 1-7 : 第三次現地調査訪問先一覧表.....	15
表 2-1 : イランの経済状況.....	18
表 2-2 : イランの主な社会経済指標	19
表 2-3 : 州レベルの社会経済指標.....	20
表 3-1 : イランの観光圏と主な観光資源.....	24
表 3-2 : ICHTO の職員を対象としたワークショップによる類型分析の結果	26
表 3-3 : イランの国立公園・自然遺産.....	32
表 4-1 : 観光開発に係る主な関係機関.....	36
表 4-2 : ICHTO の人員体制	38
表 4-3 : イランの文化財区分	49
表 4-4 : ドナーによる支援状況	51
表 5-1 : 航空会社のサービスの状況	56
表 5-2 : バス会社のサービスの状況	58

表 5-3 : 鉄道会社のサービスの状況	61
表 6-1 : 史跡の合計訪問者数	65
表 6-2 : 主な史跡の訪問者数	65
表 6-3 : 博物館、美術館の合計訪問者数	65
表 6-4 : 主要な博物館・美術館の訪問者数	65
表 6-5 : 各地域のハイシーズンとローシーズン	66
表 6-6 : 各地域のホテルの占有率	67
表 7-1 : イランの主な旅客航空会社と国際線	68
表 7-2 : 国際観光客向けツアー商品例	70
表 8-1 : 観光産業の課題	74
表 9-1 : 将来的な JICA の支援対象とする優先地域の候補	81
表 9-2 : 観光地域を選定する際の評価クライテリア	82
表 9-3 : 五つの観光圏の「強み」と「弱み」	85
表 9-4 : 優先地域の選定に係る JICA 調査団による評価結果	86
表 9-5 : 優先地域の選定に係る ICHTO のコメントを反映した評価結果	89
表 10-1 : イランの観光産業に関わる政策制度改善に向けた支援案	99
表 10-2 : イランの観光地開発の課題解決に向けた支援案	100
表 10-3 : イラン国タブリーズ観光圏マスタープラン策定プロジェクト	104

1. 業務の概要

(1) 業務の背景・目的

1) 業務の背景

イラン・イスラム共和国（以下、イラン）の歴史は、紀元前メソポタミア文明に遡り、ペルシア帝国、イスラム帝国など各時代の歴史を反映した 21 件の文化遺産と 1 件の自然遺産が、UNESCO 世界遺産に登録されている他、広大な国土の気候・風土の下、砂漠、ジオパーク、スキー場などの観光地も有している。

イランを訪れる海外からの観光客は年々増加しており、2010 年の 293 万人から 2015 年には 523 万人と 5 年間で 230 万人というペースで増加している¹。特に、2016 年 1 月にイランの核問題に関する包括的共同作業計画（JCPOA: Joint Comprehensive Plan of Action）に基づき核関連の制裁が解除されて以降は、更なる増加が予想され、2017 年には 600 万人を超える観光客が訪れる見込みである。観光業収入については、2010 年の 2,438 百万米ドルから 2014 年には 3,483 百万米ドルに増加しており²、8%の経済成長を目指す同国において、貴重な収入源となっている。

一方、2017 年の世界経済フォーラムの観光競争力ランキングによると、イランは、価格競争力が高い（1 位）反面、136 か国中 93 位と低い水準に留まっており、環境面の持続可能性（119 位）、観光セクターの政策的優先度（117 位）、観光インフラ・サービスの質（116 位）等についての課題が指摘されている。また、イランの失業率は、2016 年の統計で 11.2%に上るなど、雇用対策がイランの主要な政策課題となっている。

このような状況の下、イラン政府が策定した第 6 次五ヶ年計画（2017–2021 年度）においては、外資を含む民間資金を活用しつつ、石油化学や電力、水資源、自動車、観光等を重点分野に掲げており、観光分野においては、観光地の開発と共に、手工芸品の販売等、観光に関わる関連産業の開発も含めた観光セクター全体の雇用創出を目指している。

2) 業務の目的

イランにおける観光セクターの政策・行政・体制、文化遺産を中心とした観光資源の現状、統計からみる観光産業の現状、他ドナーによる支援状況等を確認・分析し、我が国による観光セクターに係る協力の方向性を検討することを目的とする。

3) 業務対象地域

- ・ イラン全土（イラク、アフガニスタン、パキスタン国境周辺地域は除く）

4) 受入実施機関（カウンターパート）

- ・ イラン文化遺産・手工芸・観光庁（ICHTO: Iranian Cultural Heritage, Handicrafts and Tourism Organization）

¹ United Nation World Tourism Organization (UNWTO), Yearbook of tourism Statistics dataset, 2016

² UNWTO, Tourism Highlights 2016 Edition

(2) 調査工程

1) 要員配置計画

表 1-1 : 要員配置計画表

担当	氏名	所属	2017年度														
			8	9	10	11	12	1	2	3							
現地調査	総括／観光政策	西山徳明		■			■										
	観光産業開発1	碓氷晶子		■			■										
	観光産業開発2	福村実					■										
	ヘリテージツーリズム1	上田裕文					■										
	ヘリテージツーリズム2	大原啓					■										
国内作業	総括／観光政策	西山徳明	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		
	観光産業開発1	碓氷晶子	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		
	観光産業開発2	福村実	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		
	ヘリテージツーリズム1	上田裕文	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		
	ヘリテージツーリズム2	大原啓	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		
報告書提出時期			業務進捗報告書												IC/R	DF/R	FR

<凡例> 現地調査: ■ 国内作業: □

2) 現地調査日程

第一次現地調査日程は、以下のとおり。

表 1-2：第一次現地調査日程表

DATE		Mr. Ueda	Mr. Nishimaya	Ms. Usui	
15-Sep	Fri	/	Narita/Dubai (EK319 22:00/03:40)		
16-Sep	Sat		Dubai/Tehran (EK971 07:45/10:25)		
17-Sep	Sun		<ul style="list-style-type: none"> Meeting with ICHTO, International Affairs Dept. Meeting with JICA Iran Office 		
18-Sep	Mon		<ul style="list-style-type: none"> ICHTO, Kick off meeting ICHTO, Human Resource and Welfare ICHTO, Planning and Budget Office ICHTO, Office of Coordination for provincial Affairs ICHTO, Tourism Deputy Advisor for provincial affairs ICHTO, Cultural Heritage 		<ul style="list-style-type: none"> Persepolis Travel & Tourism Services Co. Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran Parsian Sepanta
			<ul style="list-style-type: none"> ICHTO, Office for National Agreement and Coordination on Tourism ICHTO, Tourism Special Zone Office ICHTO, Secretary of National Institute for Tourism Coordination ICHTO, Finance Department 		<ul style="list-style-type: none"> Raja Rail Transportation Co. DELTABAN Tour & Travel Agency Federation of Tourist Guide Association
			<ul style="list-style-type: none"> ICHTO, Tourism Marketing and Promotion ICHTO, Office for Monitoring & Evaluation of Tourism Services ICHTO, Tourism Education Research Office ICHTO, Center for Preservation & Renovation of Historic Sites and Districts ICHTO, Department for Museum Affairs 		<ul style="list-style-type: none"> Iranian Tour Operators Association Iran Tourist Guide Association
			<ul style="list-style-type: none"> ICHTO, World and National Heritage Sites' Affairs 		
21-Sep	Thu		Site visit : Tehran - Kashan (by car) <ul style="list-style-type: none"> Gom/Qom (Hazzat Masumeh) Abyaneh (Old city)→Kashan 		
22-Sep	Fri		Site visit : Kashan - Esfahan (by car) <ul style="list-style-type: none"> Kashan (Sultan Amir Ahmad Bathhouse, Tabatabai House, Souvenir shops, Fin Garden) Abbasi caravanserai Esfahan (Bus terminal, Siosepol Bridge) 		
23-Sep	Sat		Site visit: Esfahan - Tehran (by car) <ul style="list-style-type: none"> Esfahan (Emam Sq., The Mosque of Emam, The Mosque of Jame, Chehelsotoan, Aali Aapu Palace, Sheikh Lotfollah Mosque, , Souvenir shop/Handicraft shop) 		
24-Sep	Sun	<ul style="list-style-type: none"> ICHHITO, Handicraft Deputy ICHHITO, NGO & Associations Department 		<ul style="list-style-type: none"> Olympic Hotel Espinas Palace Hotel Varzesh Hotel 	
		<ul style="list-style-type: none"> JICA Iran Office 			
25-Sep	Mon	<ul style="list-style-type: none"> Omid Entrepreneurship Fund ICHHITO, International Affairs Bureau Department of Environment 		<ul style="list-style-type: none"> Pardisan Tour & Travel Agency Mhregan Hotel Persia Tourism Group(Logistic meeting) 	
		<ul style="list-style-type: none"> Golestan Palace, National Museum, Bazar inspection 		<ul style="list-style-type: none"> Parsian Enghelab Hotel Bus terminal, Metro, Exhibition center inspection 	
27-Sep	Wed	<ul style="list-style-type: none"> UNESCO 			<ul style="list-style-type: none"> Joopar Passenger & Freight Trains Co.
		<ul style="list-style-type: none"> Work shop at ICHTO and meeting with JICA ICHTO, National Committee of Ecotourism 			
28-Sep	Thu	Site visit: Tehran - Ahvaz (by flight) <ul style="list-style-type: none"> Shush World Heritage Site Haft Tappe Tchoga Zanbil World Heritage Site 		<ul style="list-style-type: none"> Meeting with interpreter Golestan Palace, National Museum, Bazaar, Tea House inspection 	
		Site visit: Ahvaz - Tehran (by flight) <ul style="list-style-type: none"> Shushtar World Heritage Site Salasel Citadel 		<ul style="list-style-type: none"> Restaurant, shops, Tajrish are inspection 	
30-Sep	Sat	Tehran city inspection			
1-Oct	Sun	Report writing	Tehran/Dubai (EK980 20:00/22:50)		
2-Oct	Mon	ICHTO, International Affairs	Dubai/Narita (EK318 02:40/17:35)		
3-Oct	Tue	JICA Iran Office	/		
4-Oct	Wed	20:00 IKA/DXB (EK980)			
5-Oct	Thu	02:40 DXB/NRT (EK318)			

第二次現地調査日程は、以下のとおり。

表 1-3：第二次現地調査日程表

DATE	Nishiyama	Fukumura	Ohara	Usui	Ueda
3-Nov Fri		22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	
4-Nov Sat		07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)	07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)	07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)	
5-Nov Sun		・Logistic meeting ・Meeting with JICA @JICA Iran office ・Kick off meeting with ICHTO @Khalij-e-Fars Hall, Rudaki Str, Azadi Str.			
6-Nov Mon		・Meeting with ICHTO, International Affairs ・Data collection in Tehran			22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)
7-Nov Tue		・Work shop preparation ・Work shop with ICHTO @ Fajr Conference Hall of ICHTO main building			07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)
8-Nov Wed		< Tehran to Qazvin by car >			
9-Nov Thu		・Qazvin (Tehran Gate, Jame Mosque, Forth Cooumn Palace, Ghajar Hammam, Kantor Church, Mostofi Tomb, Saado Saltane Bazar, Aminiha Husseinie, Sardab Water Resever, Shahzade Hossein Shrine)			
10-Nov Fri		< Qazvin to Takab by car >			
11-Nov Sat		・Soltaniyeh Dome and Takht-e-Soleyman			
12-Nov Sun		< Takab to Kandovan by car >			
13-Nov Mon		・Orumiye Lake, St. Mary Church, and Kandovan Village			
14-Nov Tue		< Chaldoran anrea to Tabriz by car >			
15-Nov Wed		・St.Thaddeus Church			
16-Nov Thu		< Tabriz >			
17-Nov Fri		・Meeting with ICHTO Tabriz and stakeholder			
18-Nov Sat		< Tabriz to Tehran by flight >			
19-Nov Sun		> Heritage tourism team: St. Stepano Church > Tourism Industry Development team: Railway station, Bus terminal, TIC, Bazar, Blur Mosque, Airport			
20-Nov Mon		< Tehran to Esfahan by flight >			
21-Nov Tue		・Meeting with ICHTO Esfahan and stakeholder ・visit Khaju Bridge, Emam Sq., Si-o-se Bridge			
22-Nov Wed		< Esfahan and neighboring area to Na'in by car >			
23-Nov Thu		> Heritage team: Ghurtna Village, Ziar Village, Caravanserai, Cultural Heritage site, Qanat, Jame Mosque iin Na'in > Tourism Industry Development team: Railway station, Bus terminal, TIC in Esfahan, and Jame Mosque, Old city, Na'in Tourism Hotel, and etc.			
24-Nov Fri		< Na'in to Yazd by car >			
25-Nov Sat		・Visit Mayor of Na'in and ICHTO ・Water Mill, Carpet workshop, and transfer to Meybod (Nalin Qa'leh, Water Mill, Hammam, meeting with ICHTO and Deputy Mayor)			
26-Nov Sun		< Yazd and neighboring area by car >			
27-Nov Mon	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	> Heritage Tourism team: Hotel used the old house, Conservation facility, The Mosque of Jame, ICHTO research office, Mehriz (Pahlevanpour Garden), Saryazd, Zeinodin Caravanserai, Qanat in Yazd > Tourism Industry Development team: Hotel used the old house, Conservation facility, The Mosque of Jame, ICHTO resarch office, Fire Temple, Tower of Silence, Old city, TIC, Railway station, Bus terminal, Airport)			
28-Nov Tue	9:15/10:10 DXB/SYZ (EK2092)	< Yazd to Shiraz by car >			
29-Nov Wed		・Meeting with ICHTO and stakeholder in Yazd ・Transfer to Shiraz			
30-Nov Thu		< Shiraz and neighboring area by car >			
1-Dec Fri		・Persepolis, Naghsh-e Rostam, Naghsh-e Rajab, and Pasargadae			
2-Dec Sat		< Shiraz >			
3-Dec Sun		・Mosque of Nsir-ol Molk, Eram Garden, Karim Khan Citadel ・Meeting with ICHTO and stakeholder in Shiraz			
4-Dec Mon		< Shiraz to Tehran by flight >			
5-Dec Tue		> Heritage Tourism Team: Bishapur and surranging area > Tourism Industry Development Team: Railway station, Bus terminal, TIC, Vakili Bazar			
6-Dec Wed		TV meeting with JICA HQ from JICA Iran office			
7-Dec Thu		Meeting with Mr. Shintani, JICA expert of other project			
8-Dec Fri		Work shop preparation	10:00 Tour leaders institute	Work shop preparation	10:00 Tour leaders institute
9-Dec Sat			Work shop preparation		Work shop preparation
10-Dec Sun					18:35/21:20 IKA/DXB (EK980)
11-Dec Mon		・Work shop preparation ・TEL meeting with JICA HQ			
12-Dec Tue		・Meeting with ICHTO International Affairs ・Work shop at ICHTO			
13-Dec Wed		・JICA TEL Meeting & internal meeting			
14-Dec Thu		< One day inspection at Qazvin by car >			
15-Dec Fri		・Caravanserai, Hammam Muserum, Sardab water reserve, Bungadi, etc.			
16-Dec Sat		・JICA Iran Office ・Meeting with ICHTO: International Affairs, Cultural Heritage, Handcraft, Tourism Dep.			
17-Dec Sun		< Tehran to Tabriz >			
18-Dec Mon	02:55/17:20 DXB/NRT (EK318)	・Workshop with ICHTO Tabriz			
19-Dec Tue		< Kandovan and Maragheh >			
20-Dec Wed		・Meeting with Village leader and village people of Kandovan ・Meeting with ICHTO, Maragheh Office, Museum, etc.			
21-Dec Thu		< Tabriz to Tehran >			
22-Dec Fri		・Azerbaijan Meseum, Mashroote (Constitutional) Meseum, Bazar, Carpet studio, University, etc.			
23-Dec Sat		・Meeting with Statistical Center of Iran			
24-Dec Sun		・Wrap-up meeting at ICHTO			
25-Dec Mon		・Report writing			
26-Dec Tue		18:35/21:20 IKA/DXB (EK980)	23:55/02:30 IKA/DXB (EK978)		
27-Dec Wed		02:55/17:20 DXB/NRT (EK318)	8:35/22:45 DXB/HND (EK312)		

第三次現地調査日程は、以下のとおり。

表 1-4：第三次現地調査日程表

DATE		Nishiyama	Ueda	Usui
18-Jan	Thu	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)	22:00/04:55 NRT/DXB (EK319)
19-Jan	Fri	07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)	07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)	07:45/09:35 DXB/IKA (EK971)
20-Jan	Sat	・Meeting with ICHTO International Affair		
21-Jan	Sun	< Tehran --> Tabriz >		
		・Meeting with ICHTO Tabriz		
		・Courtesy call to City Council of Tabriz		
		・Visit carpet studio		
		・Courtesy Call to Mayor of Tabriz		
22-Jan	Mon	< Tabriz --> Tehran >		
		・Visit Kandovan, Bazaar, Blue Mosque, Azerbaijan Museum ・Tabriz World Heritage Center		
23-Jan	Tue	・JICA Iran Office	・11th Tehran International Tourism Exhibition	
24-Jan	Wed	・Work shop at ICHTO ・Courtesy call to Embassy of Japan		
		18:35/21:20 IKA/DXB (EK980)	18:35/21:20 IKA/DXB (EK980)	18:35/21:20 IKA/DXB (EK980)
25-Jan	Thu	2:55/17:20 DXB/NRT (EK318)	2:55/17:20 DXB/NRT (EK318)	2:55/17:20 DXB/NRT (EK318)

3) 現地調査訪問先

第一次現地調査の訪問先関係機関は、以下のとおり。

表 1-5：第一次現地調査訪問先一覧表

日付	場所	参加者
Sep. 17 (Sun)	ICHTO 11:00-13:30	Dr. Faezeh BEHZADNEJAD, Head of International Affairs Department Ms. Kiandokht TORABI, Senior Expert Mr. Ali SHEIKHAN, Expert ・ JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer ・ JICA Study Team: Nishiyama, Usui
	JICA Iran Office	Mr. Yukiharu Kobayashi, Chief Representative Ms. Atefeh Asadi, Program Officer ・ JICA Study Team: Nishiyama, Usui
Sep. 18 (Mon)	ICHTO Cultural Heritage 09:00 – 10:30	Klantari, Deputy of Handiraft Talebi Mahmoudrezd, Secretary of National Institution for Tourism Coordination Gorbanoo Khavari, Tourism Marketing Expert Marzie Shahrabi, Tourism Marketing Expert Hassan Mizae, Investment Deputy Elham Ghaem Maghdme, Investment Deputy Ali Sheykhoun, International Affairs Rasoul Aslavie (NA), Aboutaleh Ghessemi, Tourism special zone office Mozgan Nahavandi, Tourism special zone office Seyed Maehdi Yasini, Tourism planning, ICHTO Hamid Eghbali, Handicrafts Department and World Handicraft Council Asia-Pacific Region-West Asia sub-region office Seyed Asghar Khodae, Deputy of Cultural Heritage Faezeh Behzadnejad, Head of International Bureau Kiandokht Torabj, Senior Expert of International Affair Bureau International Affair Bureau (3 pax) ・ JICA Study Team: Nishiyama
	Persepolis Travel & Tourism Services Co. 09:30 – 11:00	Dr. Alireza Mahmoudi, CEO & deputy chairman of the board ・ JICA Study Team: Usui
	ICHTO Cultural Heritage 11:00 – 12:00	Masaud Bastami, Deputy of Human Resource and Welfare Office ・ JICA Study Team: Nishiyama
	Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran 11:30 -13:30	Mr. Ebad Reza Eslami, Director Tourism & Handicrafts ・ JICA Study Team: Usui
	ICHTO Cultural Heritage 12:40 – 13:30	Masoud nori, Deputy of Planning and Budget Office ・ JICA Study Team: Nishiyama
	Parsian Sepanta 14:00 - 15:45	Mr. Mehrdad Asedifard ・ JICA Study Team: Usui
	ICHTO Cultural Heritage 14:00 – 15:00	Mahmoud Rahbaran, Expert of Office of Coordination for provincial Affairs ・ JICA Study Team: Nishiyama
	ICHTO Cultural Heritage 15:00 – 16:00	Mohammad Sabet Eghlidi, Tourism Deputy Advisor for provincial affairs ・ JICA Study Team: Nishiyama

日付	場所	参加者
	ICHTO Cultural Heritage 17:00 – 18:30	Mohammad Hassan Talebian, Deputy for Cultural Heritage S.Maryam Mehran, English Lecturer, Advisor for deputy of ICHTO for International Affairs Farhad Azizi Zallani, General Director of IWHS: World and National Heritage Sites' Affairs Sareh Ziyae, Head of Presentation and International Department of IWHS • JICA Study Team: Nishiyama
Sep. 19 (Tue)	Raja Rail Transportation Co. 09:00 -11:00	Mr. Reza Hemmati Ahoei, Deputy of Sales & Marketing Dept. Mr. Saeed Khedmatloo, Manager, Sales & Marketing Dept. Mr. Mehrdad Naseri, Head of Product & Band Dept. in Marketing Directory • JICA Study Team: Usui
	ICHTO, Office for National Agreement and Coordination on Tourism 10:15 – 11:30	Mr. Fayazi, Director Ms. Masjedi, Eco-Tourism Expert, International Affair Bureau (2 pax) • JICA Study Team: Nishiyama
	DELTABAN Tour & Travel Agency 11:45 - 13:45	Mr. Mohammad Ansari, Senior Operation Manager Mr. Meysam Kaveh, Domestic Sales Manager • JICA Study Team: Usui
	ICHTO, Office of Tourism Special Tourism Zone 12:00 – 13:00	Mr. Aboutaleb Ghassemi, Expert International Affair Bureau (2 pax) • JICA Study Team: Nishiyama
	ICHTO, Secretary of National Institute for Tourism Coordination 14:15 – 15:00	Mr. Alireza Zamani, Expert International Affair Bureau (2 pax) • JICA Study Team: Nishiyama
	Federation of Tourist Guide Association 14:30 - 16:00	Mr. Mohammad Yazdani, Head of Association Mr. Saied Ayoubi, Tour Guide • JICA Study Team: Usui
	ICHTO, Finance Department 15:00 – 15:45	Ms. Elham Ghaem Maghame, Investment Expert International Affair Bureau (2 pax) • JICA Study Team: Nishiyama
Sep. 20 (Wed)	ICHTO, Tourism Marketing & Promotion Office 9:00 – 10:00	Leila Ajdari, Director General of T M&P Leila Mirhoseini, Tourism Promotion Division Head Mohammad Ghasmi, Tourism Marketing Division Head Kazem Jalili Zalpool, Expert Galbanoo Khavari, Marketing Expert International Affair Bureau(2 pax) • JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer • JICA Study Team: Nishiyama, Usui
	ICHTO, Office for Monitoring & Evaluation of Tourism Services 10:15 – 11:30	Dr. Wali Teymouri, Tourism Economics Expert International Affair Bureau(2 pax) • JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer • JICA Study Team: Nishiyama
	Iranian Tour Operators Association 11:00 - 12:45	Mr. Seyyed Hadi Shirazi, Secretary of the Association • JICA Study Team: Usui
	ICHTO, Tourism Education Research Office 11:30 – 12:30	Dr. Batool Sabzali, Head of Education Ms. Rasoul Asgari Ms. Mohsen Ranjibar International Affair Bureau(2 pax)

日付	場所	参加者
		<ul style="list-style-type: none"> • JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer • JICA Study Team: Nishiyama
	Iran Tourist Guide Association 14:00 - 16:00	Mr. Jalil Charkhian, Member of Board of Directors & Managing Director Ms. Forough azel Ardakani, Vice President <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Usui
	ICHTO, Center for Preservation & Renovation of Historic Sites and Districts/ Department for Museum Affairs/ World and National Heritage Sites' Affairs 14:00 – 15:30	Farhad Azizi Zallani, General Director of IWHS: World and National Heritage Sites' Affairs Sarch Zigae, Head of Presentation and International Department of IWHS Mohamad Ali Kabiri, Expert in Conservation & Maintenance of Heritages Ghotamreza Misaghian, Director General of Conservation & Maintenance of Heritages Mohammad Reza Afashkhaneh, Head of Historic Architecture in Conservation & Maintenance of Heritages Hosein Amin Afshar, Expert in Conservation & Maintenance of Heritages Samed Hadi Ahmandi, First Advisor for deputy of Cultural Heritage Sara Babaei, Head of Conservation Department of IWHS Beheshteh Nasiri Rad Hasshan Hatbini International Affair Bureau (2 pax) <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda (a half of meeting)
Sep. 24 (Sun)	Olympic Hotel 10:00 - 11:45	Mr. Ali Kabiri, Vice President and Manager <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Usui
	ICHTO Handicraft Deputy 10:00 – 12:15	Mohammad Hosein Dehghani, Office for Education and Support of Production Maseed Kalantari, Export Office Ali Haji Shizari, Production & Development Office, Promotion Shohreh Kheradpishe (Production & Development Office, Human Resources Development International Affair Bureau, Ms. Torabi <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Espinass Palace Hotel 12:30 - 14:00	Mr. Mario Candeias, General Manager <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Usui
	ICHTO NGO & Associations Department 12:30 – 13:20	Hassan Mirzaee , Senior Expert of NGO's Branch International Affair Bureau, Ms. Torabi <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Varzesh Hotel 15:00 - 16:30	Mr. Mohammadreza Afgheh, Hotel Manager <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Usui
	JICA Iran Office 17:30 – 18:30	Mr. Hiroyuki Tanaka, Senior Representative Mr. Jinya Mizutani, Representative <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Usui, Ueda
Sep. 25 (Mon)	Omid Entrepreneurship Fund 8:30 – 10:00	Ali Ashabi, Vice President Sima Mosavarnia Farzahneh Mafi Alireza Hemmati International Affair Bureau, Ms. Torabi <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Pardisan Tour & Travel Agency	Mr. Mehdi Shafiee Shakib, Tour Manager <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Usui

日付	場所	参加者
	9:30 - 11:30	
	ICHTO International Affairs Bureau 10:45 - 11:15	Kiandokht Torabi ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Department of Environment 12:00 - 13:40	Maytoba Shirzad, Expert of Department of Environment, Eco-Tourism Raziyeh Mirzajani, International affairs of Department of Environment ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Mhregan Hotel 13:00 - 14:30	Mr. Mehran Davaran, Manager ・ JICA Study Team: Usui
Sep. 26 (Tue)	Parsian Enghelab Hotel 11:30 - 12:30	Mr. Sabah Rashidi, Rooms Devison Manager ・ JICA Study Team: Usui
Sep. 27 (Wed)	UNESCO 8:30 - 9:45	Esther Kuisch-Laroche, Director and Representative UNESCO Tehran Cluster Office Mahta Mohegh, Programme Assistant for Culture UNESCO Tehran Cluster Office Faezeh Behzadnejad, Director of ICHTO International Affairs Bureau Kiandokht Torabi, Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau Ali Sheikhan, Head of International Group of ICHTO International Affairs Bureau ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
	Joopar Passenger & Freight Trains Co. 9:00 - 12:00	Mr. A. Bashiripour, Marketing & Sales Manager Mr. M. Sadeghi, Marketing & Sales Officer ・ JICA Study Team: Usui
	ICHTO Work Shop 11:30 - 16:00	Mohammad Reza Atashkhaneh, Cultural Heritage in ICHTO Poorang Poorhosseini, National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO Tahereh Masjedi, National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO Marzieh Shahrabi, Marketing Tourism ICHTO Jassam Orzaee, Senior Expert, Investment Deputy Elham Ghaem Maghdme, Investment Deputy Hadi Ahmadhi, Cultural Heritage Sector Sara Babaei, World Heritage Office Faezeh Behzadnejad, Director of ICHTO International Affairs Bureau Kiandokht Torabi (Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau) Ali Sheikhan, Head of International Group of ICHTO International Affairs Bureau Dr. Mohsen Ranjbar, Cultural Heritage Sassan Ghassemi, Internashinal Affairs Hosain Karany, Ceelrock Natanz Seyed Mahdi Yasini, Tourism Planning ICHTO Armin Hadighi, Tourism Planning ICHTO Mahboubeh Safarzadeh, Tourism Deputy Farahnaz Rafieyan, ICHTO Education ・ JICA Iran Office: Mr. Yukiharu Kobayashi, Chief Representative (Part 1) ・ JICA Iran Office: Mr. Jinya Mizutani, Representative (Part 2) ・ JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer (Part 1)

日付	場所	参加者
		<ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda, Usui (a half of Part 2)
	ICHTO National Committee of Ecotourism 16:30 – 17:00	Poorang Poorhosseini, National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO Faezeh Behzadnejad, Director of ICHTO International Affairs Bureau Kiandokht Torabi, Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Usui, Ueda
	JICA Iran Office 17:00 – 17:30	Mr. Jinya Mizutani, Representative <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Usui, Ueda
Sep. 28 (Thu)	ICHTO Shush Office 11:00 – 15:30	Mohammad Hosesin Arastoozadeh, Manager of Shush World Heritage Site Mohammad Onidfar, Archaeologist Mohamed Amini, Head of Guard Hadi Nirvali, Head of Conservation Sector Mr. Ahmadi, ICHTO <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama Ueda
	ICHTO Tchoga Zanbil Office 17:30 – 19:00	Atefeah Rashnoei, Manager in Tchoga Zanbil Rahim Bonna, Head of Workshop Conservation, Haft Tappe Ahmad Khanifer, Head of Workshop Conservation, Tchoga Zanbil Alireza Jonawaz, Public Relation Manager Najmeh Bostani Mr. Ahmadhi, ICHTO <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
Sep. 29 (Fri)	ICHTO Shushtar World Heritage & City Office 10:30 – 17:00	Bijan Heydarizadeh, Manager of Shushtar World Heritage Site Ali Mohamad Chaharmahali, Manager of Shushtar City M. Masha Kiani, Head of Conservation and Water Control Abol Ghasem Gholamheidar, NGO Chief Representative Mr. Ahmadi, ICHTO <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Nishiyama, Ueda
Oct. 2 (Mon)	ICHTO International Affairs Bureau 11:00 – 12:00	Faezeh Behzadnejad, Director of ICHTO International Affairs Bureau Kiandokht Torabi, Senior Expert of ICHTO International Affairs Bureau <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Ueda
Oct. 3 (Tue)	JICA Iran Office 13:00 – 13:45	Mr. Hiroyuki Tanaka, Senior Representative Mr. Jinya Mizutani, Representative <ul style="list-style-type: none"> • JICA Study Team: Ueda

第二次現地調査の訪問先関係機関は、以下のとおり。

表 1-6：第二次現地調査訪問先一覧表

日付	場所	参加者
Nov. 5 (Sun)	JICA Iran Office 10:00-11:00	Mr. Hiroyuki Tanaka, Senior Representative Ms. Atefeh Asadi, Program Officer ・ JICA Study Team: Ohara, Usui, Fukumura
	ICHTO 13:30-16:00	Faezeh Behzadnejad, Director, ICHTO International Affairs Bureau Ms. Kiandokht Torabi, Senior Expert, ICHTO International Affairs Bureau Niloufar Yazadi, ICHTO International Affairs Bureau Kazem Jalili Zalpool, Tourism Deputy, ICHTO Gholamreza Missaghian, Culture Heritage Deputy, ICHTO Tahenek Wasjedi, Tourism Deputy, ICHTO Ms. Rasoul Asgari, Tourism Deputy, ICHTO Zahra Hossaeinian, Plan and Budget Organization Seyed Masoud Mirtalebi Agndam, Plan and Budget Organization Amir Sadeye, Tourism Deputy, ICHTO Seneh Ziyau, Culture Heritage Deputy, ICHTO Ms. Mohsen Ranjibar, Director General, Education of Tourism Deputy Leila Ajdari, Director General of T M&P Mr. Ali Shelkhan, ICHTO International Affairs Bureau ・ JICA Study Team: Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 6 (Mon)	ICHTO International Affairs Bureau 10:00-11:00	Kiandokht Torabi, Senior Expert, International Affairs Bureau, ICHTO ・ JICA Study Team: Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 7 (Tue)	Workshop at ICHTO 13:45-15:30	Faezeh Behzadnejad, Director, ICHTO International Affairs Bureau Sara Naghadi, Deputy Director General, International Affairs, ICHTO Mina Rouhani, Expert, International Affairs, ICHTO Mohammad Reza Halezi, Senior Expert, International Affairs, ICHTO Kazem Jalili Zalpool, Expert, Tourism Marketing, ICHTO Golbanao Khavari, Senior Expert, Marketing Department, ICHTO Seyed Masoud Mirtalebi Agndam, Expert, Plan and Budget Organization Morteza Kossarneshan, General Office of Museum Niloufar Yazadi, Expert, International Affairs, ICHTO Mitra Narvend, Senior Expert, International Affairs, ICHTO Hadi Ahmed, Advisor of Culture Heritage, ICHTO Mohammad Sanet, ICHTO Farhad Azizi Zallani, General Director of IWHS: World and National Heritage Sites' Affairs Sareh Ziyaaee, Head of Presentation and International Department of IWHS Seyed Asghar Khodaei, Deputy of Cultural Heritage ・ JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer ・ JICA Study Team: Ohara, Usui, Fukumura

日付	場所	参加者
Nov. 12 (Sun)	ICHTO (Tabriz) 9:00-14:00	Hohamad Alagheband Aydin Nezaot, Head of Guides Association Babak Soleimani Saha, Manager of Guides Association Fashad Rostami, Assistant of East Azerbaijan, ICHTO Ahmad Hamzehzadeh, Cultural Handicraft Tourism Organization Mohammad Hosein Eshaoji, Assistant Manager Mortaza Abdar Bakhshayshi Ghasehi Ghalarez, Agency Karim Raselzadeh, Head of hotels in Tabriz Add Jaferi, Head of Tourism Facilities and Services Navid Mashhouriafag, Head of Public Relations, ICHTO Arash Sohrabi, Tabriz Municipality Other 2 attendants from ICHTO ・ JICA Study Team: Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 14 (Tue)	ICHTO (Isfahan) 11:30-13:00	Mr. Fereydoun Allahyari, Managing Director, ICHTO Isfahan Mr. Naser Taheri, Managing Director, ICHTO Isfahan Mr. Hamid Amini, Deputy of Investment of Cultural Heritage of Isahan Mr. Mohsen Yarmohamadi, Deputy of Tourism of Cultural Heritage of Isfahan Mr. Jafar Jafarsalehi, Deputy of Handicraft of Cultural Heritage of Isfahan Mr. Shahram Amiri, Public Relations, ICHTO Isfahan Mr. Ali Lawafan Mr. Alireza Khayyam Mr. Kavons Masoudi Mr. Abbas Khorram, Secretary of Tourism Guide Association Amir Masoud Lavafan, Piroozy Hotel, Manager Kavous Masoudi, Direct Manager, YADMAN Tour & Travel ・ JICA Study Team: Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 16 (Thu)	ICHTO (Naein) 9:00-11:00	Ardeshir Asgari, Mayor M. Mohammadipoor, ICHTO of Naein ・ JICA Study Team: Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
	ICHTO (Meybod) 15:00-16:30	Mohamad Javad Ahmadi, Deputy of Local Government Office Sasha Riahi Moghadam, Manager of Meybod Research Center and Deputy of ICHTO Yazd Rasol Moshtaghian, Manager, ICHTO ・ JICA Study Team: Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 18 (Sat)	ICHTO (Yazd) 10:00-11:30	M. Lesansedgh, Yazd Development Tourism Corporation Jasha Riahi Moghadam, ICHTO Mohammed Rezasasiri, ICHTO Armad Reza Movahed, Travel Agency Associations Morteza Mahmodi, Investment Services Center Fatemah Daneshyazdi, ICHTO

日付	場所	参加者
Nov. 20 (Mon)	ICHTO (Shiraz) 16:00-18:00	Mohsen Ameri, Fars Tourism Organization Mehran Soukkakian, Fars Tourism Organization Ahmadreza Naghibzaheh, Manager of Fars Tourism Development Corporation Alirala Ghajar, Manager of Gasht Tour Bahador Askari, Assistant of Guest House Amir Sabooki, Head of Tourist Guide Association of Fars Province Naser Bahmany, Manager of Fars Tourism Development Corporation Hassa Siyadatan, Head of Society of Fars Hoteliers Cholam Hashemi, Advisor of Fars ICHTO Director General Karim Ansari, Advisor of Fars ICHTO Director General Seyad Moayed Mohsennezhad, Deputy of Tourism of ICHTO Masayyeb Amiri, Director General of ICHTO Ebrahim Fouzani, Deputy of Tourism & Pilgrims of Fars Governor General ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 22 (Wed)	JICA TV meeting 12:00-13:30	Mr. Hiroyuki Tanaka, Senior Representative, JICA Iran Office Mr. Noriyuki Tsuruoka, Mr. Kakeru Furihata, Mr. Yoshihito Urano, JICA Tokyo Office ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ueda, Ohara, Usui, Fukumura
Nov. 23 (Thu)	Tourism Service Training Institute 10:00-12:30	Mohammad Sahraie, Education Ward / Accounting ・ JICA Study Team: Usui, Fukumura
Nov. 25 (Sat)	Workshop at ICHTO (Tehran) 13:30-16:00	Rasoul Falahat, Expert of Tourism S. Hadi Ahnadi, Deputy of Cultural Heritage Poorang Poorhosseini Shima Bazrolshar Kazem Jalili, Marketing Department Mitra Narvand, Museum Department Roya Saatian Maedeh Ghadirinia Golbanoo Khavari Mohammad Sabet Eghlidi, ICHTO Faezeh Rehzadrezad, Head of International Affairs Bureau, ICHTO Rasoul Asgari, ICHTO Seyed Masoud Mirtelebi, Plan and Budget Organization, Culture, Tourism and Sport Affairs Zahman Sadat Hosseinier, Plan and Budget Organization Mira Rouhani, International Affairs Bureau, Expert ・ JICA Iran Office: Mr. Hiroyuki Tanaka, Senior Representative, Ms. Atefeh Asadi, Program Officer ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ohara, Usui, Fukumura
Nov.28 (Tue)	JICA Iran Office 8:30-10:00	Mr. Yukiharu Kobayashi, Chief Representative Mr. Jinya Mizutani, Representative ・ JICA Study Team: Nishiyama, Ohara, Fukumura

日付	場所	参加者
	ICHTO 11:20-13:00	Ms. Faezeh Behzadnejad, Director General, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO Dr. Ahmadi, Director General, Cultural Heritage Department, ICHTO Mr. Falahat, Senior Expert, Tourism Department / Tourism & Hotel Management, ICHTO Mr. Afrund, Executive manager, Tourism Department/ “ Tabriz 2018” project, ICHTO Ms. Torabi, Senior Expert, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO • JICA Study Team: Nishiyama, Ohara, Fukumura
Nov. 29 (Wed)	ICHTO, Tabriz 15:00-17:00	Farshad Rostanmi, Deputy of Tourism, ICHTO Seyed Ramin Asabaghi, Head of Office of Tabriz M.Reza Rakhshemah, Ecotourism Head Office, ICHTO Sima Poortaghi, Tourism Expert, ICHTO Mina Ranjbar, Tourism Expert, ICHTO Fanshad Behafarin, Deputy of Handicrafts, ICHTO Gholemn Reza Ghasemi, Association of Agency Aydin Nezahet, Head of Board of Guide Association Arash Sohrabi, Research and Development of Tabriz Municipality Navid Mashhour, Head of Public Relations • JICA Study Team: Ohara, Fukumura
Nov. 30 (Thu)	Kandovan 11:00-11-30	Mr. Fatollahi, Village Leader of Kandvan • JICA Study Team: Ohara, Fukumura
	ICHTO, Maragheh 13:20-14:00	Mr. Talabi, Head of ICHTO, Maraghe • JICA Study Team: Ohara, Fukumura
Dec. 2 (Sat)	Iran SCI 10:00-11:00	Mr. Peyman, DG, office of Cultural Trade and service statistics Mr. Hosseini, Expert on cultural and social statistics Mr. Ghoiami, Deputy General Office of economic accounts Ms. Torabi, Senior Expert, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO • JICA Study Team: Ohara, Fukumura
Dec. 3 (Sun)	ICHTO 11:30-13:00	Ms. Faezeh Behzadnejad, Director General, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO Dr. Ahmadi, Director General, Cultural Heritage Department, ICHTO Mr. Falahat, Senior Expert, Tourism Department / Tourism & Hotel Management, ICHTO Mr. Afrund, Executive manager, Tourism Department/ “ Tabriz 2018” project, ICHTO Mr. Kazem Jalili Zalpoor, Expert, Tourism Marketing and Promotion Bureau, ICHTO Ms. Torabi, Senior Expert, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO • JICA Iran Office: Ms. Atefeh Asadi, Program Officer • JICA Study Team: Ohara, Fukumura

第三次現地調査の訪問先関係機関は、以下のとおり。

表 1-7：第三次現地調査訪問先一覧表

日付	場所	参加者
Jan. 20 (Sat)	ICHTO International Affairs 09:30 – 11:45	Mrs. Faezeh Behzanejad, Head Advisor to President, International Affairs Bureau Mrs. Tahereh Masjedi, Expert of Tourism Planning & Development, Tourism Deputy, Tourism Planning & Development Office Mrs. Parvin Heidari Shakh Tabaghi, Head of International Group, Plan and Budget Organization, International Department Mr. Ali Sheykhani, Head Group of the Specialized Organization, International Affairs Bureau Ms. Kiandokht Torabi, Senior Expert, International Affairs Bureau ・ JICA: Mr. Furihata, Mr. Mizutani ・ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui
Jan. 21 (Sun)	ICHTO (Tabriz) 10:30 – 12:15	Mohammad Shahdad, East Azerbaijan Guide Association, Agent-Tour Guide Navide Raouf Fard, East Azerbaijan Cultural Heritage & Tourism Org., Agent and Public Relation Gasem Hassan Nejad, East Azerbaijan Cultural Heritage & Tourism Org., Security Section, Agent Arash Sohrabi, Tabriz Municipality, Director, R and D of Technical and Engineering Dep. Mohammad Hossein Eshagi, Deputy of Tabriz Mayor, Tabriz Municipality, R and D of Technical and Engineering Dep. Morteza Abda Bakshaish, Director General, ICHTO Omid Rouhani, Head of the Group, ICHTO, Marketing and Advertising Navid Mashhour Afag, Head of the Group, ICHTO, Public Relations Office Mohammad Alagheband, Chairman, East Azerbaijan Restaurants Association Rahmat Mahmoudi, East Azerbaijan Tour Agencies Association Agent Aydin Nezafat, East Azerbaijan Guides Association, Agent ・ JICA: Mr. Kobayashi, Mr. Furihata, Mr. Mizutani ・ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui
	Tabriz City Council 14:00 – 15:00	Member of city council and member of Tabriz 2018 ・ JICA: Mr. Kobayashi, Mr. Furihata, Mr. Mizutani ・ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui
	Tabriz City Hall 18:30 – 19:30	Mr. Iraj Shahin Baher, Mayor Mr. Aboomousavi, Advisor to mayor, Tabriz 2018 ・ JICA: Mr. Kobayashi, Mr. Furihata, Mr. Mizutani ・ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui
Jan. 23 (Wed)	JICA Iran Office 14:00 – 15:00	Mr. Yukiharu Kobayashi, Chief Representative Mr. Jinya Mizutani, Representative Mr. Kakeru Furihata, Country Officer (JICA HQ) ・ JICA Mission Team: Nishiyama

日付	場所	参加者
Jan. 24 (Thu)	Workshop at ICHTO (Tehran) 09:30 – 11:45	<p>Mr. Mohammad Sabet Eghlidi, Director, Planning & Development of Tourism Office</p> <p>Mr. Amir Sadeghi, Ecotourism Expert, Ecotourism</p> <p>Mr. Moslem Shojaei, Marketing and Promotion Managing Assistant, Tourism Deputy</p> <p>Mr. Kazem Jalili, Tourism Deputy, Reserch and Education Office</p> <p>Mrs. Golbanoa Khavari, Markeing Group Head, Marketing & Promotion Bureau</p> <p>Mrs. Zhaleh Nasleaziz, Supervision Expert, Tourism Deputy, Monitoring and Evaluation</p> <p>Mr. Seyed Masoud Mirtalebi Aghdam, Expert, Plan and Budget Organization</p> <p>Mrs. Tahereh Masjedi, Expert, Planning and Development of Tourism Office</p> <p>Mrs. Athareh Ayashi, Association, Planning and Development of Tourism Office</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ JICA: Mr. Kobayashi, Mr. Furihata, Mr. Mizutani, Ms. Asadi ▪ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui
	Embassy of Japan 13:20 – 14:00	<p>Mr. Akira Norota, First Secretary, Head of Economic Cooperation Section, Embassy of Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ JICA: Mr. Furihata, Mr. Mizutani ▪ JICA Mission Team: Nishiyama, Ueda, Usui

2. イランの社会経済状況

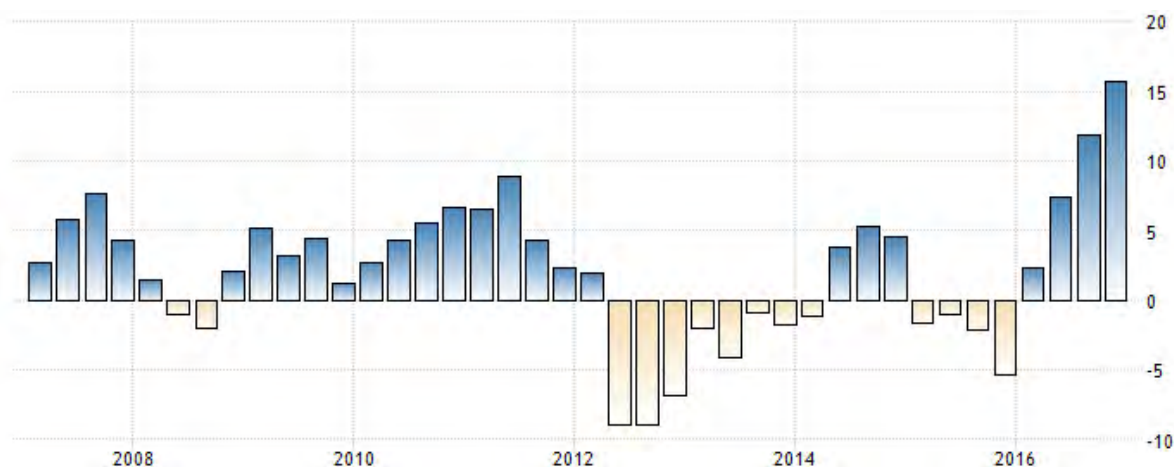
(1) イランの経済状況

イランは、日本の約 4.4 倍にあたる 1,648,195km² の国土に 79,926,270 人(2016 年:センサス)の人口を擁する、中東地域の大国である。石油の埋蔵量は、OPEC 加盟国中、第三位である³。

2015 年のイランの GDP は 4,569 億ドル、一人当たり GDP は 5,758 ドルと、中進国に分類される。2011 年以降、経済制裁の強化により GDP 成長率はマイナスに転じたものの、2016 年にイランへの核開発関連の経済制裁が緩和されて以降、世界銀行による当初見込み(4.4%:世界銀行、IMF)を上回る 6.5%以上の成長となった。

イラン国政府は、経済制裁の中で貿易依存度を下げ、政策的に製造業や農業をはじめとする様々な産業分野の発展に注力している。GDP の内訳を見ると、サウジアラビアの石油ガス関連産業が、GDP の 42.5%を占めているのに対し、イランは僅か 15.3% (2015 年)であり、他の中東地域の産油国と比べても、石油ガス関連産業への依存度は相対的に低い。イランのセクター毎の GDP シェアは、農業セクター10.8%、工業セクター33.8%、サービスセクター55.4% (以上、2015 年)であり、セクター毎の GDP シェアではサービスセクターの割合が高い事が特徴である。

製造業は GDP の 11.8%を占め、中でも自動車産業は 13 社(実働しているのは 10 社程度)の完成車メーカーが約 98 万 6000 台を製造し(2016 年)し、実働約 800 社(登録上は約 1200 社)のサプライヤーがそれらのメーカーを支え、産業クラスターを形成している。



出典: Tradingeconomics.com/イラン中央銀行

図 2-1: イランのGDP成長率(四半期:年率換算)

イランの GDP に占めるサービスセクターのうちホテル、レストランなどの観光産業のシェアは、20%強を占めている。サービスセクターの就業者数は、全就業人口の 50%弱を占める一方、失業率が課題となっている。

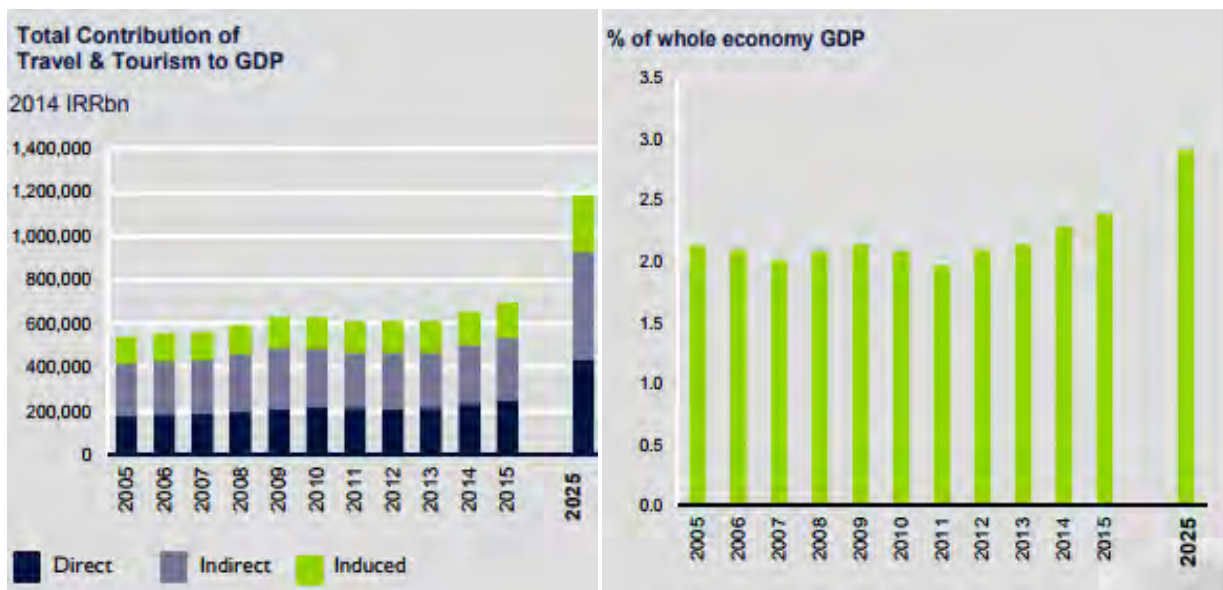
³ OPEC Annual Statistical Bulletin 2017

表 2-1：イランの経済状況

指標	単位	2013	2014	2015
実質 GDP (2010 年価格)	億 US ドル	4,445	4,639	4,569
GDP 成長率	%	-1.9	4.3	-1.5
1 人当たり GDP	US ドル	5,741	5,916	5,758
1 人当たり GDP 成長率	%	-3.2	3.0	-2.7
農業セクターの GDP シェア	%	9.0	9.3	10.8
工業セクターの GDP シェア	%	40.2	38.2	33.8
サービスセクターの GDP シェア	%	50.8	52.4	55.4
農業セクターの就業者数	人	18.3	17.9	18.0
工業セクターの就業者数	人	34.3	33.8	32.5
サービスセクターの就業者数	人	47.4	48.3	49.4
失業率	%	10.4	10.6	11.1

出典：World Bank

WTTC によると、2015 年にイランにおける旅行・観光産業の GDP への直接効果は、200 兆リアル以上、間接効果、誘発効果を合わせると 691 兆リアルに達する。これは直接効果でイラン全体の GDP の 2.4%、間接効果を含めると 6.5%である。一方で、他国と比較してみると、GDP への直接効果の割合は全世界で 135 位と決して高くない。このことは、WTTC の予測にあるとおり、今後さらに伸びる余地があると考えられる。雇用に対する効果の面では、旅行・観光産業に直接従事する雇用は 41 万 3 千人、間接、誘発分を合計すると 122 万 4 千人の雇用を創出している。



出典：WTTC Travel & Tourism Economic Impact 2015

図 2-2：旅行・観光産業の GDP に対する貢献 図 2-3：旅行・観光産業が GDP に占める割合(直接効果分)

(2) イランの社会状況

イランの人口は増加を続けており、2016 年には 8 千万人弱となっている。近年の人口増加率は 1.2%程度で推移しており、微減の傾向を示している。都市人口比率は 73%程度となっており、既に都市化が進行し、都市と農村の人口比率は、一定の割合で安定的に推移している。社会におけ

る所得分配の不平等の程度を図るジニ係数⁴は、2013年に0.37であり、世界的に見れば比較的、所得分配が平等に行われている社会と言える。初等教育就学率の純就学率は、ほぼ100%に近いものの、総就学率は2015年時点でも50.8%と依然として低い水準に留まっている。近年は、ほぼ全ての子供が初等教育を受けている一方、年齢層の高い世代は初等教育を受けていないと推定される。識字率は2014年時点で84.7%である。インターネットの使用者比率も年々増加しており、2016年には人口の半数がインターネットに接続している。

表 2-2：イランの主な社会経済指標

指標項目	単位	2013	2014	2015	2016
人口	人	77,435,384	78,411,092	79,360,487	80,277,428
人口増加率	%/年	1.28	1.25	1.20	1.15
出生率	%	1.72	1.70	1.68	N/A
都市人口比率	%	72.3	72.9	73.4	73.9
農村人口比率	%	27.7	27.1	26.6	26.1
ジニ係数	—	0.37	N/A	N/A	N/A
総初等教育就学率	%	38.1	42.4	50.8	N/A
純初等教育就学率	%	98.7	99.2	99.2	N/A
インターネット使用者の比率	%	30.0	39.4	45.3	53.2
識字率	%	84.6	84.7	N/A	N/A

出典：World Bank

イランはシーア派イスラム教を国教としている。国民の98%がイスラム教であり、その内、90%がシーア派であり、スンニ派が多数の近隣のアラブ諸国とは一線を画している。イスラム教以外では、少数ながらキリスト教、ユダヤ教、ゾロアスター教を信仰している人々もいる。

現在のイランは、法学者の統治を政治体制の中核に位置付けられていることがイラン・イスラム共和国憲法によって定められている。統治原理の根幹をシーア派イスラムに置くイスラム共和制（立憲共和制）である。2017年10月時点での最高指導者はセイエド・アリー・ハーメネイー師であり、ハッサン・ロウハーニー氏が大統領を務めている。議会は定数290名の一院制で運営されている。

イランの民族人口に関して公式の統計資料は存在しない。しかし、推定ではペルシア系の民族が過半数を超え、他にはアゼルバイジャン、クルド、アラブ、バローチ、ロル、トルクメン等の民族がイランに居住している。

(3) 州レベルの社会経済指標

州ごとの社会経済指標を下表 2-3 に示す。人口に関しては首都のテヘラン州に約17%近くが集中している。その他に人口が多い州としては、ホラサーン・ラザヴィー州、エスファハーン州などであり、500万人以上の大都市である。失業率においては、マルキャズイー州が7.3%と比較的低い数値である一方で、チャハールマハール・バフティヤーリ州やケルマーンシャー州では20%

⁴ 社会における所得分配の平等・不平等を計る指標。0から1までの数字で示され、0に近づくほど平等、1に近づくほど不平等で格差が大きいことを意味する。社会騒乱多発の警戒ラインは、0.4である。

を超えている。一人当たり GRDP に関してもテヘラン州、フーズスタン州は比較的高い数値を示している一方、シスターン・バルチスターン州や、クルディスターン州は前出の州と比較して三分の程度の一人当たり GRDP となっている。このように失業率や一人当たり GRDP といった指標から、州によってイランにはかなりの社会経済的な格差があることが伺える。

表 2-3：州レベルの社会経済指標

州	人口 (2016)	2011年-2016年の平均人口増加率	2016年の失業率	2014年のGRDP	2014年の一人当たり GRDP 単位：1,000 リアル
全国	79,926,270	1.24	12.4	11,487,170	147,328
東アゼルバイジャン	3,909,652	0.97	10.8	397,753	103,744
西アゼルバイジャン	3,265,219	1.17	11.0	255,495	80,092
アルダビール	1,270,420	0.35	15.3	130,596	103,565
エスファハーン	5,120,850	0.97	14.6	766,587	152,555
アルボルズ	2,712,400	2.37	14.3	392,259	151,510
イーラーム	580,158	0.80	11.6	87,546	153,320
ブシェール	1,163,400	2.41	11.3	446,201	402,345
テヘラン	13,267,637	1.72	11.6	2,711,017	211,402
チャハールマハール・バフティヤール	947,763	1.15	20.2	78,961	85,363
南ホラサーン	768,898	3.02	10.7	64,091	85,001
ホラサーン・ラザヴィー	6,434,501	1.43	13.2	649,815	103,887
北ホラサーン	863,092	-0.11	11.2	74,228	85,813
フーズスタン	4,710,509	0.78	12.7	1,111,207	239,536
ザンジャン	1,057,461	0.81	9.7	112,458	108,133
セムナン	702,360	2.16	8.6	104,034	154,582
シスターン・バルチスターン	2,775,014	1.83	12.9	164,066	61,287
ファールス	4,851,274	1.08	11.4	566,007	119,210
カズビーン	1,273,761	1.17	11.6	182,024	146,322
ゴム	1,292,283	2.33	11.2	115,739	93,792
クルディスターン	1,603,011	1.42	15.2	121,083	77,767
ケルマーン	3,164,718	1.49	11.5	390,084	126,939
ケルマーンシャー	1,952,434	0.07	22.0	213,961	109,780
コフギルイェ・ボイェルアフマド	713,052	1.60	13.3	153,861	222,664
ゴレスターン	1,868,819	1.01	12.6	147,894	80,728
ギーラーン	2,530,696	0.40	11.3	258,756	103,090

州	人口（2016）	2011年-2016年の平均人口増加率	2016年の失業率	2014年のGRDP	2014年の一人当たりGRDP 単位：1,000 リアル
ロレスターン	1,760,649	0.07	13.0	146,641	83,414
マーザンダラン	3,283,582	1.33	11.6	400,869	125,350
マルキャズィー	1,429,475	0.22	7.3	264,588	185,937
ホルムズガーン	1,776,415	2.39	10.3	299,101	176,565
ハマダーン	1,738,234	0.23	9.5	181,964	104,218
ヤズド	1,138,533	1.17	12.8	236,011	217,923

出典：Statistical Center of Iranの資料よりJICA調査団作成

(4) 輸出及び海外直接投資（FDI）の動向

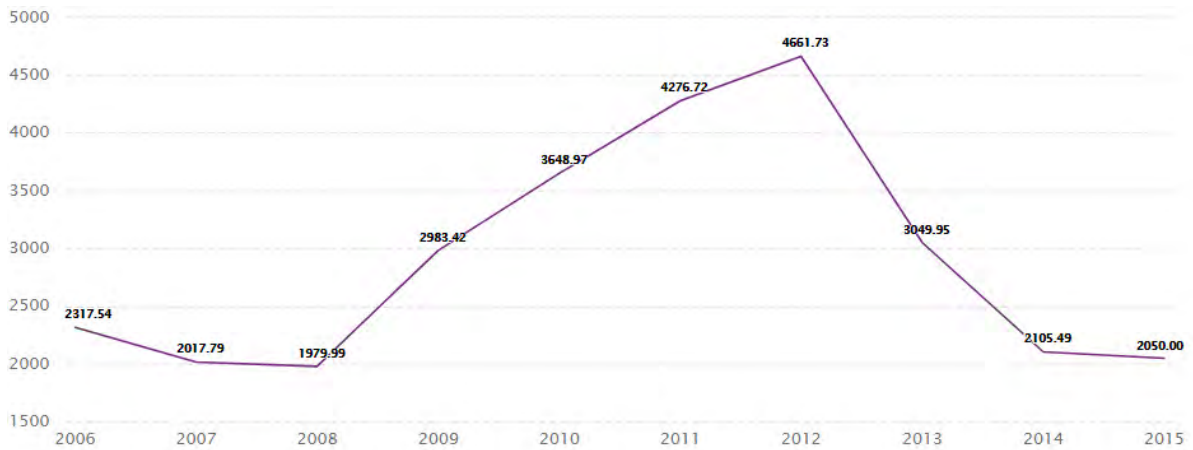
イランの核開発活動に関する包括的合意による核関連の経済制裁解除を受け、老朽化した国内航空機を代替するエアバス機の納入、フランス・イラン両国間の自動車メーカーの提携、中国による原子力発電所と高速鉄道の建設、韓国・イラン間での MOU 締結等、海外からの進出競争が始まった。

最新のイランの国家経済開発五カ年計画である第 6 次五カ年計画の達成には 2,300 億ドル超の投資が必要とされているが、うち 2 割となる 518 億ドルの外資導入が計画されている。特に石油化学や電力、水資源、自動車、観光などを重要分野として外資導入に注力する方針である。

イランの最大の貿易相手国は輸出、輸入とも中国である。これはエネルギー需要の増大が続く中国にとって、イランがサウジアラビア、ナイジェリアに続く第三位の石油輸入先であることのほか、中国は欧米による対イラン経済制裁に参加していないことが主要な要因である。一方第二位の輸入先国であるアラブ首長国連邦、特にドバイは、特に経済制裁下で海外の産品がイランに入る際の中継貿易地として大きな役割を果たしている。また、金融取引の面でもドバイを経由した送金が多い。輸入先第三位の韓国は、イランに向けテレビ用ディスプレイモジュール、自動車及び同部品、鉄鋼製品、携帯電話関連製品などを輸出している。

2015 年度の貿易額は原油価格下落の他、継続した経済制裁の影響を受け対前年比で大幅に低下したが、2016 年度は経済制裁の緩和や原油価格の緩やかな上昇を受け、増加に転じたと考えられる。

イランへの海外直接投資額も、同様に経済制裁強化の影響を受け 2012 年をピークに下落し 2015 年は約 21 億ドルである。経済制裁緩和の影響を受け、今後は増加が見込まれる。



単位：百万 USD

出典：Tradingeconomics.com／イラン中央銀行

図 2-4：イランへの海外直接投資

(5) イランの経済開発計画

イランの国家経済開発計画である第6次五ヶ年計画（2017–2021年度）では、年率8%のGDP成長率、1,127億ドルの輸出額達成を目指しており、石油化学や電力、水資源、自動車、観光を重要分野としている。一人当たり生産高は6.7%の向上を目指し、生産性も2.7%としている。

特筆すべきは、石油以外の製品とサービスの輸出の成長を掲げており、年率21.7%と成長を目指していることであり、石油や天然ガスの生産、輸出に力を入れているが、それ以外の製品、サービスを輸出することを狙いとしている。また、2016年のインフレーション率は7.9%であり、計画でも8.8%と設定している。

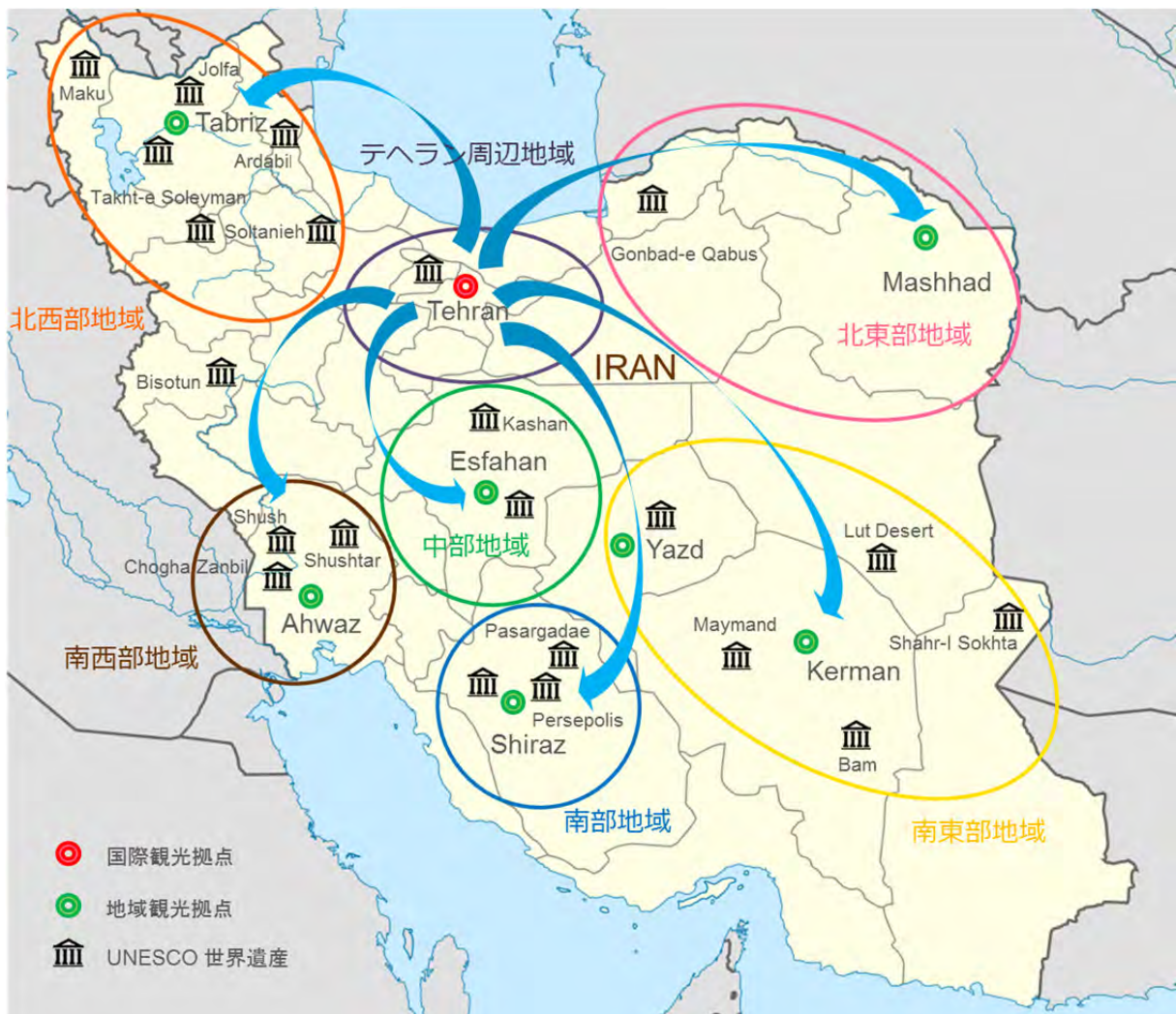
失業率は、2016年時点で12%程度だったものの、2021年には8.6%を目標値として掲げている。

3. イランの観光資源の状況

(1) イランの主な観光資源

イランの歴史は、紀元前メソポタミア文明に遡り、ペルシア帝国、イスラム帝国、オスマントルコなど多様な文化が積層した豊かな文化遺産を有する他、国土の多様な気候・風土を背景に、東部の砂漠、北部のカスピ海や南部のペルシア湾岸のビーチリゾート、スキー場など、様々な観光資源が広い国土に点在している。

日本の旅行代理店等が催行するツアーをはじめ、イラン観光は、概ね以下の七つの観光圏⁵に分かれる。



出典：JICA調査団

図 3-1：イランの主な観光圏

⁵ 観光圏：自然・歴史・文化等において密接な関係のある観光地を一体とした区域であって、区域内の関係者が連携し、地域の幅広い観光資源を活用して、観光客が滞在・周遊できる魅力ある観光地域づくりを促進するもの。
出典：日本政府観光庁ホームページ

表 3-1：イランの観光圏と主な観光資源

国際 観光拠点	観光圏	地域 観光拠点	観光資源	
			主な観光地	その他の観光資源
テヘラン	テヘラン周辺	テヘラン	・ゴレスターン宮殿 * ・ダマーヴァンド山	・伝統刺繍 ・スキーリゾート
	北西部	タブリーズ	・バーザール * ・シャイフ・サフィアッディーン廟 * ・タフテ・ソレイマーン * ・ソルターニーイエ * ・ビーソトゥーン *	・アルメニア使徒教会の聖地 ・キャンドヴァーン村の洞窟住居 ・毛織物絨毯
	北東部	マシュハド	・ハラメ・モタッハル広場 ・ゴルバデ・カーブース *	・イスラム教シーア派の聖地
	中部	エスファハーン	・イマーム広場 * ・カーシャーン *	・ハマダーンの陶器 ・ミーナー・カーリー(エナメル製品) ・銅製品 ・毛織物絨毯 ** (Kashan県)
	南部	シーラーズ	・ペルセポリス * ・パサルガダエ *	・毛織物絨毯 ** (Fars県)
	南西部	アフワーズ	・チョガーザンビル * ・シューシュ * ・シューシュタル *	
	南東部	ケルマーン	・ヤズド * ・バム * ・ルート砂漠 * ・ミーマンド *	・ペルシア式カーナート施設 *

出典：JICA調査団、* UNESCO世界文化遺産、** UNESCO世界無形文化遺産



写真 観光圏ごとの主な世界遺産

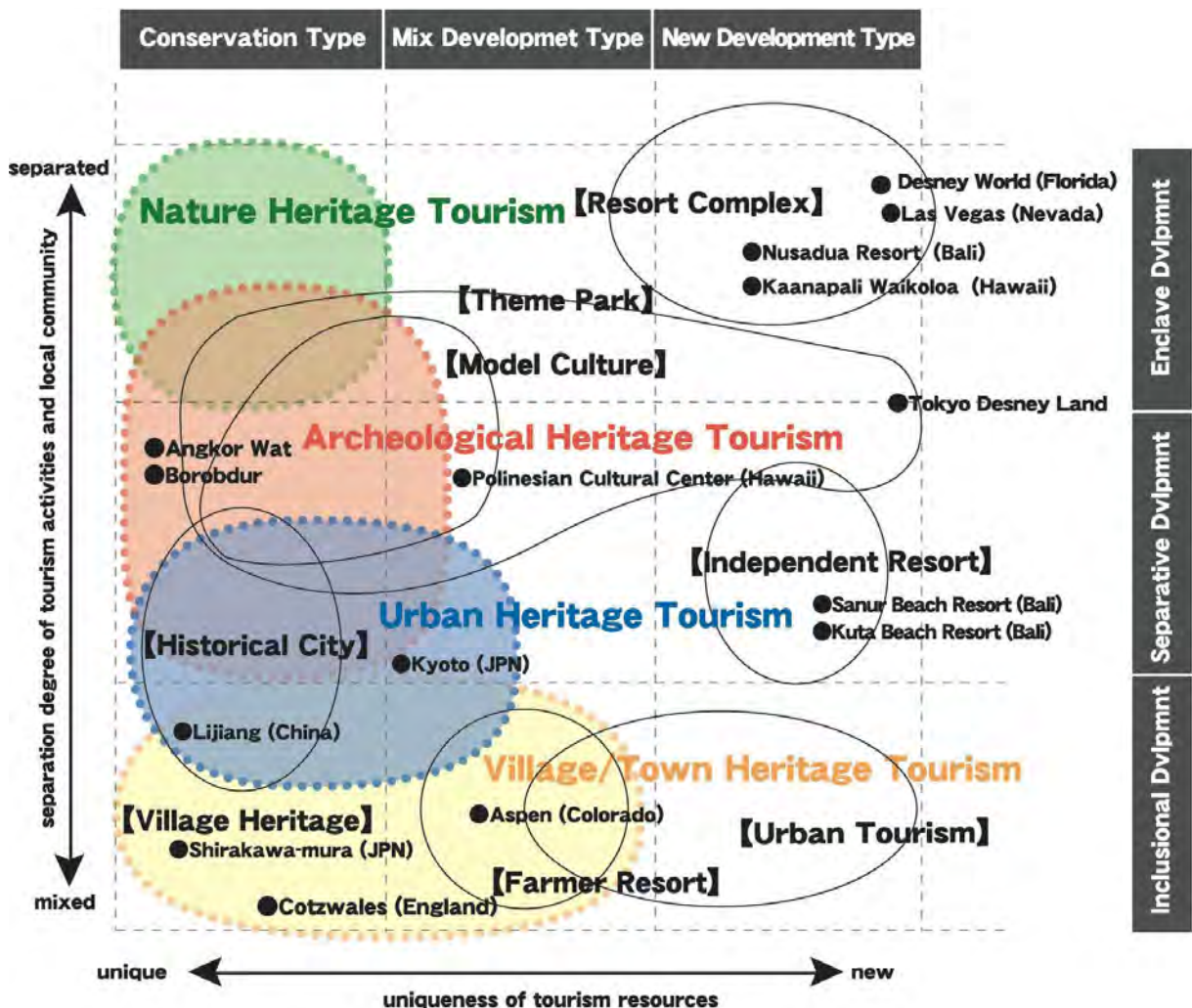
(2) イランの観光資源の特徴と課題

1) 観光資源の類型分析

本調査では、前項のイランの代表的な観光圏の把握に加え、イラン国内の既に顕在化している観光資源の類型を分析する。

分析に当たっては、そこにしかないユニークな（代替不可能な）資源であるか、あるいは開発によって新たに創り出せる（代替可能な）資源であることを示す「観光資源の固有性」の軸、およ

び観光活動が展開する空間と地域社会（住民の生活空間）とが重なっているか、あるいは分離・隔離されているかを示す「資源と地域社会との分離度」の2軸を用いた（図3-2参照）。これにより、イランの国や地域レベルでの観光資源の保有・整備状況が確認でき、今後、重点的に開発すべき観光資源の類型の特定や、地域社会を包摂した持続可能な観光開発を適用すべき観光資源の選定を行うことができる。



出典：北海道大学 西山 徳明

図 3-2：「観光資源の固有性」と「資源と地域社会との分離度」の2軸による類型化

2) イランの観光資源の類型

本調査では、2017年9月27日に開催したICHTO職員を対象としたワークショップにおいて、イランの既存の観光資源の類型化を行った。そこから、今後重点的に開発すべき観光資源の特定や、地域社会を包摂した持続可能な観光開発支援のありかたについて考察した。

結果として、ICHTO職員が提示した観光資源では、分析表（表3-2）の左下4ブロック（固有性が高く、地域社会と融合している資源）に、全ての参加グループの回答が集中する傾向が見られた。

このことは、遺跡や集落・歴史的市街地等の文化遺産が観光資源として卓越しており、それら観光資源と人の住むコミュニティとの距離が比較的近いことを意味している。

こうした観光資源をリビングヘリテージ（観光資源と地域社会が関係を持ち続けている遺産の形、あるいは人の暮らしと遺跡や町並みが渾然一体となった遺産）として意識的に開発していくことにより、持続性のある観光開発が可能となり、イランにはリビングヘリテージが豊富にあることを理解できた。

具体的には、古代遺跡や手工芸を中心とする伝統的な技術や文化、そして歴史の積み重なりが共存する都市観光や、キャラバンサライなどの歴史的建造物の改修と活用といった観光資源に相当する。

これらは、ICHTO の文化遺産局と手工芸局がそれぞれに取り組んでいるものであり、特に最近イランで注目されているエコツーリズムおよびエコロッジ開発のテーマとも重なるリビングヘリテージとしての観光開発と捉えることができる。

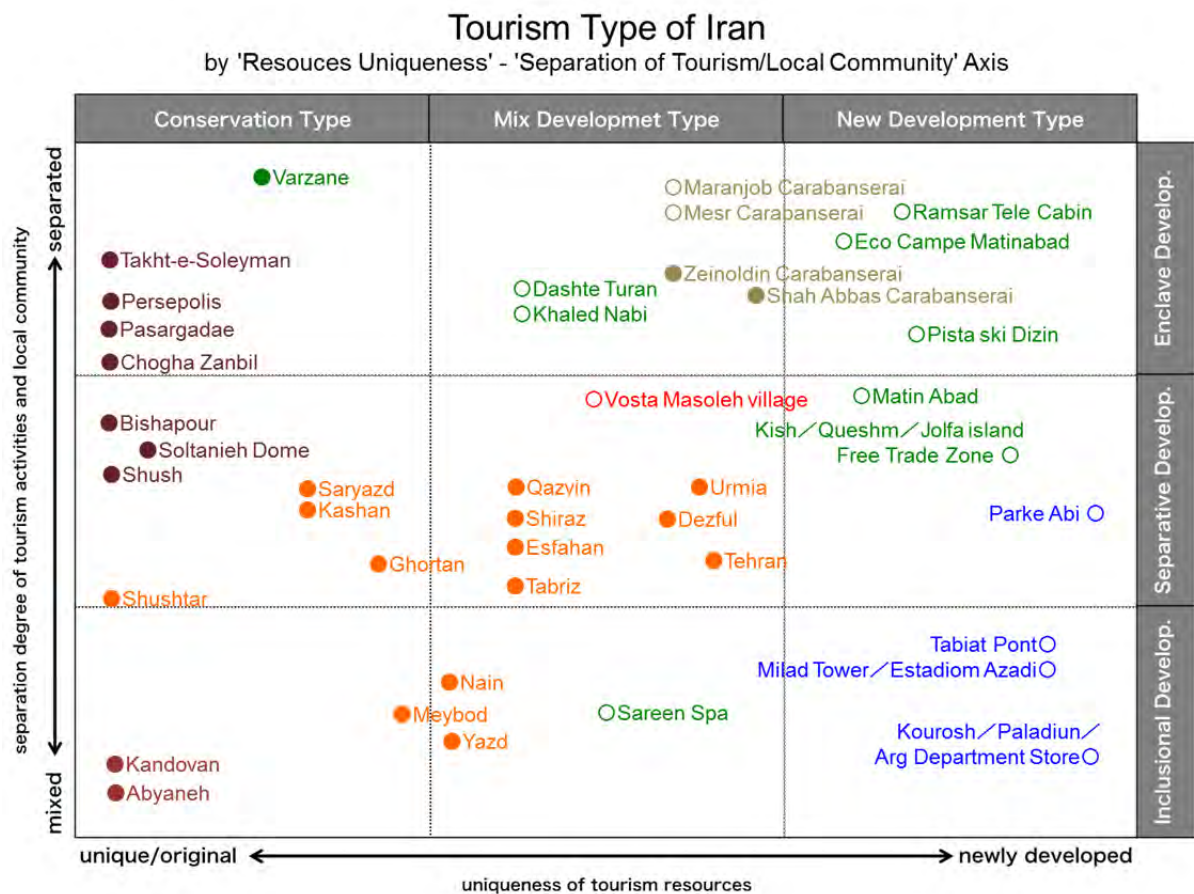
表 3-2 : ICHTOの職員を対象としたワークショップによる類型分析の結果

Tourism Type of Iran by Resouces Uniqueness - Separation of Tourism/Local Community Axis

	Conservation Type	Mix Developmet Type	New Development Type	
separation degree of tourism activities and local community	↑ separated			Enclave Development
	【Conservation/Enclave】 Lut 砂漠 (世界遺産)*4 Margon 滝 (シーラーズ近く) Chadgan湖 (イスファハーン州) Damavand山 (テヘラン近く) Urmia湖 Jiroft(ケルマン州ジローフト文化都市) Shahre Sukhteh(スィースタン・パローチェスターン州ジローフト文化都市) Shahdad歴史都市(ケルマン州) Abr ジャングル(セムナン州雲海) Haraジャングル/Darreh Setareghan(ゲシュム島)	【Mix/Enclave】 Bagh Meli Giah Shenesi (テヘラン近郊植物公園) Maranjob (キャヴィール砂漠の中の町、キャラバンサライ改修ホテル) Mesr (キャヴィール砂漠の中の町、キャラバンサライ改修ホテル) Hotel Kapari (ケルマン州の遺跡のホテルリゾート) Guilan Rural Heritage Museum(古民家移築) Dashte Turan(塩湖の公園) Khaled Nabi(ゴレスタン州の古い墓地)	【New/Enclave】 Parke Abi (マシュハドやテヘランにある複合プール施設) Pista ski Dizin (テヘラン近郊スキー場) Take Jabub Ransar (ラムサール ロープウェイ) Eco Campe Matinabad (カシャーニ近くの民間エコツーリズム会社開発のリゾート)	
	【Conservation/Separative】 Persepolis (世界遺産)*4 Isfahan(世界遺産)*4 Soltanieh Dome(ザンジャン州世界遺産)*3 Pasargadae (シーラーズ世界遺産)*2 Arg of Karim Khan (シーラーズの城塞) Naghshe Rostam (シーラーズ王の墓) Ghamsar村/Niasar村(カシャーニ近くのバラ栽培) Roudkhan城(ギーラン州カスピ海近く) Takhte Soleyman (世界遺産) Tepe Sialk 丘(カシャーニ近く遺跡) Dareh Shahr(ロレスタン州遺跡) Yazd(世界遺産) Shushtar(世界遺産) Hara ジャングル(マングローブ林) Nyasar村(カシャーニ近くバラ栽培) Shah Abbasの母のキャラバンサライ(エスファハーン近く) Ghara Kelisa(世界遺産アルメニア修道院)	【Mix/Separative】 Taghe Bostan (ケルマンシャー州レリーフ遺跡) Tangeh Vashi (テヘラン近郊自然地) Lalejin (ハマダーン州陶器の町) Kashanの歴史のホテル Ezmighan村(ホラサーン州谷の景勝地) Palangan村(コルデスタン州) Zeinoldin キャラバンサライ(ヤズド近くリゾート)	【New/Separative】 Tabiat Pont (テヘランのモダンな橋) Milad Tower (テヘランのタワー) Pole Tabiat (テヘランの橋) Matin Abad (エスファハーン州のエコキャンプ) Kish島(国境沿い免税特区) Queshm島(国境沿い免税特区) Jolfa島(国境沿い免税特区)	
↓ mixed			Inclusional Development	
【Conservation/Inclusional】 Abnane 村 (エスファハーン州)*3 Kandovan村(タブリーズ近く)*3 Oraman 村 (コルデスタン州) Kalpurgan 村 (スィースタン・パローチェスターン州陶器の村) Bazar Tabriz (タブリーズ世界遺産) Midane Amir Chakhmag (ヤズドの広場) Horeyzeh (フーゼスタン州の町) Masuleh町(ギーラン州カスピ海近く) Meymand村(ケルマン集)	【Mix/Inclusional】 Gheshm 島 Kish 島 Vosta Masoleh 村 (ギーラン州歴史村) Sareen 温泉 (アルダビーレ州) Sarae Amerian (カシャーニ歴史建築) Qamsar村(カシャーニ近くバラ栽培) Kandolus村(カスピ海のリゾート) Bastam(セムナン州モスク)	【New/Inclusional】 Kourosh (テヘランのデパート) Paladiun (テヘランのデパート) Arg (テヘランのデパート) Borje Milad (テヘランのタワー) Estadiom Azadi スタジアム モール Chabahar港(免税特区) Azadi タワー Miladタワー		
unique/original ←	uniqueness of tourism resources	→ newly developed		

出典 : JICA 調査団

また、本調査で現地視察を行なったテヘラン、タブリーズ、エスファハーン、ヤズド、シーラーズ、アフワーズの六つの観光圏の観光資源を含むイランの観光資源の類型分析の結果は、図 3-3 のとおり。



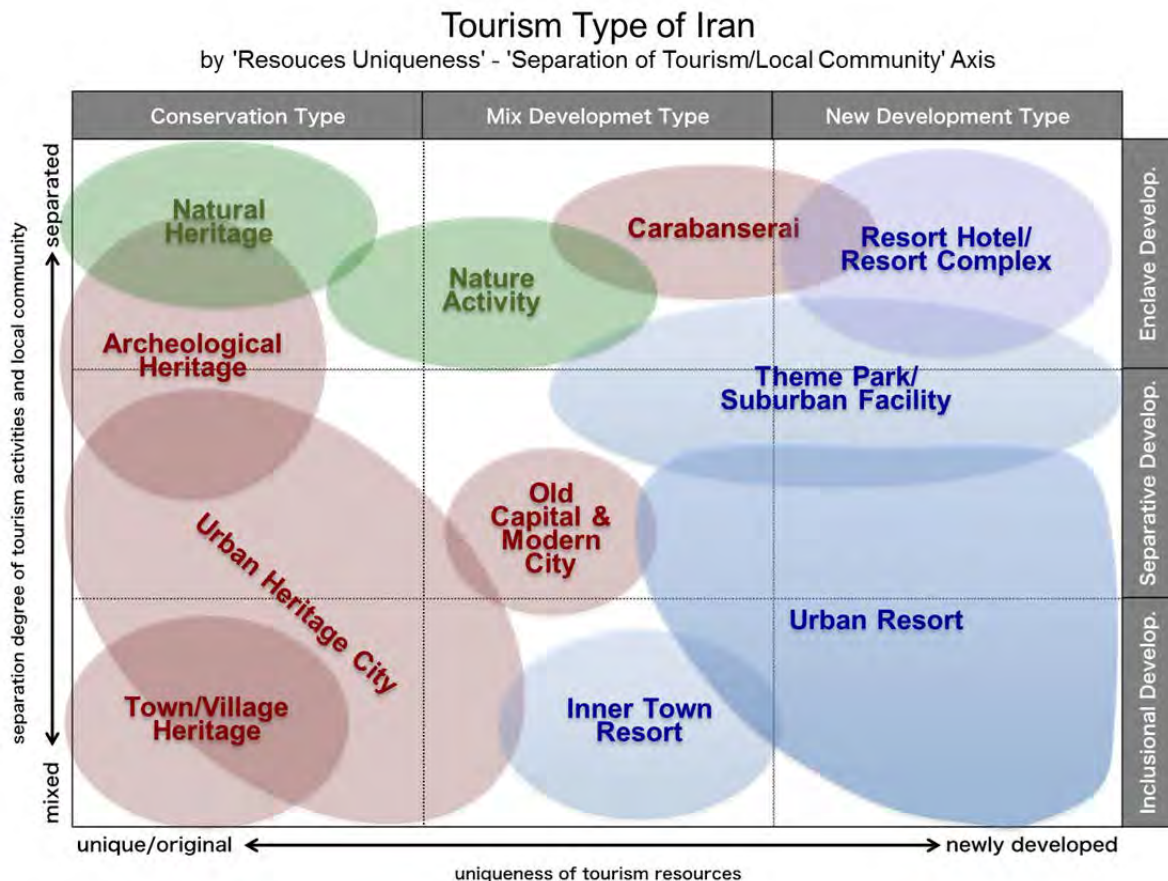
- 凡例：
- 考古学的遺産・遺跡
 - 自然遺産・資源を魅力とする観光目的地
 - 都市遺産（歴史的市街地・遺跡と現代都市としての魅力が混在）
 - 歴史的集落・町並み
 - 商業開発された遺跡（キャラバンサライ等）
 - テーマパーク
 - 現代都市としての魅力を資源とする観光目的地

※○（白抜き）は、ICHTO とのワークショップで情報を得られたが今回調査では訪問しなかったサイトを示す
 出典：JICA 調査団

図 3-3：イランの観光資源の類型分析

3) 観光資源の類型ごとの特徴と整備の課題

観光資源の類型分析のマトリクスを基に、イランの観光資源を概念的にグルーピングしたものを図 3-4 に示す。その上で、イランの観光資源の類型ごとの特徴と整備の課題を、以下に説明する。



出典：JICA調査団

図 3-4：イランの観光資源の類型

【考古遺産】

イランに最も多く見られる遺跡の類型である。考古遺産は、過去の文化や文明が創り出したものであるが、ほとんどが一度は放棄され、社会との断絶を経るため、現代の人間社会とは全く関係なくあらゆる場所から発見され得る。また、発掘整備された後は、基本的には公園化された観光資源として供されるため、地域社会との空間的融合はあまり見られない。

しかし、周辺コミュニティの住民や関係者が遺産価値のインタープリテーション（解説施設の運営やガイド等）、あるいは観光利便施設（レストランや土産物店など）の経営等を通じて考古遺産と関係を持つことにより、遺産が地域社会から隔離された存在ではなく、経済的利益のみならず信仰の対象、誇りや愛着心の醸成等をもたらす意味をもつ大事な存在、すなわちリビングヘリテージとしての価値を発揮することができるようになる。既に世界文化遺産として相当数を誘客している遺産も、これから整備されることで誘客を図る予定の遺産も、いずれの遺産においても、こうした整備の方針をとることが、21世紀型の遺産整備のあり方である。

【都市遺産】

かつての歴史的都市が、遺跡化することなく現在も都市として機能し、観光資源となっている類型である。都市内部に既に機能を失った遺跡を内包することもある。イランの場合は、都市内の城塞跡、広場、キャラバンサライ、水利施設、温浴施設（ハンマーム）、邸宅建築などを資源として構成されており、そのバリエーションは豊富である。これら有形不動産遺産と伝統工芸やバーザールなどの無形遺産との複合的な観光資源化により、幅広い顧客層に訴求する商品化が可能であるとともに、地域コミュニティの参画が可能であるため、持続可能性の高い観光開発のポテンシャルを有する。

【旧首都／現代都市】

他国では見られないほど多く存在するイランに特徴的な「都市遺産」の類型である。エスファハーン、シーラーズ、ガズヴィーン、タブリーズなど過去に栄えた様々な王朝の首都が、現代都市としての機能や魅力も兼ね備えながら人々を惹きつけているもの。各都市の首都として栄えた往時の王朝の特徴や代表する遺産などを意識的に整備し、都市遺産のシリーズとしてストーリー化することによって、イランの歴史の重層性をシルクロードのテーマのなかでブランド化させることが可能となる。それぞれの都市では、総花的な整備ではなく、当該都市の歴史ストーリーを特徴付ける遺産を差別化して抽出、整備し、現代都市としての機能の中で浮かび上がらせることで都市ブランド化も可能となる。

【都市リゾート】

テヘランのような商業施設や文化芸術施設、スポーツ施設、コンベンション施設、総合大学等の都市型の施設を含み、国内外の訪問者を受け入れる都市をリゾートと見なした観光地の類型である。都市遺産としての側面と比して、こうした特性が卓越している都市ないしはその機能に対して用いる。国内観光のハブ拠点ともなるため、空港や鉄道を始めとした交通インフラの整備が重要となる。

【都市内リゾート】

湧き水や温泉、公園や緑地、広場や宗教施設など、都市の中にあり、特別な遺産でもなく、商業施設や文化芸術施設等でもないが、人々を惹きつけているイラン人が観光資源と認識している施設や空間等の類型である。文化遺産として認識されているものだけでなく、こうした空間や施設を、当該都市を個性づける観光資源として活用、整備することが有効なケースがある。

【伝統的集落／町並み遺産】

首都（旧首都含む）や大都市から離れた郊外や歴史的街道沿いに、あるいは山間や海浜などの地方部に、ある特定の産業（農業、漁業、鉱業、製造業など）や機能（港、宿場・流通・往来など）を果たしてきた（かつて果たした）ことにより形成された伝統的建造物群や町並みが遺産として継承されている観光地の類型である。人が住み続けることによって継承されてきた遺産であるため、住民が文化継承者であるケースが多く、ガイドやインタープリター、宿泊施設の提供などを通して観光開発に参画する CBT 開発に適している。イランには、様々に多様な文化が、こうした集落や町並みとともに全国各地に残っており、観光資源としてのポテンシャルは非常に高い。

しかし、住民自らが自地域の遺産としての価値を認識できない場合は、観光開発によってその価値が容易に変質し、地域外の資本に買い占められるなどの弊害が起こり易い類型であるため、その遺産の性質を良く理解した注意深い開発が必要となる。

【キャラバンサライ】

イランには、全土に 1,000 近くの国指定文化財に登録されたキャラバンサライがある。キャラバンサライは、それぞれが固有の歴史背景、立地特性（市街地包摂型・沿道型・砂漠孤立型）、規模・デザイン等を有していると共に、シルクロードに沿って国内の広域にわたって分布していることから、非固有性（普遍性）も併せ持つ。多様な資源利用が可能な類い希な観光資源という点に着目できる。文化遺産としての価値を保存しながらこれを商業施設やホテル等として活用しているものがある一方、文化遺産としての保存を二の次にした開発や再利用も散見されるため、それら文化遺産の本質的価値や観光資源としてのポテンシャルを適切に評価し、開発と保存のバランスの取り方を改めて見直す必要がある。

【自然遺産】

保護された原生的な自然などの観光資源の類型である。代表例としては、イランで唯一、UNESCO の世界自然遺産に登録されているルート砂漠が挙げられる。また、既にエコツーリズム開発が進んでいるアンザリー州のラグーンを含む全国 22 箇所のラグーンも有望な観光資源となり得る。こうした自然遺産地域内および周辺地域での開発は望ましくないため、域外を宿泊拠点とするエコツアーの催行や、仮設的なテント等で宿泊するなどのエコツーリズムの理念を遵守した利用が考えられる。

【自然アクティビティ】

都市から離れた自然の中であるが、道路や施設が一定程度開発された環境で、ドライブや親自然型のスポーツ等のアクティビティ（カヌー、トレッキング、温泉入浴など）を楽しむ観光資源の類型である。自然環境保護に十分留意しながら政府が計画的に開発することが望ましいが、周辺にある山村等の地域コミュニティが観光開発（ホテルやレストラン、ツアー催行など）に参画するケースもあるため、エコロッジやブームギャルディー等の施策を先行させることや、官民の連携が重要となる。

【リゾートホテル／複合リゾート】

都市から一定程度離れた海浜や山岳地域に、民間開発やマスタープランに基づいて開発されるホテルやその複合開発による観光資源の類型である。投資によって開発が可能であり、中間層以上や富裕層を誘致することで、国や地域の観光の多層化を図る上では重要な観光資源・観光地であるが、自然を大きく改変するタイプの開発であり、大勢の観光客による自然を利用したアクティビティも用意される必要があるため、十分な計画と環境アセスメント等が求められる。

【テーマパーク／郊外観光施設】

世界的には、ディズニーランドやユニバーサル・スタジオ、ポリネシア文化センター（ハワイ）、チボリ公園（オランダ）などに代表される観光資源の類型である。何らかの文化（アニメーション

ン文化、映画文化、海洋文化、地域文化など）をテーマとして設定し、場合によっては遊園地やアトラクション等と組み合わせて整備し、多様な年齢層を集客する新規開発型の施設を指す。魅力的なテーマと綿密な経営計画に基づき運営しなければ成功しない一方、テーマとする文化のインタープリテーションやブランドイメージ形成には大きな力を発揮することができる。また、通年型の観光資源としての機能を果たすことができる。イランには、地方の伝統的な生活を展示する施設等が散見される一方、目立った成功例が見られないことから、場合によっては、地域のブランド化の戦略として、テーマパークを用いることも有効である。

(3) イランの文化遺産（有形／無形）の状況

イランでは、2017年に新たに登録されたヤズドをはじめ、21件の文化遺産と1件の自然遺産がUNESCO世界遺産に登録されている他、2017年現在、56件の文化遺産が暫定遺産リストに登録されている。

また、イスラム教シーア派の聖地である北東部のマシュハドや、北西部のアルメニア使徒教会の修道院は、国内外の多くの巡礼者（ピルグリム）を集めている他、エスファハーン州のカーシャーンの伝統的なカナート式（横井戸）の灌漑システムが、FAOの世界農業遺産に2014年に登録されている。

一方、世界遺産の周辺の都市開発が問題となり、UNESCOにおいて危機遺産リストへの登録が議論される⁶など、景観規制や開発規制を含めた文化遺産の管理・保全の在り方についても改善の余地がある。

イランには、有形の文化遺産以外にも豊かな観光資源を有し、UNESCO無形文化遺産に11件が登録されている。その一つ、イランの伝統工芸品である毛織物絨毯のギャッベは、欧米や日本のインテリア関係者の間で高い人気を誇るものの、一般にはあまり知られておらず、観光地域の開発においては、これら地方製品の開発も観光開発の重要な要素となる。



イランの伝統工芸品ギャッベ（毛織物絨毯）
UNESCO無形文化遺産

(4) イランの国立公園、自然遺産の状況

イランの国立公園等の自然遺産の管理は、環境庁が管轄しており、国立公園、自然保護区、生物保護区、天然記念物の四つのカテゴリに分類されている。また、東部のルート砂漠は、UNESCO世界自然遺産に登録されている。

⁶ 世界遺産エスファハーンのイマーム広場の保護区域内に計画された複合商業施設ヤハン・ナーマビルの高層建築計画が世界遺産の景観を損ない、また、隣接する地下鉄工事の振動等が世界遺産へ及ぼす影響が懸念される、とのICOMOSの勧告を受け、世界遺産委員会は、2005年エスファハーンのイマーム広場の危機遺産リストへの登録及びビルの上層部4階の撤去・解体をイランのICHHTOに勧告。その後、ビルの一部解体工事が行われた。

表 3-3 : イランの国立公園・自然遺産

カテゴリ	主なサイト名
国立公園	Bakhtegan (RM), Bamou, Bojagh (RM), Dayer-Nakhiloo, Ghamishloo, Ghatroyeh, Golestan, Kavir, Khabr, Khojir, Kiasar, Kolahghazi, Lar, Nayband, Paband, Salouk, Sarigol, Siyahkooh, Sorkh-e Hesar, Tandooreh, Tang-e Sayad, Khar Turan, Lake Urmia (RM)
天然記念物	Alam-Kuh, Damavand, Sabalan, Sarv-e Abarkuh, Taftan
生物保護区	Amirkalayeh (RM), Bakhtegan (RM), Hamoon, Miandasht, Miankaleh (RM), Robot Shur, Selkeh (RM), Shadegan (RM), Shidvar (RM), Sorkhankol (RM), Touran
自然保護区	Alvand, Arasbaran, Arjan and Parishan (RM), Dena, Gando (RM), Geno, Hara (RM), Haraz, Heleh (RM), Jajrood, Karkas, Karkheh, Kavir, Mianjangal, Mozaffari, Siahkeshim (RM), Touran

RM : ラムサール条約登録地

出典 : JICA 調査団

(5) イランのフェスティバル等

イランの暦では、3月21日が新年の初めであり、イラン最大のフェスティバルとして、ノールーズと呼ばれる新年の祭りが挙げられる。ノールーズは、13日間にわたり様々な儀式、その他の文化行事が行われる。ノールーズの祭りは、2016年にUNESCO無形文化遺産に登録されている。他にも、カーシャーン近郊のスルタン・アリー霊廟で行われる絨毯洗いの儀式や、イランの宗教的、歴史的、神話的な物語や民話を題材にした舞台芸術等がUNESCO無形文化遺産に登録されている。

(6) その他の観光資源（伝統工芸品、食事）

1) 伝統工芸品

イランの伝統工芸品の多くは、エスファハーンが主な産地であり、更紗「ガラム・カール」、エナメル細工「ミーナ・カーリ」、銅細工「ガラム・ザニー」、象嵌細工「ハータム・カーリ」（シーラーズ及びエスファハーン）等がある。エスファハーンのエマーム広場を取り囲むバーザール内にはガラム・ザニーの工房もあり製造過程を見学することが可能である。

絨毯は、産地ごとにデザインや色彩に特徴があり、ゴム、ナーイーン、タブリーズの他、エスファハーン、マシュハド、カーシャーン、ホイ等が代表的であるが、少数民族のカシュガイ、バフティヤーン、バルーチ、クルド、トルクメン等、主に幾何学模様の、素朴ながらモダンなデザインの絨毯もある。細密画「ミーニヤートゥール」は、エスファハーンのハータム・カーリや皮革に描かれているが、古くは巨匠ベヘザード画伯、現代作家ではファルシチアーン画伯が人間国宝級である（サアダーバード宮殿博物館内に細密画専門の「ファルシチアーン美術館」あり）。

他にも、サナンダジ産のチェス盤やバックギャモン盤などの木工製品といったように、イラン各地に伝統工芸が根付いている。また、ヤズドでは15年くらい前から人絹「テルメ」の生産が始まっている。このような伝統工芸品は、外国人観光客の土産品として人気があり、ハータム・カーリや、ミーナ・カーリ等は、サイズにバラエティーがあるため手軽に購入できる。一方で、ガラム・カールはテヘランの土産店で見ると限りでは製品のデザインやサイズが限られ、販売機会をロスしている面があるのではないかと考える。

陶器は伝統が絶えてしまっており、ハメダーン近郊のラーレジーンで陶芸製作が行われている。タイル製作もかつてはカーシャーンを中心に行われていたが、伝統技術の継承が絶え、現在ではヤズドがタイル製造の中心となっている。

また、これら伝統工芸品以外にも、薔薇から作られるローズウォーターやローズオイル、アーモンドやピスタチオ等のナッツ製品とナッツから絞って作られる美容オイル、及びドライフルーツ等は外国人観光客の土産品となり得る。

テヘランのゴレスターン宮殿、イラン考古学博物館、アーブギーネ博物館等にはミュージアムショップが併設しているものの、一般的な手工芸品、ポストカードやマグネット等は販売されているものの、各施設の展示物に関連する製品は少ない。

また、カーシャーン近くの、赤土の建物が立ち並ぶアーブヤーネ村では、外国製の安い玩具等が売られているが地元特産品のようなものは見られない。これら安い玩具等はイラン人旅行者が購入しているが、アーブヤーネ村自体、外国人観光客にとって観光地としての人気が高まってきていることから、外国人観光客の興味を惹くような地元特産品の開発が望まれる。

トルコのカップパドキアに似ていることから外国人観光客の間で人気が高まってきているキャンドヴァーン村でも、地元特産品である蜂蜜以外はイラン全土で販売されているような手工芸品、或いは外国製品と思われる土産品が売られている。蜂蜜以外の、住民主体となった地元の素材を使用した特産品の開発が望まれる。また、蜂蜜についても、パッケージを外国人観光客が買いやすいサイズにする、密封度を工夫することで、販売機会が増えると思われる。

さらに、一般的な観光地にある土産品店では、その観光地に関連した土産品は売っているものの、イラン製か疑わしい製品が並んでおり、地元住民への裨益は少ないものと思われる。



2) 食事

イランの食事は、羊・牛・鶏・魚・エビ等のキャバーブ、野菜或いは野菜と肉を煮込んだ料理、デザートではサフラン入りアイスクリーム、ライス（白米かサフランライス）とナン（パン）が代表的である。レストランで提供される飲み物はドゥーグ（ヨーグルトを水や炭酸で割り、塩とミントで味付けされたもの）、フルーツジュース、炭酸系飲料（コカ・コーラ、ファンタ、ジンジャエール等）、ノンアルコールビール、紅茶など。イランで栽培されるフルーツの種類は多く、スイカ、メロン、葡萄、桃、柿、杏子、イチゴ、ザクロ、甘いレモンなど季節によって楽しむことが可能である。ピザ、ハンバーガー、サンドイッチ（ファラフェルや野菜を挟んだもの）等の店も多いが、これらイラン料理とファーストフード店以外、イタリアンや中華料理といった他国籍料理のレストランは、地方都市はもとよりテヘラン市内においてもあまり見かけない。

他方、タブリーズのクフテ（大きいミートボールをトマトベースのスープで煮込んだもの）やアーブグーシュト（肉とジャガイモ、玉葱、ひよこ豆等を、ディーズイーと呼ばれる小さい壺に入れ長時間煮込んだもので、自分で野菜を潰して食べる）、シーラーズのキャランポロ（揚げたキャベツとミートボール、ライスを混ぜて、塩・胡椒など好みの味付けで食べる）やシラージサラダ（きゅうりやトマトを細かく切ったサラダ）及びファルデ（そうめんを凍らせた様な白く細長いシャーベット）など、その地域で生まれた料理や調理法があり、料理の背後に隠れたストーリーやジョークもある。また、寒い日に数時間煮込んで作るというアシェ・ショレ・ガラムカール（数種類の豆や米を煮込んだスープ）などは住民と一緒に作ることができると面白い。

イランの地方料理はあまり知られていないものが多いが、調理法、食べ方、料理に関するストーリー等を上手くアピールすることで、イランの食事に対する外国人観光客の興味が増すと同時に、その料理を食べた後で観光客の記憶に長く残ると考える。

テヘラン市内には、高級な雰囲気を醸し出すレストラン、昔ながらの建築やインテリアで装飾されたレストランやティーハウス、モダンなカフェ等、多様な形態の食事処があり、情報の発信方法を工夫することで外国人観光客を惹きつけることができると考える。



4. イランの観光セクター開発の枠組み

(1) イランの観光開発に関わる上位計画

イラン政府が策定する全ての政策は、第 6 次五ヶ年計画に沿って策定されており、8 つの基本目標が設定されている。観光に関しては「GDP」「外交」「雇用創出」「内需拡大」の 4 つの目標への貢献が使命として与えられている。その内容は以下のとおり。

「GDP」への貢献については、遺跡観光を中心とするヨーロッパ客の誘致拡大、周辺国の巡礼観光の拡大、世界中をターゲットとした自然観光客の拡大をめざしている。

「外交」への貢献については、イランの魅力としてとくに文化多様性の強調をめざしており、食、地方性、文化、文学、芸術、手工芸などの無形遺産を宣伝していくためのプロモート戦略として、特にテレビ等のメディア（Euro News 等）の活用を進めている。これらを通じたイランに対する風評被害の改善を図っている。

「雇用創出」への貢献については、特に客単価の高いインバウンド客（1,350USD/人）の増大が必要であり、現在の 523 万人（2015 年）を、2020 年までの 5 年間で 800 万人に増やす計画である。800 万人という数字の意味として、この入り込み数で 40 億ドルの外貨収入が予測でき、この数字が達成できれば、産油額を超え、観光産業が国内の第一位になるとしている。

「内需拡大」への貢献については、31 の州ごとに明確な観光開発のマップを作成し、特にヘルス・ツーリズム分野の拡大を図っている。また、美容や歯科治療については周辺国および世界中からの誘客が期待される。

観光セクター開発に係る上位計画としては、UNWTO の支援により、2000 年から 2015 年を計画年次とした観光マスタープランを 2000 年に作成したものの、2016 年現在、政府により正式に承認された観光開発マスタープラン等はない。

同マスタープランには、第 6 次五ヶ年計画に沿った数値目標を掲げ、文化遺産や環境資源への負荷を軽減しながらの持続的な観光モデルの創出、観光セクターでの人材養成、宿泊施設の質と量の向上などを目的として挙げている。同計画では、毎年 5% ずつインバウンドの旅行者を増やし、2020 年には 670 万人の訪イラン観光者数を目標としていた。

(2) イランの観光開発に係る関係機関

本調査の現地調査の対象とするイランの観光開発に関わる主な関係機関は、以下のとおり。

表 4-1：観光開発に係る主な関係機関

	関係機関	主な役割
政府系機関	イラン文化遺跡・手工芸・観光庁 Iranian Cultural Heritage, Handicrafts and Tourism Organization (ICHTO)	イランの文化遺産、手工芸品、観光、投資各部門のプロモーションを実施する本調査のカウンターパート機関。
	経済財務省 Ministry of Economic Affairs and Finance	観光を含む産業振興政策の立案・実施を担う。
	商務省 Ministry of Industry, Mine, and Trade	観光を含む商業、貿易部門の行政、政策立案のほか、主要な外貨獲得源の一つである鉱業部門の管理を行う
	環境庁 Department of Environment	自然環境の保全と持続に向けた各種政策、規制の立案、実施を担い、他省庁との調整を行う。
	国家統計局 Statistical Center of Iran	観光統計を実施・管理する。
	イラン観光ツアー協会 Iran Tourism & Touring Organization	ウェブサイトを通じてイランの観光情報を広報している。
	テヘラン無形文化遺産センター Tehran Intangible Cultural Heritage Center	ユネスコとのコラボレーションの下、無形文化の研究や保全を行っている。
	都市開発・再生機構 Urban Development and Revitalization Organization	道路都市開発省（Ministry of Road and Urban Development）の下、歴史的市街地の再生計画の作成と事業の実施を行っている。
民間機関	イランツアーオペレーター協会 Iran Tour Operator Association	イラン国内の旅行代理店120社が加盟。ICHTOと協働し、インバウンド観光客向けの観光サービスの質の向上、雇用創出、手工芸品の販売促進に係る活動を行っている。
	イランツアーガイド協会 Iranian Federation of Tourist Guide Association	1996年設立。イラン国内各地20都市に23団体がある観光ガイドの業界団体を統括する上部組織。傘下に3,000人のツアーガイドを有する。World Federation of Tourist Guide Associationsに登録している協会である。イランからは、Iran Tourist Guides Association (ITGA)も登録している。
	イランホテル協会 Iran Hotel Association	全国規模のホテル協会。

出典：JICA 調査団

1) 政府系機関

① イラン文化遺跡・手工芸・観光庁 (ICHTO)

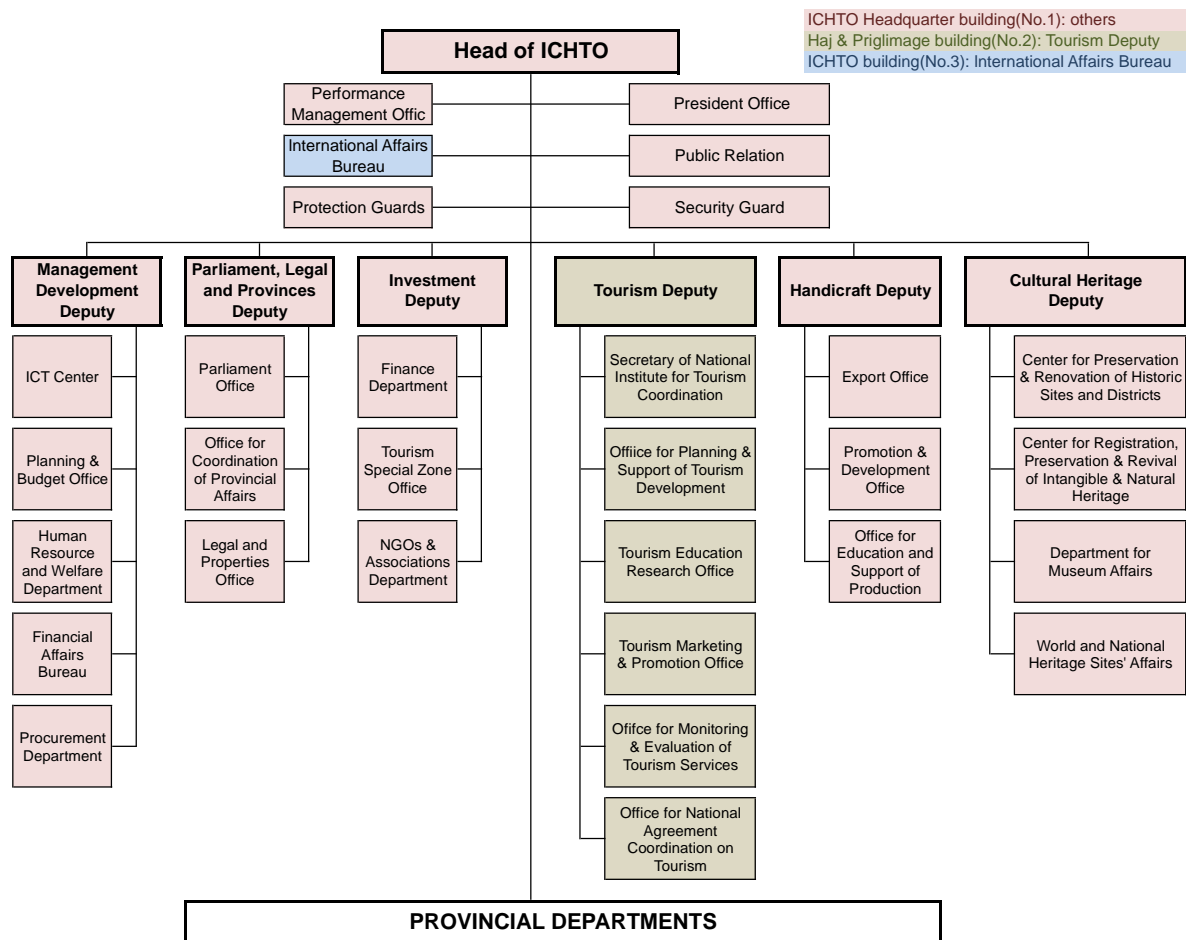
(a) 組織の沿革

本調査の現地調査の対象とするイランの観光開発は、ICHTO が全体を統轄している。ICHTO の沿革は、以下のとおり。

- 1907年： Protect Cultural Heritage として創設。
- 1981年： イスラム革命に伴い Islamic Cultural Ministry に名称変更。
- 1991年： Islamic Cultural Ministry から ICHO (Iranian Cultural Heritage Organization) として独立。
- 2006年： 観光庁が加わり ICHTO (Iranian Cultural Heritage and Tourism Organization) に名称変更。
- 2009年： Handicraft が加わり現在の ICHTO (Iranian Cultural Heritage, Handicrafts and Tourism Organization、略称は同じ) に至る。

(b) 組織図

ICHTO の組織図は、下図のとおり。



出典：ICHTO へのヒアリングを基に JICA 調査団作成

図 4-1：ICHTO の組織図

(c) 人員体制

ICHTO の各部局の人員体制は、下表のとおり。

表 4-2 : ICHTO の人員体制

部局名		職員数	内訳
Head of ICHTO (テヘラン本局)	文化遺産局	107 人	8 年前に再定義された 4 分野 : ①建築、②考古、③文化財保存学、④文化財修復学の専門家が約 70 人
	手工芸局	71 人	
	観光局	124 人	観光開発専門家は約 100 人
	その他部局	1,245 人	
	合計	1,547 人	博士 18 人、修士 358 人、学士 668 人、短大卒レベルのエンジニア 128 人
31 州各州の部局		6,376 人	博士 22 人、修士 1,075 人、学士 2,512 人、短大卒レベルのエンジニア 637 人
Research Institute of Cultural Heritage and Tourism (RICHT)		471 人	

出典 : ICHTO へのヒアリングを基に JICA 調査団作成

(d) 業務所掌

ICHTO の各部局の業務所掌は、以下のとおり。

・ 観光局 (Tourism Deputy)

イランの観光政策を推し進める中心部局。イラン観光の海外プロモーションや、インバウンド受入のインフラ整備など。観光開発のための他省庁との調整や、国際機関との調整、民間旅行者に対する法制度の制定、モニタリング、評価などを行う。

・ 文化遺産局 (Cultural Heritage Deputy)

文化財の保護と活用を推し進める ICHTO の原点となる中心部局。文化財の管理、修復、博物館管理などの業務を行う。UNESCO に対する世界文化遺産の所管部局。文化財の管理では、観光を通じた文化財保護や住民裨益が課題。文化財修復では、特に木材建築の修復や、水中遺産の修復が課題。博物館では、情報伝達や展示手法について、技術的な課題を抱えている。

・ 手工芸局 (Handcraft Deputy)

手工芸品の品質向上と人材育成を推し進める部局。UNESCO に対する無形文化遺産の所管部局。手工芸品やその生産者の認可や認定、登録などを行う。そのための人材育成プログラムを全国の地域で展開している。また、手工芸品の輸出促進のため、海外マーケティング調査やプロモーション活動、国際展示会への民間の参加援助なども行う。手工芸技術者の後継者不足よりはむしろ、販売促進が主な課題として認識されている。

(e) ICHTO 地方支所

ICHTO は、国家計画レベルの観光政策を、地方の州や都市レベルにおいて実施するため、31 州全てに直轄の支所を有し、観光、文化遺産、手工芸の各部局から調整を行っている。例えば、

「旅行業」の基準や評価指標を国家レベルで作成し、州レベルで旅行業者の評価や許可を行なっている。観光現場のモニタリングを通して問題を抽出し、地域レベル、州レベル、国家レベルで解決する仕組みを有している。その他、州ごとの広報活動や観光人材の育成にむけた教育プログラムの整備等を行っている。

(f) ツーリスト・インフォメーション (TIC)

イラン全土 31 州に ICHTO の支所があり、エスファハーン、シーラーズ、ヤズド、マシュハド等、主な観光都市では TIC 機能を備えており、地図や現地資料等入手できる。

しかし、エスファハーンのエマーム広場にある TIC では、外国人観光客に配布するのは多言語化された地図のみであるのに対し、シーラーズ市内にある TIC では地図の他に観光パンフレット等が多言語化されているなど、配布している資料は地域によりかなり違っている。また、資料を渡すだけの職員もいれば、外国人観光客のニーズをくみ取ろうとする職員もいるなど、TIC によって職員の対応の仕方も異なる。

(g) 他省庁との連携

インバウンド観光客を受け入れるための外務省や保健省との調整、インフラ整備のための省庁間調整を Secretary of National Institute for Tourism Coordination が担当している他、観光局の Office for National Agreement and Coordination が調整役となって、観光開発のテーマごとに関係省庁との連携を行なっている。例えば、アグリ・ツーリズムの振興に関しては農水省と、メディカル・ツーリズムについては保健省と、近年力を入れているエコツーリズムに関しては環境庁との連携が行われている。エコツーリズムでは、歴史的建造物を活用しながら、音楽、手工芸、方言、建築、風俗、意匠などの文化多様性の保護と PR を進めており、内務省や道路都市開発省などとも調整が行われる。実際には、土地所有者（例えば国有林の林野庁）、観光協会 (ICHTO 内部)、環境庁、州政府との調整は縦割り行政のため課題が多い。

② Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI)

イランの政府観光局としての機能は、Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI) が担っている、TACI は、ICHTO 傘下の独立行政法人で、Touring 部門及び Automobile 部門から成る。ICHTO がイラン政府の観光・手工芸に関わる開発政策の立案機関、TACI が実施機関という関係。TACI 全体の従業員数は 150 名程度。主な業務所掌は、以下のとおり。

- 1) イラン国内で自動車を運転する短期外国人滞在者への運転ライセンス（免許）の審査、登録業務
- 2) ロードアシスタンス（日本の JAF に相当する業務）
- 3) ラリー等の自動車レースの企画・開催・運営
- 4) 国際旅行博へのイラン政府ブースの出展（政府観光局に相当する業務）
- 5) 旅行代理店業務

6) TACI傘下のホテル、エコツーリズム用のロッジ等の経営

7) イランの手工芸品の輸出版売に関わるプロモーション

また、イラン全土にある約 990 のキャラバンサライのうち、4 つをホテル、レストラン、手工芸品ショップ等の機能を持つ施設としてリノベーションし、手工芸、カルチャー、自然、伝統料理や衣装等、海外には未だ知られていない資源を紹介している。

(a) 予算

経営は、政府予算からの出資は無く、ライセンス収入や旅行業からの収入による独立財源で運営。ツーリズム部門及び自動車部門、二つの部門の活動がクロスしているため明確に分けることはできないものの、収入の約 70%がツーリズム関係に充てられている。JATA 博など、国際旅行博の出展に際しては、費用の 2/3 を TACI が負担し、1/3 を協賛民間企業が負担している。

(b) 優先市場・ターゲット

主な対象マーケットは、① 欧州（ドイツ、フランス、イタリア）、② 近隣国（トルコ、イラク、オマーン）、③ ロシア、④ アジア（中国、韓国、タイ、日本、マレーシア、インドネシア）
現在、日本・中国・韓国・シンガポール・マレーシア・フランス、スペイン、ドイツ・イギリス・オランダ・イタリア・アゼルバイジャン等 18 か所に代表事務所があるが、今年末までに新たに 12 ヶ所を開設予定。（新規：UAE・イラク・チュニジア・エジプト・ロシア・ポーランド・ブルガリア・カナダ・米国等）。各国の代表事務所は、イランへの投資の促進及び観光客の誘致等を実施している。

(c) プロモーションマテリアル

以前は TACI が、英語、フランス語、スペイン語、アラビア語、中国語の 5 ヶ国語でプロモーション資料を作成していたが、現在は、各国に配置している代表事務所が作成している。日本の代表事務所が作成しているパンフレットは、イランの地方別の観光サイト、及び食などが写真付きで紹介されている。

(d) プロモーション活動

外国人観光客を誘致するため、TACI では国際旅行博へ出展しており、国際旅行博としては、フランス、オーストリア、ドイツ、ロシア、イタリア、日本等の国際旅行博に出展している他、対象マーケットへのプロモーション活動として、旅行会社やメディアを対象とした FAM ツアーを実施しており、2017 年度は、韓国、オーストリア、中国、スペインを対象に FAM ツアーを予定している。

また、手工芸品のプロモーションについては、イタリア、オランダ、ロシア、日本（東京ギフトショー）で開催される手工芸品の国際展示会に出展している。

しかし、これらのプロモーションの内容を見ると、一般的な観光地や商品の紹介に留まり、国際観光市場において周辺国との差別化を図り、イラン観光の競争力を高める上で重要なイラン観光のブランド化を意識した戦略的なテーマに基づくプロモーション活動は、これまでのところ行

われていない。

③ 環境庁

日本の環境省に相当。国土の 10%を環境庁が管轄しており、保護対象（国立公園、自然保護区、生物保護区、天然記念物）が 276 ヶ所ある。

主な業務は、以下のとおり。

- ・ 調査（保護すべき対象やエコツーリズム、修復すべき対象に関して）
- ・ 自然保護の情報発信（パンフレットや動画作成など）
- ・ エコツーリズム
- ・ 自然保護規制（15 項目、基本的な国立公園の考え方は日本と同様）

エコツーリズムの取り組みは、10 年前から始まっている。自然保護を目的とし、その手段としてのエコツーリズムについては、地域住民への裨益を優先事項として取り組んでいる。

環境庁では、エコツーリズムの推進に係る方針として「A National Strategy for Development of Nature Based Tourism in Iran」を策定している。

なお、2017 年に始まった JICA の「エコツーリズム計画・管理研修」では 3 年にわたる日本での研修が予定されている。2017 年 2 月にその第 1 回が行われ、イランから 13 名程が日本を 27 日間訪れ、座学を中心とする研修を受けた。環境庁の他には ICHTO の地方局から 8 人程、林野庁やゲシュム島の責任者、アンザリー州ラグーンのエコツーリズム責任者などが参加した。

④ 国家統計局（Statistical Center of Iran）

イランの国家統計局は、観光統計として、2008 年から国内観光とアウトバウンドのデータ収集を開始した。2013 年からは、統計局による国内観光調査（National Tourism Survey）が行われており、イラン全国から 1 万 8 千世帯を調査対象世帯として抽出し、調査票による情報収集を行っている。

同調査の開始当初は、四半期ごとにデータを収集していたものの、分析の結果、年間を通して大きな変動がない、との理由から現在は、上半期（春・夏）しか調査を行っておらず、イラン国民の観光のピークシーズンの一つであるノールーズやラマダン等の月単位の観光客の季節変動を捕捉することができない状況である。

また、広大な国土を有するイランは、北部のタブリーズ近郊の観光地が夏場の避暑地として人気がある他、南部のペルシア湾岸のキーシュ島などは、夏場のビーチリゾートとして、また、冬場の避寒地としても人気の観光地となっているものの、地域別の観光客数の変動に係るデータも整備されていない。

特に、月別、地域別の観光客数の変動に係るデータは、ホテル等の民間投資、観光インフラの建設計画や雇用の状況を判断する上で、基礎的なデータとなるため、イランの観光統計の手法には、大きな改善の余地がある。

観光支出額に関わる統計については、2015年10月にUNWTOによる本格的な旅行・観光サテライト勘定（TSA: Tourism Satellite Account）の導入に向けたワークショップがイランで開催され、国家統計局も参加しているものの、2017年現在、TSAは導入されておらず、外国人観光客の観光支出額に関わる統計手法についても確立されていない。

さらにイランでは、ホテルチェックイン時の宿泊者カードのデータは整理されておらず、外国人観光客の地域別、月別の宿泊数についても補足できていない。

なお、地域別のホテル数やベッド数など観光インフラのデータはICHTOにより管理が行われている。

2) 民間機関

① 旅行代理店組合等

(a) Iranian Tour Operators Association

Iranian Tour Operators Association (ITOA) は1996年に設立された組織で、7名のボードメンバーと2名の監査員の他、7名のコンサルタントを擁する。TPO (Trade Promotion Organization) やICHTOと連携し、国際観光客誘致に係る様々な問題解決及びツアーオペレーターに対する免税措置等を行っている。また、ツアーオペレーターや旅行会社が国際基準に見合うサービスを提供できるようにするための研修、また観光学部を有するアッラーメ・タバータバーイー大学が、法制度や登録制度等において協会に対し助言している。

イラン全土にあるツアーオペレーター約4,000社のうち、156社が協会の会員となっている。協会のメンバーシップは年間約260ドル。ただし、協会の活動上必要であると思われる場合は会員企業が追加で支援している。

ITOAがターゲットとする国は西ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、日本・韓国・中国といった東アジア。ターゲット国は毎年9月から10月にかけて決められる。これらターゲット国で開催される国際旅行展に、協会独自で、或いはICHTOの支援をうけて出展するとともに、ファミリーゼーション(FAM)ツアー⁷、観光セミナー、ロードショー等も実施している。ICHTOやTrade Promotion Organization (TPO)がFAMツアーを主催する場合、協会のターゲット市場であれば、観光ガイドや食事等、ツアー経費の一部を負担する。

また、同協会では、インバウンドビジネスにおける季節変動を少なくするため、イラン国内の新規観光ルートの開発を行っている。

イランの地方には旅行代理店協会があり、外国人観光客の誘致や協会傘下の会社が基本ルールを順守するよう指導するなど、それぞれに活動を行っている。インバウンドを専門に営業している旅行代理店は、シーラーズでは80社中15社、エスファハーンでは300社中20社、タブリーズでは147社中10社であり、各地方都市の旅行代理店全体の6-20%がインバウンドを専門に営

⁷ ファミリーゼーション (FAM) ツアー :

国や自治体が主に観光誘致の為に、セールス先として対象となる売り先に対して行う招請旅行招待旅行やセールス。

業しており、残りはアウトバウンドと兼業かアウトバウンドを専業としている。

② ガイド組合等

(a) 全国レベルのガイド組合

全国レベルの組合として、イラン全土に 21 ある地方のガイド協会を取り纏めている Federation of Tourist Guide Association と呼ばれる NGO 組織があり、2013 年にガイドの地位向上を図るため関係省庁へのコンサルタント的な役割として発足。ボードメンバー 7 名及び監査 2 名がおり、ボードメンバーは二年毎に選挙により選出される。

活動財源は、協会会員である 21 のガイド協会が支払う会費（年間約 150 ドル）、政府関係者や民間企業から依頼されるリサーチプロジェクト、GILGAMESH⁸（Heritage & Tourism Magazine）の売り上げ等である。

協会の主な活動は、観光ガイドの地位向上のために、ホテルやツアーオペレーター協会と連携した関係省庁への提言、ツアーオペレーターに対する観光ガイドの紹介、旅行者の安全を守る為にツーリストポリスやホテルへの提言等。また、ライセンスを持つ正規ガイドを守る為にライセンスを持たないガイドの取り締まりも実施している。

(b) 地方レベルのガイド組合

地方レベルの組合として、テヘランには Iran Tourist Guide Association と呼ばれる 12 年前スタートしたガイド協会があり、現在 500 名以上の会員を抱える。二年毎に選挙によりボードメンバーが選出される。協会のメンバーシップは年間 500,000 リアル。協会に登録されている観光ガイドは、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、日本語等。

協会の主な活動として、政府と協議の上、Social Security Insurance の取得を可能にするなど、ガイドの地位向上、及び MIT やスタンフォード大学など、研究目的でイランに来る専門家に対応できる、知識豊かなガイドを養成するためのガイド教育の実施といった、ガイドの能力向上等が挙げられる。

協会では、セミナー（15-20 回／年）、ワークショップ（15-20 回／年）、現地視察（35 回／年）を開催しており、現地視察については言語で分けて実際することもあれば、セミナーと現地視察を組み合わせることもある。セミナー料金は講師により変わるものの、一般的には、協会会員は 150,000 リアル、会員以外は 250,000 リアルである。セミナー等への申し込みは協会会員優先で、その後枠があれば会員以外も参加可能。これらの活動は当協会の教育コミッティーが運営している。

また、シーラーズ、エスファハーン、タブリーズなど、テヘラン以外の主要な地方都市にもガイド協会があり、英語をはじめフランス語やドイツ語等の政府公認ライセンスを有するガイドを登録している。エスファハーン州では約 900 名が登録、そのうち 675 名がエスファハーン市を拠

⁸ 2017 年に創刊された英語のマガジンであり、2017 年 10 月に Vol.2 を発行予定で現在印刷中。一冊 10 ドル（350,000 リアル）で 2500 部を発行。イランの文化等に興味を持つ、カナダ・ドイツ・トルコ・ジョージア・フランス・イタリア・米国等のツアーガイドにサンプルとして発送。執筆や写真はガイドや大学教授等に依頼。

点に活動している。シーラーズがあるファールス州では約 1,200 名が、タブリーズがある東アゼルバイジャン州では約 400 名が登録している。

しかし、登録しているガイドのうち実際に活動しているガイドの人数は、一年を通して外国人観光客が多いエスファハーン市では約 75%のガイドが積極的に活動しているものの、ハイシーズンとオフ期の差が激しいタブリーズが含まれる東アゼルバイジャン州では登録している 400 名のガイドのうち、実際に活動しているのは 50 名程度である。また、ライセンスを取得したばかりの新人ガイドには仕事が回ってこないため経験を積むことができない現状もあり、地方のガイド協会ではガイドの雇用及びオフ期対策などが課題となっている。

③ ホテル業組合等

(a) 全国レベルのホテル業組合

全国レベルのホテル業組合として、1998 年 7 月に設立された Iran Hotel Association が、イラン全土 31 州にあるホテル組合を取り纏めており、ICHTO と連携している。ホテル従業員及び管理職に対して、ワークショップや短期研修実施している他、ホテル業を学ぶ学生、従業員、管理職などホテル業界関係者の地位向上、ホテル建設やマネジメントに関する助言などを行っている。他にも、海外のホテル協会との交流、メディアを活用したマーケティングとプロモーション、社会によりよいサービスを提供するためのホスピタリティ業界に対する啓発活動、ホテル業務の効率化を目的とした IT 化の推進（特に予約やソフトウェアの管理）等も行っている。

(b) 地方レベルのホテル組合

地方レベルの組合として、テヘランには Iran Hotel Association のメンバーである 1949 年に設立された The Tehran Union of Hotelier と呼ばれる組合がある。テヘラン州のホテル開発や事業発展において重要な役割を果たしている。同組合では、ホテル業界の各事業許可発行にまつわる申請準備、修正、改正および各種書類の認可届出、ライセンスの発行、及び法律や監督委員会の規定に沿わない事業者に対する営業停止なども実施している。また、新年度の予算設定と予算配分の検討および承認のため貸借対照表の管理、政府機関や自治体に代わり税金及び会費等の徴収も行っている。ICHTO からホテル訓練学校設立に係る許可を受けている。また ICHTO と連携して、ホテルやアパートメントホテルの格付け及び販売価格の設定も行っている。

また、シーラーズ、エスファハーン、タブリーズなど、イランの主要地方都市にもホテル組合がある。

いずれの都市もホテルやブームギャルディー⁹の建設が進んでおり、ハイシーズンの占有率は 100%近くに達するものの、オフ期は 20-50%と低く、全体的に季節変動の平準化が課題となっている。また、シーラーズのホテル組合では、マーケティングに基づき、日本人観光客のためにバスツアー付きのホテルを整備するなど、市場のニーズに合わせたサービスを提供しようとしている。

⁹ ブームギャルディー (Bumgard)：歴史的建造物や遊牧民のテントを利用した宿泊施設、地域の伝統料理をふるまうレストランなど、地域住民が経営を担う民泊型の施設の総称。

3) 観光開発に係る官民連携の状況

イランの観光開発においては、ICHTO が公的機関として、当該分野を統括的に管理している一方、各州レベルの ICHTO 担当者と民間セクターとの間で、様々な協議会が組織され、月に1回以上の定期的な会議が開催されていることがほぼ全ての調査対象で確認され、一定の連携が行われていることが伺えた。

特に、タブリーズでは、「Tabriz 2018」(Tabriz, the Capital of Islamic Tourism for 2018)のキャンペーンの下、民間企業からの資金提供を含む協力の下、「Tabriz 2018」実行委員会を中心に観光資料の整備や新規観光ルートの開発など、活発な観光開発に関わる官民連携の活動が実施されている事例も見られた。

① 歴史的建造物の保存修復に関わる PPP 制度

イランでは、歴史的建造物の保存修復に関わる PPP の制度が確立している。国有資産のキャラバンサライや伝統的な邸宅などを、民間事業者の投資事業としてホテルやレストランとして改修する際は、20年程度の BOT¹⁰ (Build Operate and Transfer) 契約の下、入札により民間投資を活用している例や、コンセッション契約の下、事業権を民間に譲渡している例も多数見られる。



BOT 契約の下、民間事業者によりホテル・レストランとして利用されているキャラバンサライ
(ヤズド州 ゼインオッディーンのキャラバンサライ)

② 民間セクターによる観光プロモーションの状況

ターゲット市場に対するツアーオペレーターの、プロモーション活動は、ターゲット国に応じて、イラン政府として出展する国際旅行展と一緒に参加することもあれば、提携する海外の旅行会社のブース内に席を置く、あるいは独自に出展することもある。主な出展国は、フランス、ドイツ、イギリス、スペイン、フィンランド、中国、香港、UAE、日本である。

ツアーオペレーター単独で、ビジネスボリュームが多い国を対象とした FAM ツアーを実施することもある。また、中国語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語等、市場の興味に合わせたパンフレットを作成しているツアーオペレーターもいる。

ツアーオペレーターが作成したパンフレットは、イランの地方毎の観光サイト、食、自然などの紹介、及び、参考日程等が掲載されている他、モデルコースについては、遺跡、文化、自然、

¹⁰ BOT : Build Operate and Taransfer

PPP の一方式。施設整備費の負担だけでなく、一定期間の運営まで民間事業者が受託し、その間の事業収益で投資を回収し、その後に施設を政府自治体に引き渡す方式。政府自治体にとっては、民間資金の活用により施設整備に要するイニシャルコストを抑え、公共事業費を削減できるというメリットがある。日本国内の事例としては、横浜市の赤レンガ倉庫の再開発計画などで PPP を活用した開発方式が採用されている。

ノマド等、観光資源別に設定されている。

しかし、前述のとおり、これらについても、シルクロードのようなテーマの下、イラン観光のブランドを前面に打ち出した商品になっておらず、周辺国との差別化が図られていない。

外国人観光客のイランへの玄関口は、テヘランかシーラーズであることが多い。そのため、外国人観光客の誘致活動も、テヘランとシーラーズのツアーオペレーターが主体となっている。その他の地域のインバウンドビジネスは、テヘラン或いはシーラーズのツアーオペレーターに左右されるところが大きい。これを打開するため、ヤズドでは2年前から直接外国人観光客の誘致活動を始め、現在、ヤズドのツアーオペレーターの10-15%がツアーを直接取り扱うようになった。

さらに、ヤズドの旅行代理店協会では、外国人観光客を更に増やすべく、スペインやドイツの国際旅行博に出展しており、今後はアジア方面での出展も検討している。

タブリーズのツアーオペレーターも、ドイツやトルコの国際旅行博に出展するなど外国人観光客の誘致に取り組んでいる。

本格的なインセンティブツアー等の誘致は、取り組みが始まったところであり実績は少ない。また、積極的なプロモーション活動は行われていない。

さらに、イラン人の国内旅行及び海外旅行を取り扱うツアーオペレーターは、現地新聞紙（Hamshahri 等）に広告を出す、インターネットを利用するなどのプロモーション活動も実施している。特に、テヘランのホテルは、ビジネス目的のリピーター客が多いためか、老舗のホテルについては、プロモーション活動はあまり実施していない。一方、開業間もない新しいホテルでは、今後国際旅行展に出展するなどして積極的にイランへ旅行者を誘致し、宿泊客を取り込むべく戦略を練っている。

他には、ICHTO の承認を受けて、旅行会社やホテルが運営している TIC があり、ヤズドやタブリーズでは、現地ツアーの申込み、ホテル予約、観光ガイドや車の手配なども行っている。

しかし、これら民間が運営する TIC のなかには、旅行者のニーズを把握することより自社造成の観光ツアーを販売することに必死になるなど営利目的に走りすぎ、本来の TIC の役割を果たしているのか疑問に感じられる TIC もある。

4) 観光開発に係る市民参加の状況

本調査でヒアリングを行なったナーイーン市では、10年前より住民参画の動きに力を入れており、現在、8-10名の市民とともに地域の戦略会議を毎月開催している。こうした取り組みが評価され、市長は州の最高市長賞を受賞しただけでなく、道路都市開発省（Ministry of Road and Urban Development）主催の都市発展優良都市の全国第一位に選ばれた。こうしたことから、イランにおいて、観光分野に限らず、地域開発の意思決定プロセスへの住民参画が重視される傾向が高まっている様子が伺える。

また、イランには、“Heyat Omama¹¹”という独特の組織の考え方があり、各地域での Executing

¹¹ Heyat Omama：特定の目的の下に有志が集まって構成する任意の組織を指すイラン社会で固有に使われている言葉（ICHTO, Human Resource and Welfare Department へのヒアリングより）。

Committee (board of trustee) として数多くが機能している他、遺産保護に関する NGO や民間の専門機関（コンサルタント的なもの）もある。

最も一般的なのは、各地域の知識層や富裕層からなる財団が、歴史的建造物の改修事業に対して寄付を行うという資金的な協力関係である。こうした歴史的建造物などの文化遺産を守る活動を行う NGO も今回調査したほとんどの地域で確認された。これらはいずれも ICHTO との協力関係のもとで進められる活動が主であるが、中にはシューシュタルの事例のように、独自に NGO が海外からの助成金や民間スポンサーから寄付を受けながら観光マップの作成やツアーの実施、ガイドブックの出版といった主体的な活動を行っている事例もある。

(3) 観光開発に関わる法制度の整備状況

1) 入国管理（査証制度）

外国人の入出国に関しては、外国人の入国と居住に係る法律が制定されている。イランでは民間外国人の入国、滞在、出国には査証が必要である。査証は、観光査証と入国査証の 2 種類があり、査証の申請に当たっては、e-VISA システムを設け、インターネット上からの申請もできるようになっている。観光目的での滞在の場合には、在日イラン大使館または到着時の空港（テヘラン、タブリーズ、マシュハド、シーラーズ、エスファハーン）で 30 日間滞在可能の査証取得が可能である。観光目的以外で入国の際は、入国査証が必要となる。滞在許可には、一時的滞在型（Temporary）と長期滞在型（Permanent）があり、申請の条件として労働許可が必要となる。したがって、労働許可の期間を超えた滞在許可の取得は不可能である。

また、FTZ（自由貿易地域）内においては、直接、他国から FTZ 域内に入国し、出国する際は、査証は必要ない。3 か月以上の滞在の場合は、滞在許可を得る必要がある。FTZ 域内以外のイラン本土に出域する場合は、イラン国内用の査証が必要である。

なお、アゼルバイジャン、ボリビア、トルコ、シリア、レバノン、ジョージア、アルメニア、ベネズエラ、エジプト、マレーシアの国籍を持つ渡航者に関しては査証が免除されている一方、イスラエル国籍に対しては入国が許可されていない。

2) 民間セクター開発

① 旅行業法

イランの旅行業法に関連する法律として、2001 年に施行された Act for Monitoring and Registration and Activities of Travel Agencies がある。この法令は 2001 年当時の道路・都市開発省及び文化・イスラム指導省が管轄省庁となって、施行された。法令の素案は文化・イスラム指導省から出された。法律の条項は全部で 34 項目から成る。法令の内容としては、旅行業や旅行代理店の定義や基準、旅行業を始めるにあたっての申請方法、審査、認可に関する記載がある。

② 格付け・ライセンス制度等（ホテル、ガイド）

ICHTO がホテルの格付けに関して、基準を出している。110 ほどの項目があり、1-5 までの格付けを行っている。ただし、どこまで厳密に格付け分類に従っているかは、各州によって異なる。有名な観光地では、分類に従って、格付けを出しているようである。

ガイドのライセンス制度については、ICHTO が管理するガイド養成学校の卒業試験、及び国家資格試験（一般教程と語学）に合格した者に対し、ICHTO が国家認定ガイドのライセンスを発行している。

③ 投資環境整備

Doing Business 2017 によると、イランの投資環境は 120 位にランキングされている。建設許可に関してのランキングは高いが、少数の投資家の保護、国境をまたぐ貿易、破産に対する解決などの項目が低く、合計のランキングを押し下げる結果となっている。

法律面では外国投資に関しては、Iran's Foreign Investment Promotion and Protection Act と呼ばれる新投資法および施行法で定められている。外国投資は、国内投資と同等なすべての権利、保護、便宜を享受することが保証され、鉱工業を始めとする一部の産業に関して免税条項が定められている。外資に関しては奨励業種が定められている。農林水産業、鉱業、工業、水道・電気・ガス業、建設業、運輸・通信業、サービス業などが奨励業種として指定され、これらのセクターの中にさらにサブセクターが指定されており、イランが重点的に誘致したい業種が設定されている。さらにイランでは 7 ヶ所の FTZ が設けられ、15 年間の法人税・所得税の免税などの優遇措置が設定されている。FTZ では、外資の出資比率が 100%でも設立可能であり、イランに外資を呼びこみたい意図が伺える。

④ 起業家支援（金融制度、税制、補助金制度、等）

イランには、地方での NGO や個人、地域団体などの民間に対する小規模起業支援を行っている Omid Entrepreneurship Fund という国営企業がある。

年間貸付金の予算は 700 万ドルで、国からの補助金以外に、イスラム教精神に基づく一般的な寄付と、民間から金利無し預金の利子分を寄付として受け、これらを運営資金としている。同様の取り組みは銀行も行うが、国営で行っている唯一の団体がこの財団になる。通常 15%以上となる銀行の金利と異なり、国営の本財団では 4%の低金利で融資を行っている。各地方に代理人が配置され、地方部のニーズに応え、現場で支援が行えるようになっている。

主な業務は、年間 65,000 件程度の支援（支援対象は個人や NPO など多様で、審査により支援の可否を判断）であり、大卒の若者の起業支援や地方部の若者や女性支援、新しい発明等の開発支援や、特に地方部で、日本を参考にした「一村一品運動」のような地域の仕事創出、ツーリズム促進、民族衣装のブランド化、農業や採石の技術や工場設立などの支援などである。

実績としては、これまでに文化遺産を有する 3,000 ヶ所の村々を支援しており、効果として合計で 500 万人程度の観光客が訪れ、地域の若者や女性の雇用創出に貢献した、とのことである。

また、31 の州の 1,500 の村における女性の仕事支援や、彼らの作成した商品をマーケットにつなぐための国内外の展示会を開催しており、具体的な過去の地域支援の成功事例としては、カスピ海のサビシェ村の観光支援（古い民家を宿に改修し、住民が民族衣装や食事を提供。現在では 400 人ほど宿泊受入が可能）、ロレスターン州ガイカン村でのバラ栽培の支援、その他もナッツやヘナの栽培支援、民芸品の商品開発の支援などがある。

さらに、地方部の女性支援については、地方部の過疎対策としての雇用創出を目的に、個人や団体に対し、企業支援やワークショップを開催し、受益者は、3-5年の返済期間で自己資金に対する5倍を上限とする融資を受けることができ、貸付金の2/3を返済した時点で、さらに継続して倍の融資を受けることができる、といった支援メニューがある。村単位の取り組みを地域で広域化させることで、運営力を高めるといった支援も行い、前述のように、商品開発だけでなく販売支援や展示会への出品の支援も行っている。

3) 観光資源管理

イランには、前述の上位計画や現在作成中の観光マスタープランの他、観光資源管理に関連する法律としては、(i) National Rules and Regulations of the Cultural Heritage Organization や、(ii) Environmental Protection、(iii) National Biodiversity Enabling Activity、(iv) Land Use Plans などが存在する。

① 文化財保護法・文化財登録制度

イランの文化財区分については、下表のとおり。

表 4-3：イランの文化財区分

文化財区分	登録文化財の数	備考
Heritage - Tangible – Movable	数百ヶ所	
Heritage - Tangible – Immovable	数百ヶ所	
Intangible	数百ヶ所	
Natural	数百ヶ所	
National Heritage	3,200ヶ所	毎年百以上が新規登録されている。

出典：ICHTO へのヒアリングを基に JICA 調査団作成

イラン国内の主な歴史的建造物は、国有資産、民間資産も含めて国指定文化財に登録されており、ICHTO により管理が行われている。都市内の伝統的な邸宅など、国有資産として買収されている歴史的建造物は、官公庁の施設や、博物館等に改修されているものも多い。

民間資産の国指定文化財に登録された歴史的建造物の改修等の建築行為を行う際は、事前に ICHTO に確認申請を行なった上、歴史的建造物の保全に関わる諸条件を満たしているかどうかについて審査を受ける必要がある。

歴史的建造物の改修等の建築行為に対しては、様々な制約が課せられる一方、伝統的な建築材料を使用する際は ICHTO から建材の提供が行われるなど、一定の助成制度もある。

しかし、民間資産の歴史的建造物が、一旦、国指定文化財に登録されると、自由に増改築を行うことができなくなる。そのため、登録を拒否し、裁判まで行われるケースもあり、実態としてはタブリーズやガズヴィーンなどの歴史的な都市において伝統的な邸宅などが次々に姿を消し、現代的な鉄筋コンクリート造の建物に取って代わられつつあるのが現状である。

② エコツーリズム

国立公園等の観光開発に関わる施策として、ICHTO はエコツーリズム事業に力を入れており、2014年に、前述のエコツーリズム・ガイドライン (A National Strategy for Development of

Nature-based Tourism) を策定した。歴史的建造物を活用したエコロジの営業などにおいては、保護色が非常に強く、新規参入を目指す起業家にとっては障害となっていた。このガイドラインは、免許取得の煩雑さを簡素化し、エコロジへの参入を促す取り組みの一環として公表された。

さらに、雇用創出を目的とし、起業支援財団からも 360 万ドルの資金融資が予定されている。第 6 次五カ年計画に沿った数値目標では、エコロジの数を 2020 年には全国 500 の村に 2,000 箇所開設することを目標としている。

③ 景観規制

イランでは、各都市の都市計画の中で道路に面した建築物の高さ制限等が設けられている。また、アーブヤーネ村やキャンドヴァーン村の歴史地区内の建築工事においては、地域の材料を使用することが義務付けられている。

他方、フランスのパリ市で導入されている「フュゾー規制¹²」のような歴史的建造物を中心に景観軸を設定し、都市全体の景観の統制を図るような景観保全に関する法制度等はない。

④ 都市計画法と世界遺産のゾーニング

過去にエスファハーン市で問題となった、世界遺産の保全地域内の開発行為については、現在は、建築工事等の確認申請時に、ICHTO を含めた事前協議及び建築確認が義務付けられている。

(4) 観光人材育成の状況

ICHTO には観光教育研究部局があり、観光人材育成の教育プログラムを作るための調査・研究を行なっている。主には短期養成コースの造成を担当している。長期養成コースは大学と共同で行うこともあるが、基本的には大学が行っている。テヘランにあるアッラーメ・タバータバーイー大学においてツーリズムのコースがある。テヘラン以外でも各州に観光を教える大学や専門学校が存在している。

ICHTO で行っている短期養成コースには、1) 特定の目的に特化した 4 コース (ツアーガイド人材、テクニカル・マネージャー人材、料理人材、ホテル人材)、各コース 8~12 時間と、2) 小・中・高校生向けの観光の基礎を教える「カルチャライゼーション・コース」があり、4 年前から地方エリアごとの人材育成を始めている。2016 年から「ツーリズム・カンパニー・プラン」(観光支援者養成計画) を策定し、全国 31 州、テヘランの 32 地域で各地ごとに 12 校を設置して取り組み始め、初年度で 12,000 人の修了生を輩出予定である。

ガイドや旅行代理店のマネージャー、ホテルなどの観光関連の職業に就くためには、観光従事者養成校のコースを受講し、試験に合格する必要がある。かつてはこのような養成校は ICHTO が運営していたが、現在では ICHTO の管轄の下、民間の養成校として運営されている。なお、観光関連の学部卒、修士卒の生徒は、コースを一部免除の上、試験を受験することができる。

¹² パリ市内の 50 ヶ所程度に設定された地点からの歴史的建造物の眺望を妨げないよう、歴史的建造物の背後の建造物の高さを制限したり、歴史的建造物の間に存在する建造物の高さを制限したりするもの。1977 年導入。

(5) 観光開発分野に対するドナーの支援状況

イランでは、2011年以降の経済制裁強化を受け、近年、多国間協力のメインドナーである世界銀行グループ、アジア開発銀行（ADB）、EUなどの支援プロジェクトは、長らく中断している。そのような状況の下、観光セクターに対する支援機関としては、UNESCO、UNDPなどの国連機関を中心に支援が行われている。

我が国は、文化無償により2003年12月に発生した地震で崩壊したUNESCO世界遺産バム遺跡の保存・修復機材の供与（2004年）などの支援を行っている。

また、オルミエ湖流域の環境管理や、エコツーリズム計画・管理研修、南部のゲシュム島の持続可能な開発に向けた開発計画策定に係る技術協力プロジェクト（2015年）を実施している。

前述のとおり、イランでは、運輸・交通インフラの改善が喫緊の課題となっており、欧米諸国の経済制裁が完全には解除されない中、中国がイランの高速鉄道整備支援を表明している。また、中国が主導するアジアインフラ開発銀行（AIIB）にイランも参加していることから、今後、中国による支援の増加が予想される。下表にドナーによる支援状況を示す。

表 4-4：ドナーによる支援状況

ドナー	主な取り組み
日本	バム市の復興計画策定に係る開発調査及び上下水道の復旧事業、バムの遺跡の修復・保存機材供与、オルミエ湖流域やゲシュム島の持続的な環境管理に向けた技術協力プロジェクトなどを行っている。
UNESCO	「National capacity building for Iranian museum and cultural heritage site managers, law enforcement officials, government officials, experts, NGOs and community members on illicit trafficking of cultural property (2016-2017)」は、ICHTOも対象とした文化遺産保全に係る能力向上プロジェクトを行っている。
UNDP	UNDPのSmall Grant Programの一環として、エコツーリズム分野での支援が行われている。エコツーリズムの計画策定では、イラン政府の意向を反映し、NGOと協力して“The Ecotourism Thematic Working Group”を開催し、協議結果を計画内容に反映している。
UNWTO	ICHTOの協力の下、イランにおける観光統計の改善のため、2015年10月に本格的な旅行・観光サテライト勘定（TSA）の設立支援に向けた具体的な行動方針を策定するためのワークショップを開催。 また、シルクロードをテーマとした関係国の観光開発に向け、2016年4月には、第6回UNWTOシルクロードタスクフォースミーティングをICHTOと共催した。この会議では、シルクロード行動計画の3つの重要な柱である、1) マーケティングとプロモーション、2) 観光地の管理とキャパシティビルディング、及び、3) 旅行の促進、の三つに焦点が当てられ、それぞれの関係国において、達成可能な戦略と目標を確立するが合意された。

出典：JICA調査団

1) 我が国による観光分野の支援実績

① 「バム遺跡修復・保存機材整備計画」に対する文化遺産無償資金協力

バム遺跡「アルゲ・バム」は、サーサーン朝（227-651年）時代が起源とされ、サファヴィー朝（1501-1736年）時代に現代の形が確立されたといわれている。世界最大規模の土の建造物であり、サファヴィー朝時代の都市の構造が完全に保存され、当時の支配者階級のみならず、一般市民の生活をよく表した遺跡である。しかし、2003年12月26日に発生した地震により、その80%以上が崩壊し、特に過去32年間にわたり修復活動が実施された部分はすべて崩壊した。このため、イラン政府は、「アルゲ・バム」の修復・保存を最優先プロジェクトに指定し、復旧事

業を進めている。

こうした状況の下、2004年にイラン政府は、我が国に対し、同遺跡のより効率的な修復・保存用の機材の購入のための文化遺産無償資金協力を要請し、斜面階段、エクスカベーター、フォークリフトトラック、ホイールローダー等の工事用の重機を中心に総額約1億円の機材供与が行われ、現在も遺跡の修復が続けられている。

② オルミエ湖流域における持続可能な水資源管理総合計画（FAO 連携）

イラン北西部に位置するオルミエ湖は、国立公園に指定されており、地域の観光資源の一つになっている。周辺には絶滅危惧種を含む数多くの動植物が生息しているものの、湖の周辺農地及び流入河川上流での大規模な開発による湖への流入量の縮小に加え、気候変動による小雨化や蒸発散量の増加等が複合的に発生した結果、湖面積・貯水量は大幅に低下しており、対策が急務となっていた。

本計画は、2015年からオルミエ湖流域において、給水システム及び干ばつ管理システムの導入並びに農業活動の多様化の促進等を実施するもの。

③ ゲシュム島の「エコアイランド」構想による地域のための持続可能な開発計画策定プロジェクト

イランのゲシュム島は、ホルムズ海峡上に浮かぶ貿易・経済の拠点であり、周辺には、海産哺乳類などの希少動物の生息場、渡り鳥の飛来地などがある。一方、ゲシュム島は、ペルシア湾最大のマングローブ林やサンゴ礁を有しているものの、石油・ガス開発や観光開発などにより、観光資源の劣化や環境汚染が進んでいる。本プロジェクトは、2015年から2018年までの3年間に、地域の環境に配慮した地域住民の生活向上、及び自然資源の保全を目的としたマスタープランを策定するもの。

④ エコツーリズム計画・管理研修

2015年に始まったJICAの「エコツーリズム計画・管理研修」では3年にわたる日本での研修が予定されている2017年2月にその第1回が行われた。イランから13名程が日本を27日間訪れ、座学を中心とする研修を受けた。環境庁の他にはICHTOの地方局から8人程、林野庁やゲシュム島の責任者、アンザリー州ラグーンのエコツーリズム責任者などエコツーリズム関係の専門家たちが参加した。

⑤ 日本ユネスコ信託基金

日本ユネスコ信託基金は、1988-2003年、2003-2006年の二期にわたり、チョガーザンビルの遺跡修復や研修に対して合計100万ドルを支援している。また、ハフトタッペ遺跡にある博物館も、同支援によって開設された。その際に関わっていた研究者は、岡田保良教授（国士舘大学、考古学）、渡辺邦夫教授（埼玉大学、建築学土木）の二名である。こうした経緯から、この2つのサイトを管理するICHTO職員たちは日本からの調査員に対しても大変友好的である。

⑥ 日本建築家協会（AIJ）及び日本財団

日本建築家協会（AIJ）と日本財団が、現地NGO及びICHTOと共同でシルクロードをテー

マとした地域経済開発に関わる交流活動を展開中である（プロジェクト代表：三宅理一教授（藤女子大、建築史学））。2018年9～10月にはタブリーズで国際会議を開催、2018年の5月5日から6日には、日本で手工芸品などの展示を含む活動に関わる展覧会の開催を予定している。

2) 他ドナーによる観光分野の支援実績

① UNESCO

UNESCO テヘラン事務所には16人のスタッフ(5分野に1人ずつ専門家とサポートスタッフ。中国人スタッフも1名おり、あとはイラン人)。その他に、イラン政府が設置している、UNESCO 担当の事務所が各地域にある (Affiliated Regional Offices)。必要に応じて、世界中の専門家リストから特定の専門家を招聘している。例として、2017年にUNESCOの世界文化遺産に登録されたヤズドでは、世界遺産の旧市街地の管理・モニタリングの専門家として、フランスのグルノーブル大学 CRAterre から ICOMOS¹³の専門家が定期的に派遣されている。

UNESCO のこれまでの活動実績として、2016年は、2回のワークショップを開催した。ICHTO の文化遺産部局と観光部局が担当し、各地域のマネージャーや NGO を集めて、スペインの専門家や WTO 代表を招聘して開催した。22の世界遺産地域に関して、どのように観光圏として組込むか、SWOT 分析を行った。その他、無形遺産（食事や文化など）を世界遺産サイトと組み合わせるかについても話し合った。

UNESCO の支援活動には主には「保全」と「プロモーション」の2種類の活動がある。

「プロモーション」については、シルクロード観光の取り組みがある。現在は2017-2021のフレームワークが進行中である。

「保全」については、Tourism Corridor として観光ルート開発を支援している。ホテルなどが少ないという問題があるだけでなく、シュージュタルなどは、主要な観光地であるにも関わらず説明が無いため、訪問者たちは自分たちがどのような場所を訪れているのか理解が難しい。「プロモーション」に関しては、シルクロード観光の取り組みがある。イランに限らず、中央アジアとの連続で、少数対象の高価な旅行ツアーとなる。UNESCO としては、イランをシルクロード観光の観光目的地となるよう支援したいと考えているという。また、UNESCO の Creative City の取り組みの関連で、エスファハーンやテヘランの都市観光に関して、観光バスの運行などの活動もある。その他、昨年からは ICHTO の文化遺産局を対象に水中の遺産保護の支援も行っている。

UNESCO が認識しているイラン観光の現状の問題点は、①観光地を結ぶ明確なルートが設定されていない、②セキュリティの向上、③観光客数を把握する統計データの整備、④押し寄せる観光客のマネジメントが挙げられる。

その他、保護と観光の両側面を、各部局や担当を超えてつなぐことが課題と考えている。また、民間システムをどのように ICHTO と連携させるかといった、PPP のテーマが最大の課題になる。例えば、キャラバンサライなど、歴史的建造物をどのように観光に組込むかという視点から、毎年民間投資による歴史的建造物改修プロジェクトの提案競技を開催している。ヤズド近郊のサル

¹³ ICOMOS : UNESCO から世界遺産登録審査の委託を受ける国際 NGO

ヤズドにあるサーサーン朝時代の城塞跡のように、あまり知られていない民間開発のリゾート施設のように、PPP の取り組みの促進に注目している。また、博物館のマネジメントに関しても、適切なインベントリー、コレクションのマネジメント、展示などが重要な課題と考えている。

② UNDP

UNDP の Small Grant Program の一環として、エコツーリズム分野での支援が行われている。エコツーリズムの計画策定では、イラン政府の意向を反映し、NGO と協力して”The Ecotourism Thematic Working Group”を開催し、協議結果を計画内容に反映している。

③ UNWTO

UNWTO では、過去に 2000 年から 2015 年を計画年次とする観光マスタープランの作成を支援しており、現在、観光マスタープランの改訂に係る支援を計画中である。

2015 年には観光統計改善のための旅行・観光サテライト勘定 (TSA) の設立支援に向けたワークショップが、ICHTO および中央銀行、国家統計局、国家移住局の参加のもとテヘランで開催された。2016 年には、UNWTO のシルクロード・タスクフォース・ミーティングが、シルクロード・アクションプラン 2016-2017 の優先事項を決定するために、14 カ国の代表を集めオルミエで開催された。2018 年には、第 23 回総会が、イランでは初めてハマダーンで開催されることが決まっている。それに伴い、大会前後に様々な観光ツアーが催される予定である。

④ その他、海外政府からの援助

JICA の支援に続く形で、タイ (TICA) や韓国 (KOICA) から類似の支援が始まっている。タイは、技術者など専門家に対する研修の支援。タイでの 15 日間の研修に、他国の専門家とともに参加した ICHTO 職員へのヒアリングによると、「JICA と違って、現地滞在費などは自己負担となるものの、ツアー受入などのタイの先進事例について学びが多かった」とのコメントがあった。KOICA は、政府関係者を対象とした研修等の支援を行っている。

⑤ その他、海外民間セクターからの援助

ドイツのヘンケルグループがドイツの民間セクターからの資金提供を受け、ボンの国立絵画展示館とベルリンの博物館による、ヤズドの人類学博物館の開館支援プロジェクトを実施中である。技術支援として歴史展示に関わる学芸員の人材派遣を行っている。博物館は、2020 年開館予定で、周辺地域の観光拠点施設の役割も担うことが期待される。

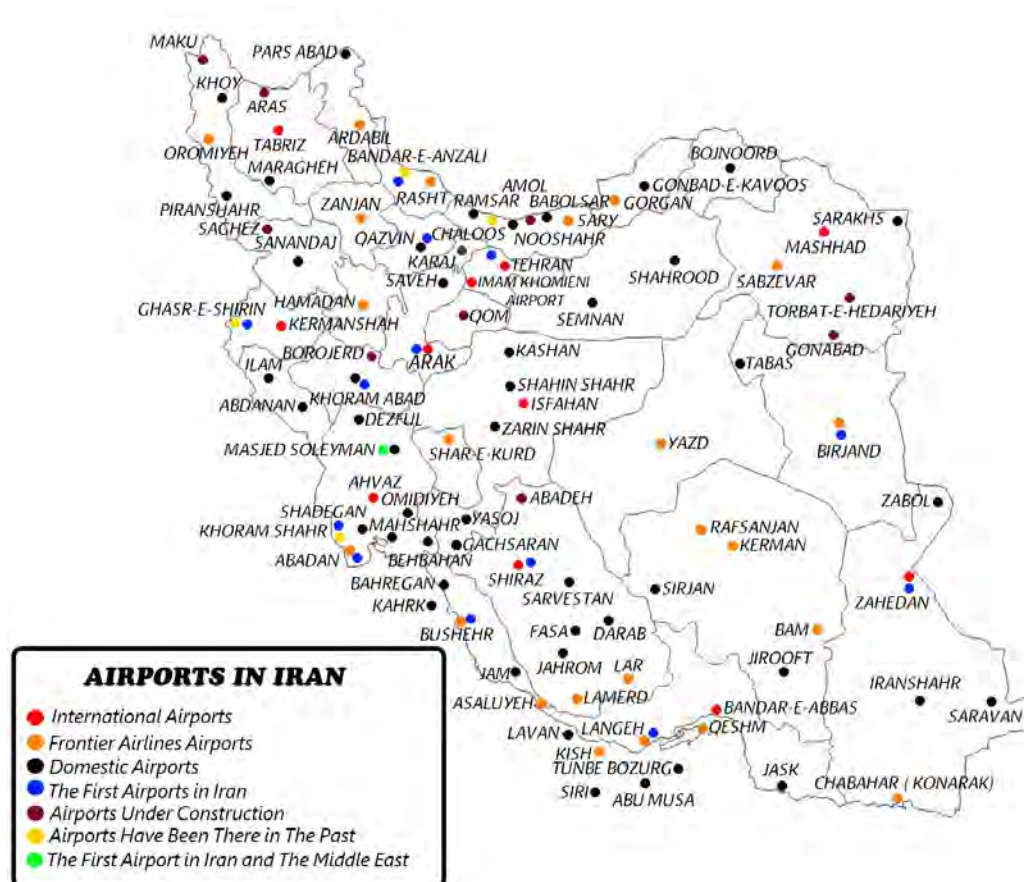
5. イランのインフラの状況

イラン国内の交通は、航空機、バス、鉄道とも以前より値上がりしたものの、相対的に安い水準にあり、国土の広いイランで観光旅行需要を押し上げるのに貢献している。

(1) 運輸・交通インフラ

1) 空港・航空

イラン国内には、イラン観光の窓口となるテヘランのエマーム・ホメイニー国際空港やメフラバード国際空港など 13 ヶ所の国際空港を含む約 100 ヶ所の空港があり、国際線が発着する首都のテヘランやシーラーズと地方都市の間を結んでいる。



出典：Wikipedia

図 5-1：イランの主要な空港

空港は、道路・都市開発省傘下のイラン民間航空機関 (Iran Civil Aviation Organization : CAO) が管轄しており、イラン国内の空港の建設、運営維持管理、及び空港管制業務は、1988年に設立されたイラン民間航空機関の100%持ち株会社であるイラン空港会社 (Iranian Airports Holding Company : IAC) が担っている。

2017年現在、エマーム・ホメイニー国際空港には、CIS諸国からはアエロフロート、タジキスタン航空、中東諸国からはエミレーツ航空、カタール航空、エティハド航空、トルコ航空、ヨーロッパからはKLM、ルフトハンザ、アリタリア航空、アジアからはタイ航空、エア・アジア、中

国南方航空などが定期便を就航している。日本からはかつてイラン航空が直行便を運航していたものの、2011年10月を最後に運行が休止している。このため、現在ではドバイやカタールなど中東のハブ空港を経由するルートが、日本からの主な渡航経路になっている。

国営航空会社として、1944年に設立されたイラン航空（Iran Air）が、ロンドン、パリ、フランクフルト等の欧州の主要な空港など59都市の間で定期便を運航している。また、アジアのハブ空港であるバンコク、クアラルンプールにも運航する計画がある。イラン航空の他にも、アーセマーン航空やカスピアン航空など15社が国内の各都市に国内線を運航している。

航空機は、経済制裁の影響により機齢8年以下の機材のイランへの輸出が禁止されていたが、制裁緩和後の2016年にエアバスが新型機の大量納入契約を結んだことから、代替が進むと考えられる。国内線の幹線は頻繁に運行されている一方、地方路線は曜日によってスケジュールが異なる路線や、毎日運航ではない路線も多い。

各主要都市の空港ターミナル内は一般的にペルシア語と英語で案内が標記されている。しかし、チェックインカウンターから搭乗ゲートへの動線が分かりにくい、搭乗時間の直前までゲートの案内が出ない、搭乗案内がペルシア語のみ或いは英語の案内が不明確など、外国人観光客には不便を感じる人が多い。

更に、テヘランは国内線空港と国際線空港が離れており、通常約1時間で移動できるところが、交通渋滞によっては2時間以上かかる場合もあり、時間が読めないことも課題である。

本調査で確認した各都市の路線との空港ターミナルの状況は以下のとおり。

表 5-1：航空会社のサービスの状況

都市名	国際線	国内線	主な都市からの所要時間	サービス・品質等
タブリーズ	イスタンブール、ハンプルグとの定期路線が就航している。 バクー、ドバイ、トビリシ、モスクワは季節就航の便がある。	テヘラン、シーラーズなどは定期便が就航している。	タブリーズ-テヘラン間は約1時間。	チェックインカウンターからゲートへの動線が分かりにくい。 搭乗案内が分かりにくい。
エスファハーン	定期便として、トルコ、イラク、オーストラリア、UAEとの定期便がある。 ハイシーズンでは、上記の路線に加えて、ジョージア、ロシア、トルコ（複数の都市）、マレーシアの路線が就航する。	キーシュ島は47便/週、テヘラン28便/週、マシュハド40便/週、タブリーズ20便/週、ゲシユム島2便/週、の定期便がある。	テヘランから所要約1時間20分。	搭乗案内が分かりにくい。
ヤズド	イラク、サウジアラビアとの定期便がある。 産業振興の観点からドバイやカタールの定期便の就航を望んでいる。	テヘラン等の主要都市からの定期便がある。	テヘランから所要1時間10分。	出発ターミナルと到着ターミナルが分かっている。
シーラーズ	州内にシーラーズ空港、ラール空港、ラーメルド空港の3つの空港がある。	テヘラン等の主要都市からの定期便がある。	テヘランから所要1時間30分。	搭乗ゲートの案内がゲートオープン直前まで発表されない。

都市名	国際線	国内線	主な都市からの所要時間	サービス・品質等
	定期便は UAE (2 都市)、カタール、トルコ、オーストリア、イラク、オマーンの7都市の間で直行便が就航している。			搭乗案内が分かりにくい。
アフワーズ	クウェート、ジッダ、ドバイ	テヘランから1-2便/日	テヘランから所要1時間30分。	搭乗ゲートの案内がゲートオープン直前まで発表されない。 搭乗案内が分かりにくい。

出典：JICA 調査団

2) 道路

30の州を含む全ての州、首都、主要都市、村、都市部は、道路で結ばれている。道路・都市開発省が管轄する国道は、合計で 88,227km に達する。国道は主にフリーウェイ (Freeway)、高速道路 (Highway)、主要道路 (Main road)、アクセス道路 (Access Road) の四つのカテゴリに分けられる他、約 21 万 5,000km の市町村道がある (2015 年データ)。また、イランの道路は、北、西、東にそれぞれ異なる国境を介して国際道路に接続されている。

全てのフリーウェイと高速道路はアスファルトで舗装されている他、主要道路もアスファルト化されており、路面、マーキング、ガードレールの状況も良好である。市町村道のうち、約 28,000 km は未舗装であるものの、路面の状態は良好であり、地方の村落であっても、車両によるアクセスが可能である。

3) バス

国内の各都市を結ぶ長距離バスの路線網が発達しており、観光客の都市間の移動手段としては、バスが最も多く利用されている。イラン国内では、約 20 社の民間バス会社が運行を行なっている。主要都市間の路線には、横 3 列シートの冷暖房の完備したボルボの新型の VIP バスも運行しており、快適な移動が可能である。



地方都市と周辺の町や村との間は、ミニブースと呼ばれる乗り合い式のマイクロバスが運行している。また、テヘラン、タブリーズ、マシュハドでは、市内の移動に係る交通手段として、バス専用レーンを有する BRT が整備されている。

各主要都市には長距離バスのターミナルが複数ある。ターミナル内は一般的にペルシア語と英語で案内が標記されているものの、一部、英語表記が少ないターミナルもある。バス乗り場は、

乗り場に番号があり英語による案内掲示板と合わせて外国人観光客に分かり易いところもあるが、駐車場にバスが並んでいるだけで係員の行先を叫ぶ声を頼りにバスを探さなければならないターミナルもある。また、市内に移動するためのバスやタクシーの乗り場が分かりにくいターミナルもある。更に、長距離バスターミナルは市中心部から離れている場合が多く、市内の交通渋滞も鑑み時間に余裕を持って移動する必要がある。

本調査で確認した各都市の長距離バスの情報とバスターミナルの状況は以下のとおり。

表 5-2：バス会社のサービスの状況

都市名	概要	サービス・品質等
タブリーズ	イラン北西部に位置し、商業都市としてタブリーズ/テヘラン間、トルコやアゼルバイジャンなどまでつながっている。 テヘランから所要約 8 時間。 イスタンブール（トルコ）まで所要約 32 時間。 バクー（アゼルバイジャン）まで所要約 16 時間。	ターミナルの一つはペルシア語表記がほとんどであり外国人旅行者にはわかりづらい。 主要都市をつなぐ幹線道路（4-6 車線）の状況は良好。 タフテ・ソレイマーン周辺の地方道路は劣化が著しく改修を要する。
エスファハーン	イランの中央に位置し、テヘラン、シーラーズ、カーシャーン、タブリーズなど東西南北の主要都市とつながっている。 市内 4 か所に長距離バスターミナルがある。 ヤズドから所要 7 時間。 テヘランから所要約 6 時間。 シーラーズから所要約 7 時間。 アフワーズから所要約 12 時間。	インフォメーションセンター、待合用の椅子、売店、レストラン、トイレ、授乳室などの設備が充実している。 併設のホテルもある。 電光掲示板にバス会社名、バス番号、行先、ステータス、座席数などが、英語とペルシア語で表記される。
ヤズド	市内 1 か所に長距離バスターミナルがあり、テヘラン、シーラーズ、エスファハーンはもとよりマシュハドともつながっている。 テヘランから所要約 10 時間。 シーラーズから所要約 7 時間。 エスファハーンから所要約 7 時間。 マシュハドから所要約 16 時間。	待合用の椅子、売店、トイレなど一通りそろっている。 ペルシア語表記がほとんどで外国人旅行者にはわかりづらい。 幹線道路、地方道路共に良好。
シーラーズ	市内 3 か所に長距離バスターミナルがある。 10 社程のバス会社がシーラーズ/テヘラン間を運航している。 シーラーズ/エスファハーン間も一日 30 本程度運行している。 ペルシア湾岸やイラン南東部の主要都市ともつながっている。 エスファハーンから所要約 7 時間。 ヤズドから所要約 7 時間。 アフワーズから所要約 8 時間。	インフォメーションセンター、待合用の椅子、売店、トイレ、授乳室などの設備が充実している。
アフワーズ	メインのバスターミナルは街の中心から約 6 キロに位置し、その近くにはシュッシュ行のミニバスターミナルがある。 テヘランから所要約 11 時間。 シーラーズから所要約 10 時間。	周辺を山岳地帯に囲まれていることから陸路による他の観光地域間の移動に制限がある。 フーズスタン州と他の地域を結ぶ幹線道路及び地方道路の状況は、共に必ずしも良好ではなく、移動に時間を要する。

出典：JICA 調査団

4) タクシー

市内の移動に係る交通手段は、タクシーも一般的に利用されている。イランでは政府公認の乗り合いタクシー、電話で呼び出すアジャンスと呼ばれるタクシー、及びイランではタクシーの運転手に一般的な運転免許の他には特別なライセンスや車両の登録制度がないため、個人が自家用車を使ってタクシーの営業を行なっている白タクのサヴァーリーと呼ばれる三つのタイプのタクシーがある。

なお、近年、テヘランなどでは、女性専用無線タクシーも営業を開始している。

料金はメーター制ではなく、交渉が必要なものもあり、海外からの観光客にとっては必ずしも利用しやすい公共交通機関とは言えない。

また、ドライバーの経験年数によって市内であっても運転できる地域が限られるため、行先が遠方の場合にはドライバーが道を知らず、時間が必要以上にかかるケースもある。更に、テヘランなどの大都市では交通渋滞が恒常化しており、交差点などで我先にと無理やり車を割り込んでくる、車間距離がほとんどない、急ブレーキが多いなど運転の粗さもあり、日本人にとっては危険を感じる場面も多い。

5) 鉄道

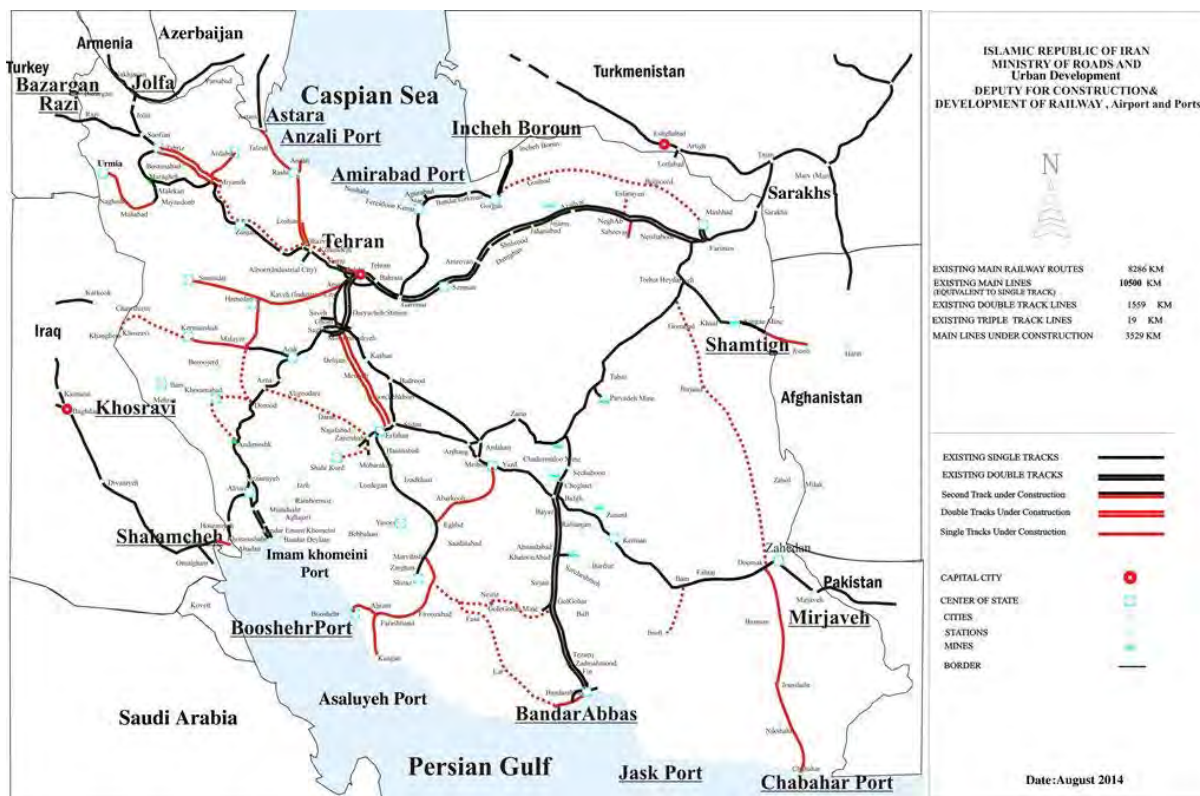
鉄道は、道路・都市開発省（MRUD）が管轄している。総延長は、約 13,600km（2015 年）である。現在、イラン政府が 2005 年に発表した長期国家開発計画である「Vision 2025 (2005-2025)」の下、さらに 7,500 km の延伸事業が進行中であり、将来的には 2 万 km に達する計画がある。現在、194km が電化されており、主要な路線の 81.6%は単線であり、18.4%が複線化されている。

また、鉄道の軌道は、パキスタン国境の 94km の広軌 (Broad Gauge) の区間を除き、幅 1,435mm の標準軌 (Standard Gauge) が採用されている。

2017 年現在、旅客を扱う鉄道会社は、ラジャ (RAJA) 社やファダック (Fadak) 社、サフィール (Safir) 社をはじめ、11 社の民間鉄道会社が存在する。

これまで旅客車両の老朽化が進んでいたものの、近年では、中国製新型車への代替が始まっており、新型の寝台車では快適な移動ができる。また、これとは別に、中国の支援による高速鉄道の導入も計画されている。





出典：道路・都市開発省（MRUD）ホームページ（2014年）

図 5-2：イランの鉄道路線

2017年6月には、アゼルバイジャンの首都バクーで、イラン、アゼルバイジャン、ジョージア、ウクライナ、ポーランドの鉄道当局が南西輸送路計画の議定書に調印した。同計画は、インドから欧州への貨物輸送路をスエズ運河経由の海路からペルシア湾、イラン、アゼルバイジャン、ジョージア経由の陸路にすることで、輸送の距離および時間の短縮を図るものである。

都市内の大量輸送鉄道として、現在、首都のテヘランをはじめ、エスファハーン、タブリーズ、シーラーズ、マシュハドに地下鉄網が整備されており、アフワーズ、ケルマーンシャー、ゴム、キャラジの各地方都市でも地下鉄の建設計画が進行中である。

各主要都市の鉄道駅構内において、トイレや切符売り場などの基本インフラはペルシア語と英語で案内が標記されている。しかし、切符売り場が駅舎外の目立たないところにある、発着列車の情報がペルシア語でしか標記されていない等、外国人観光客が初めて利用する場合に不便を感じる駅もある。印刷された時刻表はいずれの駅にも用意されておらず、切符売り場かインフォメーションブースで列車情報を得ることになるが、ペルシア語のみしか通じない場合もある。

鉄道駅は市内中心部から離れている場合が多く、市内の交通渋滞も鑑み時間に余裕を持って移動する必要がある。

本調査で確認した鉄道路線と鉄道駅の状況は以下のとおり。

表 5-3：鉄道会社のサービスの状況

都市名	定期便・本数	主な都市からの所要時間	サービス・品質等
タブリーズ	市内の東西をつなぐメトロが運航している。 モスクワとの路線が準備中である。 ジョージア、イラク、アゼルバイジャンとの定期便が運行する。 国内はタブリーズ-マシュハドは1日2便 タブリーズ-テヘランは1日2便	テヘランから所要約 13 時間。 マシュハドから所要約 25 時間。	インフォメーションセンター、待合用の座席、売店、トイレなどが揃っている。 ペルシア語表記がほとんどであり、チケットの買い方も外国人旅行者にはわかりづらい。
エスファハーン	テヘラン、タブリーズ、マシュハドなどへの定期便がある。 海外の都市との定期便は全てテヘラン経由でトルクメニスタン、トルコ、バクーなどの都市とつながっている。	テヘランから所要約 6 時間 エスファハーン-テヘラン間を1時間40分でつなぐ高速鉄道を計画中	インフォメーションセンター、待合用の座席、売店、トイレなどが揃っている。 列車番号、行先、時間などがペルシア語表記であり外国人旅行者には分かりづらい。
ヤズド	エスファハーン間の定期便あり。	エスファハーンから所要約 4 時間。 テヘランから所要約 6-8 時間。	ペルシア語表記がほとんどであり、チケットの買い方も外国人旅行者にはわかりづらい。 チケット売り場が駅舎の外にあり分かりづらい。
シーラーズ	テヘラン、マシュハドとの定期便がある。	テヘランから所要約 15 時間。	インフォメーションセンター、待合用の座席、売店、トイレなどが揃っている。 駅併設の会議室もある。 列車番号、行先、時間などが電光掲示板でペルシア語と英語で表記される。
アフワーズ	テヘランから 1-2 便/日	テヘランから所要 14-17 時間	

出典：JICA 調査団

(2) 情報・通信インフラ

1993 年に中東諸国で二番目となるインターネット接続が開始され、2004 年から全国規模で ADSL サービスが提供されている。一方、欧米系のフェイスブックやツイッター等の SNS サイトの閲覧が規制されており、観光客にとって様々な制限がある。また、観光客向けの無料 Wi-Fi スポットは、国際空港や一部のホテル、レストランなど利用が可能な場所は限られている。

携帯電話市場は、安定的に拡大している。2015 年 9 月末現在、携帯電話のシェアは、イラン電気通信会社 (TCI) の子会社であるイラン携帯通信会社 (MCI) が 57.9%、南アフリカ系企業の MTN Irancell が 39.9%と、大手二社の寡占状態にある。

(3) その他 (治安、衛生環境、医療事情)

イランの治安状況は、イラクやアフガニスタン、パキスタンとの国境付近を除き、概ね平穏である。一方、2017 年 6 月には、首都テヘランの国会事務所建物及びイマーム・ホメイニー廟周辺

において、18人が死亡、約50人が負傷するイスラム国（ISIL）によるテロ事件が発生した。

衛生環境は、地方都市でも上水道が普及しており、衛生的な水道水を使用することが可能である。

他方、特にテヘランなどの大都市では車両から出る排気ガスの影響で大気汚染が深刻な問題となっており、特に冬場に悪化する。当局から呼吸器や心臓の弱い人は外出を控えるよう勧告が出されることもあり、学校も閉鎖されることがある。

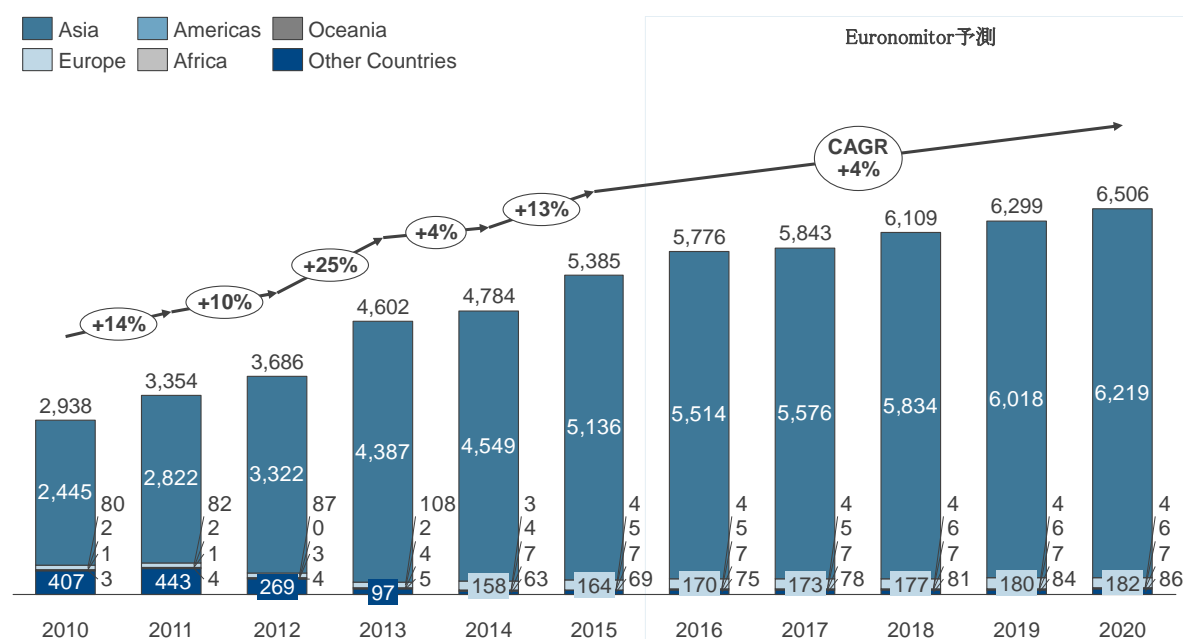
テヘランなどの大都市の医療水準は比較的高く、CTやMRI等の高度医用機器を備えた病院も多くあり、国としてメディカル・ツーリズムを推進している。

6. イランの観光客の動向

(1) 外国人観光客の動向（インバウンド）

イランを訪れる外国人観光客数は、2010年は293万人、2013年は476万人、2015年は523万人と年々増加している。観光客数の約半分をイスラム教シーア派の国々が占める一方、近年は欧州、北米、東アジアからの観光客も増加傾向にあり、2020年には650万人¹⁴を超える外国人観光客が訪れる見込みである。これに対し、イラン政府では、2020年までに外国人観光客数を800万人にまで伸ばすことを政策目標に掲げている。国別に見ると、イラン国への入国者数が最も多いのはドイツで、年間約29,000人が訪れている。以下フランス、イタリア、ロシア、オランダ、英国、スウェーデン、オーストリア、スペイン、スイスと続き、欧州各国が上位を占めている。日本からイラン国への訪問者数は8,393人（2015年）であり、一貫して増加が続いている。イランで催行されているツアー商品の多くは、国際観光拠点のテヘランから国内線を利用してシーラーズやタブリーズといった地域観光拠点に移動し、地域内の観光地を巡った後、次の観光地域に移動する日程となっている。

一方、イランは、長年の経済制裁により、実態以上に、治安の不安定な国とのイメージが定着している。また、航空機やホテルの快適性に劣り、金融制裁による国際クレジットカードが利用できない、欧米系インターネットの閲覧が規制されているなど、旅行者にとって様々な制限があり、周辺国に比べ、国際的な観光市場における競争力が低いのが現状である。さらに、米国政府によるイラン入国歴がある渡航者に対するビザ免除プログラムの適用除外措置は、イランへの観光客数の伸びを抑制する要因の一つとなっている。



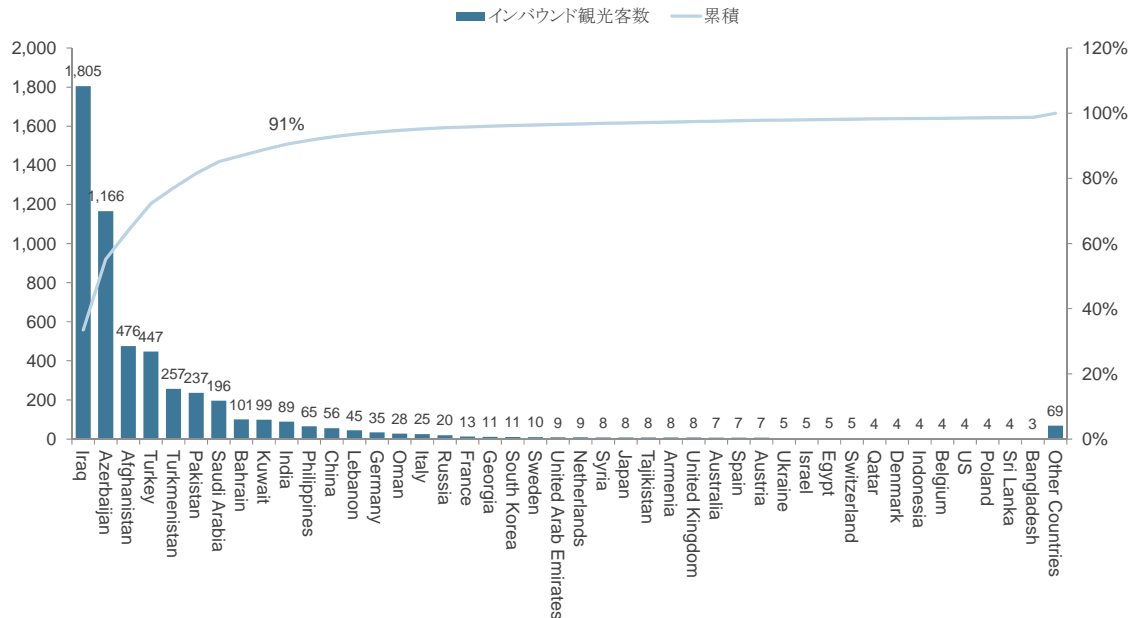
単位：千人

出典：Euromonitor Internationalより分析

図 6-1：イランの国際観光客数の推移と予測

¹⁴ Euromonitor International に基づき JICA 調査団分析

イランの国別の観光客数を見ると、隣国のイラクやアゼルバイジャンからの観光客が多く、隣国からの観光客が上位 10 ヶ国を占めると共に、上位 10 ヶ国でインバウンドの外国人観光客数の約 90%を占め、観光消費額の高い欧米からの観光客数は限定的である。海外からの観光客の 35%は空路、64%は陸路、1%は船舶で入国している。



単位：千人

出典：Euromonitor Internationalより分析

図 6-2：イランへの国際観光客数（2015年）

(2) 日本人マーケット

日本からイランへの到着者数（旅行者のみならず全ての到着者数）は 2015 年で 8,393 名、2016 年で 10,395 名と、年々、増加傾向にある。旅行代理店によると、日本からツアーで訪問する旅行者の年齢層は 50 代以上のシニア層が中心であり、秘境や世界遺産に興味を持っている旅行者がメインであるとのことである。

また、多くの日本人にとって、「イラン」は危険というイメージがあるため、「ペルシア」、「シルクロード」、「世界遺産」という単語を盛り込んだパンフレットを作成し、観光客を誘致している。現在、旅行代理店はテヘラン、シーラーズ、ペルセポリス、ヤズド、エスファハーン、カーシャーンなどイランの歴史や伝統を感じさせる有名な都市を中心とした 1 週間ほどのツアーを企画、実施しているものが多い。

(3) 観光地別の観光客の動向

2013 年の主な史跡の合計訪問者数は 1,500 万人ほどである。統計資料に記されている史跡は 100 ヶ所ほどあり、モスク、城、寺院、遺跡、公衆浴場の遺跡、歴史的に価値のある住宅などが史跡として挙げられている。そのうち、訪問者数の多い主な史跡は下表のとおりである。シーラーズの Hafez Mausoleum、Sadi Mausoleum や Marvdasht の Takht-e-Jamshid は毎年 100 万人以上が訪問している。その他にもカーシャーンやエスファハーン、マシュハドなどにも人気の高い史跡が存在している。

表 6-1：史跡の合計訪問者数

	2010	2011	2012	2013
イラン全体（合計）	16,421	15,067	14,609	15,327

単位：千人

出典：Iran Statistical Yearbook 1392

表 6-2：主な史跡の訪問者数

史跡	所在地	2010	2011	2012	2013
Hafez Mausoleum (Hafeziyeh)	シーラーズ	1,853	1,773	1,630	1,505
Sadi Mausoleum (Sa'diyeh)	シーラーズ	1,362	1,413	1,426	1,015
Takht-e-Jamshid	マルヴダシュト	1,150	1,205	1,201	1,085
Majmue-ye-Abbas Abad (Complex)	マーザンダラン	6	20	10	3,200
Bagh-e-Fin(Paradise)	カーシャーン	1,207	917	1,094	804
Masjed-e-Emam (Mosque)	エスファハーン	254	334	219	189
Sheikh Ahmad Jam Mausoleum	マシュハド	576	727	408	N/A
Kakh-e-Ali-Qapu	エスファハーン	431	384	343	242
Arg-e-Karimkhan (Castle)	シーラーズ	207	639	628	607
Qaleh-ye-Falak-ol-Aflak (Castle)	ロレスターン	323	314	370	189

単位：千人

出典：Iran Statistical Yearbook 1392

イランには数多くの博物館・美術館があり、統計資料では主要なものとして約 200 ヶ所挙げられている。2013 年の合計訪問者数は 870 万人ほどである。シーラーズ、エスファハーン、テヘランなどに人気の高い博物館や美術館が点在している。

表 6-3：博物館、美術館の合計訪問者数

美術館	2010	2011	2012	2013
イラン全体（合計）	8,396	6,745	7,268	8,726

単位：千人

出典：Iran Statistical Yearbook 1392

表 6-4：主要な博物館・美術館の訪問者数

歴史的建造物	所在地	2010	2011	2012	2013
Cultural and Historical Complex of Golestan Palace	テヘラン	N/A	513	627	673
Takht-e-Jamshid (Persepolis)	シーラーズ	403	217	N/A	1,085
Chehel-Sotun	エスファハーン	868	781	861	461
Niyavaran Palace	テヘラン	203	247	921	792
ECO-Museum of Rural Heritage Museum	ラシュト	112	132	149	N/A
Nahavand Museum of History and Culture.	ハマダーン	N/A	N/A	N/A	138
South of Sahand Anthropology Museum (Bonab)	東アゼルバイジャン	N/A	176	186	199
National Museum of Iran (Iran-e- Bastan)	テヘラン	461	110	N/A	472
Azərbaycan	タブリーズ	164	156	142	142
Hammam-e-Ganj-Ali- Khan (Bathhouse)	ケルマーン	222	318	249	231

単位：千人

出典：Iran Statistical Yearbook 1392

(4) 国内市場（ドメスティック）

国内市場に目を向けると、その人口の多さと比較的高い所得水準に加え、女性の社会進出率の高さ、海外への出国が比較的難しいことや、海外への渡航、ビザの取得が国際政治の影響から困難である等の理由から、国民の間には、国内旅行を楽しむ習慣が浸透している。また、マシュハドを始めとする宗教上の聖地を訪れる巡礼旅行の需要も高い。さらにヘルス・ツーリズムを目的とした旅行者も一定層存在する。また、伝統的にノマド（遊牧民）の生活・文化を好む傾向があり、自動車旅行でテントを張り、自炊して滞在する旅行者も多く、国内旅行が観光産業に及ぼす経済効果は限定的である。

イラン統計局の情報によると、イラン国内では平均で56%の世帯が年に1度以上旅行している。その内の1.5%が海外旅行に行っている。ホテルなどに宿泊した場合の1泊当たりの平均単価は16ドルである。さらに、国内旅行の平均では4日間の宿泊日程であり、海外旅行の平均日程は12日間である。

(5) 季節変動

本調査において、各地の観光産業関係者より観光客の季節変動が課題として挙げられた。イランは国土が広く、多様な気候帯を有しており、地域ごとの気候の違いが、各地域の観光客の動向に影響を与えている。一般的に春季は気候が良いことに加えて、ノールーズの休暇もあり、どの地域にも比較的、多くの国内観光客が訪れるイラン観光のハイシーズンの一つになっている。同様に秋季も気候が良く、どの地域も多くの観光客を集めている。

地域間で大きな季節変動が生じるのは、夏季と冬季のシーズンである。夏季はタブリーズを始めとする北西部地域が気候的には最も過ごしやすく、観光のハイシーズンとなる。一方、中・南部地域に位置するヤズド、シーラーズ、アフワーズを含むフーズスタン州などは、夏季には気温が40度以上に上昇することもあり、観光には適さないシーズンとなる。また、冬季のタブリーズの寒さは厳しく、山岳部の地方道路も度々雪の影響で閉鎖されるため、観光客数は激減する。

表 6-5：各地域のハイシーズンとローシーズン

地域	ハイシーズン	ローシーズン
アフワーズ	冬季（11月-3月）	春季、夏季、秋季
エスファハーン	春季、秋季	夏季
タブリーズ	夏季（4月-9月）	冬季
ヤズド	春季、秋季	夏季
シーラーズ	春季、秋季	夏季

出典：各地域でのヒアリングから JICA 調査団作成

各地域の季節変動の一例として、下表にハイシーズンとローシーズンのホテルの占有率を下表に示す。各地域ともハイシーズンとローシーズンの占有率の差は明白である。特にタブリーズでは、ハイシーズンのホテルの占有率が100%となる一方、ローシーズンは僅か20%に留まっている。このような季節変動は、各地域のホテル、ガイド、旅行会社、レストランなどの観光産業や雇用に大きな影響を与えることから、季節変動の解消はイランの観光産業の当面の課題である。

表 6-6：各地域のホテルの占有率

地域	ハイシーズン	ローシーズン	備考
アフワーズ	70%	40%	
エスファハーン	100%	50%	
タブリーズ	100%	20%	
ヤズド	100%	40%	
シーラーズ	N/A	N/A	ゲストハウスの年間平均占有率は 60%-70%

出典：各地域でのヒアリングから JICA 調査団作成

7. イランの観光関連産業の状況

(1) 航空会社

国営航空会社であるイラン航空の他、マーハーン航空やアーセマーン航空、貨物専門航空会社等 20 社近い航空会社が路線を運航している。多くの航空会社は、2000 年以前に設立されているが、ATA 航空、Sepahan 航空、Nasim 航空等はここ十年以内に新規参入している航空会社である。イランの航空会社は一般的に夏と冬で運行スケジュールを変更するが、次期スケジュールは運行の一ヶ月前後にならないと発表されない。よって、旅行会社がツアーパッケージを造成する際、スケジュールが変わる時期は、これまで運行していたフライトが次期スケジュールでも運行されるかどうか直前まで判らず、旅程を確定することが難しい。スケジュールの発表が遅い原因として、需要に対して航空機が足りていない、また、老朽化した機材が多く、これらのメンテナンスに要する時間が多い等の理由により、機材繰りができないことが考えられる。

主な旅客航空会社の国際線¹⁵は以下の通りである。一部の航空会社で西ヨーロッパに運行しているものの、航空会社の多くはトルコやコーカサス地方などの近隣ヨーロッパ及び湾岸諸国が中心となっている。アジア方面への運行は少ないが、航空会社によってはビジネス客をターゲットとした中国路線、イランへの巡礼客誘致及びイラン人の海外旅行先としてマレーシアへの路線を検討している。尚、イラン航空では以前日本への乗り入れを行っていたが、2011 年 10 月を最後に日本への運行は行っていない。

また、前述のように需要に対して航空機が足りていないため、航空会社によっては、国内線で飛ばした後すぐに近隣諸国へ国際線として利用するなど機材の遣り繰りに苦慮しており、遅延が多発するケースもある。

表 7-1：イランの主な旅客航空会社と国際線

	Air craft	Domestic Flights No. of destination	International Flights		
			Europe & North/South America	Middle East/Africa	Asia
ATA Airlines (2008~)	14	5	Georgia, Azerbaijan, Turkey	-	-
Atrak Air (1993~)	3	8	-	-	-
Caspian Airlines (1993~)	23	20	Armenia, Turkey, Ukraine	Dubai, Iraq(2), Syria, UAE	
Qeshm Air (1993~)	21	15	Bulgaria, Greece, Russia(2), Turkey(2)	Cyprus, Iraq(2), Syria, UAE	Hong Kong
Iran Air (1961~)	36	18	France, Germany(2), England, Italy(2), Netherlands, Turkey(2), Spain, Sweden(2), Venezuela, UK	Lebanon, UAE, Kuwait, Qatar	India, Pakistan
Iran Airtour (1973~)	5	19	-	UAE, Iraq	-
Iran Aseman Airlines (1980~)	37	37	Armenia, Turkey(2)	Afghanistan(3), Georgia, Iraq, Kuwait, Oman, UAE,	Tajikistan, Turkey, Russia
Kish Air (1989~)	10	21	Bulgaria, Turkey	Kuwait, UAE(3), Oman, Syria	-
Meraj Airlines (2010~)	8	10	Bulgaria, Georgia, Russia(3), Turkey(4)	Kuwait, Iraq(2)	India(2)
Mahan Air (1991~)	54	26	Azerbaijan, Armenia, Denmark, France, Germany(2), Italy, Russia(2), Turkey(2), Ukraine	Afghanistan, Iraq(3), Kuwait, Lebanon, Mauritius, Morocco, Syria, UAE	China(3), Kazakhstan, Thailand(2), Malaysia, India(2)
Nasim Airlines (2016~)	1	N/A		Newly established. TBA.	
Taban Air (2005~)	N/A	12	Armenia, Turkey	Iraq, UAE	Pakistan
Zagros Airlines (2005~)	19	14	Armenia, Azerbaijan, Georgia, Azerbaijan, Turkey(3)	Iraq(2), UAE	-

出典：JICA 調査団

¹⁵ 就航計画のものも含まれる可能性があり実際に運行している路線のみとは限らない。また、夏と冬で路線が変わる可能性はある。

(2) ツアーオペレーター

観光産業に係る企業は、民間投資による企業と政府系企業の二つに分かれる。政府系企業の場合、ホールディングス傘下にホテル、旅行会社、大学等があり各企業間でビジネスを占有している。また、各省と密接に関係しており政府が絡むイベント等において政府系企業に有利な構図になっている。イラン全土で旅行会社／ツアーオペレーターは約 4,000 社あると言われるが、他社造成商品を販売する手数料ビジネスでなく、自社でビジネスを創出している会社は 50-60 社程度である。ツアーオペレーターへのヒアリングによると、慢性的な客室及び航空機の座席数の不足により、海外の提携旅行会社からの予約依頼の全てを受け入れることは出来ず、ビジネスとして成り立つのは約 7 割程度であるため、インバウンドビジネスはもとよりイラン人の海外旅行（アウトバウンド）の取扱いを始めるツアーオペレーターもある。

一方、(a) 民間旅行会社が政府系ホテルに予約を入れる場合、同系列の旅行会社を通じて予約しなければいけない、(b) 民間旅行会社がリードしてきたインセンティブツアーが最終的に政府系企業に流れてしまう、(c) ホテルから一旦コンファームされたホテルの部屋タイプが、旅行者のチェックイン時に上のクラスに変わっており、ホテルからツアーオペレーターに高い料金で請求される、といった現状もある。

上記 (a) について、イランのホテルのコンファームは一般的に遅い（一ヵ月以上かかることもある）といわれている。これは慢性的な客室不足だけが理由ではなく、予約の二重構造によるものと推測される。また、販売できる宿泊料金の上限が決めていることから、民間旅行会社の収益を圧迫する、或いは、ホテルや政府系旅行会社から手数料が支払われないために、民間旅行会社が手配料を上乗せせざるを得ず、ツアー代が高くなることも考えられる。

さらに、(c) のように、ホテルから一方的に部屋タイプを変えられてしまった場合、ツアーオペレーターは旅行者或いは旅行者を送客した提携旅行会社に対して差額を請求できないため、ツアーオペレーターの収益を圧迫することになりかねない。

一方、ガイドに対して旅行者の情報や業務内容を十分に説明しない、ガイド協会が定めるガイド日当の支払い規定を順守しないツアーオペレーターが多いことが確認できた。このような状態が恒常化していることで、ツアーオペレーターとガイド間に信頼関係が希薄であるとともにトラブルになることもあり、両者間の問題に留まらず、旅行者に損害が降りかかる可能性もあり、イランの観光振興を推進する上では障壁である。

1) ツアー商品

ツアーオペレーターが造成する主なツアー商品は、表 7-2 のとおり。イランの多様な観光資源を活かしたものになっており、テーマ別のツアー商品造成及びイラン料理を作る、ノマドを訪問するといった、体験プログラム及び住民との交流を取り入れたツアー商品もある。

2) オンライン予約

ツアーオペレーター及び旅行会社のオンラインでの取引は、ホテルやチケット等の予約において、イラン人を対象に増加傾向にある。一方、海外の提携旅行会社向けオンラインビジネスは、国際送金規制によりシステムの導入が進んでいない。

3) 国内旅行

イラン人が国内旅行をする際、近隣であれば自家用車で移動するが、遠方の場合はチャーター便や鉄道を利用した（チャーター鉄道の場合もある）パッケージツアーを利用することも多い。キーシュ島、マシュハド、シーラーズに、毎日平均 10 機のチャーター便によるツアーを通年で出している旅行会社もある。これらのパッケージは季節と渡航先にもよるが、200 USD 台（往復航空、五つ星ホテル 2 泊、ホテル送迎）から 300 USD 台（往復航空、五つ星ホテル 3 泊、ホテル送迎）で販売されている。

一方、鉄道を利用したパッケージは、テヘランーマシュハドが 40 USD 代（往復鉄道、ホテル 2 泊、列車 1 泊、ホテル送迎）と、飛行機を使用した商品と比較して各段に安く、移動に要する時間はかかるものの、一日おきに約 40 名のイラン人巡礼者を送客している旅行会社もある。

表 7-2：国際観光客向けツアー商品例

Type of tours	Tour theme
Day tours	<One day> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Snow and Ski ▪ Museums and Palaces in Tehran ▪ Nature in one place ▪ Feast and ceremonies ▪ By flight to Shiraz, Isfahan, Yazd, Kerman, Mashhad, Kish & Qehm island <Two days> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Shiraz ▪ Isfahan ▪ Anzali & Masouleh ▪ Kerman ▪ Tabriz ▪ Mashhad ▪ Kermanshah ▪ Qazvin & Zanjan ▪ Ramsar ▪ Kish Island ▪ Mountain climbing ▪ Nature trekking ▪ Cave paving
Thematic tours	<From one week up to approx. 20 days> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Cultural ▪ Tower of Silence ▪ Silk Road ▪ Spa ▪ Eco ▪ Caspian ▪ Nomad ▪ Desert & Safari ▪ Cycling ▪ Hand Craft ▪ Carpet ▪ Garden Route, etc.
*Agricultural tours	▪ Saffron & Barberry ▪ Rose Water ▪ Pistachio
*Culinary tours and cooking classes	▪ Persian Grand ▪ Northern and Southern Iran ▪ Culinary and Cooking classes in Tehran
*Cultural Heritage tours	▪ Iran Sufi ▪ Music of Northern and Southern of Iran ▪ Iranian Literature ▪ Cultural Heritage of Iran ▪ Iran Traditional Medicine
*Educational tours	▪ Architectural Survey ▪ Iranian Garden ▪ Earthen Architecture ▪ Archeology
*Religious tours	▪ Jewish ▪ Zoroastrian ▪ Christian ▪ Muslim Pilgrimage
Combination tour	▪ Iran & Uzbekistan ▪ Iran & UAE, etc.

出典：JICA 調査団

(3) ホテル・レストラン

ホテルは、全国的に普及しているものの、富裕層向けの五つ星クラス高級ホテルはキーシュ島等一部のリゾート地やシーラーズ等観光地に限られている。

民間の投資は観光客の宿泊が見込めるシーラーズやエスファハーンに集中しており、テヘランにおいてはエマーム・ホメイニー国際空港にイビス (ibis) とノボテル (NOVOTEL) があるが、海外投資によるホテル建設は進んでいない。

一方、厳密には非合法なものも含め、一般住民が有料で自宅に観光客を宿泊させる民泊が普及しており、三つ星クラスの一般ホテルの経営を圧迫している。

1) テヘランのホテル

テヘランのホテルではビジネス目的の宿泊客がメインである。そのためか、三つ星クラスのホテルでも 100 名程度収容可能な会議室や長期滞在者向けにキチネット（簡易キッチン）を備えているホテルがある。

ホテルの多くが老朽化しており、窓やドアが開き難い、タオルが古く変色している、ゲストルームでは Wifi が繋がり難い等、設備に対する投資は進んでいない。また降水量が少ないことが要因となりトイレやシャワーの水圧が弱いといった問題がある。

また、一年を通じて宿泊客が多く売り手市場であるため料金が安い。その上、料金とサービスレベルが合致していない。ゲストルームのアメニティが揃わない、朝食の開始時間になっても準備が整わないなどの基本的な作業が出来ないことに加えて、外国語を話す従業員が少ない、セーフティボックスが使用できないため確認を依頼しても対応していないといった、宿泊客のニーズに即した対応が出来ていない等の問題もある。

ホテル独自に従業員に対する教育はしているが、国際的なサービス基準のレベルに達していないのが現状である。

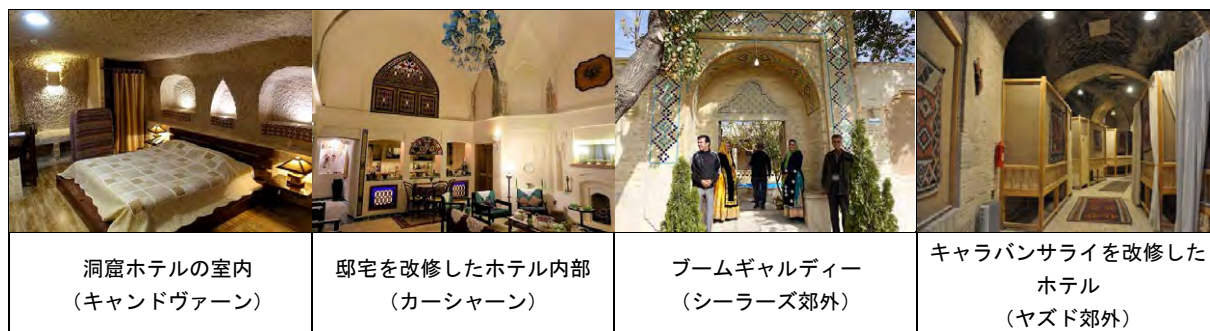
2) 地方のブティックホテル

カーシャーンやヤズドでは昔の豪商の邸宅を修復し、ブティックホテルとして営業するところも増えており、フランスやドイツ等ヨーロッパを中心とした個人観光客及び小グループの観光客に人気が出ている。これらブティックホテルはテヘランのホテルと比較して、総じてソフト面でのサービスのレベルは高い。

宿泊予約はイランのツアーオペレーターを介する場合もあるが、その多くは海外の個人から直接メール等で入れられる。この場合、宿泊費は旅行者がホテルに到着した時に現金払いとなるため、予約は入ったものの旅行者が当日現れないケースが少ないながら発生している。

3) ブームギャルディー（Bumgardji）

イランには、ブームギャルディーと呼ばれる歴史的建造物等を活用した民泊施設があり、ICHTO には今後もこのよう宿泊施設を増やす計画がある。



4) レストラン

テヘラン市内には、高級な雰囲気を醸し出すレストラン、昔ながらの建築やインテリアで装飾されたレストランやティーハウス、モダンなカフェ等、多様な形態の食事処がある。また、地方都市には、ハンマームや氷室、豪商の邸宅を活用したものなど、イランの文化や歴史を感じられるテーマ性に富んだレストランがあり、これらのレストランは十分に外国人観光客を惹きつけることができる。

他方、高級レストランであっても、ウェイターが英語を話せないなど言葉の問題に加え、基本的なサービスレベルは必ずしも十分ではない。また、ビニール袋に入ったカトラリーやナン、市販のパッケージに入ったままのヨーグルト等の前菜が出てくることが多い。これは、従業員の手が直接カトラリーや食べ物に触れない、ナンが乾燥しないようにといった、レストラン側の配慮によるものである一方、外国人旅行者にとっては、工場生産の加工食品に見えることも否めない。



(4) 観光ガイド

イラン全体で 7,000 名以上が資格を保有し観光ガイドとして登録されているが、ガイドとして実働しているのは数百名である。ガイドは、カルチャーツーリズムガイドかエコツーリズムガイド（外国語が話せるかどうかで、イラン人対象或いは外国人観光客を対象）に分かれる他、メディカルツーリズムガイド、ジオツーリズムガイド、スポーツガイド等の専門ガイドもいる。

イランを訪問する外国人観光客のうち、巡礼者以外ではヨーロッパからの観光客が多い。よって、イランツアーガイド協会に登録されているガイドも、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語がメインであり、中国語、日本語といったアジア諸国の言葉を話す観光ガイドは未だ少ない現状にある。

日本語ガイドは、一時期日本に住んだことがあるイラン人が本国に帰国後、日本語を話せることでガイドになったケースが多く、日本語ガイドの間でも言葉のレベルや接客態度に差がある。また、イランツアーガイド協会ではガイドの専門的知識と能力を高めるための様々な教育をして

いる。

他方、全体として、プロフェッショナルなガイドとはどのようなものであるか把握していないガイドが多いことが問題となっている。

他方、ガイドの日当は各州のガイド協会が基準を設けているが、ガイドに仕事をオーダーするツアーオペレーターによってはこの基準が守られていないこともある。そのため、ガイド業だけでは生活が成り立たず、ライセンスを取得してもいずれガイド業を辞めてしまう、あるいは、ガイド業は副業と割り切るガイドも多い。加えて、ツアーオペレーターから旅行者のイラン訪問目的を十分に説明されない、旅行者の依頼と違った手配がされているにもかかわらず事前に旅行者に知らされておらず、ガイドが現場で旅行者からクレームを受けるなどのケースもある。そのため、ガイドのモチベーションが下がり、よって、旅行者に対して十分なガイディングをしない、接遇態度に支障をきたすといったケースもあり、イランの観光振興にとってはマイナスである。

(5) MICE 関連

テヘランには、1959年に設立され UFI (Union of International Fairs) 及び BIE (Bureau International des Expositions) のメンバーでもある、Iran International Exhibition Co.が運営する Iran International Exhibition がある。Iran International Exhibition では、2017年に70の展示会開催が予定されており、そのうちの6割以上は9月から翌年3月にかけて開催される。

また、現在、テヘラン市内とエマーム・ホメイニー国際空港の間に、Shahr-e-Aftab International Exhibition が建設途中であり、その一部は運営を開始している。Shafre-Aftab International Exhibition では、2017年に40の展示会開催が予定されており、9月から翌年3月にかけてそのうちの8割以上が開催される。Shafre-eAftab International Exhibition は貿易センター、ホテル、公園などを兼ね備えた複合施設となっており、空港にも近いことから、テヘラン市内の交通渋滞を緩和させる意図も伺える。

このようにイランでは、展示会の誘致が積極的に行われている。他方、テヘラン市内のホテルでは政府主導或いは企業によるコンベンションが開催されているものの、誘致に力を入れているというわけではなく、各ホテルが従来もっている顧客から予約が入るものである。また、企業のインセンティブツアー誘致に関しては、ツアーオペレーター、ホテル共に積極的な誘致は未だ行われていない。

8. イランの観光セクター開発に向けた課題

第4章(1)で述べたように、イランの観光セクター開発には、2020年までにインバウンド客を800万人へと増大させ、40億ドルの外貨収入を獲得することにより、政府の第6次五ヶ年計画に掲げる「GDP」「外交」「雇用創出」「内需拡大」の四つの目標の達成に貢献する使命が与えられている。こうした目標の達成には、国家レベルでの観光セクター開発計画の策定、及びそれに連動する地方レベルの観光地域開発計画の整備が必要である。

本章では、今後、そうした各レベルにおける「観光開発マスタープラン（仮称）」が整備されることを前提に、それら計画策定を通じて解決されるべき課題を、第2章から第8章までの分析結果に基づき、以下のように整理する。

(1) イランの観光産業の課題

1) 観光産業の課題

イランは、新たな観光目的地として外国人観光客の注目が集まっており、ヨーロッパやアジアからの観光客を中心に、観光客数が年々増加する傾向にある。また、UAEやカタールなど近隣の中東諸国の観光開発が加速し、国際的な観光市場における競争が高まっている。

こうした状況にもかかわらず、イランでは、国内外の観光客に情報を提供するツーリスト・インフォメーション（TIC）等の施設や、観光地図等の資料が十分に整備されていない。さらに、イラン政府は、観光産業人材の育成を図っているものの、人材不足や、市場ニーズとのミスマッチなどにより、結果として適切なスキル、専門性を有する人材が確保できていない。こうした重要な問題解決に向けたイランの観光産業に関わる具体的な課題として、本調査で確認した内容を、表8-1に示す。

表 8-1：観光産業の課題

項目	課題
公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフォメーションブース担当者の接遇及び英語教育 ・ 鉄道駅やバスターミナル内の英語表記の充実 ・ 時刻表の英語表記と国際観光客に配布できる時刻表 ・ 航空機をはじめとする公共交通機関の信頼性と快適性の向上
ツーリスト・インフォメーション・センター（TIC）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各 TIC のサービスや資料の標準化 ・ TIC のサイン、TIC への誘導の改善 ・ TIC オープン時間帯のサービスの徹底
ガイド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際スタンダードレベルの教育育成 ・ 市場習慣や志向を把握した旅行者に対する対応改善 ・ 接客マナーの改善 ・ ストーリー性に乏しく教科書的なガイディングの改善 ・ ツアーオペレーターとの雇用契約の改善
旅行代理店／ツアーオペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方都市のインバウンド誘致力／海外へのプロモーション活動の強化 ・ イランの多様な観光資源を生かした商品造成とプロモーション強化 ・ ガイド等に対する支払い規定の遵守 ・ ツアー契約事項の遵守 ・ 手配能力の強化と変更内容の通知の徹底

項目	課題
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル・マネージャーの国際スタンダード・サービスの理解徹底 ・最低限のサービス提供のための従業員教育（基本的な接客教育含む） ・国際市場とつながるための ICT 化の遅れ ・市場習慣や志向を把握した旅行者に対する対応改善
レストラン	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル・マネージャーの国際スタンダード・サービスの理解徹底 ・最低限のサービス提供のための従業員教育（基本的な接客教育含む） ・市場習慣や志向を把握した旅行者に対する対応改善 ・メニューへの地方色の反映
ショップ／土産物屋	<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸品、特産品のデザイン、大きさ、パッケージの改良 ・手工芸品、特産品のアピール ・英語対応、英語表記の強化

出典：JICA調査団

なお、イランの観光産業が抱える外部要因の課題として、以下の2点を指摘しておく必要がある。

一つは、年間2,500万人に上るイラン人国内観光客の活発な国内需要があるものの、季節変動や特定の観光地（夏期のカスピ海沿岸への集中など）への観光客の偏りによる地域間格差の問題をもたらしているなど、各地域の観光産業に大きな影響を与えている。

もう一つは、2016年1月以降、欧米諸国による核関連の経済制裁は解除されたものの、米国による制裁は継続されており、イラン渡航者に対する米国入国時の査証の発給等に制限が課せられていることである。また、海外からのドルによる銀行送金ができない他、ドル建ての外貨決済ができないため、インターネットを通じたホテルの予約決済や、各種支払いにクレジットカードが利用できないことなどが、イランの観光産業の発展にとって致命的な制約条件となっている。

2) 観光産業振興に関わる法整備・政策制度改善

それぞれの観光地のマネジメントから国レベルのブランド化に至る一連の観光開発を実施していくためには、これまで分析してきたような、イラン国全体としての観光セクターが抱える課題や、民間セクターの課題を解決していくための国レベルの観光開発に関わる政策制度改善が求められる。

具体的には、外資系ホテルの誘致等の民間投資の促進、観光地振興・活性化ファンドの創設や、観光統計の整備に係る観光産業に関わる政策制度改善がある。

それ以外には、欧米による経済制裁の全面的な解除後を見据えた外国人観光客の増加に対応するマーケティング戦略の策定、観光圏をマネジメントするための法体系の整備、及び観光開発の基本方針を示す国レベルの観光開発マスタープランの策定と承認に関わる法改正などが含まれる。

(2) イランの観光地開発の課題

1) イラン観光のブランド化

イランは、世界的な文化遺産を数多く有しているにもかかわらず、国際観光市場における競争力は相対的に低い地位に留まっている。特に、インバウンド観光の行程は、ゴールデンルートと

呼ばれるシーラーズ～ヤズド～イスファハンに集中しており、それ以外の観光地へと観光客を呼び込むための観光ルート、及び公共交通が整備されていない。

そのため、貴重な文化遺産がイラン全土に分布しているメリットを生かせないまま、インバウンド観光客数の地域間格差は拡大する一方である。これらの問題は、新たな観光ルートを整備するためのテーマやストーリーが明確でないことに起因しており、将来的な観光セクター開発に向けては、「古代文明」、「ペルシア」、「シルクロード」といった、世界中の様々なターゲット層に訴求力を持つキーワードをテーマとする観光目的地としてのイラン観光のブランド化が求められる。

2) 文化遺産の開発と保護

イラン全土には、国指定文化財に登録された 3,200 ヶ所を超える文化遺産に加え、未発掘の文化遺産が多数存在している。それら文化遺産の開発や保護が課題である一方、既に修復などの整備が行われた文化遺産についても、その後の維持管理や活用のための方針が定まっていないものが多い。

よって、世界遺産等の知名度の高い文化遺産を確実に保存し活用することを基本とした観光開発を進めると同時に、特定のテーマの下、知名度の高い文化遺産以外についても整備・開発する必要がある。特に、文化遺産と地域の無形の文化財である歴史や住民の生活文化を結び合わせた開発を進めることによって、点としての文化遺産を中心に、観光地をリビングヘリテージとして面的に開発することが可能となる。こうした、地域社会と一体化した面的な観光開発を進めることによって、地域住民の文化遺産の保護に対する意識の向上や、観光開発への住民参加の促進に繋げることができる。

3) 「安全な観光地」としてのイメージ形成

イランは、観光地として高いポテンシャルを有している一方、パキスタンとの国境地帯、ケルマーンシャー州及びイーラーム州のイラクとの国境地帯が「レベル 4：退避勧告」に指定されている他、上記以外のイラク及びアフガニスタンとの国境地帯及びシスターン・バルチスターン州が「レベル 3：渡航中止勧告」指定されている（2017 年 12 月）など、渡航安全上の危険地域に指定された地域を抱えており、旅行者に対する「安全な観光地」としてのイメージが必ずしも定着しているとは言えない状況である。本課題については、観光セクターの努力により解決することは困難である。一方、国家政策を考える上では、観光地の安全性は、観光振興を図る上で常に認識しておくべき課題の一つである。

他方、政治・社会状況によって「危険地域」に指定された地域であっても、官民連携によるリスクヘッジの仕組み（危険情報の速報体制や安全地域への観光客の誘導等）を構築することによって、「安心して訪れることのできる国」のイメージの形成に努めることも重要である。

9. 観光開発方法の検討

(1) イランの観光セクター開発に向けた戦略策定の方針

これまでの課題分析の結果、将来的なイランの観光セクター開発に向けては、現在、イランの観光開発において中・長期的なビジョン、戦略が明確でない状況に鑑み、以下の四つの戦略を柱とする「観光開発マスタープラン（仮称）」の策定を提案する。

特に、イランの観光セクター開発には、前述のとおり「外国人観光客数を 2020 年までに 800 万人に増やし、40 億ドルの外貨を獲得する」命題が与えられている。

その達成に向けては、まず、国際観光市場におけるイランの知名度と競争力を高め、イランを訪れる外国人観光客数の絶対数を増加させた上、戦略的かつ段階的に地方の観光地まで観光客を誘導していく必要がある。

第 6 章に記載したとおり、イランを訪れる外国人観光客数の内訳を見ると、イラクやアゼルバイジャンなど隣国からの観光客が上位 10 ヶ国を占めると共に、上位 10 ヶ国でインバウンドの外国人観光客数の約 90%を占め、外国人観光客数の約半分をイスラム教シーア派の国々が占める。

この数字が示すのは、イランは、国際観光市場において、シーア派の聖地であるマシュハドの巡礼を中心とする宗教観光の観光目的地として認識されている一方、これまでのところ、文化遺産を目的に訪れる観光目的地としては、必ずしも十分に認識されていない、ということである。

よって、第 8 章に記載したイランの観光地開発の課題の中でも、文化遺産を中心とする「イラン観光のブランド化」を図ることにより、隣国以外の国際観光市場に対してもイラン観光の競争力を高めていくことが、現在、観光セクターが取り組むことのできる最も有効な施策である。

- ① イラン観光のブランド化を図るために、将来的に誘致を進める海外の主要ターゲット層に対して訴求力を持つテーマ（複数）を設定し、それぞれのテーマに沿った観光開発を実施する。
- ② ①のために、設定されたテーマに沿った観光資源や観光目的地を抽出し、空間的な範囲や行政区域を考慮したそれらを束ねる観光圏を設定した上で、プロモーションを含めた観光圏をマネジメントするための枠組みを構築する。
- ③ ②の観光圏を構成する拠点都市、観光地、及び観光資源をマネジメントするための枠組みをつくる。
- ④ ①のイラン観光のブランド及びテーマ、②の観光圏、③の観光地及び観光資源を総合的に開発し、造成された商品を国際的な観光市場にプロモーションすることで、イラン国全体としてのブランド力と競争力を高めるとともに、地方地域における経済振興と雇用創出を実現する。

以下では、本課題の設定及び戦略策定方針に基づき、より詳細な分析・検討を加える。

(2) イラン観光のブランド化に資するテーマの設定

前述の戦略に従って、イランを訪れる外国人観光客数の絶対数を増加させた上、戦略的に地方の観光地まで観光客を誘導していくためには、まず、「イラン観光のブランド化」に資するテーマを設定する必要がある。

特定のテーマ性を持った観光開発を行うことによって初めて、ペルセポリスなどの有名観光地から同じテーマの観光資源、文化遺産を有する地方の観光地にまで観光客を誘導することが可能となる。さらに、特定のテーマの下、観光地間で広域連携を図ることにより、観光圏として開発することが可能となる。

このような戦略の下、「イラン観光のブランド化」に資するテーマとして、調査団から「古代オリエント文明回廊」と「シルクロード」の二つのテーマを提案した。以下に詳述するとおり、これら二つのテーマは、イラン政府が外国人観光客の誘致における主なターゲット国に設定している欧米及び東アジア諸国からの観光客に訴求することができると共に、国際観光市場において、イランが周辺国と差別化を図ることが可能なイランの文化遺産を特徴づけるテーマである。

テーマ①：古代オリエント文明回廊

イランは、紀元前 3,000 年頃に現イラクのチグリス・ユーフラテス河流域に栄えた世界四大文明の一つであるメソポタミア平原の周縁部に位置し、ほぼ同時期にイランに栄えたエラム王国には、メソポタミア文明の影響を強く受けた都市やジググラットが建設された。

中でも、チョガーザンビルの遺跡は、現在、観光客が現地を訪問し、実際のメソポタミア文明と同時代の遺跡に触れることができる世界で唯一の観光地となっている。

その他にもアケメネス朝時代の都市が置かれたシュッシュやペルセポリス、パサルガダエ、サーサーン朝時代の遺跡が残るシュッシュタルやビーシャプール、フィールザバードなど、アフワーズからシーラーズに至る地域には、古代オリエント文明の遺跡が点在しており、世界的なブランド化のポテンシャルを秘めている。

また、紀元前 356 年にギリシャの都市国家の一つであるマケドニア生まれたアレクサンダー大王は、わずか 32 年の生涯の中で、世界史上、ヨーロッパの国として唯一、エジプト、イラン、中央アジア、インドに跨る大帝國を築いた英雄であり、アレクサンダーの名は、現在でも、欧米各国の人々に人気のある名前（ファーストネーム）の一つとなっている。

さらに、西洋のギリシャ彫刻と東洋の仏教が融合することにより初めて仏像が出現するなど、アレクサンダー大王がもたらしたヘレニズム文化は、東洋の仏教美術にも多大な影響を与えており、アレクサンダーのペルシア語読みの「イスカダル」の名は、アフガニスタンのカンダハルの都市名や仏教の「韋駄天」の語源にもなるなど、アレクサンダー大王と東アジア諸国との関係も深い。

イランは、こうしたアレクサンダー大王の大帝國の建設に至る遠征の舞台となった地であり、ペルセポリスやシュッシュ（スーサ）の都市遺跡や地方都市に点在する城塞跡などアレクサンダー大王に関連する遺跡が大王の遠征路に沿って数多く残っている。



出典：Columbia University

図 9-1：アレクサンダー大王の遠征路

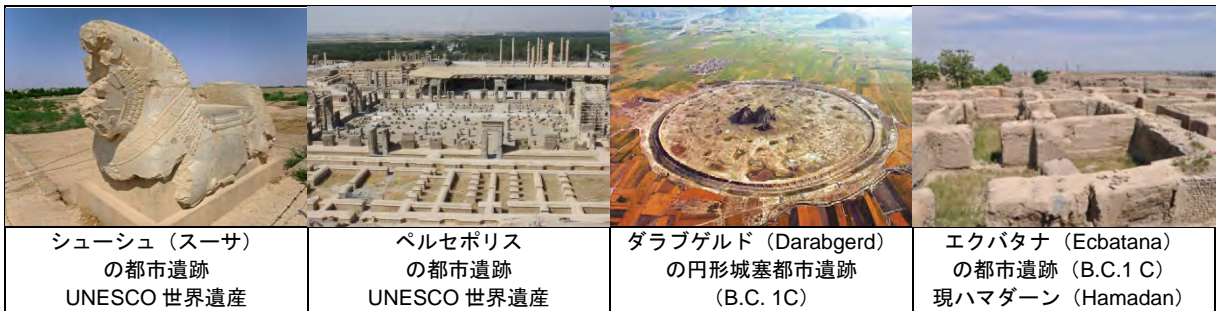


写真 アレクサンダー大王の遠征路に残る都市遺跡

テーマ②：シルクロード

イランは、旧くは東の中国と西のローマ、中世には、アジアと東西貿易のヨーロッパの玄関口となったヴェネチア、ジェノバ、アマルフィーなどの海洋国家とを結ぶ陸と海のシルクロードが交差する地であり、隊商が往来した旧街道に沿って、日本の宿場街の旅籠に当たるキャラバンサライ（隊商宿）や、イスラム時代の城塞都市の跡が数多く残っている。

特に、シルクロードのテーマは、日本を代表する画家の一人である平山郁夫のシルクロードをテーマとする連作に代表されるように、欧米や日本の歴史愛好家の中でも特に人気の高いテーマであり、UNESCO も本テーマに基づく支援を行っている。



出典：UNESCO

図 9-2：シルクロード



写真 シルクロードの交易路沿に残る文化遺産

(3) 将来的な JICA の支援対象とする優先地域の選定

前述 (1) の「古代オリエント文明回廊」及び「シルクロード」の二つのテーマの下、テーマに沿った観光資源の開発に向け、将来的な JICA の支援対象とする優先地域を選定する。

ICTO より推薦された将来的な JICA の支援対象とする優先地域の候補を、上記のテーマごとに分類した結果は、下表のとおり。

表 9-1：将来的なJICAの支援対象とする優先地域の候補

観光圏	概要
テーマ①：古代オリエント文明回廊	
<p>アフワーズ (世界遺産チョガーザンビル、シューシュ、シューシュタルとその周辺地域)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ シューシュ周辺は、気温の高い南方に位置し、通年観光が難しい欠点があるが、冬場でも温かいという長所もある。鉄道や主要道路、海路を含めたインフラが整っていて、アクセスは良好。実際に、最も多いインバウンド客のイラク人が訪れやすい。 ・ イランを代表する有名観光地で、既に観光客が多く訪れており、観光インフラも整っているが、観光の地元住民への裨益効果が不十分である。コミュニティとの関係構築という点で課題がある。 ・ いずれの遺産もコミュニティの居住区域と近接している。
<p>シーラーズ (世界遺産シーラーズ、ペルセポリス、パサルガダエとその周辺地域)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産シーラーズ（ペルシア式庭園）、ペルセポリス、パサルガダエは、イランで最も観光客を集める世界的な観光地として湯名であり、ホテル等の観光インフラも整っている。 ・ 世界遺産ペルセポリスには多くの観光客が既に訪れているものの、その経済的裨益が周辺地域住民に及んでいない。 ・ 開発が必要な地域として、これまでのイラン政府側と JICA との協議から優先地域に挙げられている。
テーマ②：シルクロード	
<p>タブリーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光インフラ（空港、ホテル等）等はよく整っていて、資源的にもポテンシャルが非常に高い（世界遺産のバーザール、黒い教会、キャンドヴァーン村など）にもかかわらず認知度が低いため、JICA の支援効果が高いと見込まれる。 ・ イランの国民意識調査の中でもこの地方は「幸福と安全」が最も高い魅力的な地域であると認識されている点も重要。
<p>ヤズド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年7月に世界遺産に登録された最新の世界遺産。 ・ 歴史的建造物としての旧市街の中で人々が実際に伝統的な生活を営むリビングヘリテージとして都市全体が世界遺産に登録されたイラン国初の事例 ・ 国内外の機関が既に様々な開発プロジェクトに取り組んでいるとの情報があり、支援ニーズについて確認が必要。
<p>テヘラン (カズヴィーン、ザンジャン、セムナン州等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウズベキスタンから陸のシルクロード沿いに多数のキャラバンサライが点在している。 ・ セムナン州の砂漠、ジャングル、農村風景や、タブリーズに向かう途中になるサファヴィー朝の首都であったカズヴィーンなど、テヘラン周辺には、テヘランから日帰りも可能な地域に潜在的な観光資源が点在している。 ・ テヘランからザンジャン（ザンジャン州）との間の観光振興支援を推薦する。テヘランからカズヴィーンまで 175km、カズヴィーンからザンジャンまで 135km で、テヘランから客を誘致するのに適切な距離。日帰りも可能である。 ・ シルクロードと重なり、各時代の遺跡が多く残る。特に遺跡の中でも世界遺産のソルタニエ・ドームは、イスラム前後の建築デザインを有し、47m の高さにもかかわらず基礎の低い珍しい構造のドームで、地震にも耐えた。もともと墳墓として建設されたが、儀礼のための用途に変更された。灌漑施設（カナート）も発達しているなど、周辺の資源にも恵まれ、大理石の産地でもあり、サーサーン朝の遺跡も豊富。
<p>エスファハーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イスラムとアケメネス朝の首都をつなぎ、多様な民族の生活や文化が楽しめる。こうした民族の経済発展やエンパワーメントに寄与する。シルクロードのテーマとも重なる。

出典：JICA調査団

テーマに沿って選定した上記の観光圏について、現地踏査により詳細な情報を収集し、地域ごとのポテンシャル及び課題の分析を行なった上で、将来的な JICA の協力プロジェクトの対象とする優先地域を選定する。優先地域の選定に係る評価に当たっては、以下のクライテリアに基づき評価を行う。

表 9-2：観光地域を選定する際の評価クライテリア

評価指標 Indicators	副指標 Sub-indicators	項目 Items
プログラム開発 Program Development	観光資源 Resource	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資源：世界遺産／National Heritage の数とその集客数、無形遺産／手工芸品等の種類とその質 ・ 博物館・資料館があるか ・ 特筆すべき潜在資源（数・質）
	観光インフラ Infrastructure	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホテル（星別数・ベッド数・従業員数） ・ レストラン（数・席数） ・ 旅行代理店等（数、従業員数等） ・ インフォメーションセンター（数）
	観光商品 Product	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源を活用したツアー・プログラムの状況（既商品・未商品） ・ 観光地のイメージが形成されているか
	観光人材育成 Human resource	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係省庁等による観光人材育成研修の実施の有無
マーケティング Marketing	アクセス Accessibility	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な都市からの交通手段（公共交通機関の有無、空港、道路、鉄道等の状況）・距離・時間 ・ 観光地域を構成する周辺観光資源へのアクセス道路の状態（良・悪、舗装・未舗装） ・ JICA の協力プロジェクト実施に向けた治安・安全面のリスク（高・低）
	需要 Demand	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入り込み現況（数・セグメント・トレンド） ・ 周辺観光地の需要内容（数・セグメント）
	プロモーション Promotion	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地プロモーション活動（パンフレット、Web サイト、等）の有無、概要
ステークホルダーの関与 Commitment of stakeholder	公的イニシアチブ Public initiative	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該観光地域を管理する ICHTO 地方支局の人員・体制・予算等
	官民協働 Private partnership	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の民間組織（業者組合、NPO、NGO、等）の有無、概要
	住民参加 Local Involvement	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光開発への住民参加レベル（高・低）
インパクト Impact	経済的インパクト Economic Impact	<p>現在の観光プログラムが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正：雇用創出や民間投資、産業創出等につながっている ・ 負：地価高騰、人件費高騰、格差拡大等を生み出している
	社会的インパクト Social Impact	<p>現在の観光プログラムが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正：遺産保全、伝統産業再興、誇り醸成等につながっている ・ 負：遺産価値喪失、文化の見世物化等を生み出している
フィジビリティ Feasibility	支援の妥当性 Relevance	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光開発の発展段階（プログラム開発・プログラム改善・マーケティング）における支援タイミングの妥当性 ・ 所得水準、貧困率、失業率、GRDP 等の社会経済開発に関わる統計
	支援効果 Effectiveness	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位計画・関連計画との整合性（イラン国のマーケティング戦略上のターゲットへの訴求、国家ブランド化への貢献等） ・ 他ドナー支援との相乗効果と棲み分け

出典：JICA調査団

(4) 評価対象地域の確定と概観

観光開発ポテンシャル調査の結果、テヘラン観光圏に分類されていたガズヴィーンは、タブリーズから遷都が行われたサファヴィー朝の第二の首都であり、市内にはシルクロードに関連する文化遺産が多数点在していることが分かった。

よって、ガズヴィーンについては、タブリーズ観光圏に含めた方が観光圏全体のイメージの強化に繋がることから、ガズヴィーンをタブリーズ観光圏に含めることとし、最終的に「アフワーズ」「シーラーズ」「タブリーズ」「ヤズド」「エスファハーン」五つの観光圏について評価を行なった（図 9-3 参照）。

五つの観光圏は、図 9-3 のように、それぞれの拠点都市と複数の観光地によって構成される。

3 章の類型分析に基づき、これらを概観すると、五つの観光圏には、エスファハーンやシーラーズのように多様な種類の資源を有するものと、ヤズドやアフワーズのように同類の観光資源で構成されるものがある。

多様な資源に基づく持続的な観光圏の管理の面からは前者が好ましいが、観光圏のブランド化には、後者のように、特定のイメージが強固に形成されることが有利に作用することもあり、前者においては総花的にならないブランド戦略が、後者においてはブランド確立後に、意識的に観光資源の多様化を図ることが重要となる。

また、ペルセポリスやパサルダガエ、チョガーザンビル等は、既に多くの観光客を集めている一方で、観光資源が地域コミュニティから隔離されている。そうした中、シューシュやビーシャプール等は、観光資源がコミュニティと近接しており、CBT 開発のポテンシャルは高いと言える。

観光開発による地域への経済的な裨益効果や、コミュニティによる遺跡マネジメント等の課題に対処するには、観光資源と地域コミュニティの関係にも配慮する必要がある。



凡例：● 考古遺産 ● 都市遺産 ● 伝統的集落・町並み遺産 ● キャラバンサライ

出典：JICA調査団

図 9-3：五つの観光圏の拠点都市と観光資源の分布

(5) 優先地域の選定に係る評価結果

観光開発ポテンシャル調査の結果に基づき、前述のクライテリアに従って、上記の五つの観光圏の「強み」と「弱み」を総合的に分析した。

五つの観光圏の「強み」と「弱み」をクライテリアに従って、総合的に分析した結果は、以下の表のとおり。

表 9-3：五つの観光圏の「強み」と「弱み」

テーマ	観光圏	評価根拠	
		強み+／弱み-	評価の視点
古代 オリент 文明回廊 Ancient Orient Civilization Corridor	アフワーズ	+現在、メソポタミア文明と同時代の関連遺跡群を現地で見ることのできる世界で唯一の観光地 +次々と発見・整備される無数の関連古代遺跡 +古代遺跡とリビングヘリテージの一体化 -猛暑による夏期の忌避（観光に適した期間は10-3月のみ） -イラク国境に近接しているため安全面で懸念 -陸路によるアクセスが悪い	↑ブランド化が未熟で未集客の超一級の遺産群 ↑国家ブランド化の拠点になるポテンシャル ↑ICHTO各支局、複数の地域NGOの官民協働による遺産価値周知、人材育成、観光商品開発の活動 ↓夏期の極端な客減
	シーラーズ	+超国際級の古代都市遺跡と関連遺跡からなるサテライト群 +砂漠のオアシス都市の代表（庭園、要塞等） -地域コミュニティとの関係が見えない／囲い込み型観光地のサテライト（Persepolis等）	↑世界遺産登録に向けたハード面の整備が済み、ソフト面（啓発教育、人材育成）に取組んでいる（ビージャブル） →成熟した観光業界（追加的な支援が必要か？） ↓メインの観光事業への支援ニーズは無い
シルク ロード The Silk Road	エスファハーン	+シルクロードに関連する有形・無形の多様な観光資源 +確立された歴史都市ブランドと成長都市イメージ -サテライトの非連続性、分散 -ホテルが圧倒的に不足	↑10年来の住民参加の取り組み（ナイーン市） →ハード面からの整備が必要（ナイーン市） →成熟した観光業界（追加的な支援が必要か？） ↓歴史的集落は整備済み（アーブヤーネ村） ↓周辺の多様なサテライトを支援しても拠点都市の巨大観光には波及効果が微少
	タブリーズ	+シルクロードを実感できる大バーザール（無形遺産） +古代から続くイランにとってのヨーロッパへの玄関口 -サテライトの非連続性、分散 -極寒による冬期の忌避（道路の閉鎖）	↑「Tabriz2018」に向け官民協働が盛り上がっている ↑多様な有形・無形、文化・自然の観光資源 ↓Tabrizとその他のサテライトとのストーリーの構築（ブランド・イメージ形成）が難しい
	ヤズド	+シルクロードを実感できるリビングヘリテージ（菓子）が有名）としての旧市街 +町並み、城、カナート、風探塔など古代都市の要素がコンパクトに揃う旧市街や集落群 +エコツーリズム・サテライト（自然遺産）との連携 -旧市街に車が入って危ない	↑同種のサテライト群による観光地のイメージの確立が効果的に可能 ↑集落景観のハード整備済のリビングヘリテージ（メイボッド） ↑CBT※開発支援やエコミュージアム支援が効果的

出典：JICA 調査団

その上で、日本の有する観光開発のノウハウ（マスタープラン策定、マーケティング、CBT開発など）を適用することにより、各地域のポテンシャルを活かすことのできる技術支援の内容を

検討し、期待できる支援効果を以下のように評価した。

表 9-4：優先地域の選定に係るJICA調査団による評価結果

テーマ	観光圏	優先地域選定の暫定評価 (現状調査より導かれた評価項目による)					合計点	レーダーチャート
		プログラム開発 Programme development	マーケティング Marketing	ステークホル ダーの関与 Commitment of stakeholder	インパクト Impact	フィジビリティ Feasibility		
古代 オリエント 文明回廊 Ancient Orient Civilization Corridor	アフワーズ	5	3	5	4	4	21	
	シーラーズ	3	4	3	4	4	18	
シルク ロード The Silk Road	エスファハーン	3	4	3	3	4	17	
	タブリーズ	4	4	4	5	4	21	
	ヤズド	5	4	5	5	5	24	

出典：JICA 調査団

1) 支援効果が低いと考えられる地域

ポテンシャル調査対象とした五つの観光圏の中で、支援効果が低いと判断できるのは、エスファハーンおよびシーラーズのイラン観光のゴールデンルートと呼ばれる地域である。その理由は、イラン観光のアイコンとして、既に多くの観光客を獲得できていること、また、民間が主導する観光産業も既に成熟し、官民連携も進んでおり、JICA の技術支援の対象地域としての優先度が低いことが本調査により判明したことによる。

特に、エスファハーンは、イランの主要な交通網の中心に位置し、イラン国内の陸路移動におけるハブとして既に機能しており、地域として支援効果が最も現れづらい地域である。また、文化遺産だけでなく、手工芸やエコツーリズムのアトラクションも充実し、既に周辺地域での宿泊滞在のオプションが整っていると共に、旅行代理店やインフォメーションセンター、ガイドといった観光インフラも数、質共に他の地域と比べ、充実している。

シーラーズは、イランで最も観光客を集める観光地の一つであるペルセポリスやパサルガダエ等の遺跡に関して、周辺コミュニティに観光開発による経済的な裨益効果が見られないという観光開発上の課題がある。一方、既にシーラーズとペルセポリスを結ぶ遺跡観光のための近郊鉄道の建設プロジェクトが進行中であり、数年内にシーラーズの市内及び空港から直接アクセスが可能になる。その結果、観光形態がさらに単純化すると予想されることから、現時点における周辺コミュニティへの支援は、必ずしも十分な効果に結びつかないと判断した。

また、シーラーズ市やペルセポリスを抱えるファールス州の ICHTO オフィスでは、シーラーズとエスファハーン間のゴールデンルート以外の地域の観光開発を計画しており、2018 年に

UNESCO 世界文化遺産に登録される予定のサーサーン朝の都市遺跡が残るビーシャプールについても、国際標準の世界遺産マネジメントプランに基づく観光開発や住民啓発プロジェクトがすでに進行しており、これらに加えて JICA の技術支援を行う優先度は低いと判断できる。

このように、これらの地域では既にイラン独自の観光開発が進んでおり、将来的な JICA による観光開発の支援効果は低いと判断した。

2) 支援効果が高いと考えられる地域

イラン観光のゴールデンルート上にありながら観光開発の発展途上にあるヤズドは、最も支援効果が期待される地域の一つであると考えられる。昨年、ヤズドの旧市街地が世界遺産登録され、観光客の入り込み数も加速度的に増加していることから、それに対応した技術支援が想定される。

日干しレンガ造の伝統的建造物群を有する街がヤズドの周辺地域に点在しており、その中には既に町並み整備が行われている観光地も含まれている。そのため、技術支援を行うことで、まとまった地域を対象とした「シルクロード」のイメージの確立が効果的であると考えられる。また、現代まで続く砂漠での生活様式が現れた伝統的建造物群の景観は、リビングヘリテージの特徴を有していることから、コミュニティ主体の観光（CBT）のコンセプトの下、歴史的建造物を活用した観光開発により、地域住民に対する経済的な高い裨益効果が期待できる。

また、UNESCO 世界文化遺産に登録されている伝統的なペルシア式カーナートや、風採り窓（バードギール）、鳩小屋など、半乾燥地域の生活環境と深く結びついた歴史的建造物は、ICHTO が力を入れている、自然要素と組み合わせたエコツーリズムの取り組みとも合致しており、周囲の自然環境も観光資源に含めたエコミュージアム支援の高い支援効果が期待できる。

もう一つのシルクロード上のポテンシャル地域であるタブリーズは、古代から続くヨーロッパとアジアの玄関口として、UNESCO 世界文化遺産に登録された世界最大のバザールを有し、多様な文化を体感できる地域である。

現在、OIC（Organization of Islamic Cooperation）により、2018 年の世界のイスラム観光の首都に選定されており、「Tabriz 2018」のイニシアチブの下、急速に官民協働の体制が整っており、DMO¹⁶の整備に向けた技術支援が想定される。

一方、多様な有形文化・無形文化・自然の観光資源を有するが、それらが広域に分散しているという課題があるため、拠点都市であるタブリーズと周辺地域に点在する観光資源を繋ぐストーリーの構築（ブランド化）に向けた観光開発マスタープランや、マーケティング戦略策定の支援が効果的である。

アフワーズは、「古代オリエント文明回廊」のテーマの下、高い支援効果が見込まれる。フーゼスタン州には、チョガーザンビルやシュージュなど、現在、メソポタミア文明と同時代の遺跡群を実際に見ることのできる世界で唯一の観光目的地として高いポテンシャルを有する。

¹⁶ DMO : Destination Management Organization の略。主に観光圏づくりの実施主体として、明確なコンセプトに基づいた観光圏づくりに向けた様々なステークホルダーを交えた連携及び調整を行う組織、法人を指す。

一方、フーゼスタン州は、地理的に他の観光地から隔絶しており、夏の猛暑、イラク国境に近接することによる治安上の問題、宿泊施設や道路等のインフラ整備も遅れているなど、大きなハンディキャップを抱えているため、これまでのところ、外国人観光客を対象とする主なツアールートには組込まれていない。

しかし、フーゼスタン州では、ICHTO 各支局、複数の地域 NGO の官民協働による遺産価値周知、人材育成、観光商品開発の活動が活発に行われており、地域全体を対象とした広域 DMO の整備に向けた技術支援が効果的であると考えられる。

また同州に位置するシューシュやシューシュタルでは、遺跡と地域コミュニティが立地的に近接している。シューシュタルの旧市街は、リビングヘリテージとしての高いポテンシャルを有している。地域全体の自然・食・生業全体を一つの文化的景観（Cultural Landscape）として捉えた観光開発支援や、シューシュタルを中心としたエコミュージアム支援など、ICHTO が進めるエコツーリズム開発の取り組みとの相乗効果が期待できる。

以上の理由から、JICA による最も高い支援効果が期待される優先地域としてヤズドを選定し、タブリーズ及びアフワーズをそれに続く候補として評価した。

同評価結果に基づき、ICHTO 内に諮った結果、ICHTO からは、タブリーズを優先地域として選定する旨の方針が示され、併せて以下のコメントがあった。

- ① タブリーズは、「Tabriz 2018」の下、JICA のプロジェクトを実施することにより相乗効果が期待できる。
- ② ゴールドトライアングル（エスファハーン、シーラーズ、ヤズド）は、既に観光客が増加しており、イラン側でも既に取り組みを始めているため、JICA 支援の優先度は相対的に低いと判断できる。
- ③ 日本国政府外務省が規定する安全基準を考慮し、支援実施にリスクが伴うフーゼンスタン州の優先順位を下げた。

上記の ICHTO からのコメントおよびその根拠となる追加情報を改めて評価結果に反映し、タブリーズの「ステークホルダーの関与」及び「フィジビリティ」の評価点を上げた。

具体的には、ゴールドトライアングルに対する政府の手厚い支援に比べ、タブリーズとその周辺地域では支援が遅れており、「Tabriz 2018」を契機とした観光による地域経済の浮揚のための課題解決に向け、JICA からの支援が切望されており、支援効果が非常に高いと判断できた。また、タブリーズ地域に国境を接するトルコとアゼルバイジャンもこの隣接エリアの観光に力を入れており、この三つの国の共同による観光開発を進める視点をイラン政府が重視し、この地域の観光開発支援の必要性が極めて高いことが判明した。

また、ヤズドについては、政府による支援の方針や具体的な計画があること示され、支援に向けたニーズが低いという理由から「マーケティング」、「ステークホルダーの関与」、及び「インパクト」の評価を下げた。さらに、アフワーズの「フィジビリティ」の評価点を治安上の理由から下げた。このように評価結果を改訂し、最終的にタブリーズを優先地域とした。

表 9-5：優先地域の選定に係るICHTOのコメントを反映した評価結果

テーマ	観光圏	優先地域選定の暫定評価 (現状調査より導かれた評価項目による)					合計点	レーダーチャート
		プログラム開発 Programme development	マーケティング Marketing	ステークホル ダーの関与 Commitment of stakeholder	インパクト Impact	フィジビリティ Feasibility		
古代 オリエント 文明回廊 Ancient Orient Civilization Corridor	アフワーズ	5	3	5	4	3	20	
	シーラーズ	3	4	3	4	4	18	
シルク ロード The Silk Road	エスファハーン	3	4	3	3	4	17	
	タブリーズ	4	4	5	5	5	23	
	ヤズド	5	3	4	4	5	21	

出典：JICA 調査団

(6) タブリーズ及びその周辺地域における課題の分析

1) 観光産業の課題

タブリーズを含む東アゼルバイジャン州には、年間 400 万人の国内旅行者と 45 万人の外国人観光客が訪れている。しかし、その多くは夏の数ヶ月に限られ、ハイシーズンとオフシーズンの季節変動の平準化が課題となっており、オフシーズンに旅行者を誘致しビジネスの平準化を図るための観光商品造成が必要である。リピーターを増やすためには、国際水準を満たす観光サービスの質の向上も課題として挙げられる。

観光セクターに従事する業種別の具体的な課題は、以下のとおり。

① 旅行代理店／ツアーオペレーター

東アゼルバイジャン州全体で 225 社の旅行代理店がある。タブリーズには 147 社あり、そのうち 10 社がインバウンド専門のツアーオペレーターである。

これまでタブリーズのツアーオペレーターは、ドイツやトルコの国際旅行展に出展したり、FAM ツアーを実施したりするなど、独自の活動も実施している。

他方、タブリーズ及び周辺地域への多くの外国人観光客の送客をテヘランやシーラーズに本拠地を置くツアーオペレーターに頼っており、これらのツアーオペレーターは、タブリーズ及び周辺地域での観光や滞在をメインにしたツアー商品の造成を重視しない傾向にある。将来的にタブリーズ及び周辺地域へ外国人観光客を誘致するためには、テヘランやシーラーズに本拠地を置く大手のツアーオペレーターではなく、タブリーズを拠点とするツアーオペレーターが、直接海外から外国人観光客を誘致することが望ましい。

海外の旅行会社との取引を増やすためには、ツアーオペレーターが、サービス全体の質を向上させる（顧客の意向をくみ取った旅程が組める、手配内容が確実である、見積もりが優位である、緊急時の対応に優れている等）必要がある。つまり、対外的な営業力、サプライヤーとの関係構築、手配力、コミュニケーション力といった、ツアーオペレーターの総合的な能力強化が必要である。

前述のとおり、オフシーズンに観光客を誘致するための観光商品の造成、及び海外の取引先に対するこれら商品の販売も、ツアーオペレーターの重要な役割である。観光商品造成は、地域の観光産業事業者、タブリーズと周辺地域の観光協会、並びに NGO 等との広域連携が必要である。また、開発した商品が市場に浸透するまで提案を続ける地道な活動も必要である。

② ホテル

タブリーズには五つ星ホテルが 3 軒、四つ星ホテルが 4 軒、三つ星ホテルが 3 軒、二つ星ホテルが 15 軒、一つ星ホテルが 7 軒ある。その他、アパートメントホテルが 25 軒あり、キャンドヴァーンには洞窟住居を改装したホテルが 1 軒ある。これらホテルの格付けは、ICHTO が定めた基準の下、東アゼルバイジャン州のホテル組合が審査を行っている。現在、東アゼルバイジャン州では、外資系ホテルの誘致を行なっており、5 年間を期限に法人税の優遇を受けることができる。

一方、イランでは海外送金が規制されていることもあり、銀行口座を通した海外との決済ができないことから、ホテルの多くがイラン国内の旅行代理店を通した送客に頼っている。タブリーズのホテル占有率が、ハイシーズンを除き 20% と極端に低い要因の一つとして、こうした旅行代理店からの送客に依存していることが考えられる。



③ レストラン

タブリーズ市内には 420 軒のレストランがあり、東アゼルバイジャン州全体では 750 軒ある。そのうち、Food Industry Association of East Azerbaijan に登録しているレストランは 260 軒となっている。タブリーズとその周辺地域は、ヨーロッパとアジアを繋ぐシルクロードの玄関口として古くから多様な文化が交錯してきたことから、食文化も多様である。しかし、このような多様な食文化については、現在、一般的にあまり知られていない。レストランは、単に食事を提供するに留まらず郷土料理の体験型プログラムの造成や、郷土料理をメニューに入れるなどの工夫が考えられる。さらに、「食」をテーマにした食べ歩きマップ等を制作し、観光客に同地域の食文化を積極的にアピールしていくことも必要である。

			
タブリーズの郷土料理 クフテ	パティスリー（タブリーズ）	デザインされた袋に入るカ トラリー （ガスヴィーン）	設置が義務付けられている子 供用の椅子 （タブリーズのレストラン）

④ ショップ／土産物店・手工芸品

タブリーズは絨毯の生産地として世界的に有名であり、WCC（World Crafts Council）で国際絨毯都市として登録されている。他にもタブリーズには、手工芸に関する90程度の工房があり、約10,000名が手工芸セクターに従事している。また、タブリーズは職人の街とも言われ、とりわけ手作りの靴は、イラン人が「タブリーズに行ったら靴を買う」と言うほど人気が高い。その他にもタブリーズは、銀細工、陶器、革製品など、様々な手工芸品の産地となっている。

手工芸品は地域の観光資源として重要な位置を占めると共に、販売が促進されれば地域における経済的な裨益効果も高い。海外市場での販売を促進するためには、伝統工法を守りながらも市場の嗜好に合致したデザインや大きさに改良するなどの検討も必要である。

			
手作り靴の職人 （タブリーズ）	絨毯の補修職人 （タブリーズ）	地域外で生産された土産品 （キャンドヴァーン村）	土産物店が分からない店 （キャンドヴァーン村）

⑤ ガイド

東アゼルバイジャン州には400名のガイドがおり、民間のガイド協会である *Anjoman Senfi Guide*（英語名：Tabriz Tourist Guide Association）によると、水準が高いガイドと位置付けられるのはその中でも10名しかいないとのことである。対応可能な言語は、英語、フランス語、ドイツ語、トルコ語の他、中国語に対応できるガイドも1名いる。

同協会によると、ガイド全般の課題として、外国人旅行者に対する接客マナーや服装の改善など、ガイドの質の向上が課題となっている。また、経験を積んだガイドに依頼が集中しており、新人ガイドに仕事が回らず、雇用機会の提供も課題である。

一方、ガイド協会が定める報酬が規定通りツアーオペレーターからガイドに支払われないなど、ツアーオペレーターによるガイドの待遇改善も喫緊の課題である。

⑥ TIC

タブリーズにはICHTOによる管轄の下、23のTICがあり、空港や駅などには4つの常駐オフィスがある。また、ハイシーズンのみオープンする仮設のTICが15ヶ所ある。タブリーズのバ

ーザールにある TIC の一つは、8ヶ国語を話せる係員が常駐しており、地図や観光情報を提供している。

地域全体の観光振興を推進するためには、旅行者の窓口となる TIC の機能強化を図ることが重要である。そのためには、どこの TIC のいずれの係員であっても観光客に対し、周辺観光地の必要な情報を提供できるよう TIC のサービスの標準化と係員の能力向上を図る必要がある。



⑦ 交通機関

(a) 空港

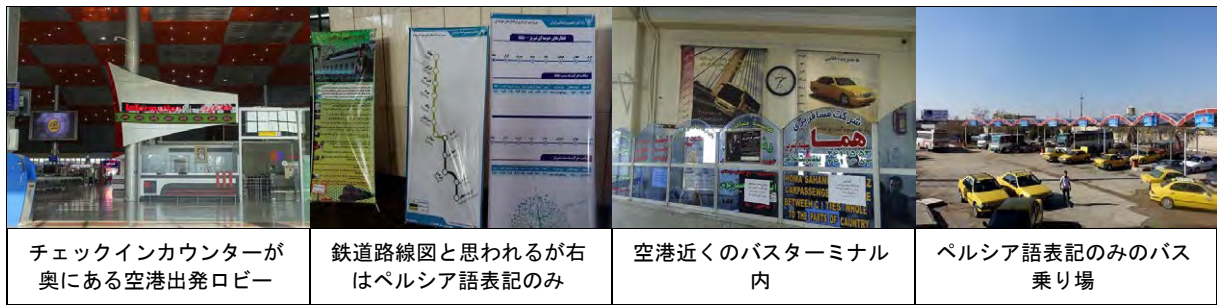
タブリーズには国際空港があり、イスタンブールやハンブルグとの定期国際便が就航しており、イランにおける北の玄関口となっている。国内線はタブリーズとテヘランやシーラーズ間で定期便が就航している。空港ターミナル内の基本的な表示はペルシア語と英語が併記されているものの、チェックインカウンターから搭乗ゲートに続く動線が分かり難い上に、搭乗アナウンスも分かり難い。また、空港ターミナル内では無料 WiFi のサービスはなく、イランのインターネットが使用できる SIM を持っていることが条件となっている。外国人観光客の利便性を高めるためには、チェックインカウンターにおける搭乗ゲートまでの案内標識の設置や、無料 WiFi の導入などソフト及びハード面での改善を検討する必要がある。

(b) 鉄道

鉄道はタブリーズとテヘラン、マシュハドを結ぶ路線があり、どちらも1日2便が運行されている。また、ジョージア、イラク、アゼルバイジャンとの定期国際便が運行しており、現在モスクワとの路線が準備中である。タブリーズ駅の基本的な表示はペルシア語と英語が併記されているものの、英語の時刻表は無い。ガズヴィーン、ザンジャン、マラーゲ、ジョルファといった、対象地域内の他の都市も鉄道路線上にあり、個人旅行者に、これら周辺地域に鉄道で訪問してもらうためには、玄関口であるタブリーズ駅のインフォメーションブースに TIC としての機能を付加する必要があると共に、周辺地域の観光地を紹介する冊子や地図など、英語版のパンフレットの設置や、英語対応の係員を配置するなど、観光客の利便性の向上を図る必要がある。

(c) バス

タブリーズ市内には長距離バスターミナルが数ヶ所あり、空港に近いバスターミナルでは、ペルシア語表記がほとんどであり、英語表記の整備は最低限必要であると考えられる。また、海外の個人旅行者向けには、英語版の路線図や時刻表などを整備することも必要である。



2) 観光地開発の課題

① 観光目的地のブランド化

タブリーズは、15世紀に興ったサファヴィー朝の最初の首都となった他、タブリーズ及びその周辺地域のシルクロードの街道沿いには、サーサーン朝時代のゾロアスター教の聖地であるタフテ・ソレイマーンを始めとし、歴代のイスラム王朝の首都が置かれたマラーゲ、スルタニエ、ガズヴィーンなどの都市の他、アルメニア使徒教会の修道院、原始キリスト教の一派であるネストリウス派キリスト教徒のアッシリア人教会など、シルクロードを介した多様な文化の交流を示す観光資源が多数点在する。特に、タブリーズは、古くからシルクロードのヨーロッパとアジアの玄関口として発展し、シルクロード貿易の取引品の商品の場となったタブリーズのバーザールの歴史的複合施設は、UNESCO 世界遺産に登録されている。



出典：JICA 調査団

図 9-4：タブリーズ観光圏の主な文化遺産

シルクロードの旧街道は、現在もイランとトルコ、アルメニア、及びアゼルバイジャンを結ぶ幹線道路として利用されており、盛んな国境貿易が行われている。また、タブリーズの伝統工芸品である絨毯は、ペルシア絨毯を代表するブランドとして世界的に有名であり、シルクロードの歴史・文化と深く結びついている。

このように、タブリーズとその周辺地域は、シルクロードの歴史に触れることのできる文化遺産が世界で最も多く残る地域であり、シルクロードを介して伝わったイランの歴史・文化の多様性を理解する上で欠かすことのできない格好の観光目的地である。

他方、タブリーズとその周辺地域の観光地は、五つの州にまたがる広い範囲に点在していることにより、これまで、州を横断した観光開発は行われてきていない。その結果、観光開発の高いポテンシャルを有するにもかかわらず、国際的な観光市場における知名度は低い地位に留まっており、シルクロードをテーマとする観光目的地としてのブランドも確立できていない。

② 観光商品

観光圏内の観光地を巡る拠点となるタブリーズは、イスラム協力機構（OIC）により、2018年の世界のイスラム観光の首都に選定され、現在、「Tabriz 2018」の下、観光地ごとの英語パンフレット等の観光資料の整備や、新規観光ルートの開発など、活発な観光商品開発に関わる活動が実施されている。

また、タブリーズが属する東アゼルバイジャン州は、21の郡に分かれ、州都のタブリーズとそれらを繋ぐ五つの代表的なツアールートが開発されている。特に、タブリーズの気候は、夏でも比較的過ごしやすいため、南部の暑い地域から国内観光客が避暑のために訪れることが多い。

タブリーズ周辺には、洞窟住居が独特の景観を形成するキャンドヴァーン村や、標高 3,700m のサハンド山、アゼルバイジャン国境のアラス川渓谷など豊かな自然資源を有し、エコツーリズムも盛んである。また、近年では、遊牧民のテントを利用した民泊施設（ブームギャルディー）の開発も進められている。

特に、キャンドヴァーン村は、石灰岩質の岩山に集落が築かれる以前の集落跡が隣接する地域で発掘されている他、国内でも評判の高いナッツや肉類などを産する周囲の豊かな農村風景も非常に魅力的であり、食や手工芸等の地域の観光資源を含めた保養地として、CBT 開発の高いポテンシャルを秘めている。

しかし、外国人観光客を対象とするテヘランからタブリーズ方面を周るツアーは、UNESCO 世界遺産のスルタニエドーム、タフテ・ソレイマーン、キャンドヴァーン村、タブリーズのバーザールを 2 泊 3 日程度で周る商品が主であり、タブリーズを拠点とする着地型の観光は、国際的な観光市場において必ずしも根付いていない。



③ 文化遺産管理体制

第4章に記載のとおり、イラン国内の主な歴史的建造物は、国指定文化財に登録されており、ICHTOにより管理が行われている。また、イランでは、既に一定のPPPの制度が確立しており、国有資産の歴史的建造物を、民間事業者がホテルやレストラン等に改修する際は、BOTやコンセッション契約の下、民間投資を活用した歴史的建造物の保存・修復を行なっている例も多数見られる。また、民間財団の寄付金とICHTOの予算を組み合わせた歴史的建造物の保存・修復プロジェクトも見られる。

他方、ICHTOの監理の下で保存・修復が行われた歴史的建造物についても、修復の際に外構、外壁、建具等に工業製品の新建材や、工業塗料による塗装など、本来の建築様式には無かった装飾的な要素が多用されており、多くの建築物で歴史的建造物としてのアイデンティティーが既に失われている。技術的に不適切な修復事例は、現地調査を行なったイラン全土のほぼ全ての地域に認められた。

また、キャンドヴァーン村は、トルコの Cappadocia 等と比較しても、規模が小さく、ハイシーズンの観光客数は、既に受け入れ可能なキャパシティを超過している。

このように、近年、経済成長により観光開発が加速しているイランにおいては、歴史的建造物の価値が失われるのは時間の問題であり、早急に文化遺産管理体制を見直す必要がある。



④ 住民参加

タブリーズやガズヴィーンなどの歴史的な都市の民間資産の歴史的建造物は、国指定文化財への登録を拒否し、裁判にまで発展するケースもあり、民間資産の歴史的建造物が次々に姿を消しつつある。

また、UNESCOの世界文化遺産の暫定リストに登録され、正式登録を目指している、182世帯、人口750人のキャンドヴァーン村では、不便な歴史地区の洞窟住居を離れ、現代的な生活様式を求める住民によるレンガ造の現代的な住宅地が歴史地区の前面に広がっており、歴史地区の景観を著しく損ねている。

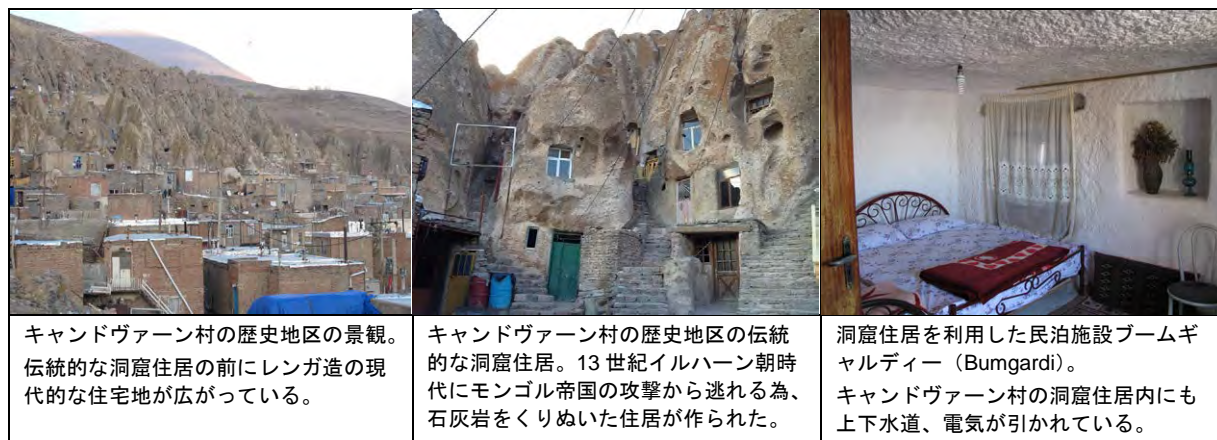
これに対して、ICHTOは、キャンドヴァーン村を世界遺産の国内暫定リストに掲載した上で、

ICOMOS からの指導に従い、既にキャンドヴァーン村の現代的な建造物を歴史地区の外に移設する手続きを進めている。

また、キャンドヴァーン村には、ICHTO が把握しているだけでも村民が伝統的な洞窟住居を利用して営業を行なっている民泊施設であるブームギャルディーが 35 軒ある。ブームギャルディーの開業に当たっては、ICHTO が審査を行い、基準を満たした施設に対して「エコツーリズム認定証」を発行しているものの、既に開業している民泊施設には基準を満たしていないものも多く、ICHTO の認定審査そのものを拒否している事例もある。

このような状況に対し、ICHTO では、キャンドヴァーン村の CBET (Community Based Ecotourism) の開発計画を策定すると共に、キャンドヴァーン村の住民を対象にした観光客の受け入れ及び観光開発に向けた活動として、月 1 回のカスタマー・リレーション・マネージメント (CRM) の研修を行っている他、月に 2-3 回の住民を交えた定例会議を開催し、定期的にキャンドヴァーン村の住民に対し、啓発活動を行っている。

歴史的建造物の所有者に何らかの裨益がない限り、民間資産の歴史的建造物を国指定文化財として登録し、保全することは困難であるため、観光開発による裨益を住民が享受する仕組みを作ると共に、保全の意義への理解を促す住民に対する啓発活動を引き続き行い、歴史的建造物の保全が住民にとって長期的にメリットに繋がるような住民参加による観光開発を進め、観光資源の保全を図る必要がある。



⑤ 観光開発支援に向けて

タブリーズ観光圏を優先地域に選定した後、第三次現地調査で実施したタブリーズ市長との意見交換において、今後の当該地域への観光開発支援の方向性を考える上で重要な示唆があった。

タブリーズを中心とするこの地域は、歴史的にヨーロッパとアジアの玄関口となり、ペルシアを代表する交易都市として発展し続けてきた。

しかし、グローバル化する世界の中で、交易都市としての相対的な地位は既に低下し、伝統的な交易都市としてのスタイルを守るだけでは都市の経営も立ち行かなくなりつつある。

これまで、観光開発に積極的に取り組んでこなかったものの、これからは、観光圏のブランド化やマーケティング戦略の策定を通じた観光開発がタブリーズの商業の発展のためにも不可欠である。

タブリーズとその周辺には潜在的な観光資源やストーリーが豊富にあり、まさに宝の山であることから、今後は観光開発に意識的に取り組みたい。

－2018年1月21日 タブリーズ市長室にて－

実際に、タブリーズ市は、市内の旧市街及び歴史的建造物の整備や、郊外の都市遺跡の観光資源化に取り組み始めている。（三宅理一教授（藤女子大、建築史学）を中心とする研究グループからの支援含む）

特に、UNESCO の世界文化遺産に登録されているタブリーズのバーザールの歴史的複合施設は、現在も観光地化されていない生きた遺産として市民に利用されており、リビングヘリテージを体現している。また、タブリーズを代表する世界的に有名な伝統工芸品の一つであるペルシア絨毯の工場見学ツアーなども催行されており、シルクロードのテーマの下、地域の様々な無形文化遺産を観光開発とリンクさせることにより、観光資源として開発することが可能である。

タブリーズ観光圏の観光開発支援に向けては、まず、タブリーズやガズヴィーン等の拠点都市のブランド化やホテル等のインフラ整備を重点的に進めることによって観光客の誘致を図りつつ、観光客を拠点都市から周辺の観光地に段階的に誘導する戦略が合理的である。

特に、タブリーズ観光圏においては、タブリーズを訪れるビジネス客を観光客として周辺の観光地に誘致する戦略と、シルクロードをテーマとする観光圏のブランド化によって新たな観光客を誘致する戦略を同時並行的に展開することが有効である。



現在も商取引の場として市民に利用されているタブリーズのバーザールの歴史的複合施設（UNESCO 世界遺産）



ペルシア絨毯のアトリエの様子（タブリーズ市内）



テヘランの絨毯博物館に展示されているアンティークのタブリーズ産のペルシア絨毯。スルタニエドーム、キャラバンサライ、タブリーズの伝統的な田園住宅などシルクロードに関連する建築物や風俗等が描かれている。

10. 将来的な JICA の協力の方向性の提案

(1) 本調査の成果と協力案の提案の関係整理

本調査の成果として、第 8 章でイランの観光セクター全般の観光開発に向けた課題の設定を行ない、第 9 章において、それら課題を踏まえた五つの観光圏に対する調査および評価結果を示した上で、ICHTO との協議を通じて開発支援効果の最も高い優先地域として、タブリーズ及びその周辺地域が選定された経緯を示した。

将来的な JICA の協力の方向性の提案に当たっては、まず、① 第 8 章に示した課題の解決に向けた JICA による支援に留まらない全般的な支援案を示す。その上で、②タブリーズ及びその周辺地域に対するマスタープラン策定支援を短期的に実施する協力案を提案する。タブリーズ及びその周辺地域は、五つの州に跨る広域の観光圏であり、かつてのシルクロード沿いに点在する多様な文化を背景にした文化遺産は、国際競争力の点から見ても十分なポテンシャルを有すると共に、道路・公共交通等のインフラや宿泊施設、レストラン等の観光インフラも一定の水準で整備されている。また、現地ガイド等の観光人材の育成も一定程度進んでいる。

しかし、同地域は、これまで国際的な観光目的地として認知されるだけのブランドの確立には至っておらず、季節変動の影響によりオフシーズンのホテルの稼働率が著しく低いなど、様々な課題を抱えている。

また、一言で観光地や観光資源といっても、遺跡や旧市街、山間部の単体の建築遺産や伝統的建造物群、祭や食事、伝統工芸品などの無形文化遺産など様々な形態がある。さらに、観光資源と地域社会との関係も様々である。

よって、同地域の観光開発に当たっては、まず、こうした広域に点在する様々な観光地を束ねる一つの明確なブランドイメージを確立し、同イメージの下、個々の観光地が魅力を発揮できるような「観光開発ビジョン」を描く必要がある。

次に、同地域の様々な観光地の中からパイロット・プロジェクトの対象とする複数の観光地を抽出し、エコツーリズムやエコミュージアム等の開発手法を導入した上でその効果を検証し、持続可能な観光開発に向けた「地域マネジメント計画」を策定する。

その上で、観光地と拠点都市をつなぐ広域周遊ルートの商品化し、国内外のマーケットに繋ぐ「マーケティング戦略」を策定することで、上記の課題の解決を図ることができる。

以上から、優先地域に選定されたタブリーズ及びその周辺地域の課題解決に向けては、「観光開発ビジョン」、「地域マネジメント計画」、「マーケティング戦略」の策定を三つの柱とする「観光開発マスタープラン（仮称）」の策定を提案する。

(2) 全般的な協力案

前述のとおり、イランでは、観光産業全体の質の担保が喫緊の課題である。また、観光開発の基本となる観光統計の整備も不十分である。さらに、文化遺産を主軸とするイランの観光開発に向けた国家レベルの開発計画やマスタープランなど、政策的な枠組みが存在しておらず、また、

観光資源の保全・管理体制にも課題を抱えている。

よって、以下にイランの観光セクター全体の政策制度改善に係る支援案から、持続可能な観光開発体制の構築に資する支援案までを提案する。

1) イランの観光産業の課題の解決に向けた支援案

イランの観光産業の課題の解決に向けた支援案のロングリストは、表 10-1 のとおり。

これらの支援案は、特定の地域にだけに当てはまるものでなく、イラン全体の観光産業に関わる政策制度改善を支援するものであるため、JICA による支援に当たっては、「専門家」や「シニアボランティア」等を ICHTO や国家統計局等の省庁へ個別に派遣することを想定している。

表 10-1：イランの観光産業に関わる政策制度改善に向けた支援案

	支援案	支援対象機関
①	観光サービスの質の向上に向けた支援	大学観光学科、観光学校、専門学校、等
②	旅行代理店の質の向上に向けた支援	ICHTO、イランツアーオペレーター協会、等
③	ホテル業の生産性の向上に向けた支援	大学観光学科、ホテル学校、専門学校、ICHTO、ホテル業組合、等
④	外資系ホテルの誘致に向けた支援	ICHTO、経済・財政省、産業・鉱山・貿易省、等
⑤	観光地振興・活性化ファンドの創設に向けた支援	ICHTO、経済・財政省、産業・鉱山・貿易省、等
⑥	観光統計の整備に向けた支援	ICHTO、国家統計局、等

出典：JICA調査団

協力案ごとの具体的な内容については、下記のとおり。

① 観光サービスの質の向上に向けた支援

観光産業の質の格差を是正し、一定以上の水準のサービス提供を目的として、ホテル、レストラン、ガイド、TIC などをはじめとするイランの観光産業に対して定期的な研修の義務化の導入を行うもの。

② 旅行代理店の質の向上に向けた支援

ICHTO や旅行代理店組合であるイランツアーオペレーター協会が問題のある旅行代理店を適切に指導、管理できる体制の構築を支援するもの。

③ ホテル業の生産性の向上に向けた支援

ホテルや業界団体が提供するウェブサイトの英語表記や観光情報の充実、ブームギャルディーの経営改善等によりホテル業全体の質の向上と活性化を図るもの。

④ 外資系ホテルの誘致に向けた支援

ハイエンド層の外国人観光客のニーズに応えるホテルを提供すると共に、イラン国内のホテル業全体の競争促進と国際的な水準に基づくサービス品質の向上を目的に経済特区制度や優遇税制の活用により外資系ホテルの誘致を図るもの。

経済制裁の解除によるドル建ての外貨決済、海外からの銀行送金や、クレジットカード決済等が利用できるようになることが支援の前提条件である。

⑤ 観光地振興・活性化ファンドの創設に向けた支援

民間投資を含む官民連携によるファンドスキームの設立及び事業計画策定を支援し、民間投資の活用により歴史的な建造物や町並みの再生を行うことにより、新たな観光需要を喚起し、地域経済の活性化に繋げるもの。

⑥ 観光統計の整備に向けた支援

統計データに基づく科学的なマーケティング手法の導入に向け、季節変動、地域変動を始めとした基本的な観光統計データを収集・分析すると同時に、国家統計局及び ICHTO に対し、統計観光統計の整備に向けた支援を行うもの。

2) イランの観光地開発の課題の解決に向けた支援案

イランの観光地開発の課題の解決に向けた支援案のロングリストは、表 10-2 のとおり。

本支援案は、「シルクロード」と「古代オリエン特文明回廊」の二つのテーマの下、イランの観光を代表する五つの観光圏を対象とする一連の支援案の実施により、イラン観光のブランドを確立すると共に、イランを訪れる観光客の数を増やし、もって、イラン政府が策定する第 6 次五ヶ年計画（2016 - 2020 年）に掲げる「GDP」、「外交」、「雇用創出」「内需拡大」の四つの目標の達成と、「2020 年までにインバウンド客を 800 万人へと増大させ、40 億ドルの外貨収入を獲得する」とする観光に関する目標の達成に貢献するものである。

表 10-2：イランの観光地開発の課題解決に向けた支援案

観光圏	拠点都市	主な観光地 (拠点都市からの所要時間)	支援案
テーマ①：古代オリエン特文明回廊			
アフワーズ (世界遺産チョガーザンビル、シューシュ、シューシュタルとその周辺地域)	アフワーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ チョガーザンビル (2.0h) ・ ハフトタッペ (2.0h) ・ シューシュ (1.5h) ・ シューシュタル (1.5h) ・ デズフル (2.0h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代オリエン特文明回廊のテーマ下での観光開発マスタープラン ・ マーケティング支援 ・ 広域 DMO 整備支援 ・ エコミュージアム支援（自然・食・生業を要素とする文化的景観整備支援、ICT整備、ガイド養成、サイン等観光インフラ整備）
シーラーズ (世界遺産シーラーズ、ペルセポリス、パサルガダエとその周辺地域)	シーラーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ パサルガダエ (2.0h) ・ ペルセポリス (1.0h) ・ ビーシャプール (2.0h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存地域ブランドを活かした遺跡と地域コミュニティをつなぐ観光開発マスタープラン策定 ・ エコミュージアム開発支援 ・ 拠点都市郊外におけるブームギャルディ一開発支援

観光圏	拠点都市	主な観光地 (拠点都市からの所要時間)	支援案
テーマ②：シルクロード			
タブリーズ	タブリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スルタニエ (3.0h) ・ ガズヴィーン (4.5h) ・ キヤンドヴァーン村 (1.0h) ・ タフテ・ソレイマーン (4.0h) ・ マラーゲ (2.0h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルクロードのテーマ下での観光開発マスタープラン ・ マーケティング支援 ・ タブリーズを核とする広域 DMO/地域 DMO (旧市街、キヤンドヴァーンなど) 整備支援 ・ サテライト候補地における CBT 支援
ヤズド	ヤズド	<ul style="list-style-type: none"> ・ メイボッド (0.5h) ・ メフリーズ (0.5h) ・ サルヤズド (0.5h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルクロードのテーマ下での観光開発マスタープラン ・ マーケティング支援 ・ 広域 DMO/地域 DMO (ヤズド旧市街、メイボット等) 整備支援 ・ エコミュージアム支援 (ICT 整備、ガイド等人材養成、サイン等観光インフラ整備)
エスファハーン	エスファハーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーシャーン (2.0h) ・ アーブヤーネ村 (2.5h) ・ ナーイーン (2.5h) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルクロードのテーマ下での既存地域ブランドを生かした、サテライト候補地 (カーシャーン、アーブヤーネ村等) におけるエコミュージアム開発 ・ 地域 DMO 組織整備支援

出典：JICA調査団

五つの観光圏を対象とした協力案に示した支援を行う際に共通するアプローチは、以下のとおり。

① イラン観光のブランド形成に向けた観光開発マスタープランの策定支援

「シルクロード」と「古代オリエント文明回廊」の二つのテーマの下、五つの観光圏をつなぐ広域ルートの提案、及び国際観光市場に向けたイラン観光のブランド形成を行うもの。

古代オリエント文明回廊のテーマ下では、既にイラン観光のアイコンの一つとしてブランドが確立されているペルセポリスやパサルガダエを含むシーラーズ周辺から、2018年に世界遺産登録が予定されているビーシャプールを經由してアフワーズに至る広域ルートの観光開発マスタープランの策定支援を行う。

また、シルクロードのテーマ下では、イラン観光ゴールデンルートであるシーラーズ～ヤズド～エスファハーンから、テヘランを經由し、タブリーズまでを繋ぐ広域ルートでの観光開発マスタープランの策定支援を行う。

こうした新たな観光ルートの整備によって、現在の国内観光の季節変動の平準化や地域間格差

の是正等に繋がるだけでなく、イラン観光のプロモーションによって、イランに対する風評被害の改善や、イラン政府の外交的イメージの改善にも繋げることができる。

② 国際観光市場へのマーケティング戦略策定支援

マーケティングを通じて文化遺産や自然を観光のターゲットとなるセグメント(国籍、年齢層、等)を、明らかにした上で、マーケティング戦略策定支援を行う。

アメリカ人、ドイツ人、フランス人といった欧米からのシニア層の観光客、中国人、日本人などの非イスラム圏のアジアからの観光客は、主に文化遺産の観光を目的にイランを訪れている。他方、同じアメリカ人であっても、20代から30代の世代や、オーストラリア人の観光客は、イランの砂漠などの自然を目的にイランを訪れている。

③ 広域ルートを繋ぐ観光目的地ごとのDMO組織の整備と連携構築に向けた支援

五つの観光圏において、拠点都市を中心とする広域 DMO および各観光地における地域 DMO の組織整備への支援を行うもの。

それにより、民間セクターや地域コミュニティも含めた官民連携の下、持続可能な観光開発体制を構築し、観光開発による裨益効果を地域全体に展開することが可能となると共に、他の観光圏の広域 DMO との連携により、国際観光市場に向けたイラン観光のブランドの構築や、マーケティング・プロモーションが効果的に進められる。

④ エコミュージアムや文化的景観の概念に基づく面的な観光目的地の開発に向けた支援

五つの観光圏を対象とするエコミュージアムや文化的景観整備の支援を行うもの。

観光圏内の世界的なポテンシャルを有する複数の文化遺産を繋ぎ、さらに地域コミュニティの生活文化と結びつけたエコミュージアムや文化的景観として整備することで、リビングヘリテージの開発が可能になる。

リビングヘリテージの開発に当たっては、現在、イラン政府が進めている、文化遺産と自然資源を組み合わせたエコツーリズムやブームギャルディーの開発と併せ、TIC 整備、ガイド等の人材育成、サイン等の観光インフラ整備を一体的に進めることで、インバウンド観光客数の増加を図ると共に、地域住民の雇用創出を増大し、観光開発による経済的な裨益効果が地域住民にも及ぶような仕組みづくりを支援する。

(3) 短期的に実施する協力案

本調査により優先地域に選定されたタブリーズ及びその周辺地域を対象とする観光圏マスタープラン策定プロジェクトを以下の通り提案する。

プロジェクト名	イラン国 タブリーズ観光圏マスタープラン策定プロジェクト
---------	------------------------------

1) プロジェクトの背景

イラン・イスラム共和国(以下、イラン)の歴史は、紀元前メソポタミア文明に遡り、ペルシア帝国、イスラム帝国など各時代の歴史を反映した 21 件の文化遺産と 1 件の自然遺産が、UNESCO 世界遺産に登録されている。イランを訪れる外国人観光客数は、2010 年は 293 万人、

2013年は476万人、2015年は523万人と年々増加している。イランのGDPに占めるサービスセクターの割合は、2015年には55.4%となっており、そのうちホテル、レストランなどの観光産業のシェアは、20%強を占め、サービスセクターの就業者数は、全就業人口の50%弱を占める。

一方、イランでは、高い失業率の改善が喫緊の課題となっており、近年は、10%以上で高止まりしている状況である。

このような状況の下、イラン政府は、第6次五ヶ年計画（2016 - 2020年）を策定し、観光に関しては「GDP」「外交」「雇用創出」「内需拡大」の四つの目標を掲げ、イランを訪れる外国人観光客数を、2020年までに800万人に増やす計画である。

上記のように豊かな観光資源を有するイランの中でも、タブリーズ及びその周辺地域のかつてのシルクロードの街道沿いには、UNESCO世界遺産に登録されたタブリーズのバーザールやサーサーン朝時代のゾロアスター教の聖地であるタフテ・ソレイマーン、アルメニア使徒教会の修道院など、シルクロード交易がもたらした多様な文化の繁栄を今日に伝える文化遺産が多数点在している。また現在、タブリーズは、イスラム協力機構（OIC）のイスラム観光の首都に選定され、「Tabriz 2018」キャンペーンの下、官民が連携した積極的な観光プロモーションが実施されており、イラン政府に観光開発の重点地域と位置づけられている。

しかしながらタブリーズ及びその周辺地域は、イランで催行されるツアーに必ず組み込まれているゴールデンルートと呼ばれるエスファハーン、ヤズド、シーラーズのルートから外れており、前述のようなシルクロードをテーマとする観光開発の高いポテンシャルを有しているにもかかわらず、これまでのところ、資源に見合う観光客を誘致できていない状況にある。また、周辺地域に含まれる東アゼルバイジャン州では、夏季を除くオフシーズンのホテル占有率が20%と極端に低く、1年を通じた恒常的な観光収入や観光分野における雇用に影響を与えている。

さらに、タブリーズ観光圏を一体で開発するための指針や戦略が設定されていないため、戦略的な観光資源のプロモーションがなされておらず、国際観光市場におけるブランドの確立が不十分であり、周辺地域との連携による新たな観光商品の造成も行われていない状況である。

中心課題	タブリーズ及びその周辺地域は、イラン政府による観光開発の重点地域であるにもかかわらず、同地域における中長期的な観光開発に向けた方針が示されていない。
------	--

2) プロジェクト概要

上記の課題の解決に向け、タブリーズ観光圏を対象とする観光開発マスタープランを策定する。

実施体制としては、ICHTOを実施機関とし、地方自治体、民間セクター、現地NGO、地域コミュニティ等の官民連携の下、プロジェクトを実施することを想定している。

上位目標としては、同地域におけるマスタープランが策定されることにより、効果的な観光プロモーションが実施され、観光圏として国内及び国際的な認知度が高まり、観光客が増加し、雇用の創出等、観光産業が発展することを目標とする。

上位目標	タブリーズ観光圏における観光産業を主とする地域産業が活性化する。
プロジェクト目標	タブリーズ観光圏における戦略的な観光開発に必要な観光開発マスタープランが策定される。

上記のプロジェクト目標を達成するためには、下記の成果を設定する必要がある。

成果 1	対象地域におけるマスタープラン策定及び運用に必要な実施体制が整備される。
成果 2	成果 1 の実施体制で対象地におけるマスタープランの仮の枠組みを策定する。
成果 3	成果 2 で策定された仮マスタープランに基づき、パイロット・プロジェクトを実施し、その結果に基づきマスタープランを最終化する。

タブリーズ観光圏においてエコミュージアムやコミュニティ・ベースド・ツーリズム (CBT)、文化遺産の整備等の複数のパイロット・プロジェクトを実施し、パイロット・プロジェクトの結果を反映し、同地域における戦略的な観光開発マスタープランを策定する。本プロジェクトの概要を、表 10-3 に示す。

表 10-3 : イラン国タブリーズ観光圏マスタープラン策定プロジェクト

プロジェクト名	イラン国タブリーズ観光圏マスタープラン策定プロジェクト		
対象地域	タブリーズ観光圏 (5 州) ・ 東アゼルバイジャン州 ・ 西アゼルバイジャン州 ・ アルダビール州 ・ ザンジャン州 ・ ガズヴィーン州	ターゲットグループ	タブリーズ観光圏の 観光開発に関わるス テークホルダー (ICHTO、地方自治 体、民間企業、現地 NGO、地域住民、等)
実施機関	イラン文化遺跡・手工芸・観光庁 (ICHTO) カウンターパート部局：国際局 (International Affairs Bureau)		
上位目標	タブリーズ観光圏における観光産業を主とする地域産業が活性化する。		
プロジェクト目標	タブリーズ観光圏における戦略的な観光開発に必要な観光開発マスタープランが策定される。		
成果 (アウトプット)	成果1. 対象地域におけるマスタープラン策定及び運用に必要な実施体制が整備される。 成果2. 成果 1 の実施体制で対象地におけるマスタープランの仮の枠組みを策定する。 成果3. 成果 2 で策定された仮マスタープランに基づき、パイロット・プロジェクトを実施し、その結果に基づきマスタープランを最終化する。		

出典：JICA 調査団

参考文献

- [1] Travel & Tourism Economic Impact 2015, WTTC
- [2] A National Strategy for Development of Nature-based Tourism in I.R.Iran
- [3] イランビジネスガイドブック（改訂版）－経済制裁解除後の新たな動きと解説－
2017年3月，日本貿易振興機構（JETRO）
- [4] テヘランスタイル
2017年，日本貿易振興機構（JETRO）
- [5] Summary report with proposed way forward from the international workshop on Sustainable Tourism Strategy Development Training for World Heritage Site Managers in the Islamic Republic of Iran, September 2016, UNESCO
- [6] Yearbook of Tourism Statistical Data 2011-2017 Edition
Arrivals of non-resident visitors at national borders, by nationality 2011-2015, UNWTO
- [7] Compendium of Tourism Statistical Data 2011-2015, 2017 Edition, UNWTO
- [8] Tourism Highlights 2016 Edition, UNWTO
- [9] The Travel & Tourism Competitiveness Report 2017, WORLD ECONOMIC FORUM

Appendix 1 面談録

第一次現地調査 面談録（官公庁）

訪問先と面談・協議参加者

日程	訪問先	面談・協議参加者
9月18日（月）	ICHTO, キックオフミーティング 0900-1030	・調査団：西山、JICA：Atefeh ASADI
9月18日（月）	ICHTO, Human Resource and Welfare Department 1100-1200	・調査団：西山
9月18日（月）	ICHTO, Office of Coordination for provincial Affairs 1400-1500	・調査団：西山
9月18日（月）	ICHTO, Tourism Deputy Advisor for provincial affairs 1500-1600	・調査団：西山
9月18日（月）	ICHTO, Cultural Heritage 1700-1830	・調査団：西山
9月19日（火）	ICHTO, Office for National Agreement and Coordination on Tourism 1015-1130	・調査団：西山、JICA：Atefeh ASADI
9月19日（火）	ICHTO, Office of Tourism Special Tourism Zone 1200-1300	・調査団：西山
9月19日（火）	ICHTO, Secretary of National Institute for Tourism Coordination 1415-1500	・調査団：西山
9月19日（火）	ICHTO, Finance Department 1500-1545	・調査団：西山
9月20日（水）	ICHTO, Tourism Marketing & Promotion Office 0900-1000	・調査団：西山、碓氷、JICA：Atefeh ASADI
9月20日（水）	ICHTO, Office for Monitoring & Evaluation of Tourism Services 1015-1130	・調査団：西山、JICA：Atefeh ASADI
9月20日（水）	ICHTO, Tourism Education Research Office 1130-1230	・調査団：西山、JICA：Atefeh ASADI
9月20日（水）	ICHTO Cultural Heritage Deputy 1400-1530	・調査団 西山、上田
9月24日（日）	ICHTO Handicraft Deputy 1000-1215	・調査団 西山、上田
9月24日（日）	ICHTO NGO & Associations Department 1230-1320	・調査団 西山、上田

日程	訪問先	面談・協議参加者
9月24日(日)	JICA イラン事務所 1730-1830	・調査団 西山、上田、碓氷
9月25日(月)	Omid Entrepreneurship Fund 0830-1000	・調査団 西山、上田
9月25日(月)	ICHTO International Affairs Bureau 1046-1115	・調査団 西山、上田
9月25日(月)	Department of Environment 1200-1340	・調査団 西山、上田
9月27日(水)	UNESCO 0830-0945	・調査団 西山、上田
9月27日(水)	ICHTO ワークショップ 1130-1600	・調査団 西山、上田、碓氷 (第2部後半のみ)
9月27日(水)	ICHTO National Committee of Ecotourism 1630-1700	・調査団 西山、上田、碓氷
9月27日(水)	JICA 帰国報告会 1700-1730	・調査団 西山、上田、碓氷
9月28日(木)	ICHTO Shush Office 1100-1530	・調査団 西山、上田
9月28日(木)	ICHTO Tchoga Zanbil Office 1730-1900	・調査団 西山、上田
9月29日(金)	ICHTO Shushtar World Heritage & City Office 1030-1700	・調査団 西山、上田
10月2日(月)	ICHTO International Affairs Bureau 1100-1200	・調査団 上田
10月3日(火)	JICA Iran Office 1300-1345	・調査団 上田

面談・協議概要一覧

1	ICHTO とのキックオフミーティング	1
2	ICHTO, Human Resource and Welfare Department.....	3
3	ICHTO, Planning and Budget Office	4
4	Office of Coordination for provincial Affairs	5
5	Tourism Deputy Advisor for provincial affairs	6
6	ICHTO, Cultural Heritage	6
7	ICHTO, Office for National Agreement and Coordination on Tourism	8
8	ICHTO, Office of Tourism Special Tourism Zone	9
9	ICHTO, Secretary of National Institute for Tourism Coordination	10
10	ICHTO, Finance Department	11
11	ICHTO, Tourism Marketing & Promotion Office	11
12	ICHTO, Office for Monitoring & Evaluation of Tourism Services	12
13	ICHTO, Tourism Education Research Office	13
14	ICHTO, Cultural Heritage Deputy	14
15	ICHTO, Handicraft Deputy	16
16	ICHTO, NGO & Associations Department.....	18
17	JICA Iran Office	19
18	Omid Entrepreneurship Fund	20
19	ICHTO International Affairs Bureau.....	21
20	Department of Environment	22
21	UNESCO	23
22	ICHTO ワークショップ	26
23	ICHTO National Committee of Ecotourism.....	28
24	JICA 帰国報告会	29
25	ICHHITO Shush Office.....	30
26	ICHTO Tchoga Zanbil Office	32
27	ICHTO Shushtar World Heritage & City Office.....	34
28	ICHTO International Affairs Bureau.....	37
29	JICA Iran Office	39

面談・協議概要

1 ICHTO とのキックオフミーティング

概 要	
日時： 9月18日（月）09:00 – 10:30	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
Dr. prof. Noriaki NISHIYAMA (Chief off JICA Team) Atefeh ASADI (JICA Program Officer) Mr. Alipour (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Klantari(Deputy of Handiraft), Talebi Mahmoudrezd(Secretary of National Institution for Tourism Coordination), Gorbanoo Khavari(Tourism Marketing Expert), Marzie Shahrabi(Tourism Marketing Expert), Hassan Mizae(Investment Deputy), Elham Ghaem Maghdme(Investment Deputy), Ali Sheykhoun(International Affairs), Rasoul Aslavie(NA), Aboutaleh Ghessemi(Tourism special zone office), Mozgan Nahavandi(Tourism special zone office), Seyed Maehdi Yasini(Tourism planning, ICHITO), Hamid Eghbali(Handicrafts Department and World Handicraft Council Asia-Pacific Region-West Asia subregion office), Seyed Asghar Khodae(Deputy of Cultural Heritage), Faezeh Behzadrejad(Head of International Bureau), Kiandokht Torabj(Senior Expert of International Affair Bureau), International Affair Bureau から+3名
議事	
<p>※ キックオフミーティングの記録は、JICA イラン事務所ローカルスタッフの Asadi さん（Program Officer）に依頼したため、そのまま以下に英語で報告し、所見を最後に述べる。</p> <p>1. Purpose/Background of Meeting To introduce the objectives and outputs of JICA Data collection Survey and ask the departments for further meetings and cooperation in answering the questionnaires</p> <p>2. Record of the Meeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>JICA</u> <ul style="list-style-type: none"> ● JICA gave a very short introduction to JICA and its activities in Iran. ➤ <u>JICA Team</u> <ul style="list-style-type: none"> ● Dr. prof. Noriaki NISHIYAMA, Chief of JICA Team, gave an introduction to the Center for Advanced Tourism Studies (CATS) and the activities and experiences they have had all around the world. ● Dr. Nishiyama also explained the objective and purpose of the mission and the field survey in November, 2018. ➤ <u>ICHTO departments</u> <ul style="list-style-type: none"> ● Representatives from different departments of ICHTO raised the following questions: <ol style="list-style-type: none"> 1) Regarding the selected areas by JICA, why have YAZD and North of Iran not been included as potential areas for tourism development? What is the logic behind selecting 6 areas? There are heritages in North of Iran which has not been registered as World Heritage but they can be. YAZD is also registered by UNESCO as World Heritage. <p><u>JICA Team:</u></p>	

Following the workshop in March 2017 recommendations for tourism development close to Silk Road, these areas are selected. In addition, Tourism development centred on Cultural Heritage is the option JICA has picked up since there are World Heritages in these areas, and tourists are going there. However, local communities may not be involved in tourism activities. JICA is trying to increase communities' participation so that local people can benefit and earn income from these sites.

- 2) Does JICA do the investment and Finance? What are the scales and scopes of cooperation in JICA. It may help ICHTO in their proposing ideas for future cooperation

JICA:

A brief introduction to JICA activities and schemes of cooperation.

- 3) Does JICA have cooperation at planning level?

JICA:

Yes, the scope and scheme of cooperation with JICA can be from developing Master plans to the very grass-root activities. The scale can be at National level or community based activities. Whatever the activities are, the expansion of those experiences to other areas should also be possible which secure the sustainability of the outcomes.

- 4) There are some on-going projects related to Ecotourism in Iran (Anzali Ecological Management and Qeshm Island Master Plan), what is the progress in those project from the tourism point of view?

JICA:

These projects are managed by JICA Environment Team. The counterpart in those projects is Department of Environment. The main focus is the environment. Alongside, some tourism activities have also been developing although they are not in large scale from tourism perspective. The main objective in those projects is to empower and educated the local communities while protecting the environment.

- 5) Part of the main activities of JICA is related to human resource development. How can JICA help us to empower our big NGOs in tourism sector?

JICA:

Yes, there are many opportunities for capacity and human resource development. NGOs sometimes plays an important role in Public-Private Partnership. During the survey, JICA team should see the real relationship between NGOs and the government in order to find out how they can contribute in tourism development.

- 6) Private sector in Iran plays the main role in investment. However, in tourism sector, they hesitate to do the investment due to the inter-sector problems ICHTO has with Department of Environment or Forestry Organization. There are strict rules for the construction of tourism facilities in protected areas or National Parks while we have seen that in developed countries like Germany, there are tourism facilities and hotels in national Parks. How can we develop tourism modern activities in these areas with the least environmental impacts?

JICA:

Such challenges in inter-sectoral activities generally happen. While conducting the survey, our team does its best to find a solution to such challenges ICHTO may have with other related organizations.

[END]

Attachment: List of Participants (添付資料 1)

【所見】

キックオフミーティングには、他省庁関係者の参加は叶わず、ICHHTO 関係者のみが集まることとなった。また、集まったメンバーは Tourism Deputy の専門家等がほとんどであり、Handicraft 部門や Cultural Heritage 部門からの出席が限定的であった事は残念である。

しかし、参加者の本プロジェクトに対する期待や興味は大変高く、議論も活発に行われ、キックオフミーティングとしては一定程度の成功であったと考えられる。また、会議後の出席者からは、こうした部局をまたいで集まり意見交換するような場所がこれまでなかったため、こうした企画は非常に貴重で JICA に感謝するといった声も聞かれた。

議論の主要なポイントは以下。

- ・ JICA が現在支援しているプロジェクトに関する質問
- ・ 提案している調査対象エリアの意味の確認と他のエリアの要望聴取
- ・ JICA の支援スキーム（技術支援について、支援レベルなど）に関する確認
- ・ 一時派遣の最後に、できればラップアップのワークショップを開催したい

以上

受領資料

特になし

2 ICHTO, Human Resource and Welfare Department

概要

日時： 9月18日（月）11:00 – 12:00

場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）

出席者（調査団）

西山
Mr. ALIPOUR(Interpreter)
Mr. REZAEI (Assistant)

出席者（相手側）

Masaud Bastami(Deputy of Human Resource and Welfare Office)

議事

1. 背景

ICHTO 宛に従前に送付していた質問票は、ICHTO を一組織と捉え 1 票であったが、統括して回答する部署および責任者がいないため、基本的に関係する 24 のすべての全てのセクションに対し個別にヒアリングをすることとなった。以下は、その最初の人事厚生担当部局に対するものである。

2. 得られた情報

(1) ICHTO の沿革

- 1907 年 Protect Cultural Heritage として誕生
- 1981 年 イスラム革命に伴い Islamic Cultural Ministry に
- 1991 年 Islamic Cultural Ministry から ICHO として独立
- 2006 年 観光庁が加わり ICHTO へ
- 2009 年 Handicraft が加わり現在に至る

<p>(2) ICHTO および関係機関の人員構成</p> <p>①Head of ICHTO (在テヘラン 3 事務所) : 1,547 人 (博士 18 人、修士 358 人、学士 668 人、短大卒レベルのエンジニア 128 人)</p> <p>➤ Cultural Heritage Deputy : 107 人 (内、8 年前に再定義された 4 分野 : ①建築・②考古・③文化財保存学・④文化財修復学の専門家が約 70 人)</p> <p>➤ Handicraft Deputy : 71 人</p> <p>➤ Tourism Deputy : 124 人 (内、観光開発専門家は約 100 人)</p> <p>②31 州各州の部局 : 6,376 人 (博士 22 人、修士 1,075 人、学士 2,512 人、短大卒レベルのエンジニア 637 人)</p> <p>③Research Institute of Cultural Heritage and Tourism(RICHT) : 471 人</p> <p>(3) NGO や民間の専門機関等について</p> <p>イランでは、上記のような公的機関が当該分野を支配的に管理しているが、'Heyat Omama'という独特の組織の考え方があり、各地域での Executing Committee(board of trustee)として数多くが機能しているほか、遺産保護に関する NGO や民間の専門機関 (コンサルタント的なもの) もある。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>受領資料</p> <p>特になし</p>

3 ICHTO, Planning and Budget Office

<p>概 要</p>	
<p>日時: 9月18日(月) 12:40 – 13:30</p>	
<p>場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)</p>	
<p>出席者 (調査団)</p> <p>西山 Mr. ALIPOUR(Interpreter) Mr. REZAEI (Assistant)</p>	<p>出席者 (相手側)</p> <p>Masoud noori(Deputy of Planning and Budget Office)</p>
<p>議事</p>	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングで計画財務担当部局に対するもの。</p>	
<p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> イラン政府が策定する全ての政策は、第六期 (2016~2020 年) の Develop Plan に沿って策定されており、8 つの基本目標が設定されている内、観光に関しては「GDP」「外交」「雇用創出」「内需拡大」の 4 つの目標への貢献が使命として与えられている。 GDP への貢献については、遺跡観光を中心とするヨーロッパ客の誘致拡大、周辺国の巡礼観光の拡大、世界中をターゲットとした自然観光客の拡大をめざしている。 外交への貢献に関しては、イランの魅力としてとくに文化多様性の強調をめざしており、食、地方性、文化、文学、芸術、手工芸などの無形遺産を宣伝していくためのプロモート戦略として、特にテレビ等のメディア (Euro News 等) の活用を進めている。これを通じてイランに対する風評被害を改善したい。 	

<ul style="list-style-type: none"> 雇用創出への貢献については、特に客単価の高いインバウンド客（1,350US\$ / 人）の増大が必要と考えており、現在の 4,800 万人 / 年をイラン国人口とバランスする 5 年間（2020 年まで）に 8,000 万人まで増やす計画である。8,000 万人という数字の意味として、この入り込み数で 40 億ドルの外貨収入が予測でき、この数字が達成できれば、産油額を超え、観光産業が国内の第一位になる。 内需拡大への貢献については、31 の州ごとに明確な観光開発のマップを作成し、特にヘルス・ツーリズム、メディカル・ツーリズム分野の拡大を図りたい。現在の国内観光の季節的・地域的偏りの是正によって、交通渋滞等の深刻な問題解決にも役立てたい。また、美容や歯科治療については周辺国および世界中からの誘客も期待できる。
以上
受領資料
特になし

4 Office of Coordination for provincial Affairs

概 要	
日時： 9 月 18 日（月） 14:00 – 15:00	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山 Mr. ALIPOUR(Interpreter) Mr. REZAEI (Assistant)	Mahmoud Rahbaran(Expert of Office of Coordination for provincial Affairs)
議事	
1. 背景 一連の ICHTO 各局へのヒアリングで州関係調整担当部局に対するもの。	
2. 得られた情報	
<ul style="list-style-type: none"> 国内 31 州全てに ICHTO の支所がある。 詳細な各州のスタッフに関するデータが必要であれば、JICA を通してレターを出してもらえば提供できる。 イラン政府のインバウンド観光に期待することは、現時点では、外貨獲得よりも客数の増加である。それは、一人でも多くの観光客が来てくれ、イランの現状を見てもらうことで、イランに対するネガティブなイメージを転換し、風評を上げることができるからである。 本部局の使命は、国と州のあらゆる観光関連事項の間に立ってコーディネーションし仕事が早く進むようにすること。 州との関係において各部局の抱える課題は、Cultural Heritage 部局については、州の遺産保護に関する予算不足である。 Handicraft 部局については、イランの手工芸が世界的に無名であり PR が必要であることであり、そのためのインフラやノウハウを州政府に提供しているが、州が使いこなせていない。 観光部局については、実際の各州が有する観光インフラ（ホテルなど）のレベルにインバウンド客のニーズを合わせる必要がある（3 つ星ホテルしかないのに、5 つ星のホテルを求めるようなミスマッチがないようにする）。 特にイスファハンなどは、そのギャップが大きいので、ホテル建設が急がれる（調査団側 Mr. ALIPOUR からの意見）。 	
以上	

受領資料
特になし

5 Tourism Deputy Advisor for provincial affairs


概 要	
日時： 9月18日（月）15:00 – 16:00	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山 Mr. ALIPOUR(Interpreter) Mr. REZAEI (Assistant)	Mohammad Sabet Eghlidi (Tourism Deputy Advisor for provincial affairs)
議事	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングで観光局アドバイザー州政府担当者に対するもの。</p> <p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本調査プロジェクトの二次派遣における対象エリア（ポテンシャル地域）の候補について、以下の意見を聞いた。 ● 優先順位一位はタブリーズとその周辺である。理由は、観光インフラ（空港、ホテル等）等はよく整っていて、資源的にもポテンシャルが非常に高い（ユネスコ無形遺産のバザール、黒い教会、キャンドヴァーン村など）にもかかわらず認知度が低いため、JICA の支援効果が高いと見込まれるため。 ● 第二位はヤーズド、第三位はテヘラン周辺で、あまり認知されていない Semnan 州周辺やガズヴィーンなど。 <p>3. プロジェクトの進め方に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今次（一次）派遣の最後にワークショップを開催するのであれば、対象エリア（ポテンシャル地域）の候補選定については、JICA チーム側でたたき台を作らず、各部局の意見を公平に聞いて集めるだけにして、その意見を並べて諮る形にするのがよい。 <p>4. 所見</p> <p>アドバイザーである Sabet 氏は、観光部局ないしは ICHTO において一定のプレゼンスを有しているとみられ、慎重な対応が必要と思われる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

6 ICHTO, Cultural Heritage

概 要	
日時： 9月18日（月）17:00 – 18:30	
場所： ICHTO 本部, Cultural Heritage 部局会議室	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山 Mr. Alipour (Interpreter)	Mohammad Hassan Talebian(Deputy for Cultural Heritage), S.Maryam Mehran(English Lecturer, Advisor for deputy of

Mr. Rezaei (Assistant)	ICHHTO for International Affairs), Farhad Azizi Zallani(General Director of IWHS: World and National Heritage Sites' Affairs), Sareh Ziyaee(Head of Presentation and International Department of IWHS)
議事	
<p>1. 背景</p> <p>東京文化財研究所からのアドバイスに基づき、ICHTO のキーパーソンである文化遺産担当次長のタレビアーン氏を表敬した。</p> <p>2. タレビアーン文化遺産次長から得られた情報・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今回の JICA の調査プロジェクトは、今年 2 月の JICA チームのイラン調査、3 月の日本でのワークショップを受けて立ち上げられものと理解しているが、なぜ最初に Cultural Heritage 部局（自分のところ）に最初に来ないのか（来るべき）。 ● ワークショップでは、アフヴァーズ周辺遺産 3 地域（チョガー・ザンビール、シューシュ、シューシュタル）の観光開発支援を最優先に挙げていたにもかかわらず、なぜ IR で取り上げられていないのか？ ● 今次調査で、上記 3 地域をぜひ見に行くべきである。手配はこちらです。 ● エコミュージアムの概念は非常に重要と考えており、遺産と地域住民、コミュニティをつなぎ、地域を豊かにしながら遺産を保護するという手法として評価している。これからはエコミュージアムである！ <p>2. 所見</p> <p>タレビアーン文化遺産次長の話については、事前に十分な情報を得ていなかったためどこまで鵜呑みにしてよいのか分からないが、アフヴァーズ周辺遺産 3 地域（チョガー・ザンビール、シューシュ、シューシュタル）がポテンシャル地域として重要であることは間違いないため、可能であれば今後の視察対象としたいと考える。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の PR 冊子および CD 	

7 ICHTO, Office for National Agreement and Coordination on Tourism

概要	
日時: 9月19日(火) 10:15 - 11:30	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山、JICA : Atefeh ASADI, Mr. Alipour (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Mr. Fayazi (Director) , Ms. Masjedi (エコツーリズム担当専門家) , International Affair Bureau から2名
議事	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングで国家観光調整担当部局に対するもの。</p> <p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> • Fayazi 氏は、2004 年に日本で 45 日間の本邦研修を受け、2017 年にも JICA の招へいでエコツーリズムの国際会議で来日している。日本の観光プロモーションや外国人受入の体制が確立されていることに感心しているとのこと。 • 部局の基本ミッションは、イラン国における観光開発に関するあらゆる関係者を調整すること。例えば、アグリ・ツーリズムの振興に関して農水省と、メディカル・ツーリズムについて健康省と調整するなど。 • イラン政府は、2020 年までにエコツーリズム客を 500 万人誘致する目標を立てており "A National Strategy for Development of Nature-based Tourism in I.R.Iran" を策定して取り組んでいる。 • エコツーリズム関係組織は、全 31 州に 4,000 程あり、それらと協力して進めている。 • 例えば、クルド系少数民族のパランガン村やレウラーマナット村では、7 万米ドルを低金利で貸し付けて 30 人宿泊できる農泊を整備した。 • 「エコ・ラウンジ・プロジェクト」に取り組んでおり、音楽、手工芸、方言、建築、風俗、意匠などの文化多様性の保護と PR をすすめている。 • このプロジェクトでは、インテリア省や道路都市開発省などとの調整を図っており、当初全国で 1,100 の村を取り上げ、500 の村をサステナビリティ開発村と位置づけている。国の政策や、気候変動、経済変動などの外部要因で進む農村の過疎化を防ぐため、生物多様性の保護、貧困地域への観光の導入、ノマド・ツーリズム (パラガダイ周辺の遊牧民) 、アグロ・ツーリズムなどの推進に取り組み、成功事例としては、マスレ村、アビアーネ村、キャンドワン村などを挙げる事ができる。 	
	
以上	
受領資料	
・ "A National Strategy for Development of Nature-based Tourism in I.R.Iran"	

8 ICHTO, Office of Tourism Special Tourism Zone

概要	
日時: 9月19日(火) 12:00 – 13:00	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山 Mr. Alipour (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Mr. Aboutaleb Ghassemi (専門家) International Affair Bureau から 2名
議事	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングで観光特別ゾーン担当部局に対するもの。</p> <p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部局のミッションは、ローカル・コミュニティの観光開発を支援するために、必要な観光インフラ（ホテル施設等）整備に必要な資金を国内外の民間資本から調達すること。しかし、実際には、投資の回収ができないケースが多発していることが課題。 ● 2005年に観光ゾーンとして適切な地区を全国で 1,168 地区抽出し、現在はその内の 183 地区を支援、実際には 55 地区が動いている。 ● 一例としてカスピ海沿岸地域のチャールダツレがあり、6年間をかけてジャングルの中にホテルを建設、乗馬やトレーニング施設などを整備した。 <p>3. JICA 事業への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JICA プロジェクトの中で、海外民間資金を導入したホテルやショッピングモール整備などを実現する PPP（投資インセンティブの方法など）推進技術の支援を期待する。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

9 ICHTO, Secretary of National Institute for Tourism Coordination

概要	
日時: 9月19日(火) 14:15 – 15:00	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山 (記録) Mr. Alipour (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Mr. Alireza Zamani (専門家) International Affair Bureau から 2名
議事	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングで Secretary of National Institute for Tourism Coordination 部局に対するもの。</p> <p>2. 得られた情報、ポテンシャルエリアの候補・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外旅行者がイランに来るために必要なあらゆることを他省庁（例えば、外務省、健康省など）と調整する部局。特にインフラ整備に関する省庁間のミスマッチを調整。スタッフは5名の専門家で、省レベル、プロジェクトレベルでの仕事もこなす。 テヘランからザンジャン（ザンジャン州）との間の観光振興支援を推薦する。 テヘランからカズウィンまで 175km、カズウィンからザンジャンまで 135km で、テヘランから客を誘致するのに適切な距離。日帰りも可。シルクロードと重なり、各時代の遺跡が多く残る。 特に遺跡の中でも世界遺産のソルタニエ・ドームは、イスラム前後の建築デザインを有し、47m の高さにもかかわらず基礎の低い珍しい構造のドームで、地震にも耐えた。もともと墳墓として建設されたが、儀礼のための用途に変更された。 灌漑施設（カナート）も発達しているなど、周辺の資源にも恵まれ、大理石の産地でもあり、ササーン朝の遺跡も豊富。 イランの国民意識調査の中でも、アゼルバイジャン国境のこの地方は「幸福と安全」が最も高い魅力的な地域であると認識されている点も重要。 この地域は、上記のように非常に高いポテンシャルを有し、すでに道路、ホテルなどの観光インフラが整っているにもかかわらず、観光客を誘致できていない。 <p>3. JICA への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は、2004年に700万人しかいなかったインバウンドを2016年に2000万人に到達させた。そのノウハウを教えて欲しい。 <p>4. 所見</p> <p>全日の Tourism Deputy Advisor である Sabet 氏のアドバイスにあった、タブリーズと一体的に観光振興支援すれば、シルクロードのテーマ設定やキャラバン・サライの活用、CBTによる世界遺産のコミュニティ裨益の実現などのテーマを総合的にクリアできるのでは。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

10 ICHTO, Finance Department

概要	
日時: 9月19日(火) 15:00 – 15:45	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山 (記録) Mr. Alipour (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Ms. Elham Ghaem Maghame (投資専門家) International Affair Bureau から2名
議事	
<p>1. 背景</p> <p>一連の ICHTO 各局へのヒアリングでファイナンス部局に対するもの。</p> <p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光開発のための国内外からの資金調達と投資を促すのがミッション。 観光開発資本を呼び込むための土地用途転換のライセンスに関わる業務。 MICE に関しては、国際展示会誘致などを International Affair Bureau と連携して行っている。 <p>3. JICA への要望</p> <p>新たな資金調達技術について教えて欲しい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

11 ICHTO, Tourism Marketing & Promotion Office

概要	
日時: 9月20日(火) 9:00 – 10:00	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (調査団)
西山、JICA : Atefeh ASADI, Mr. Abkar (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Leila Ajdari (Director General of T M&P) Leila Mirhoseini (Tourism Promotion Division Head) Mohammad Ghasmi (Tourism Marketing Division Head) Kazem Jalili Zalpool (Expert) Galbanoo Khavari (Marketing Expert) International Affair Bureau から2名
議事	
<p>1. 背景</p> <p>ICHTO の観光マーケティング・プロモーション部局に対するヒアリング。</p> <p>2. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 部局のミッションは名前の通りマーケティングとプロモーションで、JICA や UNWTO、ユネスコとの調整も行っている。 イランが行ったマーケット・リサーチによれば、順位は①イラク、②中国、③クウェート、④トルコ、⑤ロシア、⑥ドイツ、⑦アゼルバイジャン、⑧インド、⑨カタールとなっており、日本は残念ながら 26 位。 	

- ①イラク客の特徴は、イランをよく知っており霊廟訪問がメインで 7 日間程度であるため、これに文化遺産・博物館観光を加えて、滞在日数を 10 日間程度にしたいと考えている。
- ②中国客の特徴は多消費であることで、母数の人口が多いため重視している。現在は文化サイン・博物館観光と砂漠観光がメインであるが、四季を見せる観光で拡大を図りたい。しかし、文化の違いで相互理解が難しく、自分たちのスタイルを持ち込むためにトラブルが多い。イラン国内に中国語ガイドが少ないことが問題で、現在はメディアやエージェント向けの FAM トリップを実施している。こうした戦略は日本や韓国にも使えないかと考えている。
- ③クウェート客は、歴史的経緯からクウェートに居住するイラン人（元イラン人？）が多く、家族の行き来なども大きい。そのため、ヘルス・ツーリズム、ハイジーン、メディカル・ツーリズム、そしてクウェートにはない景色を見る観光などを推進している。しかし、政治的な影響が客数の動向に大きいことが問題。
- ドイツ、イタリア、フランス、イギリス、日本に対しては、既に観光文化が成熟している国なので、国交関係がよくなれば大丈夫と考える。誘致のためにはブランド化を図る必要がある。
- 国際旅行博にも積極的に参加しており、プロモーション・マテリアルも、5 カ国語対応を進めており、CD やハガキなども揃えている（後日入手済み）。

3. JICA への要望

上記のイランのデスティネーションとしてのブランド化のための協力をお願いしたい。具体的には、以下の 4 点を希望する。

- 1) ブランディングとマーケティングに関する技術協力
- 2) 特に日本人の招致の方法（ホスピタリティや食事）について本邦およびイランにおける研修を実施して欲しい。
- 3) デスティネーション・マネジメントとキャリングキャパシティに関する技術協力。イランの現状は、入域・入館者の管理などのビジターズ・サーベイができておらず（主要地点の入り込み数のみはある）、実態の把握、モニタリングの技術移転が欲しい。また、遺産の過剰利用による破壊等を防ぐための、キャパシティ・ビルディング（キャリングキャパシティ概念の導入と実践について）を図るなど、SDGs を世界水準で達成できるための知見や技術移転が欲しい。
- 4) シルクロードのブランド化のための技術支援が欲しい。15 年前に JICA とシルクロードのプロジェクトを実施した（要確認）が、さらに進めて欲しい。シルクロードの中心はイランである。中国の一带一路政策にも参画していきたい。

以上

受領資料

・プロモーション・マテリアル一式

記録者

西山

12 ICHTO, Office for Monitoring & Evaluation of Tourism Services

概要

日時: 9月20日(火) 10:15 - 11:30

場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)

出席者 (調査団)

西山、JICA : Atefeh ASADI,
Mr. Abkar (Interpreter)
Mr. Rezaei (Assistant)

出席者 (相手側)

Dr. Wali Teymouri (観光経済専門家)
International Affair Bureau から 2 名

議事	
1. 背景 一連の ICHTO 各局へのヒアリングで観光モニタリング・評価部局に対するもの。	
2. 得られた情報	
<ul style="list-style-type: none"> ● 部局は、①ルール&レギュレーション、②モニタリング、③評価の3部門に分かれ以下のミッションをこなす。 ● ①ルール&レギュレーション部門では、まず「旅行業」の定義を行い、世界標準の基準から、5カ年計画に基づいてイラン固有の評価指標を策定する。その際には、ハード（ホテルのスターレーティングなど）についてだけでなく、文化的差異（手工芸など）や国の南北による気候的な違いなども考慮してローカライズする。 ● ②モニタリング部門では、各州が民間評価機関に外注してトラベル・エージェントやツアーガイド等のあらゆる関係者に対して実施する（宿泊、ホスピタリティ、レクリエーションサービス、開業後の状況などに関する）モニタリングをスーパーバイズする。ツアー客の苦情から発した問題を、地域のアソシエーションが対応し、解決できない場合は州が、州でダメなら国のこの部門が解決する。 ● ③評価部門では、旅行業者の開業についてなどの評価をするが、許可は州が出す仕組みになっている。 ● イランでは、各地でホテル不足が叫ばれているにもかかわらず、ホテルが増えないが、その理由は、一つは許認可手続きが煩雑であることもあるが、それ以上に、入り込み客の季節や外部環境（政策や国際環境など）の急変による変動が激しいので、投資に踏み込めないという点がある。 	
以上	
受領資料	
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ホテルの評価とクラス分けのクライテリア」"Responsibility and Duties/ Chart of Monitoring & Evaluation"（ペルシャ語） 	

13 ICHTO, Tourism Education Research Office

概 要	
日時: 9月20日(火) 11:30 - 12:30	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (調査団)
西山 (記録) JICA : Atefeh ASADI, Mr. Abkar (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Dr. Batool Sabzali (Head of Education) Ms. Rasoul Asgari Ms. Mohsen Ranjibar International Affair Bureau から 2名
議事	
1. 背景 一連の ICHTO 各局へのヒアリングで観光教育研究部局に対するもの。	
2. 得られた情報	
<ul style="list-style-type: none"> ● 部局のミッションは、短期間で観光の役に立つ人材育成の教育プログラムを作るための調査・研究を行うこと。主には短期養成コースの造成が役割で、長期養成コースは大学に任せるか大学と共同で開発している。 ● 短期養成コースには、①特定の目的に特化した4コース（ツアーガイド人材、テクニカル・マネージャー人材、料理人材、ホテル人材）、各コース8~12時間と、②小・中・高校生向けの観光の基礎を教える「カルチャライゼーション・コース」があり、4年前から地方エリアごとの人材育成を始めた。 	

- 2016年から「ツーリズム・カンパニー・プラン」（観光支援者養成計画）を策定し、全国31州+テヘランの32地域で各地ごとに12校を設置して取り組み始め、初年度で12,000人の修了生を輩出予定。各地域は、男子校・女子校各6校ずつで、1校につき生徒（7～16歳）は28人、卒業した生徒にはICHTOのロゴが背に入ったライトブルーのユニフォーム（下写真参照）を授与する。



3. 所見

- 国を挙げてのトップダウンの人材育成であるが、それだけ国家戦略として真剣に観光産業育成に取り組んでいるということの証でもあり、興味深い。

以上

受領資料

- 「カルチャライゼーション・コース」で私用している「スクールブック」（ペルシャ語）
- 短期養成コースの開校コース名一覧（ペルシャ語→講義名のみ簡易英訳）

14 ICHTO, Cultural Heritage Deputy

概要

日時: 9月20日(水) 14:00 - 15:30

場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)

出席者 (調査団)

西山
上田
Mr. Abkar (Interpreter)
Mr. Rezaei (Assistant)

出席者 (調査団)

Farhad Azizi Zallani (General Director of IWHS: World and National Heritage Sites' Affairs)
Sarch Zigaee (Head of Presentation and International Department of IWHS)
Mohamad Ali Kabiri (Expert in Conservation & Maintenance of Heritages)
Ghotamreza Misaghian (Director General of Conservation & Maintenance of Heritages)
Mohammad Reza Afashkhaneh (Head of Historic Architecture in Conservation & Maintenance of Heritages)
Hosein Amin Afshar (Expert in Conservation & Maintenance of Heritages)
Semed Hadi Ahmandi (First Advisor for deputy of Cultural Heritage)
Sara Babaei (Head of Conservation Department of IWHS)
Beheshteh Nasiri Rad
Hasshan Hatbini
International Affair Bureau から 2名

議事

1. 背景

一連のICHTO各局へのヒアリングでCultural Heritage Deputy (Center for Registration,

Preservation & Revival of Intangible & Natural Heritage を除く 3 部局) に対するもの。

2. 得られた情報

(1) 文化遺産の海外からの支援について

- すでに 70 箇所へのぼる文化遺産が海外のあらゆる支援を受けている。あらゆる側面からのサポートを受けたい。

(2) 観光開発地域としての推薦対象について

- 観光開発地域の候補として優先順位は以下のとおり：
 - ① シューシュ周辺
 - ② ペルセポリス周辺
 - ③ タブリーズ周辺
- シューシュ周辺は、気温の高い南方に位置し、通年観光が難しい欠点があるが、冬場でも温かいという長所もある。鉄道や主要道路、海路を含めたインフラが整っていて、アクセスは良好。実際に、最も多いインバウンド客のイラク人が訪れやすい場所。
- ヤズドは、世界遺産に登録されたばかりで、国内外のあらゆる機関が取り組んでおり、わざわざ JICA が支援対象とする必要がない。

(3) 三地域が抱えている共通課題について

- イランを代表する有名観光地で、既に観光客が多く訪れており、観光インフラも整っているが、観光の地元住民への裨益効果が不十分である。コミュニティとの関係構築という点で課題がある。いずれの遺産もコミュニティの居住区域と近接していて、条件は共通している。
- JICA による支援という視点で、遺産修復やインフラ整備等ではなく、技術支援という側面に限られる点を確認した上で、以上の三地域適当であると考えている

(4) JICA への支援の要望について

- 遺産のオーバーユースに対する対策と遺産保全についてのノウハウ
→ 研修などの JICA の別のプログラムがあるので、そちらが利用できる
- 木材建築の修復について
→ 東文研との連携協定の話を知っているので、今回の JICA 事業とは区別したい
- 水中の遺産保全について
→ 日本でもあまり実績がないと思われる

(5) 博物館の視点からの支援の要望について

- 情報伝達や展示手法について課題を抱えているため、支援が欲しい
→ 既に JICA の研修プログラムなどがあるので活用されたい
- 自然災害について博物館で伝える経験を日本から学びたい
→ 必要に応じて、専門家を招聘するという支援が可能
- オープンエアミュージアムについてノウハウの提供が求められる
→ 前述の、コミュニティ・ベースド・ツーリズムの考え方も重なり、エコツーリズムにおいても情報窓口として既存の博物館が機能することが望ましい。地域コミュニティとのつながりを構築しながら、情報拠点としての博物館の活用を組み合わせたくみづくりの支援については、これまでも多くの実績がある。

(6) 今後のスケジュールについて

- 本日の推薦地域のリストと理由を文章にして 23 日（土）に送ってくれる
- 9 月 27 日（水）に WS を開催予定。ICHTO 各部門に集まっていただくための協力を依頼した
- 9 月 28 日（木）から、推薦地域のシューシュ周辺への視察に関して、ICHTO が

現地案内などを手配済み。こちらで JICA 事務所等を確認する。



以上

受領資料

特になし

15 ICHTO, Handicraft Deputy

概 要

日時： 9月24日（日）10:00 – 12:15

場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO- Khalij-e-Fars Conference Room）

出席者（調査団）

西山、上田（記録）

出席者（相手側）

Mohammad Hosein Dehghani (Office for Education and Support of Production)
 Maseed Kalantari (Export Office)
 Ali Haji Shizari (Production & Development Office, プロモーション担当)
 Shohreh Kheradpishe (Production & Development Office, 人材育成担当)
 International Affair Bureau から Ms. Torabi 氏

議事

1. 部局の位置づけ

- ・ 手工芸品の品質向上と人材育成のサポート
- ・ UNESCO に対する無形文化遺産の所管部局はここになる。無形文化遺産研究所とも協力関係はあるが、工芸品の認可や認定、登録などは 3 つの部門から人を出し合って自分たちで行っている。

2. Office for Education and Support of Production 部門業務概要

- ・ 手工芸発展のための人材育成やサポートを担当。
- ・ 296 種類の手工芸が登録されており、35,000 人が民芸品生産者として登録されている。ここがその所管部局になる。これ以外に、70,000 人程の未登録生産者があり、彼らを登録生産者に移行するための様々な働きかけを行う（保険や工場の安全性確保、品質向上やパッケージなどの支援など）。

3. Export Office 部門業務概要

- ・ 商品の素材などを含めた登録や国内外への品質保証を行う。主な業務は以下の通り。

① 販売促進のための展示会への参加援助（この部局を通さないと、民間企業は

国際展示会に出品できない)

② ネット上で商品の紹介を行うサイトの作成と多言語対応

③ 輸出のための税関の手配など

- ・ 相手国のニーズに合わせたプロモーションを行っている。例えば、イラク（タイルや伝統的靴）、ドイツ（キリム）、中国（宝石や寄木細工）、日本（絨毯、エナメル食器、宝石）といった特徴がある。
- ・ JICA 支援の要望：イラン民芸品のレベルは高いが、輸出を促進するためのノウハウが不足しているため、その技術提供。

4. Promotion & Development Office 部門 (プロモーション担当)業務内容

- ・ 工芸品のデザインの方向性を決めるプロモーションを行う。
- ・ 輸出相手国のニーズに合わせた色やデザイン等についてアドバイスを。
- ・ パンフレット、書籍、テレビを通じたコマーシャルやマーケティングを行う。
- ・ World Council Craft（本部：中国）に登録されている世界 17 の都市の中でイランの 7 都市が登録数トップ：エスファハーン（民芸品）、タブリーズ（絨毯）、マシュハド（石）、ハマダーンのラレージーン（陶器）、ケルマン州スィルジオーン（キリム）、フルディスタン州のマリバーン（靴）、南東部キヤルプレガン（陶器）。今年 3 都市がさらに追加登録される予定。

5. Promotion & Development Office 部門（人材育成担当）業務内容

- ・ 文化継承のための研修を担当。
- ・ 地域ごとに研修施設（1,240 箇所）をつくり、地域の状況に応じて徒弟制や講習などのあらゆるやり方で、職業訓練を行う。
- ・ 中学生や大学生を対象とした、若者への文化継承や起業促進の教育と、一般や職人を対象とした様々なレベルや期間の講習がある。
- ・ 1,240 箇所の研修施設（生涯教育や職業訓練）では、年間 7,000 人の職人が修了（許可を受けて登録されるには、その後の継続的な実務が必要）、15,000 人が一般市民の修了者（国発表では全体で年間 30 万人となっている）。

6. 現在の課題について

- ・ 当初想定していた後継者不足問題は特に認識されていない（すでに後継者育成の様々なしくみが整っている）。
- ・ むしろ、イランに豊富に存在する手工芸を、国際市場に対していかにして販売するかのプロモーションや、生産者が流通や販売のノウハウを持つための技術支援を JICA に求めたい。

7. 観光開発地域の推薦

- ・ エスファハーン～シーラーズのルートを提案したい。イスラムとアケメネス朝の首都をつなぎ、多様な民族の生活や文化が楽しめる。こうした民族の経済発展やエンパワーメントに寄与する。シルクロードのテーマとも重なる。

8. まとめ

- ・ 手工芸の商品化や国際市場への販売促進が主要な関心事である。

以上

受領資料
特になし

16 ICHTO, NGO & Associations Department

概 要	
日時： 9月24日（日）12:30 – 13:20	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO- Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田（記録）	Hassan Mirzaee (Senior Expert of NGO's Branch) International Affair Bureau から Ms. Torabi 氏
議事	
<p>1. キックオフミーティング時の誤解の解消について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NGO は JICA プロジェクトの対象ではないとの誤解があったようだが、我々はコミュニティの参加を想定しており、NGO が重要な役割を担う点について説明し理解を得た。 <p>2. 業務概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国営組織以外の民間組織の情報を集約している。 ・ 国民個人や団体組織（工芸団体や旅行団体など）を登録し管理している。 ・ NGO が主で、その他の団体はまだ始まったばかり。民間団体の経営サポートなども今後行っていく予定。 ・ 登録された NGO は、分野ごとに管轄する担当省に割り振られる。現在、ICHTO で登録している NGO は 717 団体（国際、州、町など様々なスケールの NGO を含む）。内訳は、文化遺産 188 団体、工芸 54 団体、観光 139 団体で、残りの 336 団体は複合で登録。 <p>3. JICA プロジェクトへの協力の可能性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの地域にも多くの NGO があるため、対象地域が決まったら、必要に応じて地域 NGO を紹介したい。 ・ 逆に、NGO の活動という視点からポテンシャルのある地域については、後日情報提供をもらう。 ・ 現在挙がっている候補の中では、タブリーズ、エスファハーン～シーラーズのポテンシャルが高い。 ・ omi.ir というサイトにデータがあるので、例えばアブヤーネ村に NGO があるのかなど検索できる。 <p>4. JICA に対する支援要望について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NGO 運営のための自主財源確保や経営能力向上などのノウハウの提供を期待する。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

17 JICA Iran Office

概 要	
日時： 9月24日（日）17:30 – 18:30	
場所： JICA イラン支事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、碓氷、上田（記録）	JICA 田中次長、水谷氏
議事	
<p>1. カウンターパートの確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICHTOのまとめ役が明確でないが、どのようにつきあうべきか。 → これまで JICA は ICHTO とつきあいがほとんどなかった。国際局のみとのやり取りがあった。今回のプロジェクトを通じて、支援相手の部局を見極めたいという期待がある。 <p>2. プロジェクトの流れの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技プロにつながる提案としてのアウトプットを意識する。 <p>3. フーゼスタン州スーサ地域視察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タレビアーンと山内先生が大学同級生で仲よし。しかし、今回のカウンターパートは、あくまで国際局である。フーゼスタン州のスーサ等3遺跡地域への視察の可否については、本部に確認して明日回答する。 → イラン政府がイスラム以前の歴史にはあまりお金をかけない傾向がある。そのため、フーゼスタン州の提案にイラン政府がのらない可能性もあるのではないか？ <p>4. 現在挙っている候補の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ①スーサ周辺、②テヘラン～タブリーズのシルクロード、③ペルセポリスとその周辺地域、④エスファハーン～シーラーズ、⑤ヤーズド、⑥テヘラン周辺のセムナン州やガズヴィーン → JICA チームとしては、タブリーズはペルータイプ（広域エコミュージアム開発）、ペルセポリスはジンバブエタイプ（世界遺産周辺開発）、スーサは？（今回視察して考えてみたい）という想定 <p>5. ワークショップ内容の相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 西山がはじめに CBT, PPP, DMO 等の開発概念と北大実績のレクチャーをし、その後、今回ヒアリングのフィードバック、部局間で意見交換との流れを確認。後述する、JICA の支援スタンスや支援メニューについても冒頭で紹介してもらえれば良い。 → JICA から水谷氏が 10 分ほど冒頭に組織紹介をしたい。 <p>6. イランからの人材育成への支援要請について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヒアリングの中で、人材育成への支援に対する要請が多い点を報告。 → 現在、シニアボランティアの来年度導入準備を進めている。JOCV の導入については、発展が一定のレベルに達しているイランの状況から、これまであまり検討してこなかった。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

18 Omid Entrepreneurship Fund

概 要	
日時： 9月25（月）8:30 – 10:00	
場所： Omid Entrepreneurship Fund	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田（記録）	Ali Ashabi（副社長） Sima Mosavarnia Farzahneh Mafi Alireza Hemmati International Affair Bureau から Ms. Torabi 氏
議事	
<p>1. 組織の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国営企業で、個人や地域団体などの民間の小規模起業支援を行っている ・ 年間貸付金の予算は700万ドル ・ 国からの補助金以外に、イスラム教の精神による一般的な寄付と、金利無し預金の利子分を寄付として受け、運営資金としている。 ・ 同様の取り組みは銀行も行うが、国営で行っている唯一の団体がこの財団になる。通常15%以上の銀行の金利と異なり、国営の本財団では4%の低金利での融資を行っている。各地方に代理人がいて、地方部のニーズに応え、現場で支援が行えるようになっている。 <p>2. 主な業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間65,000件を支援（支援対象は個人やNPOなど多様で、審査により支援の可否を判断） ・ 大卒の若者の起業支援や地方部の若者や女性支援、新しい発明等の開発支援も ・ 特に地方部で、「一村一品運動」（日本を参考にした）による地域の仕事創出、ツーリズム促進、民族衣装のブランド化、農業や採石の技術や工場設立などを支援 <p>3. 実績や過去の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3,000の遺跡のある村等を支援してきた。効果として合計で500万人ほどの観光客が訪れ、地域の若者や女性の仕事創出を行ってきた。 ・ 31の州の1,500の村で、女性の仕事支援を行ってきた。 ・ 国内外の展示会を開催してきた。 <p>4. 地域支援の成功事例の詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カスピ海のサビシェ村の観光支援： 古い民家を宿に改修し、住民が民族衣装や食事を提供。現在では400人ほど宿泊受入が可能。 ・ ロレスターン州ガイカン村ではバラ栽培の支援、その他もナッツやヘナの栽培支援、民芸品の商品開発の支援など <p>5. 地方部の女性支援についての詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方部の過疎対策としての仕事創出が目的 	

<ul style="list-style-type: none"> 個人や団体に対し、企業支援や WS を開催 自己資金に対して 5 倍の融資を受けることができる 3~5 年の返済期間で、貸付金の 2/3 を返済した時点で、さらに継続して倍の融資を受けることができる 村単位の取り組みを地域で広域化させることで、運営力を高めるといった支援も行う。また、商品開発だけでなく、販売支援や展示会への出品の支援も行う
<p>6. JICA への支援要請</p> <ul style="list-style-type: none"> かつて、日本から JGP (1982-85) の支援を受けた。WS を 50 回程と資金援助もあった JICA には、今までの 2,100 の NGO に対するレベルアップ研修を希望 新しい世代にインターネットによる情報発信の研修 自分たち専門家に対する研修 州ごとにいくつかの村のリーダー研修 100 箇所の村を、ヨルダンのサルトのような事例にしたい (紹介してもらったサルトの事例は、自分たちの取り組みと類似しており、目標も同じ) お互いの連携にむけた具体的な協定などをぜひすぐにでも結びたい 予定が合えば、自分たちの支援地域を訪れて欲しい。全て手配する
<p>7. 所感</p> <p>今後具体的な技術協力プログラムが行われる際には、連携可能な団体であると思われる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
特になし

19 ICHTO International Affairs Bureau

概 要	
日時: 9月25日(月) 10:45 – 11:15	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO- Khaliq-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山、上田 (記録)	Kiandokht Torabi (International Affairs Bureau)
議事	
<p>1. イランへの他ドナー支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外支援は UNESCO 位だが、資金援助ではなく技術支援 詳しいことは JICA からのレターで正式に書面で問い合わせを欲しい <p>2. JICA プロジェクトに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> イランへの制裁で海外からの援助が下火になる中、JICA の支援は他の国際団体よりも継続的である。今回も、人的なネットワークから案件が生まれたと理解している。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA の支援に続くかたちで、タイ (TICA) や韓国からも類似の支援が始まっている。 ・ タイは、技術者など専門家に対する研修の支援。Torabi 氏自身も、タイでの 15 日間の研修に、他国の専門家とともに参加した。JICA と違って、現地滞在費などは自己負担となるが、ツアー受入などのタイの先進事例について学びが多かった。 ・ 韓国は、政府関係者を対象とした研修の支援である。
以上
受領資料
特になし

20 Department of Environment

概 要	
日時: 9月25日(月) 12:00 – 13:40	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山、上田 (記録)	Maytoba Shirzad (Expert of Department of Environment, エコツアーリズム担当) Raziyeh Mirzajani (International affairs of Department of Environment)
議事	
<p>1. Department of Environment の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の環境省に相当。規模が小さいため Organization (省) ではなく Department (庁) ・ 国土の 10% が観光省の管轄、276 箇所の保護対象 (自然公園、自然保護区域、動物保護、天然記念物) → 詳細は後日資料提供 <p>2. 主な業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査 (保護すべき対象やエコツアーリズム、修復すべき対象に関して) ・ 自然保護の情報発信 (パンフや動画作成など) ・ エコツアーリズムも 10 年前から始まった。自然保護を目的とし、その手段としてのエコツアーリズムを地域住民への裨益を優先事項として取り組んでいる。 ・ 自然保護の規制が 15 項目ある (基本的な国立公園の考え方は日本と共通) → 詳細は後日資料提供 <p>3. エコツアーリズムの取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 年前から始まり、現在策定済みで遂行中の「A National Strategy for Development of Nature Based Tourism in Iran」の所管部局である。 ・ 2015 年に始まった JICA の「エコツアーリズム・マネジメント研修」では 3 年にわたる日本での研修が予定されている 2017 年 2 月にその第 1 回が行われた。イランから 13 名程が日本を 27 日間訪れ、座学を中心とする研修を受けた。Shirzad 氏が環境庁から参加し、その他には ICHTO の地方局から 8 人程、林野庁やゲシュム島の責任者、アンザリー州ラグーンのエコツアーリズム責任者などエコツアー 	

リズム関係の専門家たちが参加した。

4. エコツーリズムの課題について

- ・ エコツーリズムを進めるにあたって、土地所有者（例えば国有林の林野庁）観光協会（ICHTO）、州政府との調整が難しい（イランの縦割り組織の弊害）。
- ・ いまだイランのエコツーリズムは発展途上のため、国際的に発信していない。受け入れ態勢が整っておらず、訪問者が増えた場合保護が追いつかない（そのため、今回の JICA プロジェクトの対象地域としては時期尚早である）。
- ・ 近年は、インバウンド対応のための準備が始められている。地域の特徴にあった建物や民間事業者参入のルールについても整える必要がある。また、環境インパクトの調査も必要。

5. JICA への支援要請

- ・ エコツーリズムの研修や人材育成、現況のプログラムに対するアドバイザー派遣
- ・ アンザリー州のラグーン以外の全国 22 箇所のラグーンでのエコツーリズム開発支援
- ・ Carrying Capacity（環境収容力）に関するマネジメントの実践についての支援

6. 他ドナー支援について

- ・ レッドリストに載るトラの保護など、自然保護や生物多様性保護の視点からのドナー支援が中心（CITES, IUCN, UNEP, JEF など）で、エコツーリズムに関しての他ドナーからの支援は無い

7. 所感

環境庁からは観光関連ということでエコツーリズム担当者がヒアリング相手であった。イランの環境庁はエコツーリズムに力を入れており、既に JICA による研修も行われている。技術協力プロジェクトよりも、研修に対するニーズが高い。

以上

受領資料

特になし

21 UNESCO

概 要	
日時： 9月27日（水）8:30 – 9:45	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田（記録） Mr. Rahmani (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant)	Esther Kuisch-Laroche (Director and Representative UNESCO Tehran Cluster Office) Mahta Mohegh (Programme Assistant for Culture UNESCO Tehran Cluster Office) ICHTO より同席 Faezeh Behzadnejad (Director of ICHTO International Affairs Bureau)

	Kiandokht Torabi (Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau) Ali Sheikhan (Head of International Group of ICHTO International Affairs Bureau)
議事	
<p>1. 組織概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テヘラン事務所には 16 人のスタッフ（5 分野に 1 人ずつ専門家とサポートスタッフ。中国人スタッフも 1 名おり、あとはイラン人）。その他に、イラン政府が設置している、UNESCO 担当の事務所が各地域にある（Affiliated Regional Offices）。必要に応じて、世界中の専門家リストから特定の専門家を招聘している。 ・ 国連は、イランやその他の国々との連携のための枠組みである。現在は、2017-2021 のフレームワークが進行中。 ・ UNESCO がカバーしている地域は、イラン、アフガニスタン、パキスタン、トルクメニスタン。この地域に観光客が戻ってくるためのプロモーションが業務のひとつである。 ・ UNESCO とイラン政府の間で協定があるため、様々なプロジェクトに応じて、異なる分野の関係省庁と直接のやり取りを行っている。 ・ UNWTO とも MOU を結び、資金は WTO から提供だったり、様々な海外ドナーや、各国政府との連携もある。 ・ イラン観光のブランディングには、10 年前に作成された観光国家戦略をアップデートする必要がある。 <p>2. これまでの活動概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 去年は、2 回の WS を開催した。ICHTO の文化遺産部局と観光部局が担当し、各地域のマネージャーや NGO を集めて、スペインの専門家や WTO 代表を招聘して開催した。22 の世界遺産地域に関して、どのように観光デスティネーションとして組込むか、SWOT 分析を行った。 ・ その他、無形遺産（食事や文化など）を世界遺産サイトと組み合わせるかについても話し合った。 ・ 主には保全とプロモーションの 2 種類の活動がある。 ・ 保全に関しては、Tourism Corridor として、観光ルート開発。ホテルなどが少ないという問題があるだけでなく、Shushtar などは、主要な観光地であるにも関わらず説明が無い、訪問者たちは自分たちがどのような場所を訪れているのか理解が難しい。 ・ プロモーションに関しては、シルクロード観光の取り組みがある。イランに限らず、中央アジアとの連続で、少数対象の高価な旅行ツアーとなる。UNESCO としては、イランをシルクロード観光のデスティネーションとなるよう支援したいと考えている。 ・ その他、昨年からは水中の遺産保護にも取り組んでいる。カウンターパートは ICHTO の文化遺産局。 <p>3. イラン観光の現状の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光マネジメントの問題点としては、①観光地を結ぶ明確なルートが設定されていない、②セキュリティの向上、③観光客数を把握する統計データの整備、④押し 	

寄せる観光客のマネジメント。

- ・ 遺産サイトは、その遺産を保有していることだけで満足せず、マネジメントレポートを UNESCO に提出し、それを実現させなければならない。
- ・ **Carrying Capacity** の概念も重要。文化遺産の保護だけでなく、観光客の楽しみも大切だが、観光客が多すぎるとサイトをきちんと見るができないという問題が生じる。

4. その他の活動について

- ・ UNESCO の **Creative City** の取り組みの関連で、エスファハーンやテヘランの都市観光に関して、観光バスの運行などの活動もある。

5. 課題や将来像について

- ・ 保護と観光の両側面を（各部局や担当を超えて）つなぐことが課題。
- ・ キャラバンサライなど、歴史的建造物をどのように観光に組込むか。

UNESCO では、毎年民間投資による歴史的建造物改修のコンペを開催している。

ササン朝時代の **Yazd** の **Mehriz** 町にある **Saryazd** 砦のように、あまり知られていない民間開発のリゾート施設のように、PPP の取り組みの促進。

- ・ PPP は UNESCO が注目している分野のひとつ。民間システムをどのように ICHTO と連携させるかが最大の課題になる。
- ・ 博物館のマネジメントの課題。適切なインベントリー、コレクションのマネジメント、展示など。博物館は観光デスティネーションの心臓部に当たるため、重要な要素である。
- ・ 最初の具体的なステップとして、UNESCO は目下国家戦略の最終化を進めている。原則やガイドラインを整え、具体的な結果を出せるようにする。あらゆるドナーが目的を共有できる。
- ・ UNESCO はシルクロード沿いの文化遺産サイトを再生するプロジェクトに関わっている。

6. JICA に推薦する支援地域

- ・ イランと 5+1 の核合意後、UNESCO は国際組織とともに小規模プロジェクトにのみ関わってきた。
- ・ JICA は **Shush**、**Shushtar**、**Tchoga Zanbil** などのフーズスタン地域における、地域単位の観光ルートブランディングが行えるのではないか。

7. 所感

- ・ ICHTO だけでなく、UNESCO からフーズスタン州が支援地域として推薦されたのが驚きであった。
- ・ 現地での WS など、研修の支援は UNESCO も多く行っている。
- ・ UNESCO はナショナルレベル、インターナショナルレベルの小規模プロジェクト支援であるのに対し、よりローカルな地域レベルの支援が求められているという印象を受けた。

以上

受領資料

・ Summary report WH+ST Workshop, Bisotun, Iran 7-9 Sept 2016 (1) : 翌 28 日にメールで共有された

22 ICHTO ワークショップ

概 要	
日時: 9月27日(水) 11:30 – 16:00	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山、上田 (記録)、碓氷 (第2部後半のみ) Mr. Rahmani (Interpreter) Mr. Rezaei (Assistant) JICA より 小林所長 (第1部のみ) 水谷氏 Asadi 氏 (第1部のみ)	Mohammad Reza Atashkhaneh (Cultural Heritage in ICHTO) Poorang Poorhosseini (National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO) Tahereh Masjedi (National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO) Marzieh Shahrabi (Marketing Tourism ICHTO) Jassam Orzaee (Senior Expert, Investment Deputy) Elham Ghaem Maghdme (Investment Deputy) Hadi Ahmadhi (Cultural Heritage Sector) Sara Babaei (World Heritage Office) Faezeh Behzadnejad (Director of ICHTO International Affairs Bureau) Kiandokht Torabi (Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau) Ali Sheikhan (Head of International Group of ICHTO International Affairs Bureau) Dr. Mohsen Ranjbar (Cultural Heritage) Sassan Ghassemi (Internashinal Affairs) Hosain Karany (Ceelrock Natanz) Seyed Mahdi Yasini (Tourism Planning ICHTO) Armin Hadighi (Tourism Planning ICHTO) Mahboubeh Safarzadeh (Tourisim Deputy) Farahnaz Rafieyan (ICHTO Education) 挨拶・司会?
議事	
次第 1. 開会挨拶: International Affairs Bureau, ICHTO 2. JICA の国際協力事業について: JICA イラン事務所 3. 観光開発支援に関する概念と支援事例紹介: JICA 調査チーム (1) 観光開発支援に関する概念整理: Dr. Noriaki Nishiyama (2) JICA-Hokkaido Univ.による CBT 開発国際協力事業の紹介: Dr. Noriaki Nishiyama 4. イラン国の観光資源類型の分析: Dr. Hirofumi Ueda 5. 第一次調査からのフィードバック: Dr. Noriaki Nishiyama (1) 二次調査におけるポテンシャルエリア (3地域) の候補について (2) 各部局からの JICA への支援要請項目 (3) 民間部門へのヒアリング調査について: Ms. Shoko Usui 6. Discussion 途中で参加者の出入りがあったが、ICHTO から 18 名、JICA イラン事務所から 3 名の参加があった。	

<p>1. JICA 事務所からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA では、今年度 13 のプロジェクトがイランで進行中である。 • JICA がイラン政府への援助を行っている中で、今回の観光開発のプロジェクトは、「仕事創出」を目的としたカテゴリーに位置づけられている。 • JICA では毎年 8 月に、世界各国の支援ニーズ調査を行っている。今回の調査業務を通じて、支援ニーズを報告したい。 <p>2. 会場からの質問や意見</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ecomuseum が Sitemuseum と翻訳されていたことについて、概念が対応していないので訳し方を変えるべきであるとの指摘があった。（Ecomuseum→Sitemuseum の訳は、International Affairs の Behzadnejad 氏から通訳への事前の指示であった。） • これまで行ってきた CBT 国際協力事例について、どのくらいの期間で支援したのか、対象地域はどのくらいの規模の町かといった質問があった。 • また、どのくらいの観光客が現在訪れているのか、成果についての質問があった。 • ワークショップでは、観光資源のタイポロジー分析を、イランのケースに当てはめて、グループワークで参加者自身に記入してもらった。実際には、軸の説明が伝わりづらく、区分の判断が難しいとの意見があった。 • 今後の調査候補対象地に Ahvaz が含まれていたが、条件は良いが気候や砂塵などが厳しいのではないかとの意見があった。 • 工芸品について、最新テクノロジーによる支援が必要ではないかという意見があった。 • ぜひ、各地の NGO を紹介することで協力したいとの申し出があった。 <p>3. 所感</p> <ul style="list-style-type: none"> • 担当は International Affairs だが、司会進行は急遽変更し Education の Rafieyan 氏が担当した。ICHTO 内での見えない序列があるのかもしれない。 • JICA からは小林所長にご参加いただき、JICA 事業の紹介が行われた。 • 各部局から 18 名の参加があったことから、関心の高さが伺われた。 • 最先端技術による支援を求める意見があったが、コミュニティの参加を促すことで持続的発展につなげるというのが、世界的にも見直されていて、現在の潮流となっていることをきちんと伝える必要があると思われる。 <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
特になし

23 ICHTO National Committee of Ecotourism

概要	
日時: 9月27日(水) 16:30 - 17:00	
場所: Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室 (Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
西山、上田 (記録)、碓氷 Mr. Rahmani (Interpreter)	Poorang Poorhosseini (National Committee of Ecotourism, Office for National Agreement Coordination on Tourism in ICHTO) ICHTO より同席 Faezeh Behzadnejad (Director of ICHTO International Affairs Bureau) Kiandokht Torabi (Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau)
議事	
<p>1. 主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 24年前より自然ツアーを始、10年間エコツーリズムの専門官として勤務している。 エコロッジの取り組み。海外のエコロッジと違って、田舎の伝統的な建物を活用した宿泊施設。 ケルマン州での水のマネジメント WS など、各地域の責任者を集め、民間の運営をサポートしている。 <p>2. JICA Team への意見</p> <ul style="list-style-type: none"> イランと他国では CBT のやり方が違うので、日本との違いを明確にしてイランに合わせたアプローチを考えて欲しい。 人を集めても結局トップダウンが強い国なので、地域に入ってもトップと話す必要がある。 地域のキーパーソンが誰か分からないことが多い。宗教的なキーパーソンだったり、経済的なキーパーソンだったり、地域によって異なるので、誰にアプローチするのがとても難しい。 日本では、Ecomuseum を進めるとき、オーナーや投資家はどうなっているのか。イランでは、王侯貴族の子孫などが自分の領地を開発して住民を呼び戻すといったプロジェクトもある。 <p>3. 所感</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人が Ecotourism に長年関わってきたため、WS で思っていたことを伝えたかったものと思われる。 イランでも、これまで独自に進めてきたプロジェクトが多く存在するので、それらの動きや成果を尊重した上での今後の提案が求められる。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

24 JICA 帰国報告会

概 要	
日時： 9月27日（水）17:00 – 17:30	
場所： Haj & Priglimage building, ICHTO Tourism 部局会議室（Tourism Department- ICHTO-Khalij-e-Fars Conference Room）	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田（記録）	水谷氏（JICA イラン事務所）
議事	
<p>1. ワークショップのフォローについて</p> <ul style="list-style-type: none"> WS で用いた観光資源のタイポロジー分析シートを、Sassan Ghassemi 氏 (ICHTO Internashinal Affairs) が再度記入し直したいとの申し出があった。JICA Team の一次派遣報告結果を踏まえて、再度検討したうえで後日提出してくれる。 これに関しては、JICA イラン事務所からもフォローができるとのこと。 <p>2. 二次派遣の視察対象地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次派遣の視察対象地について、派遣 1 ヶ月前に外務省に提出する必要があることから、確定している地域だけでも早めに知らせて欲しい。 ペルセポリスは 3 つの候補対象地に含めることが業務指示書で義務づけられていたが、今回の一次派遣のヒアリングでは推薦地域として挙げられなかったという結果は、そのまま報告書に書いて構わない。 <p>3. ICHTO への JICA を通じた資料請求の協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 請求する資料のリストをとりまとめた上で JICA に依頼する。様式を用いて、JICA から資料提供の要請が可能。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

25 ICHHITO Shush Office

概 要	
日時： 9月28日（木）11:00 – 15:30	
場所： ICHHITO Shush Office	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田（記録）	Mohammad Hosesin Arastoozadeh (Manager of Shush World Heritage Site) 建築 Mohammad Onidfar (Archaeologist) Mohamed Amini (Head of Guard) Hadi Nirvali (Head of Conservation Sector) ICHTO より Ahmadi 氏
議事	
<p>1. イランの文化財区分について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8年前タレビアーン氏が就任してから現在のかたちに整理された。 ・ Heritage - Tangible – Movable（数百） - Immovable（数百） - Intangible（数百） - Natural（数百） <p>National Heritage 3,200 箇所</p> <p>2. Shush について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B.C. 5000 メソポタミア文明と同時期に発展。 ・ Shush が政治の中心、Persepolis が文化の中心、Shushtar は工業の中心、Tchoga Zanbil が宗教の中心。 ・ 現在の人口は Shush 8 万人、Shushtar 10 万人、Tchoga Zanbil（近傍の村 3,000 人） ・ 遺跡範囲（世界遺産の資産範囲）が 700ha あり、フランス隊による発掘。19 世紀にフランス調査隊が Tchoga Zanbil から発掘した遺跡のレンガを使ってアクロポリスの上に中世フランスの城を模したデザインの遺跡センターを建設。イラン国内発掘の中心施設として使われ、イラン中の遺跡が集まった。 ・ 貴重な遺跡はほとんど持ち去られ、ルーブル美術館に展示されている（後日得られた三菱商事の梨本氏の情報では、当時フランスとイラン間で条約が結ばれ、Shush の遺跡から出るものは全てフランス政府の所有に属し、国内の他の遺跡はその■%が属するというようなことになっていたとのこと）。 ・ 2014 年に世界遺産登録。 ・ チケット販売で把握される訪問者数は以下の通り（無料の子供などはカウントされていない）。 2012-13 年 80,000 人（外国人 5,000 人）（イラン暦 1392 年：イラン歴は毎年 3/20 から新年度） 2013-14 年 270,000 人（外国人 10,000 人） 2014-15 年 160,000 人（外国人 7,500 人） 2015-16 年 132,000 人（外国人 30,000 人） 	

→詳しくは JICA よりレターで資料請求

3. コミュニティの参加状況について

- 2つのグループに分かれる。①非営利グループと②営利グループ：
- ①非営利グループには 5 つの NGO が含まれる。「Shush 友の会(Lovers)」や自然保護の会、そして観光ボランティアの会など。観光ボランティアの代表の女性が主に城に常駐。ツアーの受入やガイド派遣の手配などを行う。
- ②営利グループは、ICHTO より許可を得て観光シーズンに世界遺産エリア入口付近に出店して、食事や土産物を売る人たち。
- 観光ボランティアガイド（通訳兼）は、10~14 人が登録され、ライセンスを与えている。3 時間×5 日の 15 時間ほどの研修を受ける。最も多いのは英語通訳で、ドイツ語、フランス語、韓国語、日本語ガイドがいる。Shush の遺跡では無料ガイドだが、Tchoga Zanbil など外部でのガイドは有料で行う。
- 訪問客で多いのは、フランス、ドイツ、スイス、日本（チケット購入時に出身地を回答）の順。
- 観光通訳ボランティアの会には 40~50 名程が登録していて、そのうち 30 名は女性。地元の新新聞などを通じて募集。20~30 代の若者が中心。
- Shush の観光スポットは、当該遺跡以外は隣接する聖ダニエル廟（旧約聖書に搭乘する予言者の墓。ムスリムにも人気がある）ぐらい。
- Shush の町には、4~5 軒のレストラン。1 軒のゲストハウス（ベッド数 20）のみ。観光客は Shush の町に滞在せずに、遺跡のみの見学。

4. ガイド達との意見交換

- Shush 遺跡を訪れる観光客たちは、フランス調査隊の城のみに興味を示すとのこと。7000 年前の遺跡の魅力が上手く伝わっておらず、200 年前に遺跡を破壊してつくられた城にばかり観光客の興味が集まるのはとても残念なことである。
- 遺跡の見学ルートや博物館展示など、遺跡の魅力を伝えるための工夫が求められる。
- 夏よりも涼しくなる冬が観光シーズンとなり、店などが並ぶと賑わいが出る。らくだなどに乗れると良いというガイドからの意見があった。

5. JICA への支援要望について

観光マスタープランの作成を予定しているが、その中のガバナンスや、必要なインフラ、Capacity building の WS、文化イベントについて、NGO や各団体の役割分担、プロモーション、マーケティング、海外事例の紹介などについての支援。

6. 所感

- 暑さばかりが強調され、イラン人に観光地として勧められないフーゼスタン州だが、「メソポタミア文明（関連遺跡、周辺遺跡・・・）」というキーワードのブランディングで、デスティネーション・イメージが変わるのではないかとという点について意見交換が行われた。
- 遺跡の持つ圧倒的な価値のわりには、魅力が伝わりづらいのが残念で、インタープリテーションに工夫が必要。
- 観光ボランティアガイドや住民の手工芸振興のための WS など、市民参加に向け

た取り組みは既に行われており、CBT 開発のポテンシャルは高い。	以上
受領資料	
特になし	

26 ICHTO Tchoga Zanbil Office

概 要	
日時: 9月28日(木) 17:30 - 19:00	
場所: ICHTO Haft Tappe, Tchoga Zanbil Office	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
西山、上田(記録)	<p>Atefeah Rashnoei (Manager in Tchoga Zanbil、昨年まで15年間は ICHTO のフーズスタン州地方担当 建築出身女性)</p> <p>Rahim Bonna (Head of Workshop Conservation、Haft Tappe 担当 建築出身)</p> <p>Ahmad Khanifer (Head of Workshop Conservation、Tchoga Zanbil 担当 土木出身)</p> <p>Alireza Jonawaz (Public Relation Manager コンピューターサイエンス出身)</p> <p>Najmeh Bostani (建築出身)</p> <p>ICHTO から Ahmadhi 氏</p>
議事	
<p>1. Haft Tappe について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 50年前に、国営サトウキビ畑を開墾する際に発見された。 ・ Tchoga Zanbil と併せた情報提供が 45年前に建てられた博物館(有名建築家によるものとのこと)で行われている。Shush の博物館よりも古いが、展示の照明や詳細な模型の配置など、空間の演出がとても工夫されていた。ただし、キャプションを除き英語の説明無し(詳細後述)。 ・ 博物館のみ有料で遺跡見学は無料。直前半年の入場者はイラン人 10,000人、外国人 4,000人。 ・ 近くには鉄道駅。米や国営サトウキビ畑。川が流れ魚も獲れる。らくだや羊の放牧も行われている。周囲の村は人口 3,000人程で、彼らのほとんどが国営サトウキビ畑で働いている。宿泊可能なヴィラがあるが、周辺住民の遺跡との関係づくりが課題。 ・ 2000年、2006年に UNESCO による日干しレンガに関するワークショップが行われた。この地域が、日干しレンガ修復のモデル地域で、定期的に世界中から関係者が集まる WS が行われている。 <p>2. Tchoga Zanbil について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メソポタミア文明と同じ時期のジググラット。 ・ メソポタミア文明の4つジググラットのなかで、Tchoga Zanbil のみが、異なる階の建物が独立して地面から建てられ組み合わせられているという建築構法上の違いがある(その他3つのジググラットは各層が積み重なっていく)。 ・ ガイドは Shush から派遣される有料ガイド。周辺地域からではない。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ ジググラットは目に見えるかたちで残る圧倒的な規模の遺跡であり、Shush の遺跡よりも観光客には分かりやすい（価値が感動として伝わる）と思われる。 <p>3. ブランディングについて意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メソポタミア文明と同じ時期だが、地理的には区別されるためブランディングに使うには難しいのではないかという意見もあった。メソポタミアがドイツ・アメリカの発掘であるのに対してイランはフランスの発掘だったという違い。ルーブル美術館でもメソポタミア文明とイランの遺跡は別々に展示されている。 ・ Will Durant の「文明の話」にもそのように書かれている→要確認 ・ Shush の博物館よりも Haft Tappe の博物館の展示が魅力的なのは、マネージャーの女性（Atefeah Rashnoei 氏）の工夫による。彼女のセンスで展示方法を変えた。 ・ 彼女が心掛けている 4 つの改善：①毎年保全を継続する、②インフラを改善する、③プロモーションとトレーニングのプランを持つ、④常に新しい手法を取り入れる。 ・ モバイル・アプリでの情報提供を半年以内に始める準備ができています。また、VR の活用に向けた調査を始めている。 ・ 周辺住民の参加にむけ、研修 WS を行い、竹の皮を編んだ民芸品の開発を行っている。 ・ Dezful – Shush – Haft Tappe – Tchogo Zanbil - Shushtar というのがこの地域の主な観光ルートで、その間にも 1,000 の遺跡がある。これらをつないだ Cultural Landscape、または Cultural Historical Natural Landscape としてブランド化した。 ・ 「Fist City in the World」というキーワードもある。 <p>4. JICA への支援要望について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ開発や VR、AR を活用した展示。 ・ 国レベルでの地域のプロモーション。 ・ 日本の世界遺産との連携で、姉妹都市のように、共同プロモーションや情報共有を行いたい。 ・ エコミュージアムとして、約 40km ずつ離れる 3 つの主要サイトとその間の National Heritage などの遺跡やイランの主要 3 河川をつなぎ、共通のサイン計画などを支援。 <p>5. 所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域の文化的景観として、北大がかつて行ったペルー・モデルを用いた観光開発の可能性があると考えられる。膨大な未活用の遺跡や、住民の日常生活を調査し、それらを歴史の集積として全体的に味わえる Ecomuseum の観光開発の可能性はある。 ・ サイトごとの訪問者数データは、JICA を通じて正式に依頼する必要がある。 	以上
受領資料	
特になし	

27 ICHTO Shushtar World Heritage & City Office

概要	
日時: 9月29日(金) 10:30 - 17:00	
場所: ICHTO Shushtar World Heritage & City Office、Dezful	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
西山、上田(記録)	Bijan Heydarizadeh (Manager of Shushtar World Heritage Site) Ali Mohamad Chaharmahali (Manager of Shushtar City 建築保存) M. Masha Kiani (Head of Conservation and Water Control) Abol Ghasem Gholamheidar (NGO 代表) ICHTO より Ahmadi 氏
議事	
<p>ICHTO はイラン中の全ての市(City)に事務所と担当者を置いている。町(Town)に関しては歴史的な町にのみ。この日訪れた Shushtar には市の観光・手工芸等の担当者と世界遺産サイトの担当者が2名おり、事務所も2つある。</p>	
<p>1. フーゼスタン州へのこれまでの日本の支援について (Ahamadi 氏より車中にて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡田保良先生(国士舘大学、考古学)、渡辺先生(土木)が中心となり Tchoga Zanbil 支援がこれまで行われてきた。 谷口純子氏(UNESCO テヘラン事務所)はイランの文化遺産を守るため、2003年頃多くのWSを開催し、皆から愛されていた。 	
<p>2. Shushtar 世界遺産について</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界一の人工水利施設。300 A.D. に建設される。しかし、水路沿いの集落は、3500B.C.頃、Susa と同時期から人が居住していた歴史がある。 世界遺産としては、シリアルではなく、一箇所のサイトとして水利施設が登録されている。(それ以前の居住地の遺跡は構成要素ではない) カルン川から2箇所取水し、32箇所の粉ひき場(歴史的記録では40箇所)の動力として使われるとともに、農業用水としても用いられた。途中、地下水路も通り40km先で2本に分かれていたカルン川と水路は合流する。 粉ひきは近代化の中でいくつかが電動に変わった。近代に整備された最初の電動粉ひき施設も世界遺産の構成要素。 構成要素となっている水路沿いのモスクは、Mandee (Saebian) という川信仰の少数宗教のもの。現在残る信者は4,000~6,000人で、イランでは Ahvaz にのみに住んでいる。 世界遺産保護の規制として Shushutar のバッファゾーンは、都市計画によってゾーンごとに異なる建築規制が行われている。カルン側北側の居住地区では、高さ4.5m制限。南側の商業地区では、建ぺい率40%、高さ7.5mで2階建て以下の制限となっている。 今年3月に、新たな観光アクティビティとして川下りツアーを15日間試験的に行った。観光客の滞在時間を伸ばすという狙いもある。 もともと、ダムは港としても使われていた。多くの橋の建設や近代化による自動車の普及で水運は廃れた。 最近半年(猛暑で閑散期)のチケットベース訪問者数は 	

2017年3月：イラン人 60000 人、外国人 2250 人

4月：イラン人 1000 人、外国人 150 人

5月：イラン人 1300 人、外国人 30 人

6月：イラン人 1350 人、外国人 35 人

7月：イラン人 7000 人、外国人 250 人

8月：イラン人 2500 人、外国人 100 人

→統計データは JICA を通じてレターで依頼

3. NGO の活動について（サラセル城跡に移動）

- ・この地点から川に下りていったところに、2 つ目の取水口があり、地下水路が見学できる。2004 年より、水路の底から 3.5m くらいの高さで水路を上下二層に分け、下層を水が流れ、上層を観光客が歩けるようになっている。かつて水路の流量を調整したゲート跡の穴などが壁に残っている。
- ・サラセル城は 400 年程前に建てられた城。現在、その周囲の建物は、手工芸振興のために活用されている。また、NGO の活動拠点も置かれている。
- ・Shushtar の町には 3 つの主要な NGO がある。①Shushtar 友の会、②観光ボランティアガイド、③演劇団体はいずれも、話を伺った Gholamheidar 氏が代表を務める。合計で会員は 300 名程。スタッフは各団体 2 名ずつ程。
- ・観光ガイドの通訳は、英語、ロシア語、ドイツ語のみが会員の中にいる。
- ・毎年、子供のための絵画や演劇の WS を行ったり、民間セクターが観光に参入できるようにアドバイスしたり、スポンサーとのマッチングの援助やコンサルティングを行ったりもしている。
- ・代表の Gholamheidar 氏の背景は、観光を学び、演劇・映画が専門。本の出版なども行っている。
- ・提供された「Shushutar Tourism」という無料冊子は、毎年出版され、観光ルートマップなどが記載されている。出版費用の 10 万ドルは民間スポンサーから寄付され、団体は演劇への招待券などそれらの企業に提供している。
- ・海外ドナーの支援などは受けておらず、活動費の一部は政府からの補助を受けており、その他は民間スポンサーから資金を調達している。
- ・地域や州だけでなく、全国の NGO との連携や、ツアーガイド協会との連携、イラクの大学などとも連携している。

4. 歴史的建造物の民間活用への支援について（Tabib Traditional Hotel、AFZAL Caravan Serai を見学）

- ・Shushutar には、200 年ほど前の歴史的邸宅跡を改修した Hotel が現在 3 軒あり、さらに 1 軒が準備中。
- ・こうした Traditional Guest House は、他のホテルと違い、州のホテル協会に登録する必要は無く、ICHTO にのみ登録。改修費用の 10～20% の補助金を ICHTO より得ることができる。
- ・見学したオープンした Tabib Traditional Hotel の収容人数は、10 部屋 40 ベッドで、一泊の料金は一人当たり 20 ドル程度（ICHTO により料金設定されていて、他の同タイプのホテルも同じ料金）。

- ・稼働率は 20% くらいとのことだが、向いの同タイプのホテルは本日満室だった。
- ・主な宿泊客は、仏、独、シンガポール、韓国。
- ・宣伝は、Online Booking、ツアー業者、SNS（国内 Telegram、国外 Facebook）の 3 種類で、特にインターネットでの宣伝に力を入れている。
- ・Shushutar には多くの観光客が訪れているが宿泊客が少ない。宿泊拠点を Ahvaz や Dezful としていることが多く、Shushutar が宿泊地として認知されていないのが問題。
- ・ICHTO としては、歴史的建造物のオーナーに、建物を取り壊さないよう説得するのが難しく、そのための専門家が重要と考えている。また、こうしたホテルを運営するためのマネジメント支援ができる専門家も求められている。
- ・近くにある AFZAL Caravan Serai は、歴史的キャラバンサライを修復し、手工芸のショップ兼アトリエとして整備した場所。現在 44 軒の店舗が入っている。（歴史的建造物を効果的に修復活用しており、空間の演出も魅力的である。）
- ・フーゼスタン州で、手工芸品アワードの取り組みがあり、受賞商品をまとめた冊子がある。この AFZAL Caravan Serai からも受賞者が出ている（ちなみに、この冊子のクオリティは高く、日本のものと遜色ない）。

5. Dezful について

- ・Shushutar と同時期に栄えたササン朝の歴史都市。当時の土木技術でつくられた橋が残る。
- ・ICHTO Cultural Heritage Deputy Head のタレビアン氏は Dezful 出身
- ・カルン川の観光利用は最も進んでいる印象がある。川の水もきれいで、河岸の水上市レストランや、市民が憩える親水空間が多数整備されている。
- ・歴史的な浴場を用いた民俗博物館や、歴史的建造物を活用した NGO の活動拠点などがある。

6. JICA への支援要望について

- ・フーゼスタン州の 3 つの世界遺産だけでなく、観光客にはその間の多くの遺跡を見て欲しい。その際、80% の観光客が空港を利用するため、Ahvaz がゲートウェイとなる。Dezful の Andineshk 空港もあるが、イラク観光客は Ahvaz を通ってくる。
- ・Mollasani を通って Shushutar に至る道は、民族学的にも貴重で、キリムなどの織物の生産地。Shush との間には自然保護の National Park もある。
- ・こうした地域を、Cultural Landscape としてマネジメントしたい。また、手工芸の振興も図りたい。
- ・地域全体の歴史や GIS などを用いた全体の魅力を記述するためのレベルの高い専門家の研修が不足している。
- ・観光マスタープランの作成が必要。そのための、プランナーや特にプロモーションのための専門家の支援が求められる。また、観光マスタープランを実践するための専門家も必要。
- ・自分たちのアイデアを実現し世界に通じるように発信するための、海外の知識

を持つ専門家の支援が必要。

- NGO をマネジメントに巻き込む方法についても教えて欲しい。
- 歴史的建造物のオーナーへの働きかけや、活用のためのマネジメントに対する専門家の支援が必要。

7. 所感

- ICHTO の地方担当者は定期的に研修を受けているが、基本的な内容が多く、その地域の課題に合わせた専門的な研修が行われていないという現状が、全てのインタビューで研修支援の要望が出てくる背景にあると思われる。
- 全てのサイトで文化的景観や、マーケティング、プロモーションへの支援要望が聞かれた。
- イランでは、政府から任命される Governor と、選挙で選ばれる議員から選出される市長とは異なる権限を持つ。公共施設の運営は Government、それ以外を民主的な municipality が運営するという、トップダウンとボトムアップの組み合わせの行政組織となっている。

こうした行政のしくみが、文化遺産と市民をつなぐ際に NGO を必要とする主な理由となっており、行政主導で NGO を活用しながら市民参加を促したいというサイトマネージャーの発想の背景にあると考えられる。

- いずれにせよ、以下の3点は、現地視察から見えてきた客観的事実として二次派遣の検討材料になる。

①膨大な未活用の資源が未だに眠っている、②既存の観光地も広域に点在し、全体をつなぐストーリーづくりやブランディングができていない、③官民が連携した、住民に裨益する観光のマネジメントのしくみが整っていない。

- 以上から、ICHTO 職員から要望のある、広域 Cultural Landscape としての価値づけや、Ecomuseum としてのマネジメントといった内容は、一定の妥当性があると考えられる。

以上

受領資料

特になし

28 ICHTO International Affairs Bureau

概 要	
日時: 10月2日(月) 11:00 - 12:00	
場所: ICHTO International Affairs Bureau	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
上田(記録)	Faezeh Behzadnejad (Director of ICHTO International Affairs Bureau) Kiandokht Torabi (Senia Expert of ICHTO International Affairs Bureau)
議事	
ICHTO に一次派遣のフォローアップおよびお礼と挨拶のために訪れた。 フォローアップの資料提供依頼については、必要な情報の項目ごとに、①JICA を通じた公式依頼、②ICHTO を通じた民間セクターへの依頼、③民間セクターへの直接依頼、の	

いずれをとるべきかを確認した。

あまりにも質問項目が多かったので、ICHTO 職員の労力を減らすため、あらゆる注文を付けられてしまった。

1. 追加の資料請求に関する確認

- ・ 観光マスタープランは、15 年前に UNWTO のコンサルの支援を受けて作成したものがあり、今回新しいプランを作成中。UNWTO から前回同様の支援を受けながら現在最終とりまとめ中。まだ英語翻訳もされていない。
- ・ 観光に関連する法律の名前と体系については、JICA からの公式メールにて依頼する。英語になっているものは無いと思われるので、各法律の具体的な内容については、今後の調査の進捗に応じて個別に提供を依頼することとした。
- ・ 世界遺産のマネジメントプラン、世界遺産サイトごとの訪問者数データ、海外ドナーの支援状況の概要については、JICA を通じて依頼することを再度確認した。
- ・ 海外ドナーの支援は、基本的には UNESCO と UNWTO が中心。その他には、OIC(Organization of Islamic Cooperation)や UNIDO (UN Industrial Development)、UNDP なども多少関わるが、支援概要を JICA レターで回答してくれる。
- ・ 民間セクターの質問に関しては、直接送ってもらって構わない。回答が得られない場合は、ICHTO が協力するので Torabi 氏に連絡する。
- ・ ホテル数や航空会社数、外国人観光客数の統計データに関しては、JICA を通じて依頼をして欲しい。その際には、どのスケールで欲しいのか（国か州か郡か市町村か）範囲を指定した方がデータが得やすい。とりまとめている行政機関が異なるから。ちなみに、国レベルの方が、データ提供の許可が下りるか分からないし、時間もかかる。
- ・ ツーリズムインフォメーションセンターについては、Municipality が運営しているので、詳細はそちらに問い合わせてもらった方が良い。全体的なデータは JICA を通じて依頼。
- ・ MICE の戦略はイランには無いが、正式な回答が欲しいのであれば JICA を通じて依頼。コンベンションセンターについても。

2. ICHTO からの資料請求に関する提案

- ・ ICHTO に情報提供依頼を受けても、International Affairs Bureau が回答するのではなく、各部局に回答を依頼することになる。
- ・ 情報提供に関する許可の意思決定は各部局にあるため、公式レターには以下の点について概要説明があることが望ましい。
 - ① どうしてその情報が必要か
 - ② 今後の第二次・第三次派遣の予定について
 - ③ 欲しい情報の日本の状況やコラボレーションの Framework
 - ④ 欲しい情報のリスト
 - ⑤ 11月に中間報告を提供する旨
 - ⑥ 締切
- ・ 10月13日までに情報が欲しい点、11月にペルシャ語で中間報告書を提出する点

を伝えたが、現在分かる範囲の予定の概要を一文ずつでよいので書いて欲しいとのことだった。

- ・ JICA からのレターは、JICA 職員にペルシャ語翻訳してから送ってもらいたい。

3. フーゼスタン州視察のお礼と意見交換

- ・ Tehran-Ahvaz フライトの E チケットを受け取り、追加料金の 390,000 リアル／人を支払った。
- ・ Ahmadi 氏のアテンドのお礼や視察の内容と感想を伝えた。
- ・ 手工芸品の話題に関しは、もっと世界に発信したいという Behzadnejad 氏の想いが多く語られた。彼女は、前職では手工芸の仕事創出支援を担当していた。
- ・ セムナン州では、トルコのブランドと契約を結び、テヘランの縫製工場で海外向けの製品を生産した実績がある。このような、イランの手工芸を海外マーケットとつなぎ、世界品質に向上させる動きが今後も広がって欲しい。
- ・ 今回、WCC (World Council of Craft)に “world village of pottery” として登録された Kalpougan 村は、7000 年前から陶器生産が行われてきた村。しかも、女性が生産に関わっている。

以上

受領資料

特になし

29 JICA Iran Office

概 要	
日時： 10月3日（火）13:00 – 13:45	
場所： ICHTO International Affairs Bureau	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
上田（記録）	田中次長 (JICA Iran Office) 水谷氏 (JICA Iran Office)
議事	
1. フーゼスタン州視察報告について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ フーゼスタン州は、サイト選定の有力な候補地のひとつになる。 ・ 気候条件が厳しいと言われるフーゼスタン州だが、観光のアプローチによってDESTINATIONイメージを変化させることができるかもしれない。 ・ 視察先で話題になった、岡田先生や UNESCO 谷口氏の過去のイランでの活動については JICA では把握していない。 ・ これまでのヒアリングでは、民間との連携の課題がよく聞かれたが、現場では活発な NGO の話を直接聞くことができた。それにも関わらず、ICHTO のサイトマネージャーからは、NGO との連携が課題との意見があった。 <p>JICA → 一般化はできないが、Government 側の人手不足から、地元コミュニティや NGO 活動との連携が難しいというものもあるかもしれない。地方自治に関する政治的しくみの問題というよりも、単純なマンパワーの問題かもしれない。</p>	
2. 二次派遣の予定について	

- ・ 2018 年はイランが Organization of Islamic Cooperation のホスト国となり、Tabriz が開催都市となる。二次派遣の調査の際に、この文脈で Tabriz が候補のひとつになるかもしれない。
- ・ 調査日程が確定したら報告。→JICA 本部に提出済み

3. フォローアップの資料請求について

- ・ イラン政府からの情報入手は容易でないので、できる限り細やかな対応が必要になる。
- ・ 既に担当部局へのヒアリングを済ませ、情報提供の合意がとれているものと、今回新たに情報提供を依頼するもので、段階を分けて JICA を通して依頼を行うことになった。
- ・ この点については、JICA から ICHTO に事前に説明を行う。
- ・ 担当部局と合意済みのものは、予定通りリストを JICA に送り、様式に従って JICA から公式レターを送ってもらう。
- ・ 新たに提供依頼を行うものについては、可能な範囲で要求された内容を盛り込んだペルシャ語のレターを送る。
- ・ ペルシャ語への翻訳は、JICA チームで行う。
- ・ 今回の業務進捗報告書には間に合わないかもしれないが、二次派遣までの不在期間を有効に活用するためにも、ペルシャ語翻訳ができた時点で JICA を通じて依頼する。
- ・ 不在時にアシストを通じて直接民間企業に対して情報収集を行うことは、業務予算が許すのであれば問題ない。

以上

受領資料

特になし

第一次現地調査 面談録（民間セクター）

訪問先と面談・協議参加者

日程	訪問先	面談・協議参加者
8月25日（金）	株式会社阪急交通社 13:00～14:15	企画旅行事業本部 東日本営業本部 メディア 営業二部 海外営業三課 二係長 橋本圭司、二係 山田 弘
質問票にてヒア リング	株式会社ワールド航 空サービス	東京支店 営業部・中近東担当
8月29日（火）	ペルシャツアーリズム グループ（東京） 10:00-11:30	エマミエ セイエド アバサリ（社長）
9月6日（水）	JTB グランドツアー 17:00-18:00	企画販売部 第一課 内山 智
9月12日（火）	イラン航空 GSA(東 京) 10:00-11:30	旅客営業部 部長 加藤 啓
9月18日（月）	Persepolis Travel & Tourism Services Co. 0:30 - 11:00	Dr. Alireza Mahmoudi, CEO & deputy chairman of the board ・調査団 確氷
	Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran 11:30 -13:30	Mr. Ebad Reza Eslami, Director Tourism & Handicrafts ・調査団 確氷
	Parsian Sepanta 14:00 - 15:45	Mr. Mehrdad Asedifard ・調査団 確氷
9月19日（火）	Raja Rail Transportation Co. 09:00 -11:00	Mr. Reza Hemmati Ahoei, Deputy of (Sales & Marketing Dept.) Mr. Saeed Khedmatloo, Manager (Sales & Marketing Dept.) Mr. Mehrdad Naseri, Head of Product & Band Dept. in Marketing Directory ・調査団 確氷
	DELTABAN Tour & Travel Agency 11:45 - 13:45	Mr. Mohammad Ansari, Senior Operation Manager Mr. Meysam Kaveh, Domestic Sales Manager ・調査団 確氷
	Federation of Tourist Guide Association 14:30 - 16:00	Mr. Mohammad Yazdani, Head of Association Mr. Saied Ayoubi, Tour Guide ・調査団 確氷
9月20日（水）	Iranian Tour Operators Association 11:00 - 12:45	Mr. Seyyed Hadi Shirazi, Secretary of the Assosiation ・調査団 確氷
	Iran Tourist Guide Association 14:00 - 16:00	Mr. Jalil Charkhian, Member of Board of Directors & Managing Director Ms. Forough azel Ardakani, Vice President ・調査団 確氷

日程	訪問先	面談・協議参加者
9月22日(金)	Azadi International Tourism Organization (AITO) 16:00-16:15	・ AITO Ms. Setsuko SUGIMOTO Mr. Zatollah Riazati ・ 調査団 大原
9月22日(金)	Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI) 16:15-16:30	・ TACI Mr. Morteza Hazi (President) Mr. Hesamoddin Rafiee (在日本イラン大使館) ・ 調査団 大原
9月24日(日)	Olympic Hotel 10:00 - 11:45	Mr. Ali Kabiri, Vice President and Manager ・ 調査団 確氷
	Espinas Palace Hotel 12:30 - 14:00	Mr. Mario Candeias, General Manager ・ 調査団 確氷
	Varzesh Hotel 15:00 - 16:30	Mr. Mohammadreza Afgheh, Hotel Manager ・ 調査団 確氷
9月25日(月)	Pardisan Tour & Travel Agency 9:30 - 11:30	Mr. Mehdi Shafiee Shakib, Tour Manager ・ 調査団 確氷
	Mhregan Hotel 13:00 - 14:30	Mr. Mehran Davaran, Manager ・ 調査団 確氷
9月26日(火)	Parsian Enghelab Hotel 11:30 - 12:30	Mr. Sabah Rashidi, Rooms Devison Manager ・ 調査団 確氷
9月27日(水)	Joopar Passenger & F Freight Trains Co. 9:00 - 12:00	Mr. A. Bashiripour, Marketing & Sales Manager Mr. M. Sadeghi, Marketing & Sales Officer ・ 調査団 確氷

面談・協議概要一覧

1	株式会社阪急交通社.....	1
2	ワールド航空サービス.....	4
3	ペルシャツーリズムグループ（東京）.....	5
4	JTB グランドツアー.....	7
5	イラン航空 GSA（東京）.....	9
6	Persepolis Travel & Tourism Services Co.....	11
7	Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran.....	13
8	Parsian Sepanta.....	14
9	Raja Rail Transportation Co.....	15
10	DELTABAN Tour & Travel Agency.....	16
11	Federation of Tourist Guide Association.....	17
12	Iranian Tour Operator Association.....	19
13	Iran Tourist Guide Association.....	20
14	Azadi International Tourism Organization (AITO).....	21
15	Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI).....	22
16	Olympic Hotel.....	23
17	Espinas Palace Hotel.....	24
18	Varzesh Hotel.....	25
19	Pardisan Tour & Travel Agency.....	26
20	Mhregan Hotel.....	28
21	Pasian Enghelab Hotel.....	29
22	Joopar Passenger & Freight Trains Co.....	30

面談・協議概要

1 株式会社阪急交通社

概 要	
日時： 8月25日（金）13:00 – 14:15	
場所： 阪急交通社	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	企画旅行事業本部 東日本営業本部 メディア営業二部 海外営業三課 二係長 橋本圭司、二係 山田 弘
議事	
<p>1. イランツアー販売状況</p> <p>2ヵ月に1本程度のツアー催行で2017年はこれまでで約100名。 大阪と東京からの参加者を一つのグループとして催行、一グループは20名程度。 ツアー参加者はここ数年、横ばいであるが、今年6月、「世界ふしぎ発見」でイランについて放映されたことで、顧客の興味がイランに向き、ツアー参加者が増加傾向にある。</p> <p>2. ツアー参加者</p> <p>阪急交通社の顧客全体として男性4割、女性6割であるが、イラン旅行に参加する男女比も同じような割合となっている。</p> <p>年齢層は60～70歳代がメインであるが、夏休みを利用して参加する学校の先生や公務員（通常の参加者より若年層）もいる。</p> <p>ツアーへの参加形態は一人で申し込む人が多い。イランが「危険」というイメージがあるためか、夫婦／カップルでの申し込みは少なく、イランに興味のある人が一人で申し込むと考える。</p> <p>旅行者の満足度は高い。（ホテル等インフラで問題が出ることもあるが、そもそも期待度は高くないので、現地に行って失望することもなく、よって見応え等と合わせて満足度が高いと思われる）</p> <p>現在販売しているイランツアーは一種類であることも関係しているかもしれないが、リピーターはいない。 イランに行く旅行者は、カントリーハンターが多く、イランの“他のツアー（別ルート）”に参加するより別の国を訪問し、パスポートに入国スタンプを増やすことを求める。このような旅行者は、ユーラシア、西遊、WASなどの顧客と被っており、常に新しい国へのツアーを探し、時間や予算が合ういずれかの旅行会社のツアーに参加する傾向にある。</p> <p>イランを訪問すると米国に行く際、ESTAではなく査証の取得が義務付けられたことからイラン旅行に躊躇する人も多い。また、南米に行く際も米国の乗り継ぎにおいて米国に一旦入国することから米国の査証が必要。イランへの旅行に興味を持つセグメントは南米も旅行先の対象であるため（秘境マニア、カントリーハンター）、イラン旅行を控えることもある。</p>	

3. ツアー造成・販売

DCI を長年利用している。DCI のカウンターパートは AITO。AITO はイラン最大（自称）の旅行会社（国営）でインバウンド部門がある。杉本さんという女性がおりきめ細やかに対応してくれる。（杉本さんは現地在住 40 数年。今年のツーリズム EXPO のため一時帰国予定とのこと。）

ツアー造成において特段の問題はないが、ランドフィーが通年同じであるため、オフシーズンに販売価格を安く設定できるというものではない。

✓シーラーズかエスファハーンに民族楽器を演奏しているレストランがあるはずだが、情勢等により急遽演奏中止となることもあり、ツアーでは利用していない。（ツアーパンフに謳えないため）

✓民家訪問プログラムがあると良い。
イラン式のお茶を頂ける等

✓イランのツアーがコンスタントに催行されるようになれば、今後、イラン西側を訪問する旅程を作り販売したい。

現在販売されているツアーは、

- ・テヘラン→シーラーズ（空路）
- ・シーラーズ→ペルセポリス→ナクシュロスタム→ヤズド→イスファハーン→アブヤネ村→カシャーニ→テヘラン（いずれも陸路）

≫イランツアー販売に関する課題≪

査証取得に時間がかかることから（2～3 週間）、ツアー催行の一ヵ月前には申し込みをメなければならず、駆け込み需要を取ることができない。査証取得の簡素化、或いは取得にかかる費用が上がっても早く取得できる等の施策があると良い。

4. 現地インフラ・サービス

イランに行く人はそもそもインフラに期待はしていないことからクレームが出るといったことは無い。

≫ホテル

現地資本の古いホテルでもお湯は出るし冬は暖房がしっかりしている。イラン人は親日家のため困っていると助けてくれる等サービス面でも悪くない。

朝食はアメリカン Buffet（ツアー利用ホテル）

≫移動 - バス

ツアー行程で利用する道路はハイウェイのため、穴だらけということはない。

ネズミ捕りを行っているため、ドライバーの運転も悪くない（スピードの出し過ぎなどはない）

古いバスがあったりするが問題が起きることは無い。

≫移動 - 国内線

便が限られており、旅程は組みにくい。

（バスの利用を促進しているのか？）

例：テヘラン→シーラーズ（イラン航空 2017 夏タイムテーブル）

月： 06：00、16：20
火： 16：00
水： 06：00、07：00、16：40、19：50
木： 15：45
金： 06：00、06：50、14：00
土： 15：45
日： 07：00、16：45、19：50

※ツアーではテヘランからシーラーズに飛ぶが、テヘラン発が朝6時や7時では出発が早すぎる。

≫ガイド

イラン人のJSGがおり、語学レベルは高くしっかりした日本語である。

≫トイレ

観光地では土産物店、長距離移動ではカフェなどを利用しているが比較的綺麗である。しゃがむタイプのもので高齢者にはきついと思う。紙は設置されておらず持参。

5. 土産品

ツアー参加者が購入する土産品は、ピスタチオ、ギャズ、絨毯など。

6. プロモーション

年2回、イラン大使館の協力の基、大使館内で説明会を実施。他の施設で実施する説明会より参加者は多い（大使館に入りたい目的の人もあるだろうが「イラン」への興味は持って貰えるのではないか）

日本語のオフィシャルパンフレットが欲しい。PTG（ペルシャツーリズムグループ：ツアオペ）で作成したものがあがるが、ランドオペレーターとして利用していないため配布は躊躇われる。

また、大使館作成のDVDがあるが25年くらい前のものである。説明会で使用できる、20～30分のプロモーションDVDが欲しい。

※イラン・イラク戦争の影響により、イランもイラクも同じと考える顧客が多く、イランについて観光地としてのイメージを持つ顧客は少ないため、観光地としてのイランを露出できるプロモーション媒体が必要。

世界遺産をもっと露出すると良い。（世界遺産ハンターは多い）

最近のイランを知るためにエージェントFAMツアーを実施して欲しい。

※自社負担で視察にいけるチャンスは減っている。イランを知ったうえでツアーの造成や販売をすることは重要。

日本人は「ペルシャ」「シルクロード」に反応（「イラン」は危険のイメージ）するため、ツアー名も「シルクロードを吹き抜ける ペルシャの風」と打ち出し、「イラン」の文字は若干小さめにしている。

受領資料
ツアーライター

2 ワールド航空サービス

概 要	
日時： 質問票にてヒアリング	
場所：	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	東京支店 営業部・中近東担当
議事	
<p>7. イランツアー販売状況 2015年度（56名）、2016年度（75名）、2017年度（90名見込み） イラン方面のツアーは全体の販売人数に対して、0.5%程度</p> <p>8. ツアー参加者</p> <p>① 男女比： 男性 30%、女性 70%</p> <p>② 年齢層： 50代以下（2%）、50代（3%）、60代（27%）、70代（56%）、80代（12%）</p> <p>③ 参加形態： 夫婦、友人、一人参加</p> <p>④ リピーター率： 90%</p> <p>⑤ 人気コース： 栄光のペルシャの旅 ※テヘランからシーラーズまでバスで横断する旅</p> <p>⑥ 申し込みタイミング： 月刊誌で発表後</p> <p>9. ツアー造成・販売 現地のツアーオペレーターを利用しツアーを造成している</p> <p>① 手配上の課題 レストランや食事の内容が事前に確定しない ホテルの確定が直前にならないと分からない</p> <p>② 実施している体験プログラム チャイハネ体験 民家訪問 ※遺跡の貸し切り観光が出来ると良い</p> <p>③ 旅行会社としての興味 ✓新しい観光地の開発 観光資源はあるので、良いホテルの建設やインフラの整備が進めば、カスピ海周辺のツアーも組立てられると考える ✓バムなどの治安に関して</p> <p>10. 現地インフラ・サービス</p> <p>① ホテル 慢性的な水不足によりお湯の出が悪い 全体的に設備面で老朽化している</p>	

<p>② 移動 - バス 主要都市の交通渋滞がひどい</p> <p>③ 移動 - 国内線 以前は遅れることが多かったが、最近は大分少なくなってきた</p> <p>④ ガイド 問題無し</p> <p>⑤ 食 肉料理中心のワンパターンになりやすい</p> <p>⑥ 標識 ペルシャ語表示であるため分かりにくい (分からない?)</p> <p>⑦ トイレ 公衆トイレが限られることに加えて、衛生上の問題がある。 紙が無い、水が流れない、便座が無い、など</p> <p>11. 土産品 ピスタチオ等のナッツ類を購入される</p> <p>12. プロモーション テロ等に対する安全性を露出していくことが重要</p>
受領資料

3 ペルシャツーリズムグループ (東京)

概 要	
日時: 8月29日(火) 10:00-11:30	
場所: ペルシャツーリズムグループ (東京)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
碓氷	エマミエ セイエド アバサリ (社長)
議事	
<p>《主観が入っている可能性あり・言葉の問題で一部推測あり》</p> <p>1. ツーリズムに関する組織・現状 ICHHTO のトップは副大統領の一人 (副大統領は 11 名) で、ポリティカルなタイトルであり、テクニカルではない。観光には力を入れていない。</p> <p>Investment Package(英語版あり)→1300 プロジェクト</p> <p>ICHHTO の下に Touring & Automobile Club of The Islamic Republic of Iran(以下、TAC) が位置している。(TAC は半官半民の模様・TAC は旅行会社も保有: ARAS Travel & Tourism)</p>	

各国の政府観光局機能は ICHHTO が TAC を通じ、各国のレップに委託。ただし、各国のレップに対し、プロモーション等の予算は、ICHHTO から TAC から割り当てられておらず、レップが自前で実施している。

TAC は

- ① イランの自動車連盟 (JAF のイラン版) として
- ② ICHHTO から委託されている観光産業に関しての機能を有する。

観光関係の予算は、ICHHTO から割り当てられるものと、自動車連盟としての収入 (免許交付や道路通行料等の収入) を割り当てている可能性がある。

TAC では、これらの予算を使用し、広報資料 (パンフレットや DVD) の作成と旅行展示会への出展をしていると思われる。(予算規模、プロモーション資料の種類・言語、出展国などは不明)

✓イランは、政府／軍／経済が一緒になっている

› トランスポーター

プライベートのトランスポーター会社は無く、軍が持つ会社からバスやドライバを卸す

中型バスが不足

バス火災がよく起きる (車体に比べてガソリタンクが大きすぎるため)

› ホテルや旅行会社

見かけは民間だが実は国営ということがある

※ AITO (イラン最大と言われる旅行会社でイン／アウトあり)

ホテルの☆にクライテリアはなく、部屋数で☆を決めている

また、各都市の市長がルールを決めている

※例えば、ホテルの窓は床から 1.5m から上に設置等 (窓から下をのぞかれないように)

2. 観光教育

Allameh Tabatabai 大学 (テヘラン)

ツーリズムを教えているがレベルは低い

3. 送客の課題

① アメリカのビザ問題によりイランに行きたがらない人も多い

※日本人にはパスポートに㊦を押さないなどの施策があると良い

② 治安: 特にバム (危険度を下げたい)

③ 直行便: 現在イラン航空は飛んでおらず、日本からは中東経由等

※イラン航空 第一優先: ヨーロッパ、中国、クアラ

第二優先: ソウル、東京

- ・イラン航空はエアバスも導入し始めているが、総じて機材は古い
(エアバス： 320 1機、340 2機)

① パーミッション

日本人の場合、一団体につき 19 のパーミッションが必要

- ・訪問する市ごと、警察／ツーリズムポリス (イスファハーン) 等々
- ※アメリカの団体の場合はもっと多い
(指定ガイドを利用しなければならないなどの規制もある)

受領資料

プロモーション資料

4 JTB グランドツアー

概 要	
日時： 9月6日 (水) 17:00-18:00	
場所： JTB グランドツアー	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
碓氷	企画販売部 第一課 内山 智
議事	
<p>販売実績・お客様傾向等 添乗員付きが年 1~2 本 (1 団体 8~10 名) / 個人の手配旅行</p> <p>春は王道コース、秋はキャビール砂漠を中心にマシュハドまで横移動するコースを設定している</p> <p>薔薇が咲く 5 月出発のツアーが人気 ※薔薇摘み体験 (朝)</p> <p>(因みに秋のコースでは、テント泊を入れている)</p> <p>同社の場合、旅慣れた海外旅行玄人が顧客であり、イランについて十分に調査した人が参加するため、治安に対する質問などは出ない 一方、イランと同じような地域 (いわゆる秘境と位置付けられる地域) に旅するため、米国査証問題は影響あると考える</p> <p>2. 現地手配 送金の関係で国内のツアーオペレーターを使用している</p> <p>3. サービス・インフラ等の課題</p> <p>① ホテル コンファームが遅く 1 ヶ月以上かかる</p>	

※ 部屋数が足りないこともあるが、体系的になっていないのではないかと推測

② トランスファーや通訳ガイドについて特段の問題はないが、

✓ バスは、見かけは良いものの、クーラーの温度調整ができず極端に寒い・暑い、マイクが壊れているといったこともある

✓ ガイドは自国について勉強している様子が伺え

※ プライドが高い分、自国についてきちんと伝えたいのではないかと推測

③ トイレ

地方移動時のトイレはリフレッシュを兼ねてカフェ等を利用

※ 紙は持参、洋式でも便座がない場合もある

④ 食事

同社の場合、食事は現地でレストランを決め、旅行者がメニューを選ぶ形式にしているため、ツーリスト向けのセットメニューだけを食べるようなことは無い

✓ 鶏や羊等の肉が中心

✓ ローカル食以外もあるが、質に懸念あり（他国でも同様であるが、所謂、ゆすぎたパスタ等）※ピザは食べることもある

✓ イランの場合、野菜や米があるところは良い

4. イランへのツアー造成・販売上の課題

① 渡航のハードルが高い

ホテル等のコンファームが遅いうえ、イランの査証申請にはホテルのコンファームが必要といった状況があるため、ツアー催行決定から出発までが一番大変である

イランの査証を取るのも時間がかかる

② テヘランの交通渋滞

国内線から国際線への乗り継ぎの際、空港が分かれており移動しなければならないが、テヘランの交通渋滞がひどいため時間が読めない

5. イランのポテンシャル

シリアやレバノンといった中東諸国、フランス等ヨーロッパがテロ等により旅行が出来ない／旅行を躊躇する人が多いなか、遺跡・世界遺産が多いイランは、今、日本人旅行者を増やすにはチャンスである。

「ペルシャ」や「シルクロード」という言葉に惹かれる日本人は多いと思う。

よって、渡航のハードル（旅行会社にとっても旅行者にとっても）を下げれば、イランを訪問する人は増えると思われるし、旅行会社も販売に力を入れるのではないか。

（テロ等の影響でDESTINATIONが限られてきている旅行業界にとっては、新規DESTINATION開発は喫緊の課題）

受領資料
ツアーパンフレット

5 イラン航空 GSA (東京)

概 要	
日時： 9月12日（火）10:00-11:30	
場所： イラン航空 GSA(東京)	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	旅客営業部 部長 加藤 啓
議事	
<p>1. 経緯</p> <p>日本／イラン直行便は2011年10月の最終木曜が最後のフライトであった。2012年1月末でイラン航空のオフィスもクローズし撤退した。</p> <p>当時、木曜日のフライトは北京経由であった。日本／北京間は日本人が、北京／テヘラン間は中国人と、よい組み合わせで乗客数を保っていた。しかし、日本／北京間が半日運動・SARS・鳥インフルエンザ等の要因により乗客数が減少した。また、経済制裁やBSP(Billing and Settlement Plan)で切符が切れない（銀行がイランへの送金を受け付けられない等の理由）ことから旅行会社のイラン航空の利用も減少した。</p> <p>また、日本→（Air China）→北京→（イラン航空）→テヘランで飛ばしていたこともあるが、現在 Air China とのアグリーメントは無い。</p> <p>《日本人対策》</p> <p>日本人がテヘランに入る場合、湾岸諸国の便を利用することが多い。エミレーツを利用する場合、ドバイ～テヘランをイラン航空にして欲しいが乗り継ぎが悪い。ドバイ到着は早朝であるが、ドバイ発テヘラン行の便は夜発となる（土～木：20：55／23：35、金：21：35／00：15）</p> <p>よって、イラン航空の利用を促進するために、ドバイからエスファハーンやシーラーズ等にも飛んでいることを認知してもらうようにしている。</p> <p>また、トルコ航空と連携し成田～イスタンブール～テヘランをPRしている。</p> <p>2. タイムスケジュール</p> <p>イラン航空では、夏と冬でスケジュールを発表。毎年微妙に期間（日）は変わる。</p> <p>2016年 夏：3月27日～10月29日 冬：10月30日～3月25日</p> <p>2017年 夏：3月26日～10月28日 冬：10月29日～3月24日</p> <p>イラン航空に限らず他の航空会社も同様の状況にあるが、一か月前程度にならないと次期スケジュールが発表されない。よって、ツアーパッケージを造成する際、夏／冬の変わり目にあたる際、数十分の違いであれば問題は小さいが、夏は運行している朝の便が冬は運行されないといったこともあるため、旅程を確定することが難しい。</p> <p>スケジュールの発表が遅い原因として、機材繰りができない（自動車でいうところの</p>	

車検に一月程度かかることや、古い機材はメンテナンスが必要等々) ことが考えられる。

3. 国際線

ヨーロッパと中東がメインであり、その他の地域ではカラチとムンバイ線を運航しているだけである。

ヨーロッパ及び中東は基本的に週 1~3 便であり、ドバイ/テヘラン便のみ毎日 1 便運航している。

ヨーロッパ在住のイラン人が非常に多く、国営航空としては、イラン人中心の運行スケジュールにしなければならないため、ヨーロッパ方面への便が多い。湾岸の航空会社のようにトランジット客を増やすという考えは持っていない。

また、ハッジ月はハッジ客優先となり機材をハッジ用に廻すためヨーロッパ線などが減る。

エアバスを数機導入しておりパリやストックホルム等に飛ばしている。ニュースでは 80~100 台といった数をオーダーしたと流れているが、数機納品された後、トランプ政権になったこともあり納品はずれ込む可能性が高い。(国内の強硬派もいる)

今後、第一優先として北京及びクアラルンプールへの就航を検討しているが、就航時期は不明。(システム上はスケジュールが出るがクローズがかかる)

✓北京はビジネス客

✓クアラはビジネス客及びイラン人観光客

・マレーシアはイラン人にとって査証が取りやすい

・モスリムが多く不便が無い

4. 国内線

慢性的に混んでおり、個人客がイラン現地入りしてから国内線を予約しようとしても席が取れない可能性が高い現状にある。

国内線が早朝と夕刻以降の便に集中し日中の便が少ないのは機材のやり繰りの為である。(テヘランからシーラーズに飛ばした後、テヘランに戻るのではなく、他都市或いは周辺国に国際便として利用するなど)

一方、イラン国内移動手段としてバスや列車もあるが便に限られることとチケットの手配が面倒等の理由により、都市間移動は飛行機が主力となっている。

日本人観光客が利用する国内線は、シーラーズ、エスファハーン、タブリーズ、ヤズド、マシャド、アフワーズ線など。

5. マーケティング等

マーケティングやプロモーションについてはお粗末であると感じている。予算の問題がある一方で、搭乗者が増えても座席数に限りがあるという問題もある。

また、経済制裁が解かれ搭乗者が増えたため、一気に料金を上げてしまうといった状況もある。イランには、長い目で、や、損して得取れ、といった考えはない。

6. その他

IKA は主に国際線として、**THR** は国内線やチャーター便がメインで使用している。(イラン航空本社は **THR** 空港にある)

イラン航空以外にも多数の会社があるが、マハーン航空やイランアセマン航空が第二の航空会社と言える。

《マハーン航空》 ✓アジア線 中国（広州、北京、上海）、タイ、マレーシア、インド（デリー）、カザフスタン ✓ヨーロッパ線 フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、トルコ、デンマーク、ウクライナ、アゼルバイジャン、アルメニア ✓中東線 ドバイ、イラク、アフガニスタン 以上
受領資料

6 Persepolis Travel & Tourism Services Co.

概 要	
日時： 9月18日（月）09:30 – 11:00	
場所： Persepolis Travel & Tourism Services Co.	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Dr. Alireza Mahmoudi, CEO & deputy chairman of the board
議事	
<p>1. 概要</p> <p>イスラム革命の後、宗教リーダーの管理下に設立された財団*を母体とした12のホールディングスの一つにツーリズムに関係するものがあり、その傘下にある旅行会社。（他には、INSTROCT 大学、AITO:旅行会社、ホテル、ホテルをサポートする会社などが連ねている）</p> <p>テヘランに2つのオフィスを有し、50%以上がアウトバウンドビジネス。</p> <p>面談した Dr. Mahmoudi は2ヵ月前に INSTROCT 大学から異動してきた。</p> <p>*英語直訳：Foundation belonging to Miserable People</p> <p>ローカル住民の生活向上のため、ICHHTO ではヴィレッジツーリズムを推進しており、同社ではケルマン州にローカルマテリアルを利用した Ghale Ganj ホテルを建設。</p> <p>2. ビジネス</p> <p>チケット（航空・鉄道）、国内パッケージ、海外パッケージ、ホテル予約等が主なビジネス。以前は他社が造成したパッケージを販売していたが、最近は自社造成も始めている。</p> <p>オンライン予約が増えていることから、ホテル・ツアーパッケージ・チケットの販売においてシステムを導入している。</p> <p>≫国内パッケージ例</p> <p>マシュハド 2泊（+車中1泊）、フルボード及び最終日の観光と駅までの送迎で40ドル程度であり、一日おきに約40名を送客。</p> <p>3. プロモーション</p>	

イスタンブール、広州、スペイン、中国など年 3 回いずれかの国際旅行博に出展。独自ブースの場合とグループ企業合同ブースの場合がある。

以上

受領資料

特になし

7 Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran

概 要	
日時： 9月18日（月）11:30 – 13:30	
場所： Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Ebad Reza Eslami, Director Tourism & Handicrafts
議事	
<p>1. 概要</p> <p>副大統領の管理下にあり、スタッフは約 150 名。イラン国内で 270 の旅行会社を指定し国際ドライバライセンスの販売を行う。官と民の中間に位置し、政府からの支援は無い。収入は以下に記するサービスやライセンスフィー等で約 7.5 ミリオンドル。支出面ではスタッフへの給与や管理費、各種サービス、キャラバンサライのリノベーション等。二つの部署の活動がクロスしているのではっきり言えないが、約 70%がツーリズム関係に支出される。</p> <p>Touring 部署</p> <p>国際観光展への出展及び海外にレップを配置しイランの紹介を行っている。現在、日本・中国・韓国・シンガポール・マレーシア・フランス、スペイン、ドイツ・イギリス・オランダ・イタリア・アゼルバイジャン等 18 か所にレップがあるが今年末までに 30 か所にする予定である。（新規：UAE・イラク・チュニジア・エジプト・ロシア・ポーランド・ブルガリア・カナダ・米国等）各国のレップはツアーオペレーターから選んでいる。イランへの投資の促進及び観光客の誘致等がレップの役割。レップに対するサポートとしては、国際観光展でのブース代や、プロモーション資料制作等。</p> <p>Automobile 部署</p> <p>ラリー開催、緊急サービス（JAF のようなもの）、歴史ある車に対する識別や維持などを行う。</p> <p>2. 海外でのプロモーション活動</p> <p>ツーリズムとハンディクラフトを合わせて、年間 15 の EXPO に出展。主な国/都市は、ベルリン(ITB)、マドリッド(FIT)、韓国(KOTFA)、日本、マレーシア、ミラノ、フランス、ロシア、ウィーン、ロンドン(WTM)、中国等。そのうち、ミラノ、フランス、スペイン、中国等ではハンディクラフトの展示会に出展。今年のツーリズム EXPO ジャパンにはツアーオペレーターが 6 社参加。FAM ツアー（エージェント及びメディア）も実施。今年これまでに実施した国は、韓国、オーストリア、中国、スペイン。</p> <p>3. その他の取り組み</p> <p>イラン全土にある約 990 のキャラバンサライのうち、4 つをホテル、レストラン、ハンディクラフトショップ等の機能を持つ施設としてリノベーションした。現在イランでは宿泊できるホテルが足りていないことと、イランの文化を知ってもらうことが目的。ヨーロッパの旅行者はキャラバンサライでの宿泊を好む傾向にある。また、ハンディクラフト、カルチャー、自然、伝統料理や衣装等、海外には未だ知られていない資源を調査し紹介している。</p>	
受領資料	
特になし	

8 Parsian Sepanta

概 要	
日時： 9月18日（月）14:00 – 15:45	
場所： Parsian Sepanta	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Mehrdad Asedifard
議事	
<p>1. 概要</p> <p>13年前に始めたトランスポーター会社で、事務系スタッフ4名と16名のドライバーを抱えている。ハイシーズンには契約のある大手のトランスポーター会社から50～80名のドライバーを借り上げている。</p> <p>ビジネスの85～90%はインバウンドであり、残りはテヘランにある外資系企業や政府関係者等へのVIPサービスを行っている。</p> <p>保有している車種と台数は、ミニバス12台、VAN5台、セダン2台であるが、新規でイタリア製ミニバスを7台導入する予定。大型バスは大手のトランスポーター会社と年間2,000バス日で契約。</p> <p>インバウンドビジネスについてはイランのツアーオペレーター約15社と契約し、海外の旅行会社との直接取引はしない。送金の問題もあるが、海外の旅行会社と直接契約することでイランのツアーオペレーターの競合先になりたくないため。</p> <p>直接契約している16名のドライバーのうち5名は英語が話せるドライバー。</p> <p>2. インバウンドビジネス市場とセグメント</p> <p>2016年に受注したツアーでボリュームが大きいのは、中国、ドイツ、イタリアからのツアー客であった。</p> <p>中国： 一団体約40名（20～50歳代層）</p> <p>ドイツ： 一団体約30名（リタイア層）</p> <p>イタリア：一団体20名以下と個人客（若い層、ファミリー、リタイア層）</p> <p>※ツアー団体の平均は20～25名</p> <p>3. 戦略</p> <p>ツアーオペレーターに同社を指定してもらうための戦略として以下の取り組みを行っている。</p> <p>① ドライバー教育</p> <p>人財教育を専門とする会社と契約し、ツーリストに対するマナー教育を実施している。毎年2回、コースを設定し、全てのドライバーが1回の講習を受けなければならない。コースは2～3週間のもので1回約2～3000ドル。</p> <p>また、トラフィックポリスと連携し、ドライブテクニックやファーストエイド等の講習も実施。</p> <p>ガイド養成と違い、ツーリストを対象とするドライバーに対する専門の教育機関はないため、同社は自社経費で教育を実施しているが、全てのトランスポーター会社がこのような教育をしているとは限らない。</p> <p>② 保有する車</p>	

<p>新しいモデルの車を導入する、ブランド車を保有するなどして、ツアーオペレーターが客層により車を選べるようにしている。(High & Best ブランド車)</p> <p>4. ツーリズムにおける課題</p> <p>選挙がある度にポリシーが変わる。</p> <p>インフレにより物価が高い。</p> <p>銀行の利率が高く投資が難しい。</p> <p>管轄省庁である Ministry of Road and Urban Development は、航空、鉄道、海運であり、陸運に関しては優先順位が低い。以上</p>
受領資料
特になし

9 Raja Rail Transportation Co.

概 要	
日時: 9月19日(水) 09:00 – 11:00	
場所: Raja Rail Transportation Co.	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
碓氷	Mr. Reza Hemmati Ahoei, Deputy of (Sales & Marketing Dept.) Mr. Saeed Khedmatloo, Manager (Sales & Marketing Dept.) Mr. Mehrdad Naseri, Head of Product & Band Dept. in Marketing Directory
議 事	
<p>1. 概要</p> <p>5年前にイラン鉄道(貨物と旅客)から旅客部分が切り離され民営化。イランには12社の民営鉄道会社がある。旅客ビジネスの約60%を担う。</p> <p>運行スケジュール等はイラン鉄道の管理下であり、チャーター列車の日程(地方を列車で回る旅)はイラン鉄道の承認が必要。</p> <p>*イラン鉄道</p> <p>新しく旅客部門を設立し、駅舎サービス料、線路使用料、ロコモティブ(機関車)の貸し出し料が収入。</p> <p>2. ビジネス</p> <p>(1) テヘランと各都市を結ぶ定期列車(約100本)と各都市と周辺地域を結ぶ定期列車(約30本)、(2) 定期観光列車(毎週木・金)、(3) チャーター列車を運行。</p> <p>年間の乗客数は約18,000,000名で、そのうち10%が国内チャーター。インバウンド客についての具体的な数値は持っていないが2016年はチャーターで約200名が利用。</p> <p>他の民営鉄道会社から入る発券手数料(旅客部門がイラン鉄道にあった時代にシステムを開発したものを引き継いでいる)</p> <p>ドイツやロシアのエージェントと直接契約がある。</p> <p>定期運航列車には4つのクラスのシートがある。また、コンパートメントは通常4名であるが、リクエストにより2名での利用も可能(寝台列車のうへの部分を使用しない)</p>	

<p>キッチン車を付けること可能 (2 フロアーになっており、85~90 名が一度に着席可能)</p> <p>英語及びフランス語が話せるスタッフがいる。</p> <p>*シャワーが付いた列車はないが、ロシア人のチャーター時にシャワーワゴンを運んでくることもある (ルート: ロシア→トルクメニスタン→マシュハド)</p> <p>3. プロモーション</p> <p>ITB (ベルリンで開催される国際旅行展) 等が開催される際に現地で営業、オーストリアとドイツでは広告代理店と契約、インターネット広告などを行う。</p> <p>4. その他</p> <p>社内にスタッフの教育部門を有している。ホステスの場合、2 ヶ月のトレーニングを実施のうえ証明書とライセンスを与える。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
ブローチャー、定期運航スケジュール

10 DELTABAN Tour & Travel Agency

概 要	
日時: 9月19日(水) 11:45 - 13:45	
場所: DELTABAN Tour & Travel Agency	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
碓氷	Mr. Mohammad Ansari, Senior Operation Manager Mr. Meysam Kaveh, Domestic Sales Manager
議事	
<p>1. 概要</p> <p>20年前からビジネスを始め、現在約150名のスタッフを有する。イラン人の海外旅行と国内旅行がメインのビジネスで、そのうちの約70%がフルチャータービジネス。オンライン予約が増加傾向にあることから、オンラインセールスのシステムを導入、現在テスト期間中。オフィスはテヘランのみで、各都市の営業は契約しているサブエージェントが実施。キシユ島にホテルを2軒有しているが、増設予定。2~3ヶ月毎にトラベルマガジンを発行、利用が多い顧客、旅行会社、航空会社等に発送。(海外デスティネーション紹介)</p> <p>※テヘランセールスオフィス</p> <p>BtoB、BtoC (デスティネーション別)、査証手続き等にオフィスが分かれる。</p> <p>2. ビジネス</p> <p>海外旅行 BtoB 約35% BtoC 約65%</p> <p>国内旅行 BtoB 約10% BtoC 約90%</p> <p>《国内》</p> <p>一年を通して毎日平均10本のチャーター便を飛ばしている。人気デスティネーションとしては、1. キシユ (3~4本/日)、2. マシュハド (2~3本/日)、3. シーラーズ (3本/日) であり、いずれも150~160席の航空機を使用。※Sepehran Airline (約10ヶ月前に就航した新しい航空会社) 9月19日(面談日)は、キシユ島とシーラーズに各4本、マシュハドに3本が運航。石油ビジネスが集積している南部地区や貨物港がある</p>	

チャバハ、バンダレ・アッバース、アフワーズ、アサルエ等への就航も計画中。

◆国内チャーターパッケージ商品（料金の目安）

エアー/宿泊（1～30泊）/空港送迎が基本パッケージ+食事+アクティビティ

ハイシーズン料金例

✓キシユ島3泊（エアー、宿泊、空港送迎、ハーフボード）

5★ホテル：307ドル 4★ホテル：230ドル

✓マシュハド2泊（エアー、宿泊、空港送迎、フルボード）

5★ホテル：230ドル程度

✓シーラーズ3泊（エアー、宿泊、空港送迎、朝食のみ）

5★ホテル：360ドル

《海外》

中東、ロシア、南アフリカ、ヨーロッパ各都市、アジアへのツアーを造成販売、この夏、ロシアへは15,000名を、ヨーロッパへは50グループを送客。

※5★ホテル7泊（モスクワ・サンクトペテルブルグ）で2,000ドル。また、ジュメイラグループの独占販売権を有すると共に、エミレーツ航空及びマハーン航空合わせて一日100席を買い取っており、中東の中でもドバイへの送客が多い。2年毎に新規デスティネーションを開拓。

3. プロモーション

テレビ以外のメディアを利用、新聞では Hamshahri に広告を出している。インターネットも利用。

4. 教育

DELTABAN スクールという、デスティネーションや商品を学ぶセミナーを開催。社員及びサブエージェントが参加。季節によるが多い時は週2回開催。

5. その他

イランのツーリズムは約35年間クローズしていたため、プロフェッショナルな人材が欠如している。他方、イランは自然、文化、遺産など多様な観光資源がありポテンシャルは高い。

以上

受領資料

トラベルマガジン

11 Federation of Tourist Guide Association

概 要	
日時： 9月19日（水）14:30 – 16:00	
場所： Federation of Tourist Guide Association	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Mohammad Yazdani, Head of Association Mr. Saied Ayoubi, Tour Guide
議事	

1. 概要

イラン全土に 21 あるガイドアソシエーションを取り纏めている NGO 組織であり、2013 年にガイドの地位向上を図るため関係省庁へのコンサルの役割として発足。ボードメンバー7名に監査2名がおり、ボードメンバーは2年毎に選挙により選出される。

収入は、21 のガイドアソシエーションがメンバーであり、年に約 150 ドルのメンバーフィー、政府関係者や民間企業から依頼されるリサーチプロジェクト、GILGAMESH (Heritage & Tourism Magazine*) の売り上げ等。

※GILGAMESH

この夏に創刊された英語のマガジンであり、10月にVol.2を発行予定で現在印刷中。一冊10ドル(350,000Rls)で2500部を発行。イランの文化等に興味を持つ、カナダ・ドイツ・トルコ・ジョージア・フランス・イタリア・米国等のツアーガイドにサンプルとして発送予定。執筆や写真はガイドや大学教授等に依頼。

2. サービス

ガイドの地位向上のために、ホテルやツアーオペレーターアソシエーションと共に関係省庁への提言、ツアーオペレーターに対するガイドの紹介、旅行者の安全を守る為にツーリストポリスやホテルへの提言等を行う。

ライセンスガイドも守る為にイリーガルガイドの取り締まりを実施。

3. 課題

外交的な意図により情勢が変わるためツーリズムビジネスが安定しない。

ホテルが足りておらず、テヘラン・各都市ともに料金が低い。

外国人旅行者がクレジットカードを使用できない。

ホテル、ガイド、ドライバー共に料金が上がってきているが、料金に見合うプロフェッショナルなサービスが提供できていない。

10月に入ると低学年の学生が美術館を訪問する時期になるが、煩い、館内を飛び回るといった状況になる。場所をわきまえた行動が出来ない。(習慣の問題)

※一方で、周辺国の治安が安定していないなか、イランは今チャンスに向かっている。

4. その他

≫ライセンスガイド

専門学校等で6ヶ月のコース(入学時に自分が目指すガイド:エコツーリズムガイド、カルチャーツーリズムガイド等を選ぶ)を受講し試験を受ける。(約200ドル、試験込み)

試験に合格したらICHHTOが実施するGeneral Examを受験(無料)、インタビュー共に合格することでライセンスを取得。

≫ガイドの種類

①イラン人対象のエコ及びカルチャーツーリズムガイド

②インバウンド旅行者対象のエコ及びカルチャーツーリズムガイド

③メディカルツーリズム、ジオツーリズム、スポーツツーリズム等の専門ガイド、等

以上
受領資料
GILGAMESH Vol. 1

12 Iranian Tour Operator Association

概 要	
日時： 9月20日（水） 11:00 – 12:45	
場所： Iranian Tour Operator Association	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Reza Seddighi, Advisor
議事	
<p>1. 概要</p> <p>21年前に数名のメンバーで始めた。イランには約 4,000 名のツアーオペレーターがあるが、現在、当協会には実際に活動しているイラン全国の 156 社が登録。会費は一年約 260 ドル。協会の活動上必要であると思われる場合は、メンバーが自主的に追加で支援。7名のボードメンバー（+2名が補助メンバー）と 2名の監査。加えて 7名のコンサルタントを要する。コンサルタントは、経験豊富なツアーオペレーターのマネージャーがメインであるが商工会議所などから入ることもある。コンサルタントは、各省庁や行政関係者、メンバー企業、ホテル、ツアーガイド、トランスポーター会社との密なコミュニケーションにより、インバウンドにおける問題解決やインバウンドの推進を図る。また、Tabatabaee 大学（観光専門の大学）が法制度や登録制度等において当協会に対し助言。インバウンドは輸出業であるため、政府と協議し、当協会メンバーは VAT 免除にした。当協会主催で 7年前に Iran Tour Operators Convention を開催、46カ国から約 146名が参加。</p> <p>2. 活動</p> <p>ターゲット国は西ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、日本・韓国・中国といった東アジア。ターゲット国は毎年 9月から 10月にかけて決められる。これらターゲット国で開催される国際観光展に協会独自で、あるいは ICHTO の支援をうけて（ブースの一部を借りる）出展。また、FAM ツアーと FAM ツアー中のセミナー、ロードショー等も実施。インバウンドビジネスにおけるハイシーズンとローシーズンの差を減少するために、新規観光ルートの開発を行っている。新規市場開拓として、1週間のエージェント FAM ツアーを実施。FAM は ICHTO や TPO（Trade Promotion Organization）が主催、当協会のターゲット市場であれば、費用の一部（ガイドや食事等）を負担。</p> <p>3. 課題</p> <p>1) インフラ整備</p> <p>① ベッド数を増やすことが必要（イランが持つ観光の可能性からすると 800,000 ベッド、400,000 室必要であるが、現在は 120,000 ベッド）</p> <p>② トランスポーター、航空機、列車、バス（特に航空機 300 機は必要）</p> <p>③ ハイとローのバランスを取るため新規観光ルート開発が必要</p> <p>2) プロモーション予算</p>	

イラン政府として 2018 年から業界に関係なく展示会関係の予算を削減するという話もある。	以上
受領資料	
特になし	

13 Iran Tourist Guide Association

概 要	
日時： 9月20日（水）14:00 – 16:00	
場所： Iran Tourist Guide Association	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Jalil Charkhian, Member of Board of Directors & Managing Director Ms. Forough Fazel Ardakani, Vice President
議事	
<p>1. 概要</p> <p>12 年前に始め、現在 500 名以上のメンバーを抱える。ガイドとしての登録はイラン全体で 4,000 名以上いるが、これらの多くは実際にガイドとして活動していない。メンバー料は一年 500,000IRR。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、日本語等を話せるガイドがいる。2 年毎に選挙によりボードメンバーが選出。</p> <p>2. 活動</p> <p>1) ガイドの地位向上</p> <p>ガイドはフリーランスであるため、企業等に雇用されている人のような保険に入ることが出来ないため、政府と協議し Social Security Insurance を取得できるようにした。（約 3 百万リアル/月）</p> <p>2) ガイドの知識向上</p> <p>MIT やスタンフォード大学など調査目的でイランに来る専門家が多いため、知識豊かなガイドが必要であることから、一年を通じてガイド教育を実施。</p> <p>※セミナー（15～20 回/年）、ワークショップ（15～20 回/年）、現地視察（35 回/年）</p> <p>現地視察については言語で分けて実際することもあれば、セミナーと現地視察を組み合わせ実施することもある。</p> <p>セミナー料金（例）：協会メンバー：150,000IRR ノンメンバー：250,000IRR</p> <p>※セミナー等はメンバー優先で、枠があればノンメンバーも参加可能。これらの活動は当協会の教育コミッティーが運営。</p> <p>3. 課題</p> <p>インフラに対する国内外からの投資が必要（ホテル、航空機など）、観光人材育成。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

14Azadi International Tourism Organization (AITO)

概 要	
日時：9月22日（金）16:00 - 16:15	
場所：国際展示場 イラン国展示ブース	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原（記録）	Ms. Setsuko SUGIMOTO（日本市場課長） Mr. Zatollah Riazati（日本ツアーマネージャー）
議事	
<p>4. 企業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AITO は、モスタザ財団のレクリエーション部傘下で旅行代理店業を行う組織。同じレクリエーション部の傘下には、他にホテル業のパーシアンチェーンホテルがある。 ・ AITO 全体の従業員数は、40-50名程度（提携ガイド等を除く）。 ・ 海外支店は無い。（以前は日本に支店を開設していたものの、現在は閉鎖） <p>5. 業務範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務範囲は、ランドオペレーター、航空券等の発券業務、イラン人のアウトバウンド、MICE や取材アテンド、国際観光博への出展に係る協賛などを行なっている。 <p>6. 経営資本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営は、政府からの出資は無く、旅行業からの収入による独立財源で運営。 <p>7. マーケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な対象マーケットは、欧州では、ドイツ、フランス、イタリアが主な顧客。 ・ アジアでは、中国、韓国、タイ、日本、マレーシアが主な顧客である。 ・ 中東諸国との取引は、イランと各国との政治的な関係が悪化している影響で縮小している。 <p>8. セグメントと商品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州からの観光客は、2週間程度のバカンス目的の長期滞在者。年齢層は、40-80歳程度のシニア層が中心。テヘラン-シラーズ-ヤズド-エスファハンのルートに周辺の観光地を組み合わせた文化遺産観光が人気。 ・ 日本の観光客は、テヘラン-シラーズ-ヤズド-エスファハンを巡る8日間のツアーがメイン。 ・ カスピ海やペルシア湾岸のビーチリゾートの利用者は、主に、イラン人と周辺のイスラム国からの観光客が占めており、欧米やアジアの観光客の利用は少ない。 ・ パキスタンやイラクなどの周辺のイスラム国からの観光客については、数が多いものの、巡礼者が中心で、純粋な観光目的の客は少なく、AITO が販売する商品のセグメントとしては、巡礼者は対象としていない。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
AITO 企業パンフレット	

15 Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI)

概要	
日時：9月22日（金）16:15 – 16:30	
場所：国際展示場 イラン国展示ブース	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原（記録）	Mr. Morteza Hazi（総裁、President） Mr. Hesamoddin Rafiee（在日本イラン大使館経済部参事官）
議事	
<p>1. 企業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TACI は、ICHHTO 傘下の独立行政法人。ICHHTO がイラン政府の観光・手工芸に関わる開発政策の立案機関、TACI が実施機関という関係。 ・ TACI 全体の従業員数は、150 名程度。 <p>2. 業務範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な業務範囲は、以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> (1) イラン国内で自動車を運転する短期外国人滞在者への運転ライセンス（免許）の審査、登録業務 (2) ロードアシスタンス（日本の JAF に相当する業務） (3) ラリー等の自動車レースの企画・開催・運営 (4) 国際旅行博へのイラン政府ブースの出展（政府観光局に相当する業務） (5) 旅行代理店業務 (6) TACI 傘下のホテル、エコツーリズム用のロッジ等の経営 (7) イランの手工芸品の輸出版売に関わるプロモーション <p>3. 経営資本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営は、政府予算からの出資は無く、ライセンス収入や旅行業からの収入による独立財源で運営。 ・ 今回の JATA 博など、国際旅行博の出展に際しては、費用の 2/3 を TACI が負担し、1/3 を協賛民間企業が負担している。 <p>4. マーケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な対象マーケットは、①欧州（ドイツ、フランス、イタリア）、②近隣国（トルコ、イラク、オマーン）、③ロシア、④アジア（中国、韓国、タイ、日本、マレーシア、インドネシア） ・ 国際旅行博としては、フランス、オーストリア、ドイツ、ロシア、イタリア、日本等の国際旅行博に出展。 ・ 手工芸品のプロモーションとしては、イタリア、オランダ、ロシア、日本（東京ギフトショー）で開催される手工芸品の国際展示会に出展している。 <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

16 Olympic Hotel

概 要	
日時： 9月24日（日）10:00 – 11:45	
場所： Olympic Hotel	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Ali Kabiri, Vice President and Manager
議事	
<p>1. ホテル概要</p> <p>16年前に開業したテヘランの西側のスポーツコンプレックスに位置する4星ホテル。Hoteldaran Morvarid Asia というホールディングスの参加にあり、Kowsar Sadegh Sabz（プライベート企業）がマネジメント。HoteldaranMorvarid Asiaは観光産業に特化しており、ホテルやホテルのエクイップメントの会社を所有。</p> <p>Olympic ホテルは100室、スタンダードルームはDuplexになっている。1階はリビング、2階はベッドルームで約30平米弱。その他4室のロイヤルスイートと呼ぶ大き目の部屋があり約40㎡。スタンダードのラック料金は140ドル、ロイヤルスイートは160ドル。従業員は約300名。</p> <p>最大600名収容のコンGRESルームがあり、イラン政府関係のコンファレンスや外国企業（サムソン等）のコンファレンスも開催。他に、250席の会議室1室、150席の会議室2室、40～50席の会議室がある。</p> <p>ホテルスタッフの約10%が英語を話す。ホテルとして教育プランがありテヘランの教育機関と連携しフロントやレストランスタッフに対して英語・仏語の他、ホスピタリティ、調理、カリナリー等の教育を実施。また、最近では仏のコルドンブルーと連携し、授業員の留学やインストラクター派遣なども始める。</p> <p>2. 宿泊客</p> <p>ビジネス関係者、スポーツ関係者であり、ツーリストは場所柄あまりおらず全体の10%以下。ビジネス関係者では外国人が約6割であり、中国、イタリア、フランス人が多い（機械や食品関係者）</p> <p>3. プロモーション</p> <p>スポーツやビジネス関係者の顧客を持っているため、ホテルのプロモーション活動は行っていない。ハイシーズンは9月下旬以降の半年間。稼働率は回答できない。</p> <p>4. 課題</p> <p>人材育成と文化的規制（女性は旅行者でもヘジャブを着用、食事等）</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
受領資料	
特になし	

17 Espinas Palace Hotel

概 要	
日時： 9月24日（日）12:30 – 14:00	
場所： Espinas Palace Hotel	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Mario Candeias, General Manager
議事	
<p>1. ホテル概要</p> <p>2 年前に開業したテヘラン市内北部の高台に位置する最高級ホテルで、400 室を有する。スタンダードルームのラック料金は 319 ドル。ホテルのオーナーはイラン人であるが総支配人はポルトガル人でホテル業界一筋。従業員は約 500 名で、ホテル直接雇用及び、リクルート会社（イランタレント）を利用。</p> <p>客室販売の他に、イベント（国際会議、ウェディング、葬式など）ビジネスにも力を入れている。今年 10 月か 11 月に約 3,000 名収容できるコンサートホールが完成予定。</p> <p>ホテル独自の従業員教育プランを有し、サービススタンダードや英語等のクラススケジュールも立てているが、実際のところ稼働率も高く講義に割く時間が少なく、OJT がメインとなっている。</p> <p>2. 宿泊客</p> <p>国内（約 7%）、中国、ドイツ、フランス、イタリアなどが多い。今後もこれらの国をターゲットにし、宿泊客を増やすとともに、イランとの貿易が多いスペインのビジネス客や MICA も誘致予定。各国の政府関係者の宿泊も多い。現時点では、ビジネス客とツーリストの割合は半々。</p> <p>宿泊予約は、企業からの直接予約、イランのツアーオペレーター、オンライン予約（現在約 10%）であるが、今後はソーシャルメディア戦略を強化し、オンライン予約を増やす予定。</p> <p>3. プロモーション</p> <p>開業間もないため、これまでは実施していなかったが、2018 年より国際旅行博（ITB、BIT、Fitur、ATM の他中国）に出展予定。他のホテルのように、旅行会社から予約が入るのを待っていることはしない。</p> <p>4. 課題</p> <p>1) ドメスティックツーリズムが多いのは良いことであるが、イランのポテンシャルを考えると国際観光客が少なすぎる。官・民ともに待ってはいけぬ。イラン国としてツーリズム業界にもって目を向けるべきである。石油だけに頼っていることは危険である。</p> <p>イランには自然、文化、歴史、遺跡等観光資源は多く、マーケティング戦略を見直し、プロモーション予算を投入、イランが旅行先になることを認知してもらうことが重要。国として、石油産業に依存せず、各省のマスタープランにツーリズムを入れバリューチェーンを作ることが重要。ツーリズムを含めた国としての戦略を立てることが必要。</p> <p>観光産業は裾野が広いことから経済にも影響が大きい。一人の国際観光客を誘致すると、30 バレルのオイルを販売したことになるとの試算が発表された。また、マッキンゼーのイランの産業についての調査によると、今後イラン最大の産業になるのは観光産業との報告がある。</p>	

2) UNWTO が支援してアクションプランを作成しているが、ターゲット、スケジュール、予算等の詳細な計画をたてると共に、実行部隊をどこに置き、誰が推進していくかが重要。

3) 対外的なプロモーション活動に対する予算を見直すことも必要。イランよりはるかに小さくてもイランの 10 倍もの予算をかけている国もある。

4) 航空戦略も必要である。ドバイ、カタール、トルコなどは航空戦略で成功した。イラン航空は 60 機のみ。これらの国が成功したのはエミレーツ航空、カタール航空、トルコ航空の戦略によるところが大きい。

5) ホテルについてはインターナショナルブランドホテルの誘致が必要。インターナショナルブランドホテルはインターナショナルツーリストを誘致できる。

6) ポテンシャルではなく、ポテンシャルを何パーセント具現化するかといった協議を行い、実行することが重要。

以上

受領資料

ホテルリーフレット

18 Varzesh Hotel

概要

日時： 9月24日（日）15:00 – 16:30

場所： Varzesh Hotel

出席者（調査団）

出席者（相手側）

碓氷

Mr. Mohammadreza Afgheh, Hotel Manager

議事

1. ホテル概要

17 年前～11 年前まで営業、その後オーナーシップ問題で一時休業したが、4 年前に再開した。ダウンタウンに位置する 3 星ホテル。Agahantajhiz という民間企業の傘下にある。全 27 室（スタンダード 25、スイーツアパートメント 2）で、スタンダードのラック料金は 102 ドル。

従業員の多くは英語が話せるほか、アラビア語通訳を毎日 14 時から 23 時まで常駐させる。従業員のリトレーニングとしてホスピタリティ組合（NGO）開催のセミナーに参加させている。

100 名収容のコンファレンスルーム 1 つと 20 名の会議室がある。

2. 宿泊客

メインはビジネス客であり、外国人比率は約 25%。中国に次いでロシア。アラブ諸国の客は巡礼かメディカル目的がメイン（特に、レバノンとイラク）

予約は、イラン企業からのものと、ツアーオペレーターからのものが半々。

稼働率はほぼ 100%であるが、ラマダンとモハラムの初め、及び週末は少ない。

3. プロモーション

部屋数が少ないこともあるが、ホテルのロケーションとリピーターが多いことでプロモーション活動は行っていない。ただし、コンファレンスルームについてはホテルの HP 等で PR している。

<p>4. 課題</p> <p>1) 需要と供給のバランスが取れていない</p> <p>2) 他国政府との関係によりツーリズム業界も影響を受ける</p> <p>3) イラン経済はオイルが基本であるが、ツーリズム業界は成長しており、特にホテルに対する投資が必要</p> <p>4) 女性はヘジャブと被る等の規制</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
特になし

19 Pardisan Tour & Travel Agency

概 要	
日時： 9月25日（月）13:00 - 14:30	
場所： Pardisan Tour & Travel Agency	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Mehdi Shafiee Shakib, Tour Manager
議事	
<p>1. 概要</p> <p>14年前に創業し現在テヘランに本部（28名）と支店（1名）がある、インバウンド（約70～80%）、アウトバウンド、チケットイング、オンラインホテル予約など総合的な旅行会社。旅行者の興味によりテイラーメイドパッケージを造成し販売。</p> <p>Hotelshop というオンライン予約システムを開発、現在国内の旅行会社と契約しているが、海外の旅行会社が個人旅行者を対象としたオンライン予約システムが6～7ヵ月先には稼働できる見込み。</p> <p>インバウンドは団体、個人の両方に対応、今後MICEにも注力したい。（MICEは政府・民間共に新しい取り組み）</p> <p>2. インバウンドビジネス</p> <p>1) 取り扱い規模</p> <p>2016年は約2,000名、2017年は2,500名以上になる見込み。</p> <p>2) 取り扱い市場</p> <p>中国、フランス、オランダ、ドイツ、イギリス・オーストラリア、その他ヨーロッパの順で（オーストラリア、マレーシアの取扱いあり）、イランの文化と歴史に興味を持っている。以前は60歳代以上の旅行者が多かったが最近では40歳代までの旅行者がメイン。</p> <p> » 中国</p> <p> 年齢層は若年層からシニアまで幅広く、テヘラン・シーラーズ・ヤズド・エスファハンを一週間程度で周遊。</p> <p> » フランス等ヨーロッパ</p> <p> カルチャーツアーでは、テヘラン・エスファハン、シーラーズ、タブリーズ、ケルマンなどを約二週間で周遊。スキーリゾートやキシユ島・ゲシュム島へ訪問する旅行者</p>	

もいる。

≫オランダ

若年層の個人旅行者が多く、カスピ海地域が人気。

≫オーストラリア

中年層で小グループか個人旅行者がメイン。

≫マレーシア

クアラルンプールとエスファハンが姉妹都市になっており、テヘラン+エスファハン（一部は+シーラーズ）を訪問。メッカ巡礼+イランのパターン。

≫ビジネス客

テヘランで仕事を終えた後、テヘラン周辺地域を観光することが多い。

3) ヘルスツーリズム

政府にとっても当企業にとっても新しい分野のツーリズムであるが、テヘラン、シーラーズ、タブリーズが受け入れ対象地域となり得る。

≫テヘラン

美容整形+観光でヨーロッパ人が対象。鼻を高くする整形手術であれば約 1,700 ドル程度で可能。

≫シーラーズ

医療関係の有名大学が存在。ドバイに住むイラン人がヒントを得て、シーラーズの病院がアラブ人をターゲットにした。

≫タブリーズ

距離が近い理由でイラクやトルコ人がターゲット。

3. プロモーション

1) 国際観光展

フランス、ドイツ、イギリス、スペイン、フィンランド、中国、香港、UAE 等の国際観光展に出展。出展形態は、イランブースの一部として、単独、パートナー企業の中、ビジネスボリュームによる。日本のツーリズム EXPO はフランスの観光展と重なるため出展できない。

2) FAM

ビジネスボリュームが多い国を対象に単独で実施するケースがある。

3) 自社パンフレット

基本となるパンフレット（デスティネーション紹介や参考日程等）に加え、中国語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語等、市場の興味に合わせたパンフレットを作成。

4. 課題

1) 人材育成

各省のマネージャークラスを対象とし、マーケティング&プロモーション戦略と実施手法、ツーリストのニーズ及び観光振興に対する課題等を把握する為の手法等に

ついて研修が必要。特に、ツーリストのニーズをくみ取りデスティネーション競合に勝つための手法を取得することが重要。

2 投資

ホテル、バス、公共トイレ、レストラン、道路の改修、ガイド等、国際スタンダードに引き上げるための投資が必要。

3) プロモーション

イランが旅行先になることを発信するためのプロモーション活動の強化。

その他

他社製品を販売して得られる手数料ビジネスではなく、パッケージ造成販売等、実際にビジネスを創出している旅行会社はイラン全土で 50~60 社。

以上

受領資料

パンフレット

20 Mhregan Hotel

概 要	
日時： 9月25日（月）13:00 – 14:30	
場所： Mhregan Hotel	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
確氷	
議事	
1. 概要	
6年前に開業したアパートメントホテル（プライベート）で、全20室のうち16室が約45㎡（ベッドルーム1、ベッド3台）、4室が約55㎡（ベッドルーム2、ベッド5台）、各部屋にキッチンが設置。ラック料金は、45㎡の部屋が約170ドル、55㎡の部屋が約200ドル。	
スタッフは20名で、うちレセプション及びハウスキーピングに英語が、レセプションにアラビア語が話せるスタッフがいる。	
稼働率は70~75%、ラマダン、モハラムの初め、週末は宿泊客が少ない。	
2. 宿泊客	
ビジネス客が90%でイラン人が80%を占める。海外のビジネス客では、中国、ドイツ、スペインの順に多く、アフガニスタン、イラク、パキスタン等も宿泊。滞在や約一週間程度。	
リピーターが多いことから、旅行会社を通さず、電話、ファックス、Eメール等で直接予約が入る。	
3. プロモーション	
効果を得るためには長期的な活動が必要であるが、部屋数が少なくプロモーション活動に予算を割くことはできない。	
4. 課題	
1) 女性のヘジャブ着用、ドリンク、娯楽等、政府の規制があるため、若年層の旅	

<p>行者はイランに来たがらない。</p> <p>2) アメリカ、カナダ、イギリス国籍は査証取得に時間がかかる。</p> <p>3) 国際観光客への対応方（旅行業界及び一般市民）を知らない。</p> <p>4) 外国語（特に英語）を話せる人が少ない。</p> <p>5) イラン北部及び南部の海岸地区はポテンシャルが高いが開発が遅れている。</p> <p>5. その他</p> <p>ホテルの格付けは、年に一回、ICHTO と Union of Hotel Owners が実施（覆面調査）</p> <p>質（部屋の設備、食事内容等）と量（部屋数、駐車可能台数等）により星が決まる。各格付けにおいて二つのカテゴリー（トップ・ロー）に分けられ、それぞれにカテゴリーにおいて部屋タイプにより料金が決められる。各ホテルの格付け及び料金はリスト化のうえ旅行会社に配布される。料金は販売してよい上限となっており、各ホテルと旅行会社の契約によりこの料金以内で販売される。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
特になし

21 Parsian Enghelab Hotel

概 要	
日時： 9月26日（火）11:30 – 12:30	
場所： Parsian Enghelab Hotel	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
碓氷	Mr. Sabah Rashidi, Rooms Devison Manager
議事	
<p>1. 概要</p> <p>1977年に創業された Bonyad ホールディングスの傘下にある Parsian International Hotels の一つ（傘下ホテルはイラン全体で 22 軒）</p> <p>全 250 室で、うちツイン/ダブルの部屋が約 80%。稼働率は 80～85%であり、観光客とビジネス客が半々。</p> <p>2. インバウンドビジネス</p> <p>ドイツ、フランス、レバノン、中国が多く、団体及び個人客が同数程度、ただし、中国はビジネス客が多い。いずれも 2 泊程度。</p> <p>オンシーズンは 3 月から 5 月と 9 月・10 月であり、オフシーズンはラマダンの時期。宿泊予約はイランのツアーオペレーターを通じて入る。</p> <p>3. 従業員教育</p> <p>ホールディングスの Bonyad 傘下に、Bonyad Applied and Technology 大学（ホスピタリティ及びホテル業界関係の大学）があり、大学から教授がホテルに出向き、ホスピタリティ、ホテルマネジメント、ランドリー等、従業員に不足している知識等を教育。また、スウェーデン、マレーシア、オーストリア等の大学とも連携、ホテルマネージャーやディビジョンマネージャークラスに対し約 2 週間の教育を実施。</p> <p>4. 課題</p>	

1) マシュハド、キシユ島等には良いホテルがあるが、テヘランでは限られている 2) ツーリストへの対処の仕方が分からない、ニーズをくみ取れない ・市場毎にツーリストが求めるもの、興味などを知ることが必要	以上
受領資料	
特になし	

22 Joopar Passenger & Freight Trains Co.

概 要									
日時： 9月27日（水）9:00 – 12:00									
場所： Joopar Passenger & F Freight Trains Co.									
出席者（調査団）	出席者（相手側）								
碓氷	Mr. A. Bashiripour, Marketing & Sales Manager Mr. M. Sadeghi, Marketing & Sales Officer								
議事									
<p>1. 概要</p> <p>15年前に貨物として創業、12年前から旅客も始めた、Omran Kerman ホールディングスの傘下にある鉄道会社。Mahan Airline も Omran Kerman の傘下にある。ケルマンにある ARG-E-JADID Industrial City を管理しており、自動車会社等が入っている。</p> <p>従業員は 150～160 名で、テヘランの本社の他、ケルマン州に支社と列車の修理工場がある。テヘラン駅とケルマン駅にスタッフを配置すると共に、マシュハド、バンダレ・アッバース、ザーヘダーン（パキスタンとアフガニスタン国境近く）に駐在員事務所を持つ。</p> <p>2. 運行路線</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">テヘラン→ケルマン</td> <td>8 車両で毎日 1 便 （所要時間約 10 時間）</td> </tr> <tr> <td>テヘラン→ザーヘダーン</td> <td>5 車両で一日おきに 1 便（約 22 時間）</td> </tr> <tr> <td>テヘラン→マシュハド</td> <td>8 車両で毎日 2 便（約 10 時間）</td> </tr> <tr> <td>テヘラン→バンダレ・アッバース</td> <td>8 車両で毎日 1 便（約 18 時間）</td> </tr> </table> <p>*1 車両は 10 のコンパートメントから成り、1 コンパートメントは 6 名（寝台仕様） *機関車は持っておらず、駅舎・サービス、レールと共にイラン鉄道から借用</p> <p>3. 乗客</p> <p>2016 年は約 1,300,000 名（稼働率 70～75%）</p> <p>イラン人がメインであるが、イラク・パキスタン・インドネシア・マレーシア（マシュハド巡礼）、ヨーロッパ（バンダレ・アッバースやケルマン）の旅行者もいる。</p> <p>4. プロモーション</p> <p>旅行会社に対する手数料を団体の場合引き上げる、30 名以上の団体の場合は家から駅、駅からホテルまでの送迎をつける VIP サービスを実施。</p>		テヘラン→ケルマン	8 車両で毎日 1 便 （所要時間約 10 時間）	テヘラン→ザーヘダーン	5 車両で一日おきに 1 便（約 22 時間）	テヘラン→マシュハド	8 車両で毎日 2 便（約 10 時間）	テヘラン→バンダレ・アッバース	8 車両で毎日 1 便（約 18 時間）
テヘラン→ケルマン	8 車両で毎日 1 便 （所要時間約 10 時間）								
テヘラン→ザーヘダーン	5 車両で一日おきに 1 便（約 22 時間）								
テヘラン→マシュハド	8 車両で毎日 2 便（約 10 時間）								
テヘラン→バンダレ・アッバース	8 車両で毎日 1 便（約 18 時間）								

5. 課題

1) 鉄道の旅をプロモーションするのはイランの旅行会社がすべきだが、鉄道会社より航空会社から入る手数料が多いため、旅行会社としては航空チケットの販売に力を入れる。

2) 機関車をイラン鉄道から借りると、テヘランからマシュハドに一便運航した場合、72,000,000IRR（ロードファクター70%として売上の約40%）支払わなければならない。（新しい契約体系に変わってからイラン鉄道と契約した鉄道会社については運行距離により機関車の借り入れは固定料金）

3) 旅客列車のチケットはイラン鉄道により基本料金が決められている。各鉄道会社の裁量は基本料金の+20%から-30%の範囲であり、鉄道会社が自由に設定できない。

4) イランの鉄道は一路線でありイラン鉄道が所有。貨物を運行すると機関車の貸し出し料は旅客列車の約3倍であるため、イラン鉄道としては貨物列車の運行を優先する。

以上

受領資料

特になし

第二次現地調査 面談録

訪問先と面談・協議参加者

日程	訪問先	面談・協議参加者
11月5日(日)	JICA イラン事務所 1000 - 1100	・調査団 大原、碓氷、福村
	ICHTO キックオフ・ミーティング 1330 - 1600	・調査団 大原、碓氷、福村
11月6日(月)	ICHTO 国際局 10:00-11:00	・調査団 大原、碓氷、福村
11月7日(火)	ICHTO 第1回ワークショップ 13:30-15:30	・調査団 大原、碓氷、福村
11月22日(水)	JICA TV 会議 12:15 - 14:00	・JICA イラン事務所：田中次長 ・JICA 本部：鶴岡、降旗、浦野 ・調査団：西山、上田、大原、碓氷、福村
11月23日(木)	Tourism Service Training Institute 10:00 - 12:30	・Tourism Service Training Institute ・調査団：碓氷、福村
11月25日(土)	ICHTO 第2回ワークショップ 13:30-16:30	・調査団：西山、大原、碓氷、福村
11月28日(火)	JICA イラン事務所 8:30-10:00	・JICA イラン事務所：小林所長、水谷所員 ・調査団：西山、大原、福村
11月28日(火)	ICHTO 11:20-13:00	・ICHTO ・調査団：西山、大原、福村
11月29日(水)	タブリーズ関係者 15:00-17:00	・調査団：大原、福村
11月30日(木)	キャンドバン	・調査団：大原、福村
11月30日(木)	ICHTO, Maragheh 支所 13:20-14:00	・ICHTO, Maragheh 支所 ・調査団：大原、福村
12月2日(土)	イラン統計局 10:00-11:00	・調査団：大原、福村
12月3日(日)	ICHTO ラップアップミーティング 11:30 - 13:00	・調査団：大原、福村

面談・協議概要一覧

1	JICA イラン事務所.....	1
2	ICHTO とのキックオフミーティング	2
3	ICHTO 国際局とのミーティング	4
4	第1回ワークショップ	5
5	JICA TV 会議	9
6	Tourism Service Training Institute.....	11
7	ICHTO との第2回ワークショップ	12
8	JICA イラン事務所.....	15
9	ICHTO との会議.....	18
10	タブリーズ関係者との会議.....	22
11	キャンドバン村でのミーティング	24
12	ICHTO Maragheh	25
13	イラン統計局.....	26
14	ICHTO とのラップアップミーティング	28

面談・協議概要

1 JICA イラン事務所

概 要	
日時： 11月5日（日）10:00 – 11:00	
場所： JICA イラン事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、碓氷、福村（記録）、 Mohammad（通訳）	田中次長、Ms. Asadi
議事	
<p>大原団員が資料を用いて、第二次現地調査の目的及び調査日程について説明を行った。 JICA イラン事務所からの主なコメントは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none">JICA イラン事務所からの便宜供与について<ul style="list-style-type: none">● 第一次のミッション時から、データ収集に関しては働きかけている。しかし、イランでは ICHTO のみならず、イラン政府からは簡単にデータは出てこない。レターがどれだけ効果があるかわからないが、レターが必要であれば、事務所からは支援する。● 地方視察でのアテンドのリクエストでも必要であれば、JICA 事務所から支援は行う。● イランのデータ取得に関して、そもそもデータを持っていないか、外国人には出さない場合のどちらのパターンも考えられる。特に外国人にはなかなかデータがでてこない。イラン政府も内部の手続きを相当踏まないといけないようである。情報収集・確認調査の調査結果の取り纏めについて<ul style="list-style-type: none">● 今後のプロジェクトのフレームワークを作るということであるが、規模を拡大したいと思っている。核となるプロジェクトのみならず、周辺で貢献するボランティア派遣のようなものがあれば、提案してもらえればと思う。イランにおける JICA の協力状況について<ul style="list-style-type: none">● 現状、イランの青年海外協力隊はいない。シニアボランティアはイラン側から造園のボランティアをラシュトにという要請があった。イランにボランティアはなじまないかもしれないが、ラシュトのボランティアの活動を見て今後の派遣を判断する。● 円借款は発電所のリハビリで 2 年くらい交渉を続けており、最後の調整をしている。送金に関わる制裁等の詰めをする必要がある。日本側とイラン側の双方でどのように折り合いをつけるかが残っているが、いつでも開始できるよう準備をしている。技プロと連携できるものがあれば、合わせて案件形成をしていきたい。● 鉄道関係の協力に関しては、日本企業が裨益するものを探しているのも、中長期的な地域開発の視点からも連携できるのであれば、望ましい。● TOD（Transportation Oriented Development）案件に関しては、現状、契約締結済み。現地調査は、1 月くらいから開始する。以前に交通に関する基礎情報収集をやっていて、その文脈から TOD のガイドラインの策定をするという技プロ的な案件となった。鉄道と都市開発を連携させたいというニーズをイラン側が持っている。● 本案件の第二次調査を行うに当たり安全上の特別な情報はない。ただし、交通事故	

に気を付けていただきたい。また、連絡を取れる体制を作っていきたい。

4. 本調査を進める際のプロトコルについて

- 本調査のカウンターパートは、ICHTO の国際局となる。全ての依頼や協議は国際局に窓口を統一すること。調査団から ICHTO とコンタクトを取りたいときは、今回調査団がやり取りをした国際局の Ms. Torabi に連絡をしてほしい。彼女は対 JICA の担当者である。
- テクニカルな要件であっても全て ICHTO の国際局を窓口にあの調整を図り、国際局の関知しない形の面談や調査を行うことは避けること。
- ICHTO とのミーティングをしたい場合は、JICA も加わりたいので、都度、日程を伝えてほしい。
- 本日（11月5日）と7日のミーティングは既に確認している。他のミーティングはまだ決まっていない。データリクエストに関しては11月14日をデッドラインとしてリクエストをしている。
- JICA からのレターは MOFA（外務省）に送って、PBO（大統領府管轄の Planning and Budget Office）に行く。それから ICHTO の国際局に行く。統計局にも ICHTO から送られる。他省庁に対しても ICHTO がプロジェクトの背景を説明してリクエストした方がスムーズとなるからである。
- Tourism は最も大事である。Tourism Deputy は JICA との協力に当たり少し混乱しているようであり、まだ協力的ではない。最近 Deputy が交代したために、まだ、新しい Deputy とはコンタクトを取れていない。来週、JICA 事務所がミーティングをして、プロジェクトの説明をする予定である。今後、協力関係を深めたい。

以上

受領資料

JICA から外務省、PBO 経由で ICHTO に送ったレターの写し

2 ICHTO とのキックオフミーティング

概 要	
日時： 11月5日（日）13:30 – 16:00	
場所： ICHTO	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、碓氷、福村（記録）、 Mohammad（通訳）	別添
議事	
大原団員が資料を用いて、第二次現地調査の目的及び調査日程について説明を行った。	
1. ポテンシャル地域について	
調査団から提案する2つのテーマ及び6つのポテンシャル地域について、ICHTO の各部署の出席者に説明。了承を得た。主な質疑応答は以下のとおり。	
<ICHTO>	
イランには、調査団が挙げる6地域以外にも観光資源を有する地域があるが、候補に含まれていない理由は何か。	

<調査団>

本調査の後に実施される協力プロジェクトでは、文化遺産観光の拠点となっている都市を中心とする周辺地域の観光開発支援を想定している。マシュハドは、特定の宗教観光を目的とする観光地域であるため、候補から除外している。世界遺産バムを含むケルマン州については、文化遺産観光の高いポテンシャルは認められるものの、日本政府外務省の安全基準上、渡航が禁止されている地域であるため、候補から除外した。

2. 評価指標について

<ICHTO>

- 指標に関しては、サブとなる指標は重み付けするのか。しないのであれば、する必要があると思う。本格案件となるプロジェクトで重視するポイントは何か。

<調査団>

- 現時点では、重みづけは行っていない。次回の WS における ICHTO との議論を通じて、検討する。例えば、安全上の問題は、将来的にプロジェクトを実施する優先地域の選定の際に、考慮に入れなければならない重要な項目の一つである。

<ICHTO>

- 短期間でプロジェクトの効果を出す上で重視すべき項目の一つはマーケティングである。プロジェクト期間が限られている。交通インフラは既に整っており、指標で重要視すべきでない。

<調査団>

- インフラは、交通インフラだけでなく、ホテルなども含み、観光客の収容能力を判断する重要な指標となる。

<ICHTO>

- マーケティングのサブ指標に「マーケティングオポチュニティ」を加えるべきである。国際的なイベント、世界遺産等が指標となる。プロダクトはヘルスツーリズム、エコツーリズムなどの他の指標が必要となる。

<調査団>

今回の案件のターゲットは文化遺産観光である。ヘルスツーリズムや宗教観光は、直接の対象ではないが、観光地域に含まれる一つの観光オプションとしては考慮する。指標に関しては、7日のワークショップで十分に議論したい。

3. 請求資料の提供について

- 登録文化遺産については、文化遺産のカテゴリ（世界遺産、国指定文化財、等）ごとのリストを提供する。
- 世界遺産の管理計画については、21箇所全ての計画書の提供は難しい為、いくつかの主要な文化遺産の計画書を提供する。

4. 請求資料の提出期限等について

- 優先地域の選定に必要な UNWTO のドラフト版観光マスタープラン、統計資料等は、可能な限り、11/7（火）の WS を期限に回収する。

● 他のデータ、資料については、11/22（水）を期限とする。
受領資料
なし。

3 ICHTO 国際局とのミーティング

概 要	
日時： 11月6日（日）10:00 – 11:00	
場所： ICHTO	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、碓氷、福村（記録）、 Mohammad（通訳）	別添
議事	
<p>1. 観光セクターに関する法律、ガイドラインについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅行代理店が従わなくてはならないルールがあり、ウェブサイトで示されている。 ● ホテルやガイドの格付けに関しても ICHITO が定めるガイドラインがある。 ● 上記の2つの法律やガイドラインは提供できるか確認する。 ● 長距離バスに関しては、Ministry of Transport and Urban Developemnt が定めている法律がある。 <p>2. 起業家支援に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅行業を起業するに当たり、ICHTO からは金銭的なサポートはない。ICHTO の役割はライセンスを付与するのみである。Omid Entrepreneurship Fund は貸付金なども含めて起業家のサポートを行っている。Omid は半官半民の組織である。 <p>3. 観光人材育成に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光人材育成に関しては、教育機関が行っているコースと ICHTO が行っているツアーガイド用のコースの2種類ある。 ● Allameh Tabatabai 大学が観光教育をやっている。多くの大学で学部レベルでの Tourism management course がある。修士コースではツーリズムプランニングやガイドなどより特化した内容のコースがある。 ● 教育に関しては Ministry of Science の管轄である。ただし、ツーリズムに関係する場合は ICHTO も関係する。 ● 観光関係の学部や修士を卒業してもツアーガイドのライセンスは付与されない。ツアーガイドになるためにはガイド教育を行っている教育機関で勉強し、ICHTO の試験に合格しなくてはならない。 ● ICHTO のコースはツアーガイドのライセンスを与えるためのコースである。観光関係の学部や修士を卒業していてもライセンスはもらえないために、ツアーガイド 	

<p>になるためには ICHTO のコースに参加しないとけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ツアーガイドのコースはペルシャ語で講義が行われ、英語、日本語、フランス語等、それぞれの語学についてはインタビューで判断、試験に合格すればライセンスが付与される。ツアーリーダーのライセンスは1年間有効である。
受領資料
なし。

4 第1回ワークショップ

概 要	
日時： 11月7日（火）13:45 – 15:30	
場所： ICHTO	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
上田、大原、碓氷、福村（記録）、Mohammad（通訳）	別添
議事	
<p>ICHTO の各部局の出席者を招いた第二次現地調査の第1回ワークショップを開催した。</p> <p>1. ポテンシャル調査対象地域の選定について</p> <p><u>協議結果：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査団から提案する六つのポテンシャル調査対象地域（①テヘランとその周辺地域、②タブリーズとその周辺地域、③エスファハーンとその周辺地域、④ヤズドとその周辺地域、⑤シーラーズとその周辺地域、⑥アフワーズとその周辺地域）について、大原団員から ICHTO の各部局の出席者に説明。 <p>六つのポテンシャル調査対象地域の選定結果、及び将来的な JICA の協力プロジェクトの対象地域をこの六つのポテンシャル調査対象地域から選定する方針について ICHTO の合意を得た。</p> <p>主な質疑応答の内容は、以下のとおり。</p> <p><調査団></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来的な JICA の協力プロジェクトでは、文化遺産観光に関わる観光開発支援を実施する予定である。マシュハドは、特定の宗教観光を目的とする観光地域であるため、候補から除外している。 <p>また、世界遺産バム及びミーマンドを含むケルマン州については、文化遺産観光の高いポテンシャルは認められるものの、日本政府外務省の渡航者の安全に関わる基準上、渡航中止勧告が出ている地域であるため、ポテンシャル調査対象地域から除外した。</p>	

<ICHTO>

- フーゼスタン州は、日本政府外務省の渡航者安全に関わる基準上、危険地帯として渡航が制限されているのか。

<調査団>

- フーゼスタン州のイラクとの国境地帯は、ケルマン州と同様、渡航中止勧告が出ている。クルドスタン州のイラクとの国境地帯も同様である。

<ICHTO>

- 国境地帯とは、イラクとの国境線から何 km の範囲を指しているのか。

<調査団>

- 日本の外務省は、現在、何 km といった範囲で明確な線引きをしていない。一方、渡航中止勧告が出ている地域を含んでいるフーゼスタン州は、日本の旅行代理店が催行するツアーの訪問先からは除外されているのが現状である。

2. ポテンシャル調査対象地域を開発する際のテーマの設定について

協議結果：

- 調査団から提案するポテンシャル調査対象地域を開発する際の二つのテーマ（①古代オリエント文明回廊、②シルクロード）について、大原団員が ICHTO の各部署の出席者に説明。

今後、二つのテーマを軸とした観光開発支援を検討する方針について ICHTO の合意を得た。

主な質疑応答の内容は、以下のとおり。

<調査団>

- ポテンシャル調査対象地域を戦略的、効果的、効率的に観光開発していくためには、国際的な観光市場において、競争力のあるテーマを設定し、イラン観光のブランド力を高めていく必要があり、第一次現地調査における類型分析に基づき、調査団からは、①古代オリエント文明回廊、②シルクロードの二つのテーマを提案する。

<ICHTO>

- 調査団から提案された二つのテーマについて、完全に同意する。

ICHTO の観光開発の方針としては、有名観光地とこれまで未開発だった潜在的な観光地を繋ぐことによって、開発を進めたい。

<調査団>

- 将来的な JICA の協力プロジェクトの対象とする単位を、観光地ではなく、観光地域（Destination）としたのは、正にそこに理由がある。

例えば、世界遺産に指定されたエスファハーン市は、既に多くの観光客を集める有名観光地である一方、エスファハーン州に含まれるナーイーン市は、エスファハーンと同じテーマの下、高いポテンシャルの観光資源を有するものの、未だ観光客には十分に認知されていない。これらを一つの観光地域として一体で開発することに

より、エスファハーンを訪れる観光客をナーイーーンにも誘導するような仕組みを作ることが戦略的、効果的、効率的な観光開発に繋がる。

3. ポテンシャル調査対象地域から優先地域を選定する際のクライテリア（案）について

協議結果：

- 調査団から提案するポテンシャル調査対象地域から優先地域を選定する際のクライテリア（案）（評価指標、副指標、項目）について、上田団員が ICHTO の各部署の出席者に説明。

今後、調査団の提案するクライテリア（案）に従って、11/8（水）からの現地踏査を進め、現地踏査による調査結果を基に、クライテリア（案）をレビューし、優先地域を選定する方針について ICHTO の合意を得た。

主な質疑応答の内容は、以下のとおり。

<ICHTO>

- 調査団が提案するクライテリア（案）の中身を議論する前に、そもそも、将来的な JICA の協力プロジェクトの支援内容や、優先地域は、ICHTO のニーズやリクエストに沿って、ICHTO が決めるものなのではないか。

<調査団>

- ICHTO のニーズやリクエストは、クライテリア（案）の中でも考慮すべき項目の一つに含めている。

一方、将来的な JICA の協力プロジェクトを検討するに当たっては、ICHTO のニーズやリクエストだけでなく、調査団が提案するクライテリア（案）に挙げている様々な視点からも、JICA のプロジェクトとしての実現可能性を、検討する必要がある。

また、JICA の技術協力プロジェクトの協力期間は、3-5 年間と限られており、イラン全土を対象とするような長期かつ大規模なプロジェクトを実施することは、困難であり、本調査の目的は、JICA の技術協力プロジェクトの対象とする地域を戦略的に選定し、選定された地域の課題に応じたプロジェクトの内容を検討することである。

- なお、プレゼンテーションに記載したフーズスタン州の事例は、既に現地踏査を行なった地域の調査結果を、提案するクライテリア（案）に沿って整理した一つの事例に過ぎない。

現状、六つのポテンシャル調査対象地域は、同じ評価のレベルにあり、六つの地域の現地踏査が完了した後、クライテリア（案）に従って分析を行い、11/25（土）に予定している第二回ワークショップで、調査団の優先地域（案）を提案する方針である。

<JICA イラン事務所>

- これまでに ICHTO から寄せられている優先地域に係る要望は、ICHTO の特定の部署の個人的な嗜好のレベルを超えるものではなく、客観性を欠いており、ICHTO 全体の総意を反映したものになっていない。

ICHTO の様々な部局からリクエストを総合的に分析し、ポテンシャル調査対象地域から優先地域を選定するためには、客観的な指標が必要となる。

JICA は、プロジェクトの案件形成を行う際、①妥当性、②有効性、③効率性、④持続性、⑤インパクトの五つの指標（OECD DAC5 項目）に基づき、プロジェクトを評価し、案件形成を行なっている。

調査団が提案するクライテリアは、あくまで（案）であり、ICHTO 側のコメントを反映してレビューするのが、本ワークショップの目的である。

<調査団>

- 本調査の報告書は、公開されるものであるため、各評価指標の名称について、もし、誤解を招くようなものがあれば、ICHTO からコメントをもらい、この場でより適切な名称に変更したい。

また、もし、他に追加すべき指標や、指標と副指標の関係が整合していないものがあれば、コメントして欲しい。

<ICHTO>

- Program Development の名称は、他のクライテリアと比べると、内容と合っておらず、混乱する。

<調査団>

- Program Development を Site Condition や Development Condition とする案もある。

<ICHTO>

- 英語の名称は変更した方が良い。ペルシャ語にはいずれも対応する言葉がないため、差異は無い。

<調査団>

- Resources はより明確に Tourism Resources とする案もある。

<ICHTO>

- Tourism Resources とした場合、民族の多様性等、必ずしも直接的な観光には包含できない概念があるので、Resources のままでよい。

<調査団>

- Infrastructure の副指標に含まれるのは、ホテルやレストラン等の観光関連産業に関わる内容であることから、より正確に Tourism Industries、Tourism Infrastructure、もしくは Tourism Services とする案もある。

<ICHTO>

- インフラの概念には、道路や空港、鉄道などの下部インフラから、ホテルやレストランなどの上部インフラまでが含まれる。

道路や空港、鉄道などのインフラが含まれていないのであれば、副指標に対応する項目に含めるべきである。

<ICHTO>

- 調査団が提案するクライテリア（案）に含まれる各種指標は、これまで、他の国際機関等が観光地域の評価を行う際にも一般的に用いてきたものであり、一通り了解した。

まずは、六つのポテンシャル調査対象地域を平等かつ公平に評価するためにも、調査団の提案するクライテリア（案）に従って、11/8（水）からの現地踏査を進めて欲しい。

その上で、現地踏査による調査結果を基に、必要に応じてクライテリア（案）をレビューしつつ、第二回ワークショップで優先地域を選定していきたい。

なお、調査団の現地踏査に当たっては、ICHTO からできるだけの便宜を図る。

以上

受領資料

なし。

5 JICA TV 会議

概 要	
日時： 11月22日（水）12:15 – 14:00	
場所： JICA イラン事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷、福村、大原（記録）	JICA イラン事務所：田中次長 JICA 本部：鶴岡、降旗、浦野
議事	
11/8（水）から 11/21（火）までの期間で実施した現地踏査の結果に従い、11/25 の ICHTO との第 2 回 WS に先立ち、調査団作成の資料に基づき、優先地域の選定及び WS の開催に係る方針を協議したものの。	
1. 優先地域の選定及び WS の開催に係る方針について	
協議結果：	
● 11/23（木）中にヤズドが最も優れている根拠をもう少し明確に示して欲しい。その上で、11/24（金）中に JICA 本部内に改めて諮り、WS の対処方針を決める。	
主な質疑応答の内容は、以下のとおり。	
<調査団>	
● どのような成果品を示したらよいのか。第 1 回 WS では、5 地域を示して ICHTO の意見を聞いた上で優先地域を選定することになっているが、JICA としてヤズドを選定した結果を WS で示すという主旨なのか。	

<JICA>

- ヤズドだけでなく、地域間の差が分かるように整理して欲しい。

<調査団>

- ヤズドを優先地域として選定した場合、JICA 本部内で不都合があるのか。

<JICA>

- 特に不都合はない。評価結果を細かな採点結果で示すのではなく、比較した上でどこに優位性があるのかなど、ポイントを 2~3 枚の文章で説明できるよう、纏めて欲しい。
- JICA では 1970 年代から観光支援を行っており、カンクーンの M/P の支援なども社会基盤開発部が継続的に行っている。
- 観光地域の成熟度が高いからと言って JICA の支援対象とならない訳ではない。
- 他方、観光 M/P が既にあるのであれば、支援対象から外してよいと思う。

<調査団>

- イランでは、各州で 2017-2022 の開発 M/P があることは確認している。ただし、M/P が地域計画レベルのものか、市の都市計画のものか、観光セクター開発の M/P なのか、詳細は確認できていない。
- シラーズは、観光産業として、技術的にも成熟しており、JICA の支援分野を探すのが難しい。

<JICA>

- シラーズは JICA としても協議のテーブルに残して欲しい。
- もし、11/25 (土) の ICHTO の WS で合意に至らない場合は、調査団の滞在を延長することは可能か。

<調査団>

- 11/25 (土) の ICHTO の WS に JICA 側の意思を示す必要があるのではないか。
- 調査団としては、JICA 本部の意思としてシラーズを残す方針と理解している。
- 他方、これまでの ICHTO との協議では、ICHTO からは、シラーズもヤズドも具体的な名前としては挙がって来ていない。

<JICA>

- JICA 本部で協議した上、11/24 (金) に結果を伝える。
- 11/25 (土) の ICHTO の WS までにコンサルタントチームとしてヤズドを推す理由を整理しておくこと。
- JICA 本部側の方針が 11/24 (金) WS までに纏まらない場合は、契約変更の上、現地調査の追加など調査期間を延長することも考えている。

<調査団>

- 11/24 (金) までに JICA 本部側の方針が纏まらない場合は、11/25 (土) の ICHTO の WS を中止するということか。

<JICA>

● 11/24（金）に JICA 本部側の方針を伝える。
以上
受領資料
なし。

6 Tourism Service Training Institute

概 要	
日時： 11月23日（木）10:00 – 12:30	
場所： Tourism Service Training Institute	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
福村、碓氷（記録）	Mohammad Sahraie, Education Ward/Accounting
議事	
1. 概要	
<ul style="list-style-type: none"> ● テヘランに約 40 校あるプライベートのツーリズム従事者養成校の一つで、ツアーガイドトレーニングとトラベルエージェンツトレーニングに定評がある。学生数は 40 校のなかで一番多い。 ● 16～17 年前まで ICHTO のみがこのようなコースを運営していたが、経験を積んだ観光産業界の人達が私立校を運営するようになった。ガイドラインは ICHTO が作成している。養成校の中には講義を行わず教科書を販売し、学生が自力で勉強している学校もある 	
2. コース	
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合コースとして 4 コース（ホテル関係 2、ガイド 1、テクニカルマネージメント 1）、個別コースとして 14 コースを提供している。 ● 総合コース：ガイドコース（482 時間、20～24 講座）、テクニカルマネージメント（321 時間）、ジェネラルホテリアコース（174 時間）、スペシャライズホテリアコース（112 時間） ● 個別コース：アカウンティング、ホスピタリティ、カスタマーケア、 ● コストコントロール、フロントオフィス、語学等のコースがある。 ● 教科書は、ICHTO が指定した各校共通のものに加えて、市場ニーズの変化や最新情報を基に各校で独自に作成するものがある。 	
3. 学生数	
<ul style="list-style-type: none"> ● ガイドコース約 80 名、テクニカルマネージメントコース約 50 名、ジェネラルホテリアコース約 40 名。 ● ガイドコースについては、30～40 名の学生がガイド試験を一回でパスしている。 ● ガイドコースを受ける学生は、2017 年は外交問題もあり減少したものの、近年では増加傾向にある。また、学位の高い学生の受講が増えている。 ● ガイド試験：養成校の試験に合格した後に、ジェネラル試験と語学試験 by Kish Institute（オンラインの文法試験のほか、スピーキングとライティング試験があ 	

る)をパスすると ICHTO から証明書が授与される。(日本語の試験については通常日本大使館が判断している)

- 冬と夏に 2 回の試験があり、試験を 3 回落としたら全ての講座を勉強し直さなければならない。また、2 年以内で、講座・一般教養試験・語学試験をパスしなかった場合も、全ての講座からやり直さなければならない。
- ツーリズム関係の学部卒或いは、ジオグラフィ等を持っている場合は、ガイドコースの 10%を養成校に支払うことで書類をもらい、コースを受講しなくても試験を受けることができる。

4. 課題

- ICHTO が決める学費が安いと学校運営が大変である。
- 教える側の人材不足であり、特に、マネージャークラスへの教育が出来ない。
- イランには Nepotism がはびこる。特にホテルでは顕著ゆえサービスの質が上がらない。

以上

受領資料

なし。

7 ICHTO との第 2 回ワークショップ

概 要	
日時: 11月25日(土) 13:30 - 16:00	
場所: ICHTO	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
西山、碓氷、大原、福村(記録)	別添
議事	
調査団がこれまでの調査結果及び対象候補地の採点結果を説明した。その後の質疑応答は下記の通りである。	
1. ゴールデンルートの取り扱いについて	
<ICHTO : Cultural Heritage >	
<ul style="list-style-type: none"> ● 調査前からヤズドの点数が高いことはわかっており、調査団をヤズドやシラーズに行かせたくなかった。JICA のプロジェクトはゴールデンルート(ヤズド、エスファハーン、シラーズ)を外してほしい。これらの地域は今後も発展が見込まれており。これ以上支援は必要ない。今まで支援が入っていないところを対象として選んでほしい。点数の低いところを対象とするのはどうか。 	
<調査団>	
<ul style="list-style-type: none"> ● ゴールデンルートを含むのか、含まないのかについて、ぜひ ICHTO 側で議論してもらいたい。 	
<ICHTO : Cultural Heritage >	
<ul style="list-style-type: none"> ● エスファハーン、シラーズ、ヤズドを落としてほしい。フーゼンスタン州を対象地 	

域として選び、ブランド化することが一番よい。

<ICHTO : 国際局>

- チョガ・ザンビールは日本から支援を受けたことがある。それに加えて、今回も JICA が支援してくれればよいブランド化ができるのではないかな。

<調査団>

- ゴールデンルート内で 1 番小さいヤズドは支援効果があると判断した。ゴールデンルートを落とすことが、ICHTO 内で合意したことであれば、それに従う。ICHTO できちんと議論してほしい。

2. ヤズドに関して

<ICHTO : Tourism_Marketing>

- イランは観光開発の歴史がまだ浅い。ヤズドは一つのブランドとして育てるのはいいのではないかな。ヤズドをイランの代表の町として紹介できる。ヤズドをシルクロードや古代の都市として、ヤズドでプロジェクトを実施し、ヤズドから紹介するのはよいのではないかな。

<ICHTO : Cultural Heritage>

- 自分はヤズドの町の世界遺産登録に関わった責任者である。世界遺産に登録されてから観光客数は 10 倍になった。コミュニティがその恩恵を感じている。これ以上はやることはあまりないのではないかな。

<調査団>

- ヤズド中心部だけでなく、メイボットなどヤズドの周辺地域を含んでいるのが調査団の提案である。周辺地域を含めて destinations イメージを作る。今、ヤズド周辺のコミュニティが観光の便益を受けているとは思っていない。ヤズドの観光客増を利用して、周辺部にも便益が行き渡るようにしたい。

3. 調査対象地域の選定方法

<ICHTO : Cultural Heritage_Museum>

- なぜ、候補対象地域は 5 地域しかないのか。イランの東部を選ばないのはなぜかな。

<調査団>

- 今回のプロジェクトの目的は heritage ツーリズムであり、マシュハドは宗教観光がメインのため、外した。ケルマンは治安上の理由から除外した。
- 今から新しい都市は加えられない。プロジェクトをイランの観光開発の 1 つのモデルとして始めて、その後、イランの他地域に展開していくことを考えている。そのため、一番効果が出る場所で行いたい。モデルとして支援の効果が出にくいであろう シラーズやエスファハーンは外した。

4. エコミュージアムについて

<ICHTO : Cultural Heritage_Museum>

- エコミュージアムとして一つの村でプロジェクトを行うのであれば、時間がかか

る。JICAは年月をかけてプロジェクトを行う気があるのか。

- エコミュージアムもあまり発展しない地域で行った方が効果がわかりやすいのではないか。

<調査団>

- エコミュージアムが形になるのは10年かかる。名前だけでなく、本物のエコミュージアム支援を行うつもりである。

5. 調査対象地域選定の前提条件

<ICHTO：国際局>

- JICAとしては、プロジェクト期間が3～5年と限られているため、支援の効果を確実に得るために、世界遺産の近郊にあり、観光の基盤が既にあるところで、プロジェクトを行うということか。

<調査団>

- その通りである。今回のプロジェクトは第1フェーズとなる。観光客がある程度来ていて、インフラもある程度整っているところから始めるのがよいと考えている。
- 観光を通じた地域の開発が目的である。観光客が来ていることと、それによりコミュニティが観光から便益を受けているかは別の事である。ヤズドで地域のコミュニティが観光からのベネフィットを享受するモデルを作り、全国に展開することを目指している。

6. プロジェクト実施後の評価について

<ICHTO：Tourism_エコツアー担当者>

- JICAプロジェクト終了後、結果はどのように評価するのか。ヤズド支援を行ったとしても、JICA支援以外での要素で観光客が増減した場合、JICAプロジェクトの効果がわからないのではないか。現在、何もないところから始めると効果がわかるのではないか。

<調査団>

- それは全てのプロジェクトで共通することである。指標を作り、評価を行って、プロジェクトの効果を測る

7. タブリーズについて

<調査団>

- 候補地としてタブリーズをどう考えるか。

<ICHTO：国際局>

- タブリーズはタブリーズ2018が決定しているので、既に盛り上がっている。それ以外のアフワーズやヤズドにするのがよいのではないか。

8. フーゼンスタン州の治安

<JICA イラン事務所>

- JICA はイランでの事業を拡大するつもりであり、観光は優先分野の一つである。今回のミッションの目的は JICA の観光支援プロジェクトを決めること。しかし、日本の外務省の治安情報で制限がある。フーゼンスタン州にコンサルタントを送るには制限がある。治安の面も考慮してほしい。

9. ICHTO 側の最終決定

<ICHTO : 議長 (Advisor for Tourism Deputy) >

- 参加していない関係者の意見を聞かないといけないし、幹部の意見を聞く必要がある。少し時間が欲しい。明日までには結果が出る。

<調査団>

- JICA イラン事務所の田中次長が言ったことをもう一度確認してほしい。アフワーズは、治安を除けばプロジェクトを作ることは問題ない。しかし、プロジェクト開始後に情勢が悪化した場合、案件が継続できなくなる。そのリスクが含まれていることは確認させていただきたい。
- もし、ヤズドかタブリーズが選定されれば、プロセスとして次に進むことができる。アフワーズに決まった場合は、JICA 本部と協議する必要がある。
- 次のプロジェクトは第 1 フェーズである。今回もアフワーズは除外しないが、第 2 フェーズで実施することも考えられる。

<ICHTO : 国際局>

- 治安のことは考慮する。今回のプロジェクトは JICA とイランとの共同作業なので、ICHTO からも意見を言いたい。ICHTO 内の協議結果は 26 日の正午までに連絡する。

以上

受領資料

なし。

8 JICA イラン事務所

概 要	
日時: 11月28日(火) 8:30-10:00	
場所: ICHTO	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
西山、大原、福村(記録)	小林所長、水谷所員
議事	
調査団がこれまでの経緯及び調査結果を説明した。その後の質疑応答は下記の通りである。	
1. タブリーズをプロジェクト対象地域にした場合、5州になることについて	
<JICA>	

- 技プロになったときにどんな困難がでてくるか説明してほしい。各州の ICHTO がどのように関わってくるか。ICHTO は技プロをやったことがないので、想像ができないと思う。

<調査団>

- メリット、デメリットは話すようにするが、今日の話し合いでは絞り込まない。広く可能性を残しておくように説明する。

2. ウルミエ湖との関連

<JICA>

- ウルミエ湖を環境で調査しているが、ウルミエ湖を絡めて、地域に裨益するようなことはできないか。日本がウルミエ湖を支援していることを見せたい。また、タブリーズ近郊のマラゲ (Maragheh) は、一時、イルハーン朝時代の首都が置かれた町であり、マクー (Maku) にはアルメニア使途教会もある。観光のポテンシャルのあるものを広く調査して欲しい。

<調査団>

- 先の現地踏査では、文化遺産観光の観点から、調査を行なった。ウルミエはネストリウス派キリスト教会の拠点として有名である。市内にはイラン最大のアッシリア人のコミュニティの拠点となった St. Mary 教会が残っており、調査を行なったものの、観光資源となるものが残っていない。マクーの St. Tadeus 修道院やジョルファ (Jorfa) の St. Stephanos 修道院を始めとするアルメニア使途教会の三つの修道院は UNESCO の世界遺産に登録されており、いずれも調査を行なったが、タブリーズからはかなり距離があり、文化遺産に近接した地域観光の活動の主体となるコミュニティも存在しない。
- 他方、サファビー朝時代にジョルファから移住したアルメニア人商人のコミュニティがエスファハーンに作られたり、戦中にイランで大虐殺を受け海外に逃れたアルメニア人やアッシリア人のディアスポラと呼ばれるコミュニティが存在したりするなど、これら地域は、イランの歴史の多様性を理解する上で重要である。
- ウルミエ湖は、以前は遊覧ボートなどの観光もあったようだが、アフマディネジャド政権時に湖を分断する横断道路が建設されて以降、水源と隔てられた湖が干上がり、環境の悪化が深刻化している。
- ウルミエ湖などのエコツーリズムは観光の一つのオプションとして検討する。問題は支援対象となるコミュニティがあるかどうかである。

3. タブリーズについて

<調査団>

- タブリーズでプロジェクトを行うことに関して、問題はない。今回の改定では、イラン側と日本側の意思を反映した。元々の評価に対しても ICHTO からの異論はなかったが、別の論理として、ゴールデンルートの排除ができた。ICHTO は最初にそれを言ったら、調査の仕方に軽重が出るかもしれないと思ったのかもしれない。イラン側は対象地域をフラットに見てほしかったという意図があるのではないかと思っている。
- 今回の第二次現地調査では、まず最初に JICA とのキックオフミーティングで、本

調査の CP が国際局であることを確認することからスタートした。今次調査では、国際局の調整の下、6 地域の現地調査を行い、ICHTO の様々な部局の協力を得たことにより、公平に 6 地域の評価を行うことができた。それにより、現地踏査全体としては、十分な成功を収めることができ、第 2 回 WS において ICHTO から評価を得ることができた。

- 第 2 回 WS において ICHTO の文化遺産局の担当者から「アフワーズ以外は JICA 調査団に見せたくなかった」との発言があったことに顕著に象徴されるように、もし、今回、バイアスのかかった特定の部局の担当者の指示の下で調査を行なってしまっていたら、今回のような公平な調査は実現しなかったことは明白である。
- 他方、第 2 回 WS の開始前に、国際局の一人の担当者から「アフワーズ以外を選定する場合は、アフワーズを推している文化遺産局に事前に説明した方がよい」との発言もあった。イランでは、ホンネとタテマエを使い分けているところがあり、正式な CP は国際局としつつも、今後、こうした側面があることにも留意が必要であろう。案件開始となって、仮に ICHTO 本部があまり関与しなくても、タブリーズの ICHTO としっかり組めばきちんとプロジェクトは実施できるはずである。

4. 調査団の評価とイラン側の支援ニーズについて

<JICA>

- 調査団としては、全体を見て、客観的に評価したと思う。他方でイラン側としては地域の重要性、ICHTO のせめぎあいもあって、日本にはここをやってほしいという意図があったことと思う。そのストーリーが重要である。
- ヤズドは ICHTO が行き、タブリーズは日本の特定のノウハウが必要なので、やってほしいという理由付けが必要である。本来、開発ニーズがあるところと日本に支援してほしいところは分けることができる。なるべく ICHTO のトップの方からの意思確認が欲しい。
- JICA として、来年度の要望調査でプロジェクトのリクエストを出してもらおう。PBO を通じて、外務省から来る。そのルートに耐えうる理由が欲しい。ゴールは要望調査の要請書である。今回、タブリーズを選定した理由を、ICHTO の組織全体の総意に基づくものとして、レター等の形で纏めてもらうことが望ましい。
- コンサルタントが客観的に評価した結果としての純粋な開発ニーズと、JICA の支援ニーズとは分けて考えるべきである。よって、最終報告書には、第 2 回 WS で調査団が提示した採点結果と、ICHTO との協議結果を反映した採点結果は明確に区別し、両方とも掲載した方がよい。

<調査団>

- ヤズドの開発は ICHTO 自身で実施すると聞いた。この後の ICHTO とのミーティングでタブリーズに支援が必要な意見を聞く。
- 調査団としては、今日も前回の採点理由を説明するつもりである。
- 案件の担当者としてタブリーズをやりたいという責任を持っている部局が ICHTO にあるか、プロジェクトの責任部署を確認する。
- タブリーズが ICHTO として選定した理由をゴールデンルートの除外以外の理由で説明を求める。
- 今回はイラン全体の観光分野を俯瞰する調査であった。その先の評価として地域を

選ぶという流れにしたい。

- ドナーは、JICA だけではない。調査団の分析に基づく純粋な開発ニーズについては、報告書にきちんとした形で残しておく必要がある。開発ニーズに基づき、他ドナーが支援を行ってもよいし、イラン側自身で実施してもよい。その中から JICA が支援することが最も適当な分野について、JICA の支援対象とすればよい。報告書には第 2 回 WS で調査団が提示した採点結果と、ICHTO との協議結果を反映した採点結果の両方を掲載する旨、承知した。

以上

受領資料

なし。

9 ICHTO との会議

概 要	
日時： 11 月 28 日（火） 11:20 – 13:00	
場所： ICHTO 国際局	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、大原、福村（記録）	<ul style="list-style-type: none"> ● Ms. Faezeh Behzadnejad, Director General, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO ● Dr. Ahmadi, Director General, Cultural Heritage Department, ICHTO ● Mr. Falahat, Senior Expert, Tourism Department / Tourism & Hotel Management, ICHTO ● Mr. Afrund, Executive manager, Tourism Department/ “Tabriz 2018” project, ICHTO ● Ms. Torabi, Senior Expert, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO
議事	
<p>第二回ワークショップのフォローアップとして、ICHTO の意向を確認するために面談を行った。質疑応答は下記の通りである。</p> <p>1. ICHTO がタブリーズを選定した経緯について</p> <p><ICHTO・国際局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● タブリーズは OIC (Organization of Islamic Countries)の下で推進している「タブリーズ 2018」の首都であり、JICA プロジェクトと同時に実施した方がよいのではないかという意見があった。Tourism Deputy は、集中して支援を行うのがよいと考えている。JICA プロジェクトは 1 年以内には始まらないと思うが、JICA プロジェクトがタブリーズで始まるのは良いと思う。 <p><ICHTO・文化遺産局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「タブリーズ 2018」を目標として、力を入れたい。JICA のプロジェクトを加えて、さらに充実したものになるのではないかと考えて選定した。 ● ゴールデンルート（エスファハーン、シラーズ、ヤズド）を除くフーゼンスタンからタブリーズを選定することが妥当と考えた上、フーゼンスタンは治安上の理由から選定から外した。 	

- ゴールデントライアングルは、既に観光客が増加しており、イラン側でも既に取り組みを始めているため、JICA 支援の優先度は低いという理由から除外した。
- フーゼンスタンは JICA 側の基準で外した。治安の問題が解決したら次はぜひプロジェクトを行ってほしい。

<ICHTO・観光局>

- この地域は、文化遺産だけでなくウルミエ湖など自然資源が強力で、隠されたものも多い。そういったものをいかにして観光資源化するかについて地域に経験がないので JICA に支援してほしい

2. ICHTO がヤズドを選定から外した理由について

<調査団>

- 調査団がヤズドを優先地域に選定した理由の一つは、ヤズドの周辺地域を開発し、ヤズドの滞在を伸ばさない限り、ヤズドは観光客が 1 泊しかしない通過観光の地位から脱することはできず、また、ヤズドの観光客数が増えている一方、周辺の地域住民には十分に裨益していないため、周辺地域を開発する必要があることが理由である。

<ICHTO>

- その意見は正しい。ICHTO もヤズドの周辺地域の開発に力を入れている。現在、ICHTO として開発を進めている最中であり、JICA の支援は、ICHTO の手が十分に届いていない地域での支援を望む。

<調査団>

- 調査団がヤズドを優先地域に選定したもう一つの理由としては、ヤズドでは、現在、急速に観光客の数が伸びており、観光資源の価値の劣化が懸念される。今のうちに対策を講じなければ、手遅れになる。今が絶好の支援のタイミングであり、日本の知見を活かせるとの理由から、調査団ではヤズドを優先地域に選定した。

<ICHTO>

- その意見も認識している。ヤズドに登録されている世界遺産などを中心に、ICHTO ではヤズドの文化遺産の保全計画を策定しており、既に取り組みを始めている。

3. タブリーズに期待する JICA 支援

<調査団>

- タブリーズにどんな日本からの支援を期待しているのか。具体的な事例を教えてください。
- JICA ができることとしては、広域の MP 作りの他には、パイロットサイトを決めて、集中的に技術支援を行う。さらに DMO は地域の観光となる主体を官民連携で作成し、組織づくりを支援するものである。
- JICA 支援のベースは CBT であり、コミュニティの住民が観光に参加し、裨益を得ることが重要である。エコミュージアムや、TIC の中身の充実、ガイドの育成など、手法は色々ある。タブリーズにどんな支援を期待しているか。

<ICHTO・文化遺産局>

- イランの観光地は、観光客数やセグメントの統計分析が遅れており、ノウハウがない。タブリーズの主要な観光資源（地域）でこの統計分析等を含むマーケティング分析手法をモデル的に支援し、イラン全土に普及させることを期待する。
- ブランド化に関してはいろいろなテーマが考え得る。カズビンはアゼルバイジャンの文化の影響を強く受けている。テヘランからタブリーズの区間には、イラン全土のシルクロードの3分の1が位置しており、様々な時代の首都が置かれ、様々な王朝がこの地から興った。様々なテーマを提案できる。

<ICHTO・観光局>

- アゼルバイジャン州は色々魅力がある。文化、音楽、食事。それらをつなぐストーリーを作るべき。これがまとめれば魅力的になるのでは。資源単独であれば、それで終わってしまう。資源間をリンクできる専門家、エコミュージアムの導入が必要である。イランのヘルスツーリズムは近年、減少傾向にあり、支援を必要としている分野の一つである。

<ICHTO・国際局>

- 観光客を引き付ける力はイランのどこの地域もある。しかし、プロダクトができていない。マネジメントが可能な小さな単位から始める必要がある。ヘルスツーリズムの必要性は理解しているものの、今回はヘリテージツーリズムがメインである。
- 広域DMO、及びコミュニティ単位の地域DMOが必要である。
- タブリーズの周りのトルコとアゼルバイジャンも観光に力を入れており、この3つの国を含めて観光開発を進める視点も必要である。
- アゼルバイジャンはイランと対話し、自国の次の目的地にイランも入れることに着目している。トルコのコンヤが代表的なブランドとなっている。
- アゼルバイジャン及びトルコとイランの間ではビザは免除されている。イランで有一電化された国際路線の鉄道がアゼルバイジャン及びトルコとイランを結んでおり、簡単に人が行き来できる。

<調査団>

- デスティネーションのブランディングの観点からは、「メインプロダクト」を特定し、明確なブランド化を行うことが重要である。「メインプロダクト」としての文化遺産のブランド力を高めた上で、そこを訪れた観光客に対し、ヘルスツーリズムなどその他の「オプション」を紹介することができる。「メインプロダクト」と「オプション」を明確に整理して考えた方がよい。
- シルクロードの裏にあるテーマは何か、もう一つ深く議論ができると思う。シルクロードというテーマはいろんな人が豊かな文化を運び、町があった。メインのテーマをきっちり抑えて、そこから派生させるのは面白いと思う。日本の支援の特徴は、時間をかけてきちんと基礎調査を行い、丁寧な支援を行うことである。
- タブリーズは国境に位置するため、他国との連携も考えることができる。新しいビジョンを視野に入れてプロジェクトを行いたい。
- シルクロードの東の端は日本につながっている。シルクロード上には、アゼルバイジャンやトルコはもちろん、トルクメニスタン、アゼルバイジャンと政治問題を抱えているもののアルメニアや、JICAが継続的に支援を行っているウズベキスタンやジョージアも含まれ、「シルクロード」というテーマを通して、イランと日本、そして他の国ともつなげていくことが可能である。

4. 将来的な JICA プロジェクトの実施体制について

<調査団>

- 今回の調査は ICHTO の国際局をカウンターパートとし、国際局の下、文化遺産局、観光局、手工芸品局との協力により調査を実施し、十分な成果を収めることができた。本調査の後に予定されている JICA プロジェクトも同様に、カウンターパートは ICHTO の国際局とし、国際局の下、文化遺産局、観光局、手工芸品局と協力しながらプロジェクトを実施するという実施体制でよいか。

<ICHTO>

- JICA プロジェクトの実施体制については、そのとおりである。

<調査団>

- 本部 ICHTO と地方の ICHTO。どのように行うのか。文化遺産局は対応してくれるのか。

<ICHTO>

- ICHTO の国際局の下、各局が協力する。

<調査団>

- ICHTO 本部と対象 5 州の ICHTO を軸として、技プロを行う。別途、専門家派遣も JICA に提案する。

5. プロジェクト対象地域について

<ICHTO・国際局>

- トルコ、アゼルバイジャンをターゲット地域に含めた方がよいのではないかと。

<調査団>

- JICA 支援は、原則として 2 国間協力の枠組みの下で実施されるものであり、トルコとアゼルバイジャンを同時に支援するのは難しい。
- あくまで調査団の一つのアイデアであるが、JICA では、毎年、課題別研修を実施しており、「シルクロード」をテーマとして、シルクロードに関係する国々から研修生呼んで日本国内で研修を行い、交流を深める、というアイデアもある。

6. 元々の採点案と改訂した採点案について

<調査団>

- 改訂した採点表ではイラン側の意向を受けて、元々の点数を改訂した。コンサルタントの採点と改訂した採点を両方、報告書に載せてよいか。

<ICHTO>

- 問題ない。

7. 今後の案件形成の手続き

<p><JICA 事務所></p> <ul style="list-style-type: none"> ● タブリーズにした理由を記載したレターを作成し、それを ICHTO の上の人からのサインをもらうことは可能か。 <p><ICHTO・国際局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 可能である。国際局がサインをする権限を持っている。 <p>8. タブリーズ視察の注意点</p> <p><ICHTO></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象候補地になったことは正式にはタブリーズには伝えていない。タブリーズは対象の一つであり、他の州が入っていることを説明してほしい。 <p><調査団></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 承知した。 <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
なし。

10 タブリーズ関係者との会議

概 要	
日時： 11月29日（水）15:00 – 17:00	
場所：タブリーズインターナショナルホテル	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、福村（記録）	別添
議事	
調査団が将来の JICA プロジェクトの対象地として、タブリーズが選定された経緯を説明した。その後のコメント及び質疑応答は下記の通りである。	
1. 補足事項としてタブリーズ、東アゼルバイジャン州の強み	
<ICHTO>	
<ul style="list-style-type: none"> ● タブリーズの強みとして、人的資源を加えてほしい。タブリーズには観光を教えている大学が1校ある。州内には7校の観光を教える大学がある。 ● Tourism destination のルートとして53の村が東アゼルバイジャン州にはある。エコツーリズム、自然ツーリズムがある。その他にもコミュニティベースツーリズム、遊牧民のツアーなどがある。 ● キャンドバンは文化や元々の生活を失いつつあるのを ICHTO も認識しており、解決に向けて動いている。 ● 観光振興のための文化、歴史のコネクションがある。ローカルコミュニティを信仰するためのイベントも企画・実施している。観光開発に当たり、様々な活動で民間、NGO と連携している。 	
<ICHTO・手工芸品局>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の文化を歓迎している。日本の観光客は我々の手工芸品を気に入っているよう 	

に思う。タブリーズは世界の手工芸とカーペットの生産地として有名であり、ユニエスコにも認定された。80の手工芸品があり、1000人がはたらいている。そして、2000人がカーペットの生産に携わっている。

- 観光客がタブリーズで購入する5つのアイテムがある。カーペット、ハンディクラフト、靴、ナッツ、スイーツである。
- タブリーズのバザールは文化を創り出している重要な場所である。
- タブリーズの歴史は6000年前にさかのぼる。シルクロードでタブリーズは重要なモニュメントであり、現存しているモスク、バザールはタブリーズの歴史の証明である。

<ICHTO・エコツーリズム>

- イラン政府全体の方針として、エコツーリズムの宿泊場所を増やし、観光インフラの整備を進めている。
- 20~30の古い家を宿泊施設に変更したい要望がある。アラス川近辺にジオパークとエコツーリズムがある。ユネスコのジオパークに登録する計画がある。ArasbaranはユネスコのBiosphere Reserveプログラムの一部である。
- 前回のミーティングでも話したタブリーズ展示プログラムにも進捗がある。タブリーズ市と日本の福岡市で協力して、プログラムを行っている。

2. 将来的な JICA 協力の可能性について

<ガイド協会>

- ホテル旅行代理店は観光客をもてなす準備はできている。FAMトリップのようなやり方が必要である。特に日本からの観光客を呼びこむにはどうしたらよいか。JICAプロジェクトでFAMトリップを行うことはありえるか。
- ホテル協会やガイド協会はプロジェクトに喜んで協力する。

<調査団>

- ブランドイメージが確立すればことが大事である。観光インフラの整備も重要である。オリジナルサービスが確立すれば、ブランドイメージの確立につながる。
- マーケティングに関しては、日本の他のプロジェクトでもFAMトリップを行っている。タブリーズでプロジェクトを行う場合も可能かもしれない。タブリーズ側の提案として理解した。

<ICHTO>

- タブリーズは地震がある。日本も災害の解決方法を知っている。特にタブリーズのバザールの保全に苦労している。タブリーズ市とJICAの協力によるバザールの保全するプロジェクトを行う可能性はないのか。観光と災害マネジメントを同時にプロジェクトで行ってもらえないか。

<調査団>

- 災害マネジメントはJICAの支援エリアの一つである。ただ、今回のプロジェクトの目的の趣旨とは少し離れている。しかし、タブリーズ側の提案として受け取った。

<ICHTO>

<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトを行うに当たって、期待していることはなにか。 <p><調査団></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域経済の発展が目的である。観光客を増やし、宿泊数を増やす。 <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
なし。

11 キャンドバン村でのミーティング

概 要	
日時： 11月30日（水）11:00 – 11:30	
場所：キャンドバン	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、福村（記録）	Mr. Fatollahi, Village Leader of Kandovan
議事	
<p>キャンドバン村の村長及び村人と面談した。要点は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口は750名、182世帯である。 ● ICHTOが把握しているだけでもキャンドバン村にはブンガディが35軒ある。ブンガディの開業に当たっては、ICHTOが審査を行い、基準を満たした施設に対してエコツーリズム Certificate を発効している。しかし、既に開業しているが、基準を満たしていないものも多く、ICHTOのCertificateの審査そのものを拒否しているものもある。キャンドバン村にはローカルガイドが10人いる。 ● ICOMOSがキャンドバンの現代的な構造物を歴史地区の外に移設すべき、との勧告を行っている。 ● 村長の役割はインフラの開発と管理である。 ● ICHTOと月に2、3回定例会議を開いている。定例会議の議題は歴史的建造物の保存管理、観光客の受け入れ、住人の生活環境改善である。 ● 観光の問題点として、キャリングキャパシティの問題が挙げられ、ハイシーズンに宿泊施設及び駐車場が足りていないことである。かつてキャンドバンまでも道路が1車線しかなかったが、拡幅したために交通の問題は解決した。 ● 観光客と村人の争いは起きていない。住民は観光によってお金を稼いでいる事を理解している。それよりも村人にはホスピタリティがある。 ● 入村料は1USD/セダン、1.5USD/バスであり、キャンドバン村が独自に回収・運用している。回収した入村料は村のインフラ開発のために使っている。 ● ブローチャーはICHTOと共同で作っている。主にハイシーズンに印刷する。 ● ハイシーズンは4月～9月である。仮設のTICをハイシーズンとノーシーズンに設置している。 ● 観光客数は国内、海外合わせて150万人である。その内、1万2千人が海外からの観光客である。 ● 冬の観光客は1万人いる。冬でも車道は走行可能である。 ● 季節変動が問題である。 	

● ICHTO が作成したキャンドバン村の CBET (Community Based Eco-Tourism) の開発計画がある。観光地区と居住地区のゾーニングは存在しない。	以上
受領資料	
キャンドバン村の観光パンフレット	

12 ICHTO Maragheh

概 要	
日時: 11月30日(水) 13:20 - 14:00	
場所: ICHTO Maragheh	
出席者(調査団)	出席者(相手側)
大原、福村(記録)	Mr. Talabi, Head of ICHTO, Maragheh
議事	
<p>1. Maragheh の基本情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICHTO Maragheh 支所の人数は 15 名で、Heritage, Handicraft, Cultural heritage, Restoration, Investment の 5 部門がある。 ● 文化遺産の主な観光地としては、イスラム関連の文化遺産を中心に 10 ヶ所のサイトがある。イルハーン朝時代の 13 世紀の天文台跡やセルジューク朝時代の保存状態の良好な 7 つのドーム、ミトラ教の寺院跡などがある。 <p>2. 観光情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内、海外合わせて、観光客の数は 4 万人である。 ● 2017 年上半期 6 ヶ月の海外観光客は 1500 人である。 ● 観光客は主にバスと自家用車で訪れる。マラゲータブリーズ間のバスは毎時 15 分おきに運行している ● その他にはテヘラン-マラゲ間の国内線のフライトもある。鉄道はマシュハド-タブリーズ間やテヘラン-タブリーズ間を結ぶ一日 3 便の途中駅であり、全ての電車がマラゲに停車する。タブリーズから電車で日帰りも可能である。 ● ホテルは 10 軒で、4 つ星ホテルが 1 軒、2 つ星が 1 軒であり、他はゲストハウスである。ベッド数は約 600 床である。 ● 手工芸品は新たに貴石モザイクと彫刻を開発中である。しかし、まだ国内でも知名度はなく、プロモーション段階である。 ● マラゲは Garden city、Green city として有名であり、サハンド山周辺の豊かな自然を背景にハンポイル洞窟や、エコツーリズムもできる。町を流れる川沿いは魅力があり、キャンプもできる。トレッキングもできる。 ● 化石の産地としても有名であり、ジオツーリズムもできる。 ● ブンガディはまだ無く、開発の初期段階である。 ● 観光関連の NGO は 3~4 団体ある。主に遺産の保全活動や開発に伴うダメージの報告などを行っている。 ● 観光パンフレットはペルシャ語のみ存在する。ウェブサイトは東アゼルバイジャン 	

州のものしかない。	以上
受領資料	
なし。	

13 イラン統計局

概 要	
日時: 12月2日(土) 10:00 - 11:00	
場所: イラン統計局 (SCI)	
出席者 (調査団)	出席者 (相手側)
Ms. Torabi (ICHTO)、大原、 福村 (記録)	Mr. Peyman, DG, Office of Cultural Trade and service statistics Mr. Hosseini, Expert on cultural and social statisitcs Mr Ghoiami, Deputy General Office of economic accounts
議事	
1. イラン観光統計の口頭での説明 <Statistical Center of Iran、以下 SCI> <ul style="list-style-type: none"> ● 統計局は観光、インバウンド、エコツーリズムのデータを収集している。2008年からデータ収集を開始した。 ● 統計局は National tourism survey を行っている。国内の旅行者のサンプル数は1万8千世帯となる。イラン全国から調査対象世帯を抽出し、調査票を各世帯に渡して、情報を収集している。毎年、調査対象世帯は変わる。 ● 国内観光客に関しては、過去に四季のデータを収集していたが、分析の結果、季節ごとの大きな違いがなかったため、現在は春と夏のみデータを収集している。 ● 2016年になってより詳細なデータへのニーズが増えたので、四季単位でのデータ収集を行うか検討している。 ● イラン国内の観光客は平均で56%の家族が年に一度以上旅行する。その中の1.5%が海外旅行に行っている。 ● イラン国民は、平均では月に2回くらい旅行する。その内、3%はツアーを利用する。年間の国内旅行者は2500万人となる。その中の75%は宗教観光、40%は親戚などに会いに行く旅行 (VFR) である。14%はヘルスツーリズムを目的としている。 ● イラン国民の旅行の57%は宿泊を伴う旅行であり、平均で4日間の旅行日程である。海外旅行の場合は12日間の日程となる。 ● 2014年のイラン国内の観光業の収入は、8億ドルとなる。70%は友人の家に泊まるが、ホテルなどに宿泊した場合の平均1泊の単価は16ドルである。 ● 2015年のインバウンド国際観光客は500万人であり、5年間で5倍にする目標がある。75%がイラク、アゼルバイジャン、パキスタン等のイラン周辺国からの観光客である。その中の35%が飛行機を利用。64%は陸路である。1%が船で来る。 	
2. 質疑応答 <調査団>	

- 春と夏のみでのデータでは季節変動は捕捉できないのではないかと。

<SCI>

- その通りである。今後、毎月のデータを収集できるように検討している。

<調査団>

- 地域別の観光客数の変動も考慮すべきである。これらのデータはホテル等の民間投資、観光インフラの建設計画や雇用に影響を与える。
- データを収集することを目的とするのではなく、何を目的としてデータ収集するかを先に考えた方がよい。

<SCI>

- その通りである。国際観光客のデータは ICHTO と協力して取得している。海外観光客のデータはもう少し細かく取るようにしたい。観光支出額に関わる統計については、UNWTO の観光サテライト勘定 (TSA: Tourism Satellite Account) のセミナーに参加したので、そのやり方も参考にしたい。

<SCI>

- 日本はインバウンド観光客の統計はどう取っているのか。

<調査団>

- 空港と港等のボーダーポストでサンプリング調査を行っている。アンケートシートによるインタビューサーベイが主な方法である。観光客数は、入国の時に取る国籍別の入国者数をベースにしている。

<SCI>

- 観光客の支出金額・項目、滞在日数等のデータはどうとるのか。

<調査団>

- 日本では、TSA を完全な形では採用していない。支出は訪問先ごとで取るしかない。滞在日数等はホテルの宿泊者カードのデータをベースとしていた。

<SCI>

- 県ごとにデータを取るのか。

<調査団>

- ホテルの宿泊者カードに詳細情報を書く。どこの国籍の人が、どこに何泊したかくらいまでは把握できるが、訪問目的までは一律に取っていない。

<SCI>

- 移動、お土産等の支出はどうやって収集するのか。

<調査団>

- それらの統計データは日本では取っていない。出国時にサンプリング調査するしかない。

<SCI>

- イランの場合、宿泊者カードのデータはイランで整理されていない。データはホテルからもらっている。観光客に嫌がられないようにデータをもらう方法を考えてい

<p>る。</p> <p><調査団></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域別のホテル数やベッド数など観光インフラのデータは管理していないのか。 <p><SCI></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICHTO が管理している。 <p>3. データ提供について</p> <p><SCI></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今日プレゼンテーションしたデータについては、正式なルートで依頼してもらえれば、提供できる準備がある。 <p>注釈：この会議の5週間前に正式なルート（JICA イラン事務所から）で、欲しいデータのリクエストは依頼済みの状態。</p> <p style="text-align: right;">なし</p>
受領資料
2014年度の州ごとの GRDP

14 ICHTO とのラップアップミーティング

概 要	
日時： 12月3日（日）11:30 – 13:00	
場所： ICHTO	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
大原、福村（記録）、Ms. Asadi (JICA イラン事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ● Ms. Faezeh Behzadnejad, Director General, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO ● Dr. Ahmadi, Director General, Cultural Heritage Department, ICHTO ● Mr. Falahat, Senior Expert, Tourism Department / Tourism & Hotel Management, ICHTO ● Mr. Afrund, Executive manager, Tourism Department/ “Tabriz 2018” project, ICHTO ● Mr. Kazem Jalili Zalpoor, Expert, Tourism Marketing and Promotion Bureau, ICHTO ● Ms. Torabi, Senior Expert, International Affairs & Specialized Organization Bureau, ICHTO
議事	
1. UNWTO のマスタープランについて	
<ICHTO 国際局>	
<ul style="list-style-type: none"> ● ICHTO 側の担当者ははっきりとは決まっていない。UNWTO のプロポーザルを受け取ってはいる。かつて、2000年～2015年を計画対象期間とした観光MPがあった。今回は、そのMPの改訂を行うつもりである。UNWTOの当時の担当者と今回の担当者は同じである。 ● MPの改訂は、2018年1月から始まればよいが、未確定である。MPの工期は、始まれば6か月程度の予定である。 	

- JICA プロジェクトと改訂 MP の矛盾は生じないので心配しなくてよい。

2. DMO における官民連携

<ICHTO 国際局>

- 調査団が提案する 1~7 のプロジェクトのコンポーネントのうち、どのコンポーネントの実施が一番難しいと調査団は考えているのか。タブリーズでは官民が協力しているか。タブリーズ 2018 のアウトプットは今のところあまり良くないようである。調査団が報告しているタブリーズの官民の定例会議はタブリーズ 2018 の準備のシンプルな活動報告のみだと思う。過去の経験からも官民連携でうまく協力できずに思うような成果はでていない。
- キシュ島は観光で官民が協力し、DMO が成功している例である。キシュ島はフリーゾーンのため、様々な規制が少ないからできることである。キシュ島の観光は ICHTO の管轄下でない。

<調査団>

- コンポーネントの 1 番目に掲げた DMO の体制づくりが一番難しいと考えている。現状、観光セクターは ICHTO にコントロールされているが、JICA の支援ではボトムアップアプローチも行う。

<ICHTO 国際局>

- その通りである。DMO の体制づくりが一番難しい。ICHTO がコントロールできているのは、観光セクター全体の活動の 10% 程度に過ぎない。90% は民間である。その他、ICHTO だけでなく、航空、保健等の他の行政機関も管轄しており、様々な行政機関が関与している。ICHTO だけでなく、他の行政機関とも協力する必要がある。

3. その他、個別事項の質疑応答

<ICHTO 遺産局>

- 価値のある都市の歴史的建造物は国指定文化財に登録すべきである。カズビン、タブリーズの歴史的建造物のいくつかはまだ国指定文化財として登録されていない。歴史的建造物の価値や保全の意義について、住民の理解を得ることが最も重要である。

<調査団>

- 建物の持ち主にベネフィットがない限り、国指定文化財として登録することは難しい。保全の価値を理解してもらい、長期的にメリットがあることを理解してもらうことが大事である。パイロットプロジェクトの三つ目に挙げたタイプは、タブリーズの歴史地区の修景等を行うものであり、歴史地区に観光客が訪れるようになれば、商店等の所有者も利益を得ることができ、歴史的建造物の保全に繋げることができる。

<ICHTO 遺産局>

- 日本のマーケットはタブリーズに興味あるか。日本の若年層のアウトバウンド旅行は他の先進国より低いと聞いている。

<調査団>

- 戦略的には、観光支出額の低いバジェット層をターゲットとするのではなく、ハイエンドなシニア層をターゲットにすべきと考える。若年層は、長期の休暇を取り難く、可処分所得も低い。日本人は、特にシニア層を中心として日本もシルクロードに興味ある。シニア層を最初のターゲットとした方が良い。30代～40代のミドルエイジもターゲットとすることは可能である。

<ICHTO マーケティング・プロモーション局>

- Rashtなどを対象地域から除いた理由は何か。Rashtは豊かな森がある。

<調査団>

- プロジェクトは、シルクロードをテーマとする文化遺産観光をターゲットとしており、シルクロードと関連性の高いシルクロード沿いの州を対象としているためである。エコツーリズムや自然ツーリズムではない。

<ICHTO 国際局>

- どのような単位でDMOを作るのか。

<調査団>

- MPは、デスティネーション全体をカバーするものを想定している。デスティネーション全体（5州）を管理する（広域）DMOがまず必要である。また、同時に、CBTなどの活動の主体となるローカルレベルのDMOも必要である。

<ICHTO 観光局>

- パイロットプロジェクトの予算はどのくらいあるのか。パイロットプロジェクトの実施に当たっては全てのサイトの歴史や文化に対して深い理解が必要である。そうしたらよいサイトによりパイロットプロジェクトを行えるであろう。

<調査団>

- 予算規模に関しては未定だが、もしプロジェクトの活動期間が5年間ならば、調査団から提案する3つのタイプのパイロットプロジェクト（エコミュージアム、CBT、都市再活性）を全て実施することも可能であろう。パイロットサイトの選定は、プロジェクトの1年目にインベントリー調査を行なった上で、きちんとしたプロセスに則って行う。

<調査団>

- 調査団から提案する3つのタイプのパイロットプロジェクト以外にICHTO側で何か良いアイデアや、要望はあるか。

<ICHTO 遺産局>

- パイロットプロジェクトのタイプに応じて、タイプごとにどの地域をターゲットとするのが適当かプロジェクト実施時に検討する。

<ICHTO 国際局>

- トルコやアゼルバイジャン等のタブリーズの周辺国と連携した観光商品の検討やプロモーションはパイロットプロジェクトに含められるのか。

<調査団>

- コンポーネントの7番目に挙げた研修において、第三国研修が可能であれば、シルクロードをテーマとした周辺国での研修等も可能かもしれない。

<ICHTO 遺産局>

- プロジェクトの実施期間が5年ともなれば、ICHTOや民間ともに担当者の異動が生じ、DMOの実施体制にも影響が生じるだろう。選挙の度ごとに責任者の異動が起きる。

<ICHTO 国際局>

- DMOを組織することの意義は、むしろ、そのためにあるのではないか。しっかりとDMO体制が構築できれば、省庁の人事異動の影響を受けることはない。

<調査団>

- デスティネーション開発に係るビジョンやブランドがしっかりしていれば、外部条件の影響は抑えられる。

4. フーゼスタン州とビシャプールについて

<調査団>

- 調査団としてフーゼスタン州とビシャプールの観光開発について伝えたいことがある。現在、フーゼスタン州とシラーズの間は、移動に8時間以上がかかる一方、その間に知名度の高い観光地がないため、フーゼスタン州が観光ルートに組み入れられ難い状況にある。しかしながら、2018年にUNESCOの世界遺産登録を予定しているビシャプールの観光地開発が実現すれば、両地域を一つに繋げる大きなきっかけになる。ビシャプールには観光地として非常に高いポテンシャルがある。

<ICHTO 遺産局>

- ビシャプールは来年度に、必ず世界遺産に登録するつもりである。フーゼスタン州の治安の問題も1年以内に解決すると思う。

<調査団>

- 治安の問題が解決しても、フーゼスタン州の観光ルート全体における地理的な位置づけが変わるわけではなく、そもそも、治安状況は、フーゼスタン州の観光開発にとって本質的な問題ではないことを、もっと認識すべきである。
- ビシャプールに多くの観光客が訪れるようになれば、道路・都市計画省もそれを考慮し、シラーズとフーゼスタン州を結ぶインフラ整備も自動的に進み、観光ルートにも組み入れられていくだろう。

<ICHTO 遺産局>

- その点は認識しており、ICHTOでは、現在、ビシャプールだけでなく、イゼー(Izeh)等のシラーズとフーゼスタン州の間にある観光地の開発を進めている。

5. 本格プロジェクトの要請について

<JICA イラン事務所>

- アプリケーションフォームは毎年6月に各省庁から集める。ICHTOも要請書を作成し、次回2018年1月に第3次のJICA調査団の現地調査の前に仮提出してほしい。そうすれば、第3次現地調査で議論できる。
- プロジェクト要請書が通っても、本格案件はおそらく2019年から開始となる。

<ICHTO 国際局>

- 承知した。

6. 第3次現地調査のスケジュールについて

<調査団>

- 第3次現地調査のイラン現地の滞在期間は、1月19日～24日の予定である。ICHTOとのキックオフミーティングは20日（土）10時に設定してもらいたい。
- また、20日（土）の夜便でタブリーズに出張し、21日（日）は、タブリーズにて会議を行ない、21日（日）の夜便でテヘランに戻る。
- 22日（月）から23（火）は、テヘランのICHTOにタブリーズのICHTOのダイレクターも招集した上でWS等を開催し、プロジェクトコンポーネントについて詰めの協議を行ないたい。
- 第3次現地調査におけるWSの主なアジェンダは、プロジェクトコンポーネントを確定し、要請書の内容を固めることである。
- また、帰国日となる24日（水）午前中にJICA小林所長と面談し、調査結果の報告を行ないたい。

<ICHTO、JICAイラン事務所>

- 承知した。

以上

受領資料

なし。

第三次現地調査 面談録

訪問先と面談・協議参加者

日程	訪問先	面談・協議参加者
1月20日(土)	ICHTO 国際局 9:30-11:45	・調査団 西山、上田、碓氷 ・JICA 降旗、水谷
1月21日(日)	Tabriz International Hotel 10:30-12:15	・調査団 西山、上田、碓氷 ・JICA 小林、降旗、水谷
1月21日(日)	Tabriz 市議会 14:00-14:30	・調査団 西山、上田、碓氷 ・JICA 小林、降旗、水谷
1月21日(日)	Tabriz 市役所 18:30-19:15	・調査団 西山、上田、碓氷 ・JICA 小林、降旗、水谷
1月23日(火)	JICA テヘラン事務所	・調査団 西山
1月24日(水)	ICHTO	・調査団 西山、上田、碓氷 ・JICA 小林、降旗、水谷、Ms. Asadi

面談・協議概要一覧

1	ICHTO 国際局.....	1
2	ICHTO タブリーズ.....	3
3	Tabriz 市議会.....	4
4	Tabriz 市役所.....	5
5	JICA テヘラン事務所.....	5
6	ICHTO ワークショップ.....	6

面談・協議概要

1 ICHTO 国際局

概 要	
日時： 1月20日（土）9:30 - 11:45	
場所： JICA イラン事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷 降旗、水谷	別添
議事	
<p>西山総括が資料を用いて、第三次現地調査の目的及び調査日程について説明を行った。また、ワークショップのプレゼン内容について説明し ICHTO のコメントを取り付けると共に、今後実施予定の JICA の支援についての協議を行った。</p> <p>JICA から、プロジェクトの策定までに 1～2 年を要することと、プロジェクト期間は 3～4 年を想定している旨を説明</p> <p>ICHTO からの主なコメントは以下のとおり。</p> <p><国際局></p> <p>対象地域を限定するのではなく、全国を対象とした提案を希望していた。今回の提案内容がそうなっていて嬉しい。タブリーズはあくまでもパイロットプロジェクトであり、それを将来的に全国に展開するという考え方である。このことを、タブリーズのミーティングでもきちんと伝えて欲しい。</p> <p><観光局></p> <p>プロジェクトの期間は、全国展開までを含めて 3～4 年なのか、それともタブリーズのみで 3～4 年なのか。</p> <p><JICA></p> <p>タブリーズのひとつのプロジェクトで 3～4 年。その成果次第で継続案件の検討はあり得るが、基本的にはパイロットプロジェクトを踏まえて、イラン自身が全国に展開していく。</p> <p><観光局></p> <p>タブリーズでのプロジェクトは 3～4 年だが、成果が現れるには 10 年くらいかかるという説明があったが、どういう意味か。</p> <p><調査団></p> <p>プロジェクト期間中にマスタープラン作成や組織づくりは支援として行うが、実際の成果は、それらの組織が計画に従って自立的に運営される事によって 10 年後くらいに目に見えてくるものである。</p> <p><PBO></p> <p>プロジェクト開始にあたって、より詳細な現地での調査が必要ではないか。その際、何か協力は必要か。</p> <p><JICA></p> <p>詳細計画策定調査が予定されている。</p>	

<国際局>

プロジェクトの規模について、派遣される人員の数はどのくらいか。

<JICA>

ゲシュム島プロジェクトの例では、合計10名が1名当たり年に2,3カ月単位（おそらく、プロジェクトとして年に30MM程度）で出入り（シャトル派遣）している。カウンターパート側にオフィスを作って、現地の関係者たちと相談しながらパイロットプロジェクトを進めている。また逆に、日本での研修もある。そして、3~4ヶ月ごとに進捗報告の会議を行っており、これには中央からも参加してもらう。

いずれにせよ、RD (Record of Discussion) をプロジェクト開始前に作成し、その中で、専門家の数やイランからの便宜供与について内容を細かく話しあって決定する。

スケジュールについては、詳細計画策定調査の派遣が2019年4月以降、プロジェクト開始はその年の秋ごろになる。

<PBO>

イラン側ではどのくらいの予算を確保する必要があるのか。

<JICA>

JICA の予算で行なうため、イラン側はオフィス提供や面談のアポイントメント調整などの協力を行ってもらう事になる。

<国際局>

イラン人専門家の派遣や連携というのはあるのか。

<JICA>

JICA が派遣するのは日本からのみである。現地通訳などの短期雇用はある。カウンターパートにオフィス提供をお願いするので、その場所での情報交換や連携といったことは十分に有り得る。

<観光局>

Tabriz 2018 に合せた2018年のプロジェクトは不可能か。

<JICA>

2018年に実施の要望があれば、専門家の短期派遣というプログラムはある。2日間のワークショップを開催するなどの方法が有り得るので、その際は Tabriz 2018 のイベントとして開催してもらうよう日程調整をお願いしたい。

<国際局>

UNESCO のヒアリングに関しては調査団でアポイントをとっているのか。ICTO はここ最近特に UNESCO とのコンタクトは無い。

<JICA>

UNESCO との関係について、とくに最近の変化がないのであれば、今回の UNESCO へのヒアリングは実施しない。

<国際局>

UNWTO の国家観光マスタープランへの協力を、今回のプロジェクトの中に含める可能性はあるのか。

<p><JICA></p> <p>国家観光マスタープランは、別プロジェクトとして協力要請をいただきたい。もちろん、今回のプロジェクト内で情報交換といった協力はあり得る。</p> <p><国際局></p> <p>タブリーズでは、ICHTO だけでなく、多くのステークホルダーと連携してプロジェクトを進めるという点を強調してほしい。特に、NGO などが果たす役割は大きい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料

2 ICHTO タブリーズ

概 要	
日時： 1月21日（日）10:30 - 12:15	
場所：	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷 小林、降旗、水谷	別添
議事	
<p>西山総括・上田調査員が資料を用いて、第三次現地調査の目的及び調査日程について説明を行った。また、ワークショップのプレゼン内容について説明し ICHTO のコメントを取り付けると共に、今後実施予定の JICA の支援についての協議を行った。</p> <p>JICA から、プロジェクトの策定までに 1～2 年を要することと、プロジェクト期間は 3～4 年を想定している旨を説明</p> <p><ICHTO></p> <p>プロジェクトは決定しているのか。</p> <p><JICA></p> <p>採択スケジュールについて詳細を説明。</p> <p><ICHTO></p> <p>2018 年に始められる可能性はあるのか。観光と交通インフラによる、地域開発について予定している。予算も用意がある。</p> <p><JICA></p> <p>採択スケジュールを縮めるのは難しい。しかし、WS 実施の専門家派遣は可能である。</p> <p><市役所（副市長）></p> <p>都市開発の視点から、歴史的建造物の保護に関する会議が予定されている。そこにも JICA に参加してほしい。正式な招待を行う。バザールや歴史的建造物の保存についての支援を希望する。</p> <p>長期的には、バザールへと繋がるシルクロード沿いの町並み（500～1000m）（カラマレ地区）の事業が決定している。地中のトンネルの修復についての支援も検討してほしい。</p> <p>歴史・自然・文化の保護について市民の関心が高まっている。タブリーズでは古くから</p>	

<p>NGOの活動が活発である。これらはタブリーズが発祥とも言える。</p> <p><ホテル・レストラン協会></p> <p>タブリーズは食の主都。タブリーズではデモは起きなかったほど、貧しい人は少ない。安全面についても、タブリーズは最も安全な都市である。</p> <p><ツアーガイド協会></p> <p>観光の最前線を担っている。タブリーズの観光はこれから発展すると考えられる。支援プロジェクトは短期間かもしれないが、長期に渡る持続的な発展を期待したい。人材育成の研修が最も求められる。また、様々なステークホルダーを結びつける仕組みに期待したい。</p> <p>具体的なルート作りなどに貢献できる。国の援助などもあるタブリーズ 2018 をきっかけとして自分達も大きくて発展したい。エコミュージアムにも可能性がある。また、タブリーズ大学の観光教育も充実しているので、そことの連携も有り得る。</p> <p><ICHTO 観光局></p> <p>安全と安心は違う。タブリーズは東京よりも安全である（犯罪事件は少ない）が安心は東京におよばない。タブリーズで安心感を向上させる仕組みについていっしょに考えたい。</p> <p><JICA></p> <p>プロジェクトは 2019 年からだが、それに向けた準備の中でみなさんと議論を続けていきたい。みなさんから出されたような、課題に対応した専門化の派遣を検討していきたい。</p> <p>そのためにも、建築物の保存やツアーガイドの話など、多岐にわたる希望があるが、それらを全て意見として出して欲しい。それを ICHTO の国際局が取りまとめて要請書を出す事になるので、調整を密にしてください</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
受領資料
なし。

3 Tabriz 市議会

概 要	
日時： 1月21日（日）14:00 - 15:00	
場所： Tabriz 市議会	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷 小林、降旗、水谷	タブリーズ市議会議長、他
議事	
<ul style="list-style-type: none"> ● 市会議員に対して、小林所長、西山総括がプロジェクトの概要、今後の JICA 支援について説明した。 ● 市会議員より、Tabriz の歴史的建造物についての印象が訊ねられたり、JICA のプロ 	

<p>ジェクトの歓迎が述べられたりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新聞やテレビニュースの取材が小林所長に対して個別に行なわれた。
受領資料
なし

4 Tabriz 市役所

概 要	
日時： 1月21日（日）18:30 - 19:30	
場所： Tabriz 市役所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷 小林、降旗、水谷	別添
議事	
<ul style="list-style-type: none"> ● Tabriz 2018 の責任者より歓迎の挨拶があった。絨毯組合の関係者ということもあり、今回の JICA プロジェクトと絨毯の関係が訊ねられた。 ● 市長より歓迎の挨拶があった。Tabriz が商業都市としてこれまで商業の発展に集中してきたため、観光に対して注意を払ってこなかったこと、今回の Tabriz 2018 を契機に、観光発展を期待していることなどが説明された。 ● JTB の日本人ツアーを積極的に受け入れたいとの話があった。 	
受領資料	

5 JICA テヘラン事務所

概 要	
日時： 1月23日（火）14:00 - 15:00	
場所： JICA テヘラン事務所	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山	小林、降旗、水谷
議事	
<ul style="list-style-type: none"> ● 配付資料にしたがって、今回の滞在スケジュール、得られた成果、今後の課題、帰国報告会の日程について西山かたら説明した。 ● 成果については、問題なく了承された。 ● 検討課題については、以下のような意見交換があった。 ● 支援対象は 5 州であるが、シルクロードのテーマに即したパイロット支援対象を選ぶこととし、州間の平等性等に引きずられないようにすべき。 ● サファビー朝の遷都経緯であるタブリーズ、ガズビン、エスファハーンという流れ 	

を考えると、ガズビンも何らかの支援対象とすべきである。

- 実際の支援開始となる 2019 の秋までの空白期間は、出張ベースの専門家派遣を 2 回程度企画して、緊張感をつなぐようにしたい。その際の派遣の内容は、詳細計画策定調査にむけた事前調査と WS 等による啓発・インプット型支援の両面で行いたい。
- MRUD（国交省）の要請で、2018 年度に、テヘラン南部のバザール・旧市街の町並み保存・活用に関して専門家（荻谷勇雅氏：元文化庁監査官）を派遣する予定があるため、プロジェクトと何らかの関係がもてないか。
- 今次派遣における現地調査（キャンドバン、タブリーズ等）の内容を FR に加筆してもらいたい。

受領資料

6 ICHTO ワークショップ

概 要	
日時： 1 月 24 日（水） 9:30 – 11:45	
場所： ICHTO	
出席者（調査団）	出席者（相手側）
西山、上田、碓氷 小林、降旗、水谷、Ms. Asadi	別添
議事	
<p>司会の Sabet 氏から挨拶とともに前回派遣までの協議内容の振り返りがあった。その後、JICA 小林テヘラン事務所長より、プロジェクト開始までのスケジュールについての説明があった。</p> <p>西山総括・上田調査員が資料を用いて、DFR の概要説明を行なった。</p> <p>< ICHTO 司会 ></p> <p>前回のタブリーズ WS では、本部とタブリーズ事務所との間の連絡不足で問題があったが、今回は改善されたのではないか。</p> <p>< Marketing and Promotion ></p> <p>マスタープランは必要だと思うが、研究の必要性については地元の人たちはどのように考えているのか。</p> <p>< 調査団 ></p> <p>国家マスタープランと地域マスタープランの一貫した整備が必要である。どういう人に対してどのような研修が必要かは、今後、詳細な計画策定のための調査を行う必要がある。</p> <p>< Marketing and Promotion ></p> <p>理論だけでなく、小・中学生からのボトムアップや実践研修が必要であると考え。</p> <p>< ICHTO 司会 ></p> <p>国家マスタープランとの整合性はどのようになっているか。</p>	

<調査団>

当初は、現在 15 年前のドラフトをこの 3 月を目途に修正していると聞いていた。しかし、実際には未だその修正も始まっていないと伺っている。私たちは、地域マスタープランを提案しているが、逆にそれと整合性のとれる国家マスタープランを期待したい。

<ICHTO 司会>

観光マスタープランは、観光客の視点も含まれるのか。また、経済制裁を解除するための解決策についても示唆を与えるものになるのか。

<調査団>

制裁が今後もずっと続くかはわからない。私たちの取り組みは、制裁が解除され、観光客が押し寄せたときのための準備として提案するものである。

<Ecotourism>

制裁を受けている現状では、マーケティングとプロモーションが課題。報道規制によって、イランの悪いイメージが世界に発信されている。

<調査団>

イランのイメージを観光の力で変えていくというのが、デスティネーションとしての国家ブランド化の提案である。

<ICHTO 司会>

現在、ICHTO 内で実際の担当者や専門家を交えて協議を進めている。タブリーズだけでなく、周辺地域のことも考えてほしい。今後、5 州の関係者を集めたミーティングも予定されている。このプロジェクトの対象は、タブリーズだけではない。

<調査団>

5 州の調整では、各州の見どころの寄せ集めとするのではなく、「シルクロード」のテーマのもとで観光資源を繋げていくことを忘れないでほしい。

<ICHTO 司会>

調査後も我々で独自に必要な研修内容について検討をおこなっているので、情報提供したい。今後の具体的な研修内容については、来月から相談していきたい。

<Monitoring and Evaluation>

ホテルなどの民間事業者への現場での実践研修も組み込んでもらえるか。

<調査団>

もちろん、今回の調査で明らかになった課題を解決する研修を検討する。

以上

受領資料

Appendix 2 プレゼンテーション

Japan International Cooperation Agency (JICA)

Islamic Republic of Iran

Data Collection Survey on Tourism and Cultural Heritage

September 2017

HOKKAIDO UNIVERSITY
JTB CORPORATE SALES INC.
INGÉROSEC CORPORATION
RECS INTERNATIONAL INC.

1

Project Team



Team Leader / Tourism Policy

Dr. Noriaki NISHIYAMA

Tourism Industry Development 1 / 2



Ms. Shoko USUI / Mr. Minoru FUKUMURA

Heritage Tourism 1 / 2



Dr. Hirofumi UEDA / Mr. Akira OHARA

2

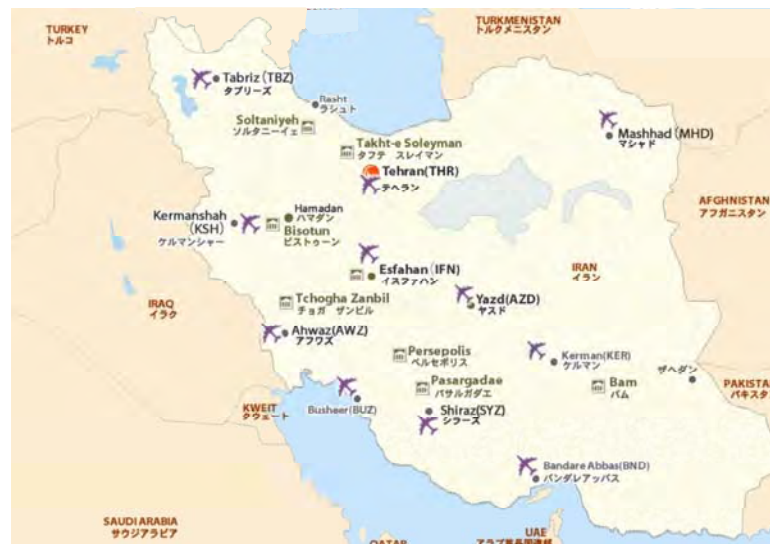
Project Objectives and Outputs

- To confirm and analyse:
 - ✓ current status of the tourism sector, tourism policies, administration and institutions
 - ✓ current status of tourism resources centred on cultural heritage sites
 - ✓ current statistical status of the tourism industry
 - ✓ situation regarding assistance by other donors
- To examine the direction of cooperation by JICA in the tourism sector

3

Target Area and Basic Concept

- Target Area:
 - The entire country of Iran
(excluding border regions with Iraq, Afghanistan and Pakistan, and the World Heritage site of Bam in the southeast area)



4

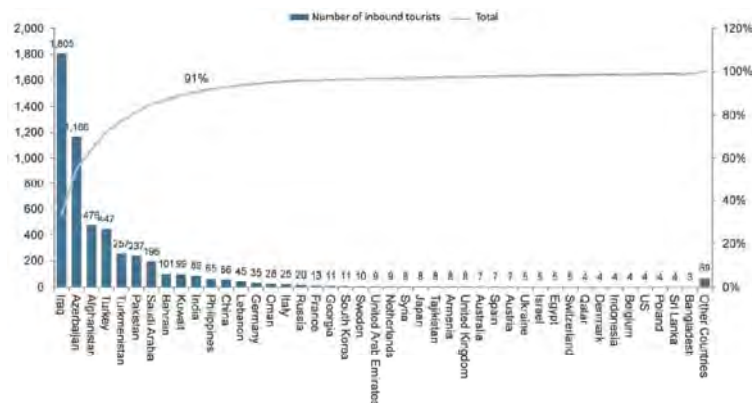
Basic Concept of the Survey



5

I. Strengthening of Competitiveness in the International Tourism Market

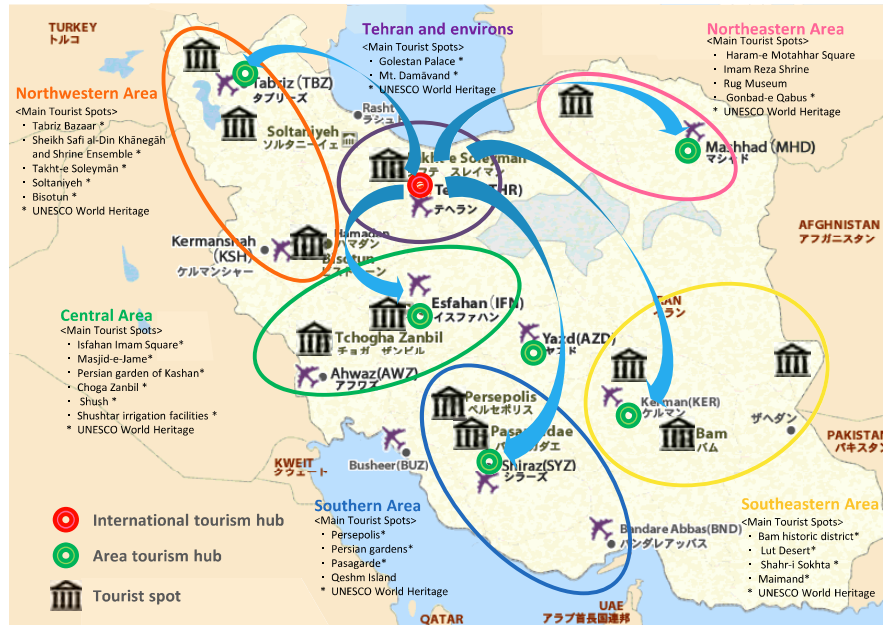
- Many tourists come from neighbouring countries, while foreign tourists from Western nations, which have high tourism consumption, are limited.
- It is necessary to clarify the target tourist segments and to enhance Iran's recognition and competitiveness in the international tourism market through developing tourism products and conducting efficient promotions that appeal to the targets.



6

II. Establishment of Tourism Hubs

- It is necessary to deploy the beneficial impacts of tourism to the regions through inviting tourists to regional tourist sites.

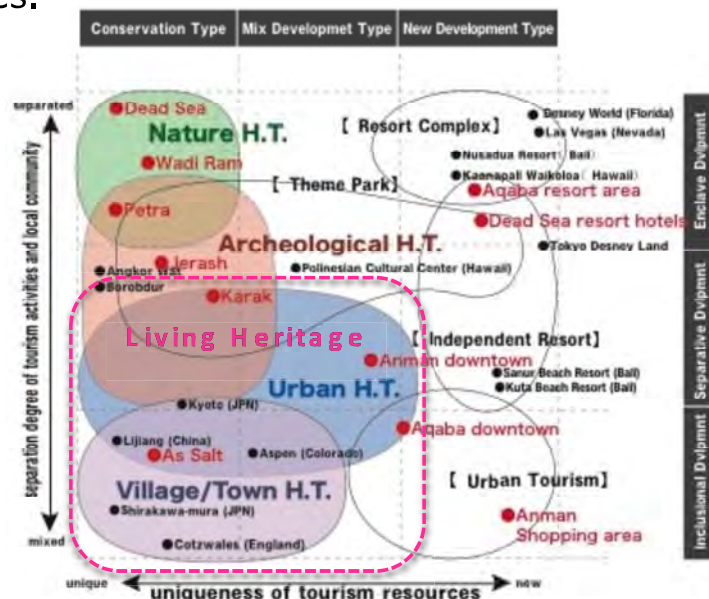


7

III. Development of Tourism Areas

- Effective support for Development of Tourism Areas**

Exploits the characteristics of tourism areas/the private sector and communities that are employed in area tourism services.



8

IV. Establish a Tourism Development Structure

- **Sustainable tourism development**

- ✓ Management of cultural heritage
- ✓ Infrastructure development (cooperation with public transportation agencies and government offices)
- ✓ Tourism related industrial sectors (agriculture, handicrafts, private sector operators that are engaged in providing tourism services)
- ✓ Educational institutions: training human resources in the tourism industry



9

Implementation Process

Implementation Method	Discussion / Survey Contents	Reports
First Work in Japan		
Literature survey	① Confirmation of basic data on the tourism sector (In Japan)	Work Plan
	② Formulation of the Study plan	Inception Report
First Field Survey		
Hearings, collection of materials	③ Outline explanation of the Study	
	④ Confirmation of basic data on tourism policy (Iran)	
	⑤ Confirmation of basic data on tourism infrastructure and tourism services (Iran)	
Second Work in Japan		
	⑥ Interim Report	Work Progress Report
	⑦ Selection of Potential survey target areas	
Second Field Survey		
Field reconnaissance	⑧ Tourism development potential survey in potential areas	
	⑨ Selection of the priority potential area	
	⑩ Data collection and issue analysis in the priority potential area	
Third Work in Japan		
	⑪ Proposal of the future direction of JICA cooperation	Draft Final Report
Third Field Survey		
	⑫ Feedback of overall Study findings	
Fourth Work in Japan		
		Final Report

10

First Field Survey : Hearings, Collection of Materials

- In this Kick-off meeting, the implementation structure for the field survey is constructed.
- Concrete data collection and confirmation will be advanced based on the questionnaire that was sent in advance.

Tourism Policy Survey

- Policies and Systems
- Organizations
- Development of Tourism Human Resources
- Private Sector Development
- Assistance by Other Donors

Tourism Industry Survey

- Infrastructure
- Tourism Resources
- Private Sector
- Promotion

Survey Progress Report




11

Second field Survey: Selection of one priority potential area

- Based on the tourism development potential survey in three areas, one priority potential area with particularly high predicted tourism development effect will be selected

- Infrastructure
- Tourism resources
- Private sector
- Tourism guidance, etc.

(This data sheet will be modified through the first field survey.)

Data Collection and Confirmation Survey		Serial No. (enter after editing)
on Tourism Development in Iran		Survey date and name of survey
Japan International Cooperation Agency (JICA)		Country Code
Iran		Surveyor: XXXXX XXXX
1. Site Classification (Country Code (enter after editing))		
Code No.	PC-1	
Site Name	Garm	Use Google Earth coordinates for
Country	AZ	Armenia
GPS coordinate	38.1478983 North E 44.4029830 m N	
2. General Description		
The Temple of Garm is a diabolical Hellenistic temple in Garm, Armon. (State potential and issues as structure and symbol of pre-Christian Armenia. It collapsed in a 1918 source resources. in the 19th century led to excavations at the site in mid-20th century. #01# #02# #03# #04# #05# #06# #07# #08# #09# #10# #11# #12# #13# #14# #15# #16# #17# #18# #19# #20# #21# #22# #23# #24# #25# #26# #27# #28# #29# #30# #31# #32# #33# #34# #35# #36# #37# #38# #39# #40# #41# #42# #43# #44# #45# #46# #47# #48# #49# #50# #51# #52# #53# #54# #55# #56# #57# #58# #59# #60# #61# #62# #63# #64# #65# #66# #67# #68# #69# #70# #71# #72# #73# #74# #75# #76# #77# #78# #79# #80# #81# #82# #83# #84# #85# #86# #87# #88# #89# #90# #91# #92# #93# #94# #95# #96# #97# #98# #99# #100#		
  		
3. Status		
Operation & Management	<input type="checkbox"/> State Ministry <input type="checkbox"/> Local Government <input type="checkbox"/> Private/Individual <input type="checkbox"/> Others	
Registration	<input type="checkbox"/> UNESCO World Heritage <input type="checkbox"/> National Monument <input type="checkbox"/> Others	
Conservation Status	<input type="checkbox"/> Good <input type="checkbox"/> Fair <input type="checkbox"/> To be Rehabilitated	
4. Infrastructure around the site (Unit: estimate from capital)		
Access	<input type="checkbox"/> Road <input type="checkbox"/> Taxis from Yerevan	
Public Transport	<input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No	
Road Condition	<input type="checkbox"/> Local/intermediate quality <input type="checkbox"/> To be Improved	
Accommodation	<input type="checkbox"/> Is it possible for tourists to safely and comfortably stay (incl. accommodation)? <input type="checkbox"/> Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> Hotels <input type="checkbox"/> Sewer System	
LifeLine	<input type="checkbox"/> Internet <input type="checkbox"/> Others	
Public Service	<input type="checkbox"/> Hospital <input type="checkbox"/> Patis <input type="checkbox"/> Bank <input type="checkbox"/> Super Market <input type="checkbox"/> Others	
5. Facilities & Materials (Answer from the respondents of convenience of facilities and quality of explanatory materials. #1# #2# #3# #4# #5# #6# #7# #8# #9# #10# #11# #12# #13# #14# #15# #16# #17# #18# #19# #20# #21# #22# #23# #24# #25# #26# #27# #28# #29# #30# #31# #32# #33# #34# #35# #36# #37# #38# #39# #40# #41# #42# #43# #44# #45# #46# #47# #48# #49# #50# #51# #52# #53# #54# #55# #56# #57# #58# #59# #60# #61# #62# #63# #64# #65# #66# #67# #68# #69# #70# #71# #72# #73# #74# #75# #76# #77# #78# #79# #80# #81# #82# #83# #84# #85# #86# #87# #88# #89# #90# #91# #92# #93# #94# #95# #96# #97# #98# #99# #100#)		
Facility	<input type="checkbox"/> Car Parking <input type="checkbox"/> Public Toilet <input type="checkbox"/> Office	
Information Material	<input type="checkbox"/> Brochure <input type="checkbox"/> Map <input type="checkbox"/> Explanatory Board <input type="checkbox"/> A/V Guidance <input type="checkbox"/> Others	
Language	<input type="checkbox"/> Russian <input type="checkbox"/> English <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> Spanish <input type="checkbox"/> Others	

12

Data Collection and Analysis of Issues in the Priority Potential Area

- The future direction of JICA's cooperation will be proposed based on the research findings in the priority potential area

Item	Selection Criteria
① Validity	<ul style="list-style-type: none"> There is compatibility with the priority areas and priority fields in Iran's national economic development plan and development plans for the tourism sector.
② Effectiveness and efficiency	<ul style="list-style-type: none"> Areas possess tourism hubs for the movement and accommodation of tourists, and infrastructure is developed for travel to nearby tourist spots and for securing the safety of tourists. There is local concentration of tourism-related industries such as hotels, restaurants, handicrafts, agricultural products, etc. and a value chain, etc. exists. Overall areas can be expected to have sufficient numbers of beneficiaries to merit development investment. There are tourist spots and services that are appealing to the target countries and tourist segments
③ Sustainability and impact	<ul style="list-style-type: none"> There is potential for the construction of a framework and implementation of initiatives for cooperation geared to sustainable tourism development that involves public and private stakeholders. There is potential for autonomous development including private sector investment into hotels, etc. Tourism development will not impart any negative impacts on environment and society.
④ Potential for cooperation	<ul style="list-style-type: none"> Cooperation and synergistic effects can be anticipated with tourism development projects implemented by the Government of Iran and other donors. Cooperation can be anticipated with the previous JICA projects.

13

Third Field Survey: Sharing of the Overall Findings Draft Final Report

- The Draft Final Report will be explained to shared recognition of the overall survey results and to get feedback

Planning Level	Assistance Field	Assistance Contents
Policy	<ul style="list-style-type: none"> National development plan 5-year plan, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Setting of socioeconomic development goals Setting of a development vision Setting of a development frame, etc.
Plan	<ul style="list-style-type: none"> Sector development plans Area plans Land utilization plans Master plans (M/P), etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Formulation of tourism development strategy Preparation of tourism resources inventory Establishment of legal systems Preparation of tourism statistics Strengthening of planning capacity, etc.
Program	<ul style="list-style-type: none"> Tourist spot development Town development Park management Private sector development, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Preparation of a list of projects Prioritizing Formulation of implementation schedule Project fundraising Budget measures, etc.
Project	<ul style="list-style-type: none"> Tourism infrastructure development Facilities construction Equipment supply Marketing and promotion Tourism commodities development Human resources development, training, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Feasibility study (F/S) Design and execution supervision Transfer of operation management technology Capacity building, etc.

14

Work Schedule

	2017					2018		
	8	9	10	11	12	1	2	3
[A] First Work in Japan								
[A-01] Confirmation of basic data on the tourism sector	■							
[A-02] Formulation of the study plan	■							
[B] First Field Survey								
[B-01] Confirmation of basic data on tourism policy		■						
[B-02] Confirmation of basic data on tourism infrastructure and tourism service			■					
[C] Second Work in Japan								
[C-01] Interim Report			■					
[C-02] Selection of Potential survey target area			■					
[D] Second Field Survey								
[D-01] Tourism development potential survey in potential area				■				
[D-02] Selection of the priority potential area				■				
[D-03] Data collection and issue analysis in the priority potential area					■			
[D-04] Probosal of the Future Direction of JICA Cooperation					■			
[E] Third Work in Japan								
[E-01] Proposal of the future direction of JICA cooperation						■		
[F] Third Field Survey								
[F-01] Feedback of overall Study findings							■	■
[G] Fourth Work in Japan								
[G-01] Final Report								■
Reports	IC/R		▲					
	Progress Reprt				▲			
	DF/R					▲		
	F/R							▲

15

Assignment Schedule of Staff

Position / Name	2017 / 2018							
	8	9	10	11	12	1	2	3
Team Leader / Tourism Policy Dr. Noriaki Nishiyama		■ (18)			■ (12)		■ (12)	
Tourism Industry Development 1 Ms. Shouko Usui		■ (18)		■ (21)			■ (12)	
Tourism Industry Development 2 Mr.Minoru Fukumura				■ (33)				
Heritage Tourism 1 Dr. Hirofumi Ueda		■ (18)			■ (12)		■ (12)	
Heritage Tourism 2 Mr. Akira Ohara				■ (33)				
Reports		▲	▲		▲		▲	
		IC/R	Progress Report		DF/R		F/R	

16



Provision of Conveniences from the Counterpart Agency in Iran

- Assignment of officers in charge of the Survey
- Permission to view and provision of materials necessary for the Survey, for example, policy documents, statistical materials, other donors' work reports, etc.,
- Sending of questionnaires to government offices other than the counterpart agency, other donors, etc., and issue of introductory letters, facsimiles, etc. for conducting the visit hearing surveys
- Cooperation for staging local workshops (issue of invitations to presentations by the target country, etc.)
- Permission for entry to Survey target facilities, etc. and taking of necessary photographs
- Safety measures necessary for the Survey

17



Provision of Conveniences from JICA

- Permission to view and provision of materials necessary for the Survey, for example, JICA Survey Reports, etc.
- Issue of questionnaire forms to related agencies
- Liaising and coordinating with the counterpart agency when summarizing data related to implementation of the data collection and confirmation Survey and starting the field surveys (Kick-off meeting)
- Sharing of an emergency contact network

18

Japan International Cooperation Agency (JICA)

Islamic Republic of Iran

**Data Collection Survey on
Tourism and Cultural Heritage**

Workshop on 27, September 2017

**Hokkaido University
JTB Corporate Sales Inc.**

1

1. Opening address

: International Affairs Bureau, ICHTO

2. International Cooperation Projects by JICA

: JICA Iran Office

3. Concept of Tourism Development Support and Practical Cases

(1) Concept of Tourism Development Support

Important Keywords about CBT development

- ① **CBT** = Community Based Tourism
- ② **DMO** = Destination Management Organisation
- ③ **PPP** = Public Private Partnership
- ④ **SCC** = Strategic Carrying Capacity
- ⑤ **Living heritage**
- ⑥ **Ecomuseum** (core/satellite/discovery-trail system)

① **CBT** = Community Based Tourism

✓ **General Definition of CBT**

"Community is the base and community independently and autonomously promote tourism development" (Yamamura, T., and others)

✓ **Reality in Actual Tourism Development Assistance Projects in Developing Countries/Regions**

- Even when it is called "CBT", in most of cases, only some part of community get benefit.
- It will expand the gap between rich and poor and lessen the feel of the community.
- In result, conflict within community occurs.

✓ **Challenges of CBT Development**

To prevent these negative impacts happening to communities who are involved with heritage tourism, it is important to

- **develop a system to protect community benefit**
- **realize benefit for the whole community**
- **promote development of community as a whole.**



2012.2.28 Gich village, Simienn National Park, Ethiopia

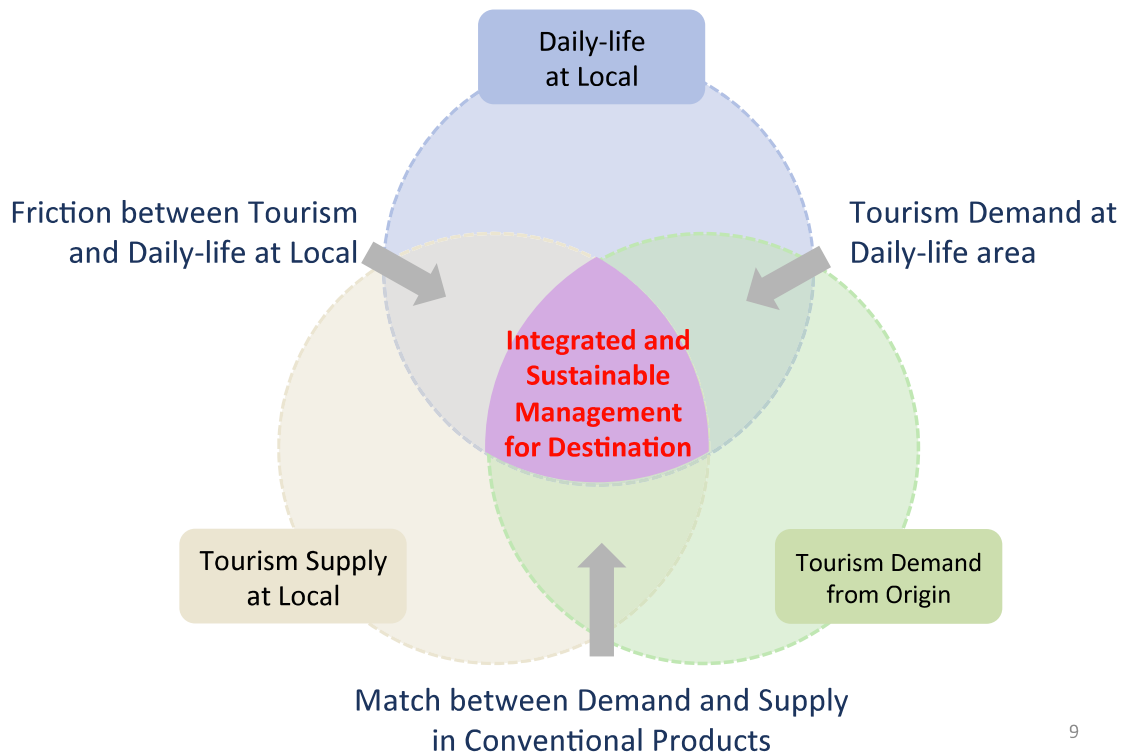
Important Keywords about CBT development

② DMO = Destination Management Organization

DMO's missions are to

- **Manage** local resources
- **Coordinate** stakeholders
- **Develop** tourism products
- **Promote** them in a domestic or international tourism market by **negotiation** to tourism agents

② DMO = Destination Management Organisation



9

③ PPP = Public Private Partnership

PPP is the **relationship of the mutual respect** which public (national and/or local government) and private (private enterprise/community) sector should build in order to advance sustainable CBT development.

Conventionally,

Public

The operation for public welfare was regarded as the work of public sector.

Private

The private sector is known to have know-how of operation management and financing.



PPP

By optimizing the synergy of Public sector's authority and Private sector's operation know-how, PPP enables the public purpose operations in more reasonable way and on highly qualified level.

10

Important Keywords about CBT development

④ SCC = Strategic Carrying Capacity

is the **numerical target** and the upper limit value of "acceptable tourist number" or "income/profit to expect" which should be set by the purpose it enables to sustain CBT development.

numerical target

1. Capacity limit to ensure resource sustainability and customer satisfaction (**Conventional 'Carrying Capacity'**)
2. Necessary number of visitors to realize sustainable CBT business
3. Necessary cost for resource management through CBT

Important Keywords about CBT development

⑤ **Living heritage** is the **state of the heritage** judged from a relation with a community in a case managed as tourist resources

- (1) "Cultural heritage that **gives the meaning for local community** and that itself **belongs to the people's life**"
- (2) "Cultural heritage that comprehensively includes the community as a cultural heritage that is the mount of **'tangible' and 'intangible' things born in the life of local people.**"

“Living Heritage”(1)

= Heritage integrated "Tangible" with "Intangible"

Living heritage is “The expression of cultural contents that resulted as a activities of individuals, group and society” (UNESCO)

Living heritage **comprehensively includes the community as a cultural heritage that is the mount of “tangible” and “intangible” things born in the life of local people.**

Living heritage is “Cultural heritage that gives the meaning for local community and that itself belongs to the people's life” (UNESCO)

World Cultural Heritage Site
“Ping Yao Ancient city wall” (China)

Changing the conservation concept
from “**Dead Heritage**”to “**Living Heritage(2)**”

Approaches of excluding local residents by eviction, which
has been continued in many World Heritage Sites



Heritage became sites only **for tourists and experts**




Decrease of respect for and faith in heritage
by local communities

Anger to the eviction expanded to **robbery and destruction**



**“We must protect universal heritage
by mobilizing whole community”**

(Federico Mayor, Former UNESCO Director-General)



the stakeholders to be involved in the heritage management

“property holder of heritage”

→ **legal property holder**

“local community”

→ **spacious (economic) property holder**

“indigenous habitant”

→ **cultural property holder**

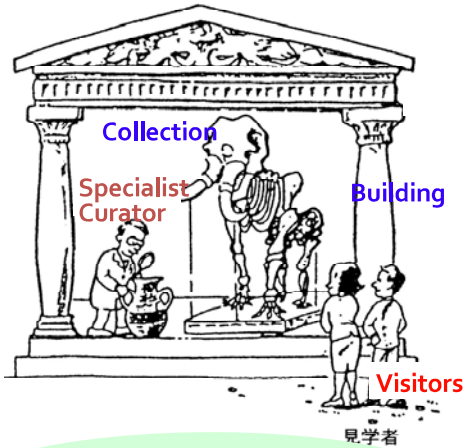
Important Keywords about CBT development

⑥ **Ecomuseum (core/satellite/discovery-trail system)**
is the **best system** to manage **Living Heritage** as tourism
resources.

What is Ecomuseum?

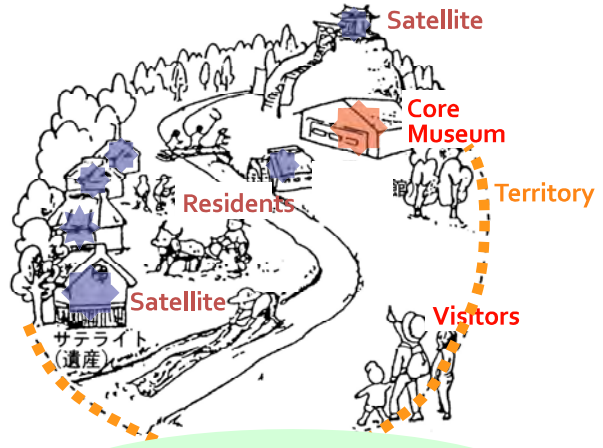
Difference between Traditional museum and Ecomuseum

Traditional Museum



Visitors watch treasures in **MUSEUM BUILDING**.

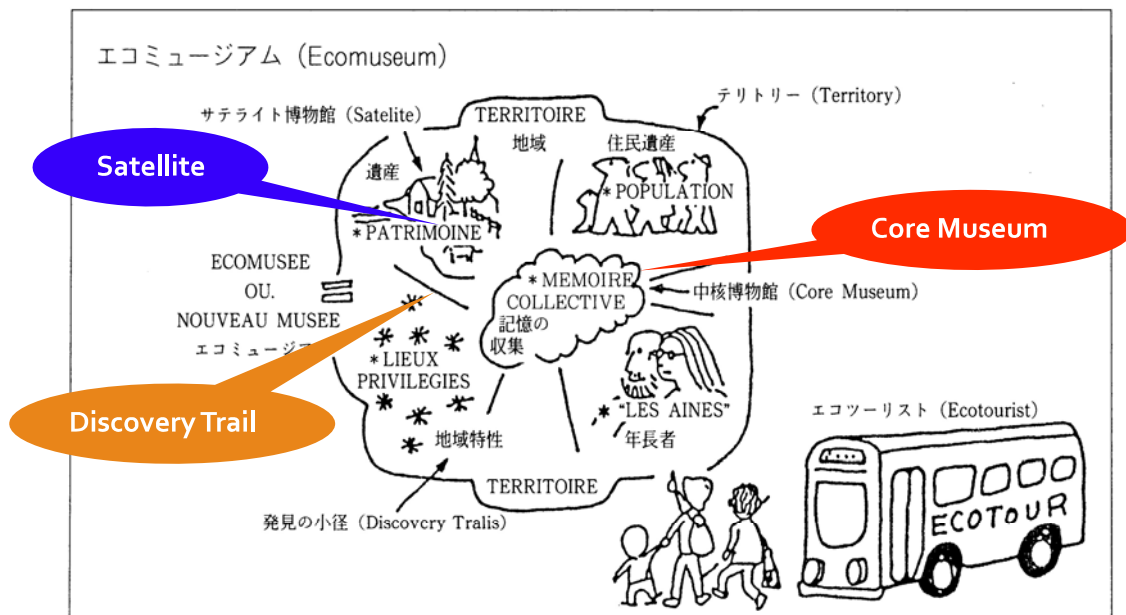
Ecomuseum



Visitors touch treasures at **ORIGINAL PLACE**.

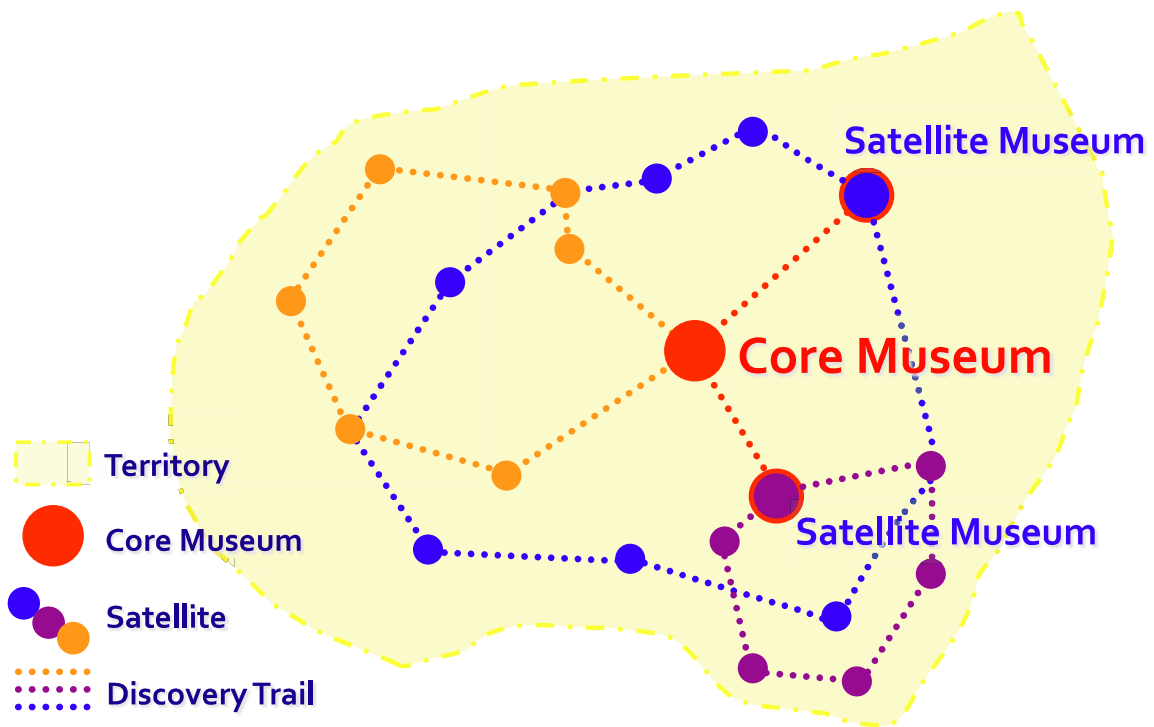
Juzo Arai (1995) 17

Basic elements of Ecomuseum



Ecomuseum preserves the 'Originals' at original place.

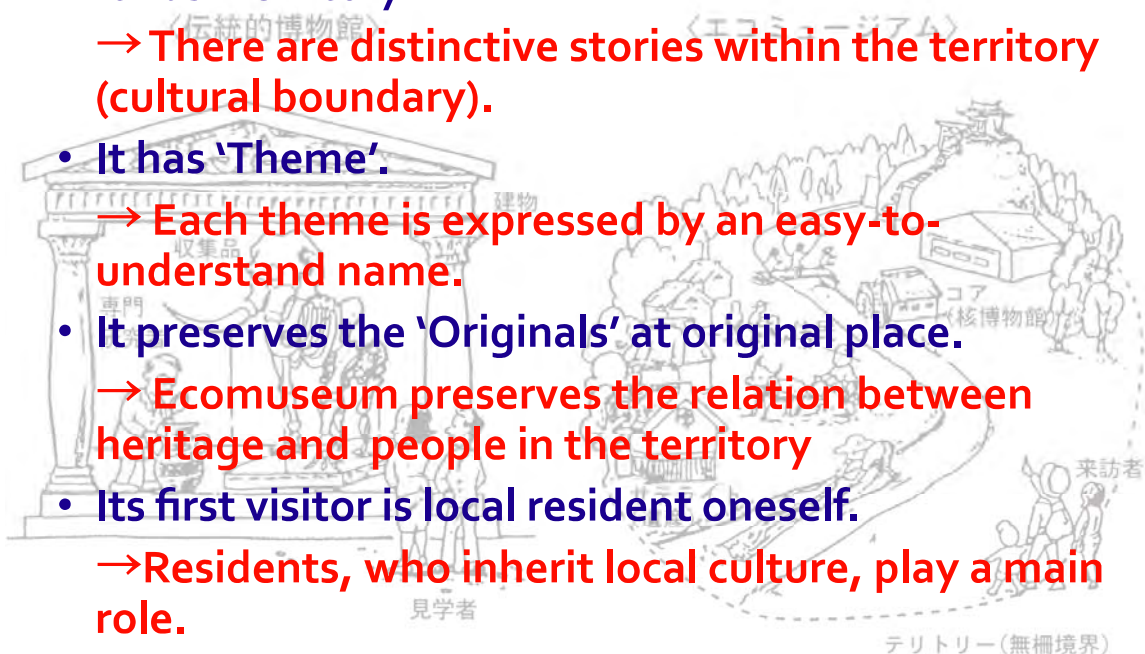
Basic elements of Ecomuseum



19

Concept of Ecomuseum

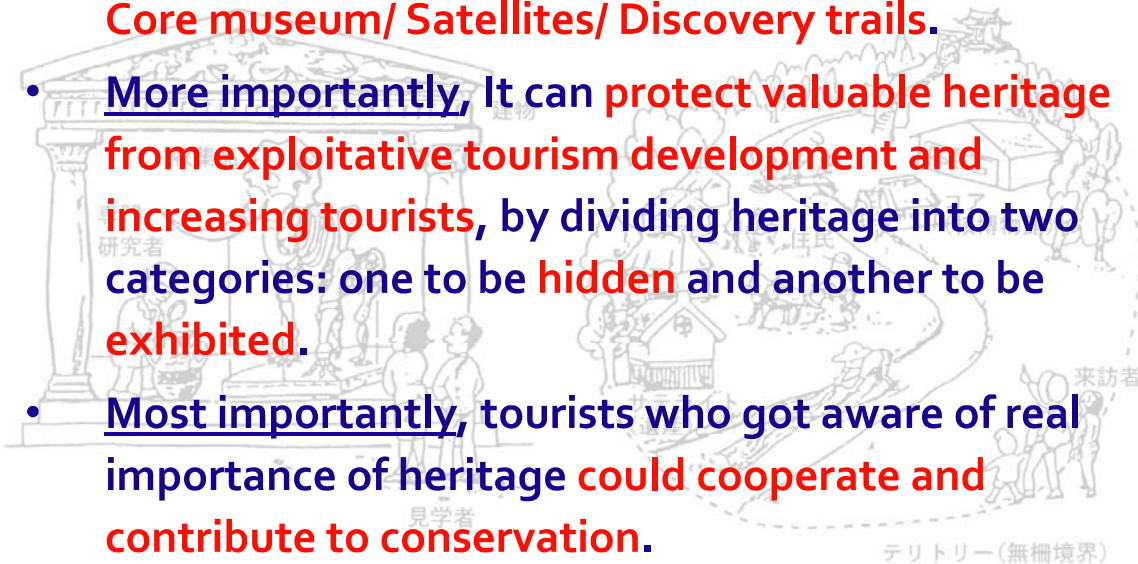
- It has 'Territory'.
→ There are distinctive stories within the territory (cultural boundary).
- It has 'Theme'.
→ Each theme is expressed by an easy-to-understand name.
- It preserves the 'Originals' at original place.
→ Ecomuseum preserves the relation between heritage and people in the territory
- Its first visitor is local resident oneself.
→ Residents, who inherit local culture, play a main role.



20

Advantage of Ecomuseum

- It can provide tourists with access to values of heritage by means of the integrated system with **Core museum/ Satellites/ Discovery trails.**
- More importantly, It can **protect valuable heritage from exploitative tourism development and increasing tourists,** by dividing heritage into two categories: one to be **hidden** and another to be **exhibited.**
- Most importantly, tourists who got aware of real importance of heritage **could cooperate and contribute to conservation.**



21

Technical Transfer Process of Ecomuseum

Process	Objective
1 Cultural resources survey (exhaustive)	<ul style="list-style-type: none"> • Identifying potential of cultural resources in community
2 Vision & Planning	<ul style="list-style-type: none"> • Setting basic direction of management for cultural heritage, landscape and tourism
3 Trail development	<ul style="list-style-type: none"> • Generating story and identifying places which residents want to attract visitors • Connecting scattered resources to improve value
4 Core museum development	<ul style="list-style-type: none"> • Providing basic information for visiting community and respecting its own culture • Demonstrating imitation or pictures of resources which is not allowed to touch
5 Interpreter training	<ul style="list-style-type: none"> • Telling story and feeling of residents by own
6 Tourism promotion	<ul style="list-style-type: none"> • Generating and maintaining market demand
7 Inner-community promotion	<ul style="list-style-type: none"> • Improving residents initiative to sustain activities

22

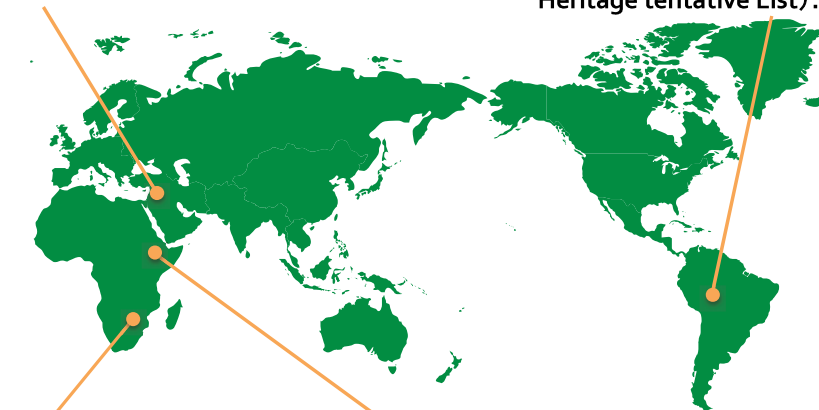
3. Concept of Tourism Development Support and Practical Cases

(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

CBT, Ecomuseum, DMO study/project **by CATS** in the World 24

Salt city Ecomuseum
Development, **Jordan**
(★World Heritage tentative List) : 2012~ (JICA)

Sanctuary Kuelap and
Cultural Landscape of
Chachapoya, **Peru** (★World
Heritage tentative List) : 2013~ (JICA)



CBT Master Plan Development,
ZIMBABWE (★World Heritage) : 2015~
(JICA)

DMO Development in
Simien Mountains National
Park, **Ethiopia** (★World Heritage) :
2011~ (JICA)

(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

- **Ethiopia, Simien National Park (WNH) and surrounding area**
- **Jordan, As Salt Historic City (WCH, in tentative list)**
- **Zimbabwe, Great Zimbabwe (WCH) and surrounding area**
- **Peru, Sanctuary 'Kuelap' and Cultural Landscape of Chachapoya (WCH, in tentative list)**

(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

- **Ethiopia, Simien National Park (WNH) and surrounding area**

: Ecotourism and Village Tour Development by Neighbor Village Community

Ethiopia, **Simien National Park**

SIMCOT

SIMIEN COMMUNITY TOURISM PROJECT
IN ETHIOPIA

Project on Community Tourism Development through Public-Private Partnership
in Simien Mountains National Park and Surrounding Areas



Ethiopia Wildlife Conservation Authority (EWCA)



Amhara National Regional State, Bureau of Culture,
Tourism and Parks Development (ANRS-BCTPD)



Japan International Cooperation Agency



Village Tour Development

SIMCOT Project is working on development of village tour as part of the community based tourism development in Arginjona Kebele as the first model in SMNP.



CTMA Establishment

In order to share the benefits of community based tourism development not only to residents with specific concerns, but to all village residents, Community Tourism Management Associations (CTMAs), representing the profits of all members of community, are established based on community consensus. CTMAs are in charge of operating all village tour programs.

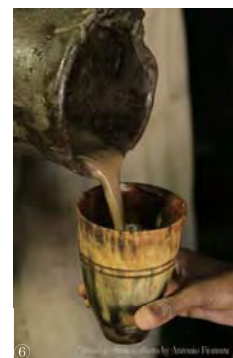


Product Development

The Project is trying to set up the following six village tour programs to attract tourists for original and traditional life style of the community through community participatory.

Coffee ceremony, Injera baking, Local beer making, Weaving, Black smith and Hair dressing.

- ① Hair Dressing
- ② Injera Baking
- ③ Materials
- ④ Weaving
- ⑤ Black Smith
- ⑥ Local Beer
- ⑦ Village Guide



(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

- **Jordan, As Salt Historic City (WCH, in tentative list)**

: Ecomuseum Development as a WH City

(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

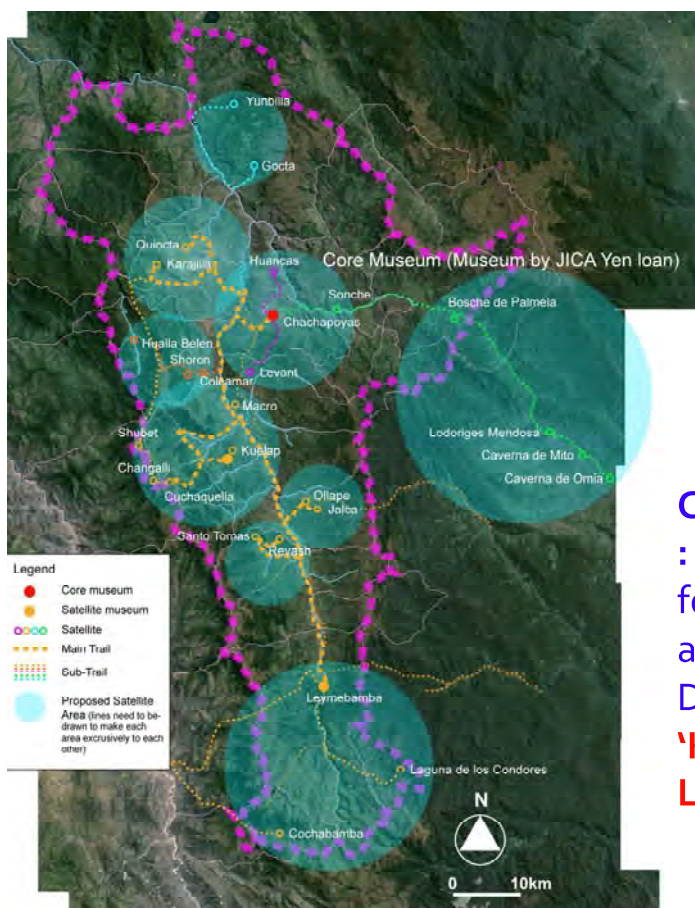
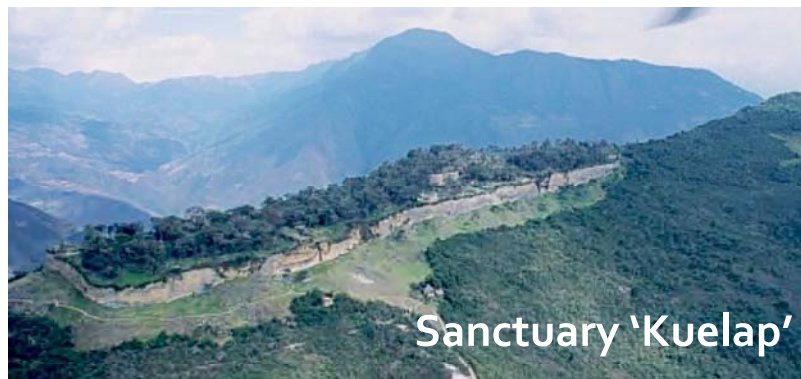
- **Zimbabwe, Great Zimbabwe (WCH) and surrounding area**

: Village Tour Development under Ecomuseum Concept by Neighbor Village Community

(2) Practical Cases of CBT Development Support by JICA-Hokkaido Univ.

➤ Peru, Sanctuary 'Kuelap' and Cultural Landscape of Chachapoya (WCH, in tentative list)

: Destination Branding through Ecomuseum Development in WH Nomination Area as Cultural Landscape



Concept Plan
: Ecomuseum Development for Heritage Conservation and Community Development in Sanctuary 'Kuelap' and Cultural Landscape of Chachapoya

Access for Sanctuary 'Kuelap'



出展: Peruvian Canadian Cultural Association





Sanctuary 'Kuelap'

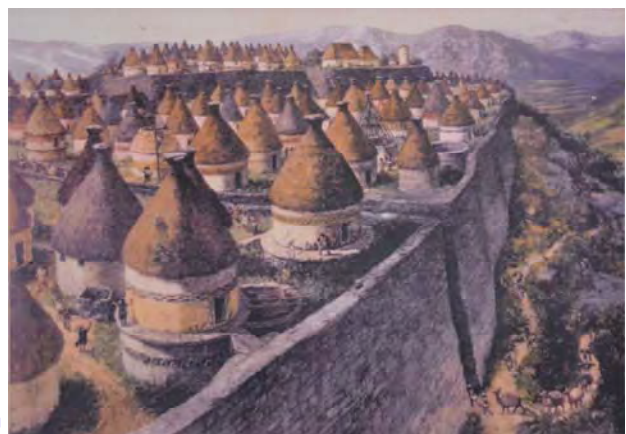
From Google Map, Street View



- ×Fort → ○Sanctuary
- Religious Center of Chachapoyas Culture
- Continuous construction through 1,000 years
- Collaboration among neighbor communities
- Between Amazonas and Andes Culture

Value of Sanctuary 'Kuelap'

From Leimebanba Museum





- xFort → oSanctuary
- Religious Center of Chachapoyas Culture
- Continuous construction through 1,000 years
- Collaboration among neighbor communities
- Between Amazonas and Andes Culture

Value of Sanctuary 'Kuelap'

Photo from "Kuelap Management Plan"





Cultural Territory of Chachapoya and Territory of Sanctuary of 'Kuelap'

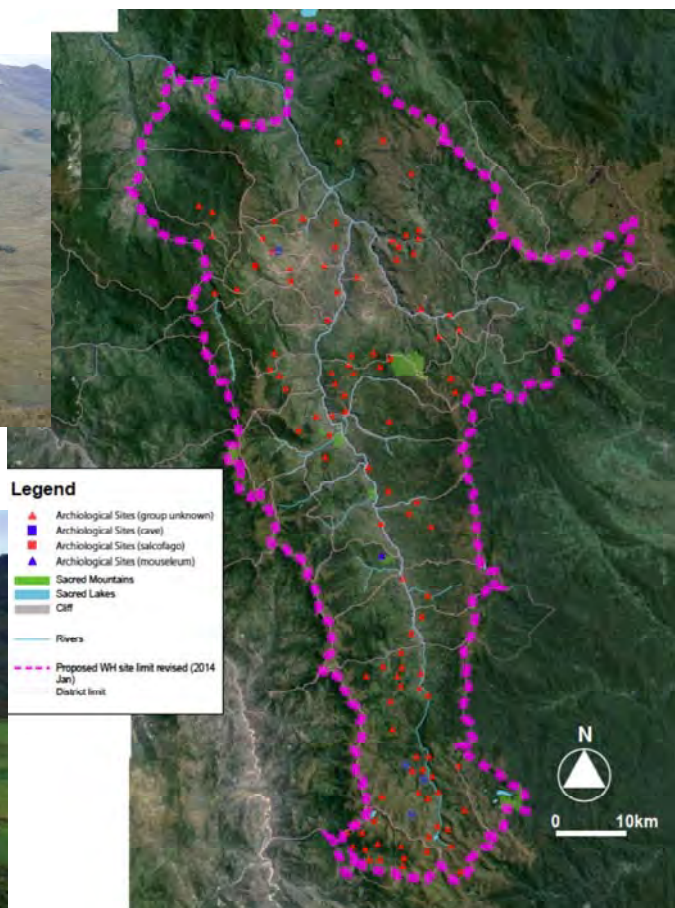
Chachapoya Culture



Sacred places

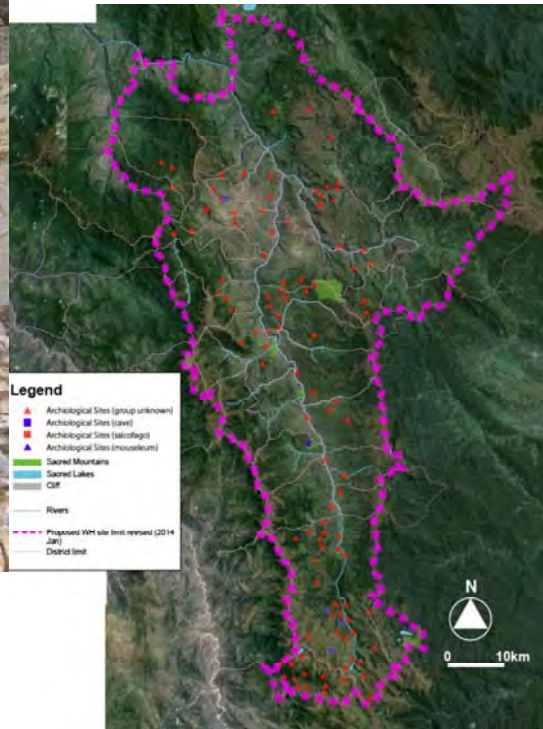


FOTO: www.picasaweb.google.com/lh/photo/3GBPxaO2urKkuZKmHRx1JQ.jp





←mausoleum type



Coffin type→



Cave type

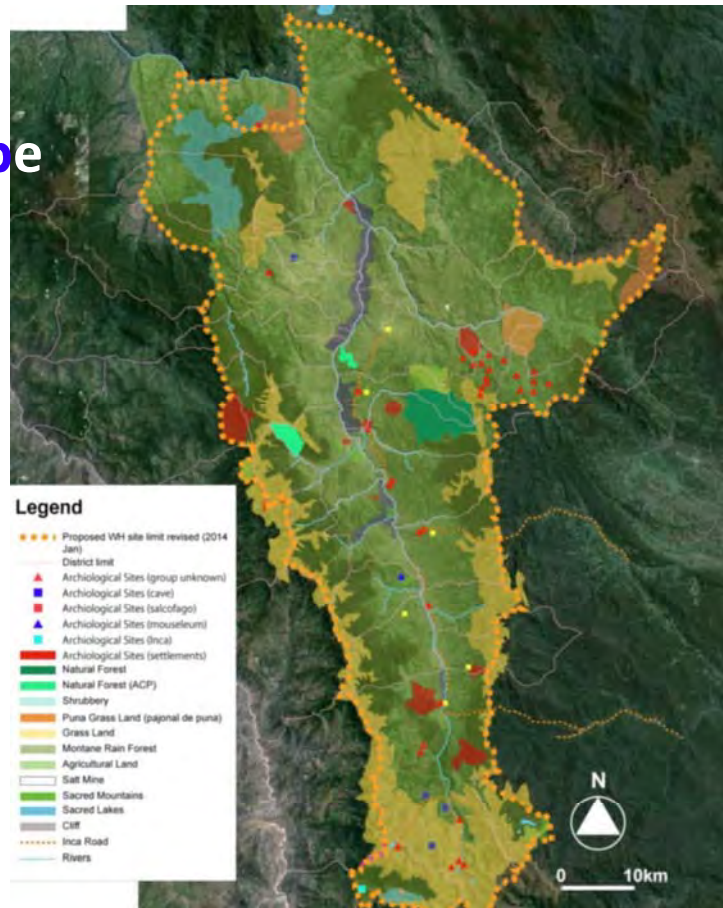


Variation of funeral pattern



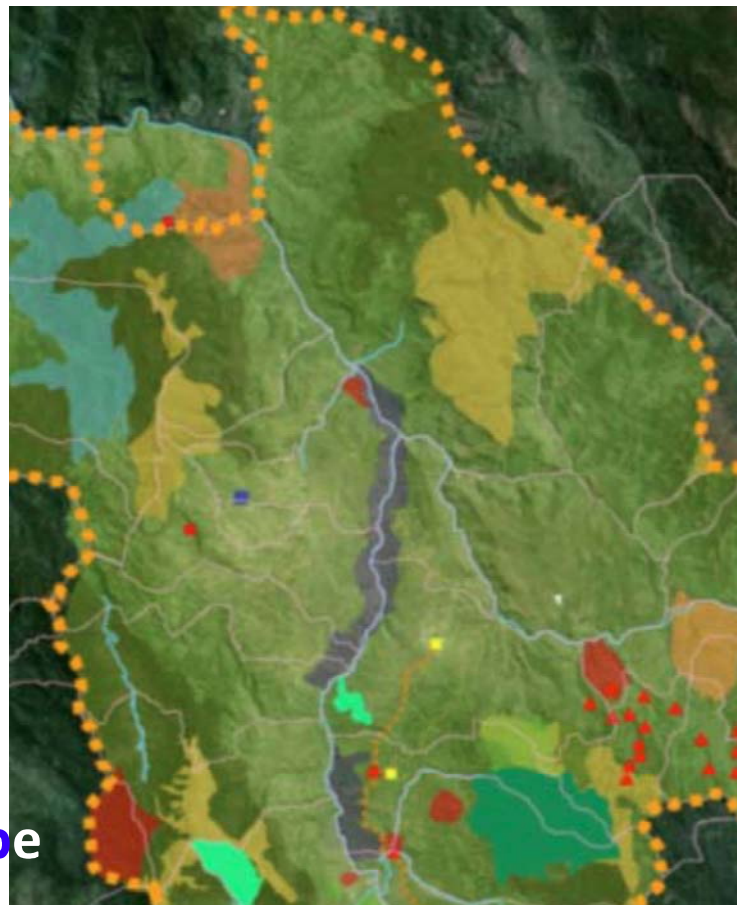
Land use pattern related to livelihood

Elements of Cultural Landscape



Legend

- 世界遺産申請範囲 (提案)
- 行政境界 (郡レベル)
- ▲ 遺跡サイト (未分類)
- 遺跡サイト (洞窟)
- 遺跡サイト (サルコファゴ：棺型)
- ▲ 遺跡サイト (マウソレオ：霊廟型)
- 遺跡サイト (インカ期)
- 遺跡サイト (居住地跡)
- 原生林
- 原生林 (コミュニティ保護区)
- 草地 (シュラベリー)
- 草地 (プーナ)
- 草地
- 雲霧林 (多雨林)
- 農地
- 塩採取地
- 聖なる山
- 聖なる湖
- 崖地
- 印カ道
- 河川



Elements of Cultural Landscape



Intangible elements of Cultural Landscap



Work Shop in neighbor community



Work Shop in neighbor community



Work Shop in neighbor community

4. Typological Analysis of Tourism Resources in Iran

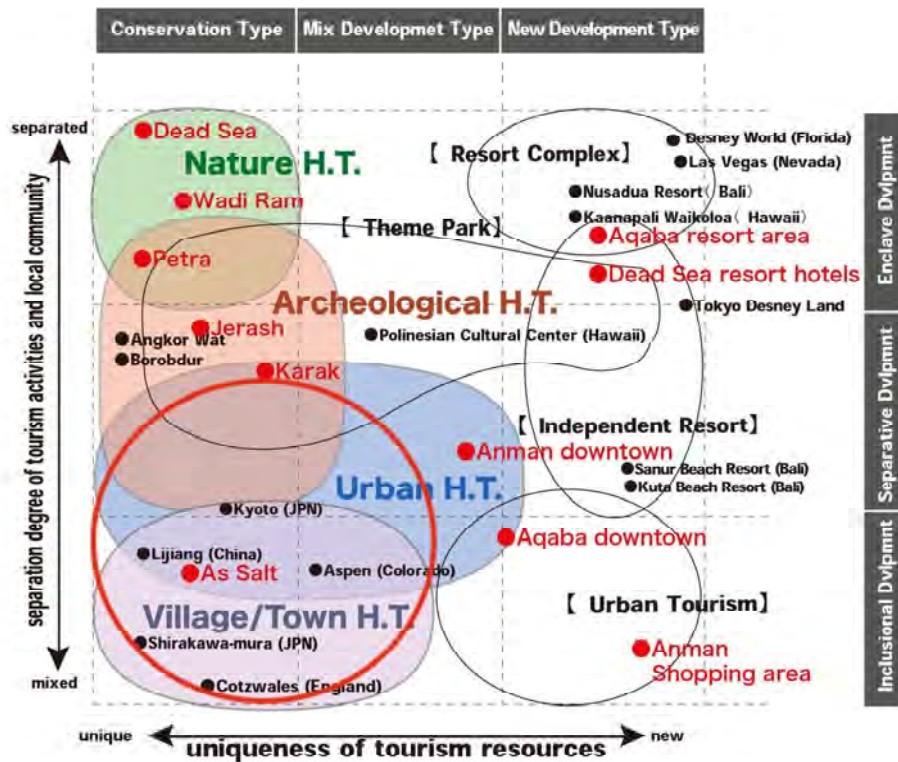


Figure : Tourism Type by Resouces Uniqueness - Separation of Tourism/Local Community Axis

Tourism Type of Iran by Resources Uniqueness - Separation of Tourism/Local Community Axis

		Conservation Type	Mix Developmet Type	New Development Type			
separation degree of tourism activities and local community ↑ separated ↓ mixed	①	Conservation/Enclave	①	Mix/Enclave	①	New/Enclave	Enclave Development
	②		②		②		
	③		③		③		
	④		④		④		
	⑤		⑤		⑤		
	⑥		⑥		⑥		
	①	Conservation/Separative	①	Mix/Separative	①	New/Separative	Separative Development
	②		②		②		
	③		③		③		
	④		④		④		
	⑤		⑤		⑤		
	⑥		⑥		⑥		
	①	Conservation/Inclusional	①	Mix/Inclusional	①	New/Inclusional	Inclusional Development
	②		②		②		
	③		③		③		
	④		④		④		
	⑤		⑤		⑤		
	⑥		⑥		⑥		
		unique ←	uniqueness of tourism resources	→ new			

Group No. () / Name of Member (/ /)

5. Feedback about First Field Survey

5. Feedback about First Field Survey

(1) Possible Sites of 3 Potential Areas for the Second Field Survey

- 1: Tabriz and its Surroundings
- 2: Persepolis and its Surroundings
- 3: Surrounding Sites of Ahwaz (Tchogha Zanbil, Susa, and Sushtal)
- 4: Yazd
- 5: Areas around Tehran (Qazvin, Zanjan, Semnan Province, etc.)
- 6: Esfahan - Shiraz

5. Feedback about First Field Survey

(2) Requests for Support to JICA

➤ Requests for Technical Cooperation Project

- Support for Ecomuseum (Open Air Museum) and Museums
- Support for Ecomuseum Development by NGOs in 100 Villages
- Support for Ecotourism Development in Lagoon Areas
- Support for Practices of Carrying Capacity Management

5. Feedback about First Field Survey

(2) Requests for Support to JICA

➤ Requests by Dispatching Experts

- Branding
- Marketing and Promotion
- Technical Transfer about Carrying Capacity
- Others: Financing/ PPP/ Natural Disaster restoration/ NGO Management/Human resource Development for Ecotourism

5. Feedback about First Field Survey

(2) Requests for Support to JICA

➤ Requests for Technical Training

- Hosting Japanese Tourists (Hospitality, Foods, etc.)
- Training for 2,100 registered NGO
- Training for Information transmission over the Internet
- Training for Experts
- Training for Leaders in Villages

➤ Others

5. Feedback about First Field Survey

(3) Tentative Report of Tourism Industry Survey

: Ms. Shoko Usui

Tentative Report of Tourism Industry Survey

JICA Tourism Mission Team

To whom we interviewed

Travel Agencies/Tour operators – 3

Railway company – 1

Transportation company – 1

Hotels

- > Five star hotel - 1
- > Four star hotel – 1
- > Three star hotel – 2

Iranian Tour Operators Association

Federation of Tourist Guide Association

Iran Tourist Guide Association

Touring & Automobile Club of the Islamic Republic of Iran

What we learned from interviews

Domestic tourism

- ✓ Tour packages for far destinations
 - Tour packages by railway
 - Tour packages by charter flight
 - >Popular destination: Kish Island as resort, Shiraz as culture & History, and Mashhad as Pilgrimage
- ✓ Private trip by private car for near destinations

Inbound tourism (leisure travel)

Active market	Europe (especially France, Germany, Italy)	Asia (especially China)
Destination and interests	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Tehran, Shiraz, Esfahan, Tabriz, and Kerman as cultural & History ▪ Kish or Qeshm Island as resort and ski resort 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Tehran, Shiraz, Esfahan, and Yazd as cultural & History ▪ Esfahan – Malaysia (Mecca and Esfahan)
Length of stay	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Average two weeks 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Average one week
Age group	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Mostly senior 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Wide range of age group ▪ Mostly senior – Japan

What we found from interviews

Infrastructure

- ✓ Increase guest rooms
- ✓ Be as an international standard hotels
- ✓ Attract international brand hotels
- ✓ Improve road condition
- ✓ Install western-style toilet seats
- ✓ Increase aircrafts
- ✓ Increase new tourist buses
- ✓ Use of international credit card

Human development

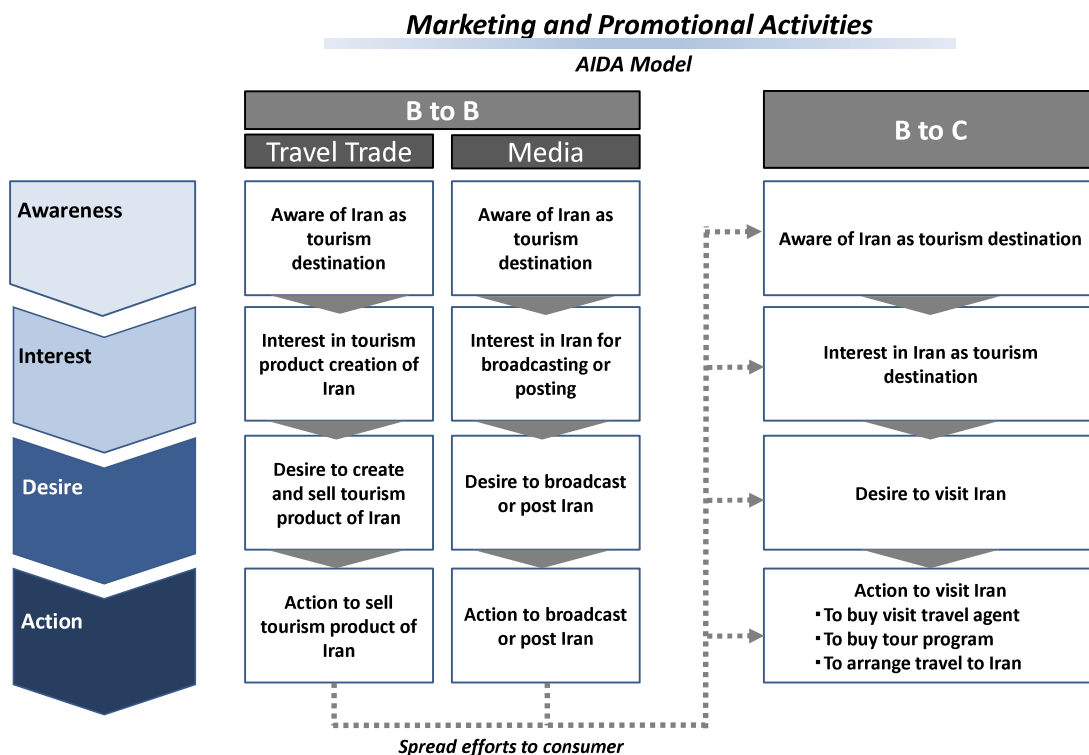
- ✓ Be professional – hotels/restaurants/shop staff, tour guides, drivers, and etc.
- ✓ How to deal with international tourists
 - tourism industry people and local people
- ✓ Understand the needs and interests of international tourists
- ✓ Speak English – hotels/restaurants/shop staff, drivers, and etc.
- ✓ Educate local children to behave at museum and etc.
- ✓ Expert in marketing and promotion

Marketing and Promotion

- ✓ Allocate more promotion budget
- ✓ Plan and Implement promotional activities based on market interests
- ✓ Promote Iran as tourism destination and as safe country
- ✓ Promote variety of tourism resources and new destinations

Relationship between BtoB and BtoC marketing and promotion

B to B marketing and promotion spreads effects to consumer in each stages of customer journey.



Promotional Activities to Targeted Market

Suggestion from JICA Tourism Mission Team

	<u>TO WHOM?</u>	<u>HOW?</u>
B to B	<ul style="list-style-type: none">• Travel trade• Charisma tour escorts• Airline companies	<ul style="list-style-type: none">• FAM tour• Destination seminar• Tie-up campaign
B to B (to C)	<ul style="list-style-type: none">• Media<ul style="list-style-type: none">- Publishing companies- Newspaper companies- TV companies• Charisma bloggers• Travel writers• Transportation<ul style="list-style-type: none">- Metro and local train companies- Buss companies	<ul style="list-style-type: none">• To publish travel guidebook• Articles in travel magazine• PR add in news papers• Travel program in TV• Invitation tour• Train/Bus hijacking
B to C	<ul style="list-style-type: none">• One who is interested in Iran• One who does not have any image of Iran	<ul style="list-style-type: none">• Tourism EXPO• Monitor tour• Destination seminar

• Pamphlets, Maps, Web, SNS for all target

6. Discussion

Table: Criteria (Draft) for Selecting Potential Areas

Item	Selection Criteria
(1) Validity	1. There is compatibility with the priority areas and priority fields in Iran's national economic development plan and development plans for the tourism sector.
(2) Effectiveness and efficiency	2. Areas possess tourism hubs for the movement and accommodation of tourists, and infrastructure is developed for travel to nearby tourist spots and for securing the safety of tourists. 3. There is local concentration of tourism-related industries such as hotels, restaurants, handicrafts, agricultural products, etc. and a value chain, etc. exists. 4. Overall areas can be expected to have sufficient numbers of beneficiaries to merit development investment. 5. There are tourist spots and services that are appealing to the target countries and tourist segments
(3) Sustainability and impact	6. There is potential for the construction of a framework and implementation of initiatives for cooperation geared to sustainable tourism development that involves public and private stakeholders. 7. There is potential for autonomous development including private sector investment into hotels, etc. 8. Tourism development will not impart any negative impacts on environment and society.
(4) Potential for cooperation	9. Cooperation and synergistic effects can be anticipated with tourism development projects implemented by the Government of Iran and other donors. 10. Cooperation can be anticipated with the previous JICA projects.

Criteria for Selecting Potential Areas

【Essential Requirements】

- ✓ Areas or route which can be developed with a theme and story for inbound destination branding in Iran
- ✓ Development of tourism which can deploy the beneficial impact to local community = Areas or route for community based tourism development
- ✓ Areas and route which can be efficiently supported with Japanese technique of tourism development
- ✓ Areas and route which can be an advanced model of tourism development in Iran

【Optional Requirements】

- ✓ Living Heritage
- ✓ Developed as Ecomuseum
- ✓ Construction of Public-Private-Partnership
- ✓ Effective functioning of DMO
- ✓ Communities around popular World Heritage Sites
- ✓ High potential appealing to tourists
- ✓ Ongoing projects by NGOs